

福井県埋蔵文化財調査報告 第107集

志田神田遺跡

— 中部縦貫自動車道建設事業に伴う調査 8 —

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

福井県埋蔵文化財調査報告 第107集

志田神田遺跡

— 中部縦貫自動車道建設事業に伴う調査 8 —

2009

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター



(1) 九頭龍川より鹿谷町を望む（北方より）



(2) 土坑SK1205遺物出土状況（南東方より）

序 文

本書は、中部縦貫自動車道建設に伴い、平成11年度から16年度にかけて発掘調査を実施した志田神田遺跡の発掘調査の成果をとりまとめたものです。

遺跡が所在する勝山市鹿谷町は、九頭龍川の支流である鹿谷川によって開析された谷地形を呈しています。この谷内を東西に横断する中部縦貫自動車道の本線の建設、勝山インターチェンジとそれに接続する一般県道勝山インター線の整備が計画されたため、当センターにおいて平成10年度から12年度にかけて城山古墳群・本郷北遺跡・発坂山ノ端遺跡を順次調査してきました。本遺跡においても、平成11・12年度に勝山インター線建設に伴う発掘調査を行っています。その東南側に隣接する地点で行った今回の調査は、鹿谷町内で行われてきた中部縦貫自動車道に関連する調査を締めくくるものです。

今回の調査は、調査範囲が非常に広く、縄文時代早期から近世までの各時期の遺物が出土しています。また遺構も、弥生時代のトチヤクリを晒した土坑群や掘立柱建物群、平安時代の掘立柱建物群、中近世の掘立柱建物や井戸など多様性に富んでいます。

ただ、非常に遺憾なことに、平成16年7月18日に起こった福井豪雨で当センター本部建物内に足羽川の濁流が流入したことにより、保管していた遺物や図面類が被災し、その一部は流失してしまいました。よって、本報告でも本来なら掲載すべき遺物が掲載できない不備がありますことをご了承ください。

前述のような理由で、不完全な報告ではありますが、本書が今後地域の歴史研究に寄与するとともに、各方面で多くの方がたに活用される一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施から報告書の刊行に至るまで、関係諸機関をはじめ、多くの皆様がたから多大なご支援とご協力を賜りましたことに、厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

所 長 吉 岡 泰 英

例 言

- 1 本書は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが中部縦貫自動車道建設事業に伴い、平成11年度から16年度にかけて実施した志田神田遺跡（福井県勝山市鹿谷町志田所在）の発掘調査報告書である。
- 2 志田神田遺跡の調査は、国土交通省近畿地方整備局福井工事事務所の依頼を受けて福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、主査清水孝之、同川越光洋、文化財調査員坪田聡子、嘱託職員伊藤健司（平成11・12年度）、同野原大輔（平成12年度）、同鈴木恵介（平成12・14年度）、同川端良招（平成13年度）、同木下一誠（平成15・16年度）、同阿部来（平成16年度）が担当した。
- 3 発掘調査は、平成11年11月1日から平成16年7月15日まで実施した。出土遺物の整理作業は、平成14年4月2日から平成21年3月31日まで、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターにて実施した。
- 4 本書の編集は坪田があたり、清水、主査田中勝之、文化財調査員木村孝一郎、嘱託職員早瀬亮介、同土谷崇夫が分担して執筆した。なお、執筆の分担は以下の通りである。

清水孝之	第1章第1節、第2章	坪田聡子	第1章第2・3節、第3章、第4章、第5章第2～4・10節
早瀬亮介	第5章第1・8節	土谷崇夫	第5章第1節
木村孝一郎	第5章第5・9節	田中勝之	第5章第6・7節
- 5 志田神田遺跡に関するこれまでの成果の発表のうち、本書と齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 遺構の図版作成は、主査鯉本眞友美、嘱託職員木村茉莉と坪田が行った。出土遺物の図化・図版作成は、主任富山正明、田中、木村(孝)、早瀬、土谷ならびに、木村(茉)、嘱託職員岩田直樹、同清水邦彦が行い、同写真撮影は田中と、嘱託職員立壁肇、木村(茉)の協力を得て、嘱託職員山口充が行った。
- 7 本書に掲載した弥生土器・土師器・須恵器の実測図のうち450点については、株式会社文化財サービスに委託し、作成したものを一部改変したものである。また、石器・石製品の実測図は、株式会社アルカと大成エンジニアリング株式会社に委託し、作成したものを使用している。
- 8 木製品1点は財団法人元興寺文化財研究所に委託して、保存処理と樹種鑑定を行った。
- 9 本書に掲載した地形図および遺構図は、株式会社パスコ（平成12年度）・アジア航測株式会社（平成13年度）・株式会社イビソク（平成14年度）・平和測量建設株式会社（平成15年度）・株式会社かんこう（平成16年度）に委託して作成したものを一部改変して使用した。上空からの写真は、航空測量時に上記5社が撮影したものである。また、5社の測量図と航空写真の合成・編集を株式会社イビソクに委託した。
- 10 遺物実測図と写真図版などの遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 11 本書における水平レベルの表示は、海拔高T. P. (m) を示し、方位はすべて座標北を用いた。また、X・Y座標値は、国土方眼座標系第Ⅵ系に基づく。
- 12 色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を基準とする。
- 13 遺物実測図は、断面黒塗りが須恵器を指す。薄いスクリーントーンは赤彩、点描は炭化を示す。
- 14 第3・8・9表において、異形は異形部分磨製石器、打斧は打製石斧、打斧調は打製石斧調整剥片、磨斧は磨製石斧を示す。Anは安山岩、Chはチャート、Saは砂岩、Shは頁岩を示す。また、Tはトレンチを示す。
- 15 本書に掲載した遺物と調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県教育庁埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 16 発掘調査ならびに本書の作成にあたり、次の方々および機関のご協力・ご教示を得た（順不同・敬称略）。
勝山市鹿谷地区、勝山市教育委員会、水村伸行、滝沢規朗
- 17 発掘調査には、地元の方々の参加・ご協力を得た。また、遺物整理作業は、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの整理作業員があたった。

目 次

第1章	調査の経緯	1
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の経過	3
第3節	遺物整理	4
第2章	遺跡の地理的・歴史的環境	5
第1節	地理的環境	5
第2節	歴史的環境	7
第3章	遺跡の概要	11
第1節	層序	11
第2節	遺構の分布	11
第3節	遺物の出土状況	12
第4章	遺構と遺物	19
第1節	遺構および遺構内出土遺物	19
I	掘立柱建物	
II	井戸	
III	水場遺構・堅果類出土土坑	
IV	土坑	
V	柱穴	
VI	溝・自然流路	
VII	鹿谷川旧流路	
第2節	遺構外出土遺物	113
第5章	まとめ	153
第1節	縄文時代の土器	153
第2節	弥生時代の土器	154
第3節	古墳時代の土器	158
第4節	平安時代の土器	158
第5節	中近世の土器・陶磁器	160
第6節	石器	162
第7節	石製品	172
第8節	木製品	173
第9節	金属製品・銅銭	173
第10節	各期の遺構と遺物	174

写真図版目次

- 卷首図版 (1) 九頭龍川より鹿谷町を望む
(2) 土坑SK1205遺物出土状況
- 図版第1 遺構 全調査区全景
- 図版第2 遺構 (1) 調査区遠景
(2) 1区全景
- 図版第3 遺構 (1) 3・4区全景
(2) 5区全景
- 図版第4 遺構 (1) 6区全景
(2) 7区全景
- 図版第5 遺構 (1) 8区全景
(2) 9区全景
- 図版第6 遺構 (1) 10～13区全景
(2) 14・15区全景
- 図版第7 遺構 (1) 掘立柱建物SB01完掘状況
(2) 掘立柱建物SB02完掘状況
- 図版第8 遺構 (1) 掘立柱建物SB03完掘状況
(2) 掘立柱建物SB04完掘状況
- 図版第9 遺構 (1) 掘立柱建物SB05完掘状況
(2) 掘立柱建物SB06完掘状況
- 図版第10 遺構 (1) 掘立柱建物SB09完掘状況
(2) 掘立柱建物SB10完掘状況
- 図版第11 遺構 (1) 掘立柱建物SB11完掘状況
(2) 掘立柱建物SB12完掘状況
- 図版第12 遺構 (1) 掘立柱建物SB13完掘状況
(2) 掘立柱建物SB14完掘状況
- 図版第13 遺構 (1) 掘立柱建物SB15完掘状況
(2) 掘立柱建物SB17完掘状況
- 図版第14 遺構 (1) 掘立柱建物SB18完掘状況
(2) 掘立柱建物SB19完掘状況
- 図版第15 遺構 (1) 掘立柱建物SB20完掘状況
(2) 掘立柱建物SB21完掘状況
- 図版第16 遺構 (1) 掘立柱建物SB22完掘状況
(2) 掘立柱建物SB23完掘状況
- 図版第17 遺構 (1) 掘立柱建物SB24完掘状況
(2) 掘立柱建物SB25完掘状況
- 図版第18 遺構 (1) 掘立柱建物SB04・柱穴SP07154半截状況
(2) 掘立柱建物SB04・柱穴SP07154遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB09・柱穴SP1019半截状況
(4) 掘立柱建物SB10・柱穴SP1059根石出土状況
(5) 掘立柱建物SB11・柱穴SP0705遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB12・柱穴SP07614柱根検出状況
(7) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0765遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0766遺物出土状況
- 図版第19 遺構 (1) 掘立柱建物SB13・柱穴SP0767遺物出土状況
(2) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0746遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0747遺物出土状況
(4) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0748遺物出土状況
(5) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0749遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0750遺物出土状況
(7) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0751遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0752遺物出土状況
- 図版第20 遺構 (1) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0756遺物出土状況
(2) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0757遺物出土状況
(3) 掘立柱建物SB15・柱穴SP0764遺物出土状況
(4) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0718遺物出土状況
(5) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0719遺物出土状況
(6) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0720遺物出土状況
(7) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0721遺物出土状況
(8) 掘立柱建物SB18・柱穴SP0745遺物出土状況
- 図版第21 遺構 (1) 掘立柱建物SB25・井戸SE08完掘状況
(2) 井戸SE01曲物検出状況
- 図版第22 遺構 (1) 井戸SE02曲物検出状況
(2) 井戸SE02断割状況
- 図版第23 遺構 (1) 井戸SE03曲物検出状況
(2) 井戸SE03断割状況
- 図版第24 遺構 (1) 井戸SE04検出状況
(2) 井戸SE07検出状況
- 図版第25 遺構 (1) 井戸SE05検出状況
(2) 井戸SE06検出状況

図版第26	遺構	(1) 水場遺構SX01・土坑SK1200~1207検出状況	図版第38	遺物	自然流路 SD08・SD11・鹿谷川旧流路出土土器
		(2) 水場遺構SX01・土坑SK1200~1205検出状況	図版第39	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第27	遺構	(1) 掘立柱建物SK1200遺物出土状況	図版第40	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
		(2) 土坑SK1201遺物出土状況	図版第41	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第28	遺構	(1) 土坑SK1202・SK1203遺物出土状況	図版第42	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
		(2) 土坑SK1204遺物出土状況	図版第43	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第29	遺構	(1) 土坑SK1205遺物出土状況	図版第44	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
		(2) 土坑SK1206遺物出土状況	図版第45	遺物	鹿谷川旧流路出土土器
図版第30	遺構	(1) 土坑SK1207遺物出土状況	図版第46	遺物	遺構外出土土器
		(2) 水場遺構SX01・土坑SK1200~1207完掘状況	図版第47	遺物	遺構外出土土器
図版第31	遺構	(1) 土坑SK0901遺物出土状況	図版第48	遺物	遺構外出土土器
		(2) 土坑SK0305完掘状況	図版第49	遺物	墨書・漆書
		(3) 土坑SK0704完掘状況	図版第50	遺物	石器 (1)
		(4) 土坑SK0705完掘状況	図版第51	遺物	石器 (2)
		(5) 柱穴SP07632柱根検出状況	図版第52	遺物	石器 (3)
		(6) M6グリッド縄文土器出土状況	図版第53	遺物	石器 (4)
		(7) H16グリッド縄文土器出土状況	図版第54	遺物	石器 (5)
		(8) H14・H15グリッド縄文土器出土状況	図版第55	遺物	石器 (6)
図版第32	遺構	(1) H22グリッド鹿谷川旧流路遺物出土状況	図版第56	遺物	石器 (7)
		(2) K24・K25グリッド鹿谷川旧流路遺物出土状況	図版第57	遺物	石器 (8)
図版第33	遺物	掘立柱建物・井戸・土坑出土土器	図版第58	遺物	石器 (9)
図版第34	遺物	土坑出土土器	図版第59	遺物	石器 (10)・石製品
図版第35	遺物	自然流路SD01出土土器	図版第60	遺物	腹甲・木製品 (1)
図版第36	遺物	自然流路SD01出土土器	図版第61	遺物	木製品 (2)
図版第37	遺物	自然流路 SD02・SD04・SD05・SD06 出土土器	図版第62	遺物	金属製品・銅銭

挿 図 目 次

第1図	志田神田遺跡位置図	2	第10図	掘立柱建物SB01・SB02実測図	21
第2図	グリッド配置図	3	第11図	掘立柱建物SB03・SB04実測図	22
第3図	福井県の地形区分図	5	第12図	掘立柱建物SB05実測図	23
第4図	勝山市の地形図	6	第13図	掘立柱建物SB06・SB07実測図	25
第5図	勝山市鹿谷町の遺跡分布図	9	第14図	掘立柱建物SB08・SB09実測図	26
第6図	土層柱状模式図	11	第15図	掘立柱建物SB10・SB11実測図	27
第7図	全体図(1)	13・14	第16図	掘立柱建物SB12・SB13実測図	29
第8図	全体図(2)	15・16	第17図	掘立柱建物SB14実測図	30
第9図	全体図(3)	17・18	第18図	掘立柱建物SB15実測図	31

第19図	掘立柱建物SB16・SB17実測図	33	第56図	自然流路SD05・SD07出土遺物実測図	81
第20図	掘立柱建物SB18・SB19実測図	35	第57図	自然流路SD06出土遺物実測図	82
第21図	掘立柱建物SB20・SB21実測図	36	第58図	自然流路SD06出土遺物実測図	83
第22図	掘立柱建物SB22・SB23実測図	37	第59図	自然流路SD06出土遺物実測図	84
第23図	掘立柱建物・柱穴出土遺物実測図	38	第60図	自然流路SD08出土遺物実測図	85
第24図	掘立柱建物SB24実測図	39	第61図	溝・自然流路出土遺物実測図	86
第25図	掘立柱建物SB24・雨落溝SD27出土遺物実測図	40	第62図	溝・自然流路出土遺物実測図	87
第26図	掘立柱建物SB25実測図	41・42	第63図	鹿谷川旧流路土層断面図	88
第27図	掘立柱建物SB25竪穴状遺構実測図	43	第64図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	89
第28図	掘立柱建物SB25竪穴状遺構・SE08出土遺物実測図	43	第65図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	90
第29図	掘立柱建物SB25・井戸SE08実測図	44	第66図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	91
第30図	井戸SE01～SE06実測図	46	第67図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	92
第31図	井戸SE03出土遺物実測図	47	第68図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	93
第32図	井戸SE07実測図	48	第69図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	94
第33図	井戸SE07出土遺物実測図	48	第70図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	95
第34図	水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1207実測図	50	第71図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	96
第35図	水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1203実測図	51	第72図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	97
第36図	土坑SK1204～SK1207実測図	53	第73図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	98
第37図	土坑SK1205出土遺物実測図	54	第74図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	99
第38図	土坑実測図	57	第75図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	100
第39図	土坑実測図	59	第76図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	101
第40図	土坑実測図	60	第77図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	102
第41図	土坑実測図	61	第78図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	103
第42図	土坑実測図	63	第79図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	104
第43図	土坑出土遺物実測図	64	第80図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	105
第44図	土坑出土遺物実測図	65	第81図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	106
第45図	柱穴実測図	66	第82図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	107
第46図	柱穴出土遺物実測図	66	第83図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	108
第47図	溝・自然流路土層断面図	72	第84図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	109
第48図	溝・自然流路土層断面図	73	第85図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	110
第49図	溝・自然流路土層断面図	74	第86図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図	111
第50図	自然流路SD01出土遺物実測図	75	第87図	鹿谷川旧流路出土遺物実測図・拓影	112
第51図	自然流路SD01出土遺物実測図	76	第88図	縄文土器出土状況実測図	113
第52図	自然流路SD01出土遺物実測図	77	第89図	遺構外出土遺物実測図	114
第53図	自然流路SD01出土遺物実測図	78	第90図	遺構外出土遺物実測図	115
第54図	自然流路SD01・SD02出土遺物実測図	79	第91図	遺構外出土遺物実測図	116
第55図	自然流路SD03・SD04出土遺物実測図	80	第92図	遺構外出土遺物実測図	117

第93図 遺構外出土遺物実測図	118	第103図 遺構外出土遺物実測図	128
第94図 遺構外出土遺物実測図	119	第104図 遺構外出土遺物拓影	129
第95図 遺構外出土遺物実測図	120	第105図 石器 1	166
第96図 遺構外出土遺物実測図	121	第106図 石器 2	167
第97図 遺構外出土遺物実測図	122	第107図 石器 3	168
第98図 遺構外出土遺物実測図	123	第108図 石器 4	169
第99図 遺構外出土遺物実測図	124	第109図 石器 5	170
第100図 遺構外出土遺物実測図	125	第110図 石器 6	171
第101図 遺構外出土遺物実測図	126	第111図 中世の石製品	172
第102図 遺構外出土遺物実測図	127	第112図 遺構概略図	175

表 目 次

第1表 遺跡名一覧表	9
第2表 土器・土製品観察表	130
第3表 石器観察表	147
第4表 石製品観察表	151
第5表 木製品観察表	151
第6表 金属製品観察表	151
第7表 銅銭観察表	152
第8表 石器組成表 1	162
第9表 石器組成表 2	162
第10表 石製品組成表	172

付 図

付図 志田神田遺跡遺構分布図

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

志田神田遺跡は、福井県勝山市鹿谷町志田字神田他に所在する。鹿谷町は勝山市西部の九頭龍川左岸に位置し、北流する鹿谷川とその支流である北西俣川によって開析された谷地形を呈している。志田神田遺跡は、鹿谷川右岸に位置する志田集落の南東側の緩傾斜地に立地する。緩傾斜地は東側の丘陵部から鹿谷川に向かって緩やかに下り、水田として利用されていた（第1図）。

勝山市鹿谷町における考古学的な知見は、昭和49年（1974）より明らかとなる。昭和49年（1974）に鹿谷町本郷地籍において、圃場整備事業に伴い、本郷遺跡が不時発見された。不時発見の連絡を受けて関係機関が協議を行い、翌昭和50年（1975）に本郷遺跡の試掘調査が実施される運びとなった。この試掘調査の際に鹿谷町内の遺跡の遺存状況を把握するため、調査員によって分布調査が行われた⁽¹⁾。この分布調査により、志田集落南東側の水田において古墳時代の遺物散布地が確認され、「神田遺跡」と名付けられた⁽²⁾。

その後、県内各地での開発行為の増加とともに、県内全域の詳細な遺跡分布地図の必要性が求められた。このため、県教育委員会を主体とし、各市町村の教育委員会の協力を得ながら県内全域の遺跡の詳細な分布調査が実施された。その成果は、平成5年（1993）に『福井県遺跡地図－平成4年度－』にまとめられた⁽³⁾。これにより、前述の「神田遺跡」についても表面観察のみではあるが遺跡の範囲がおおよそ把握されることとなり、さらに遺跡名称の整理も行われ、「志田神田遺跡」として改めて周知されることとなった。

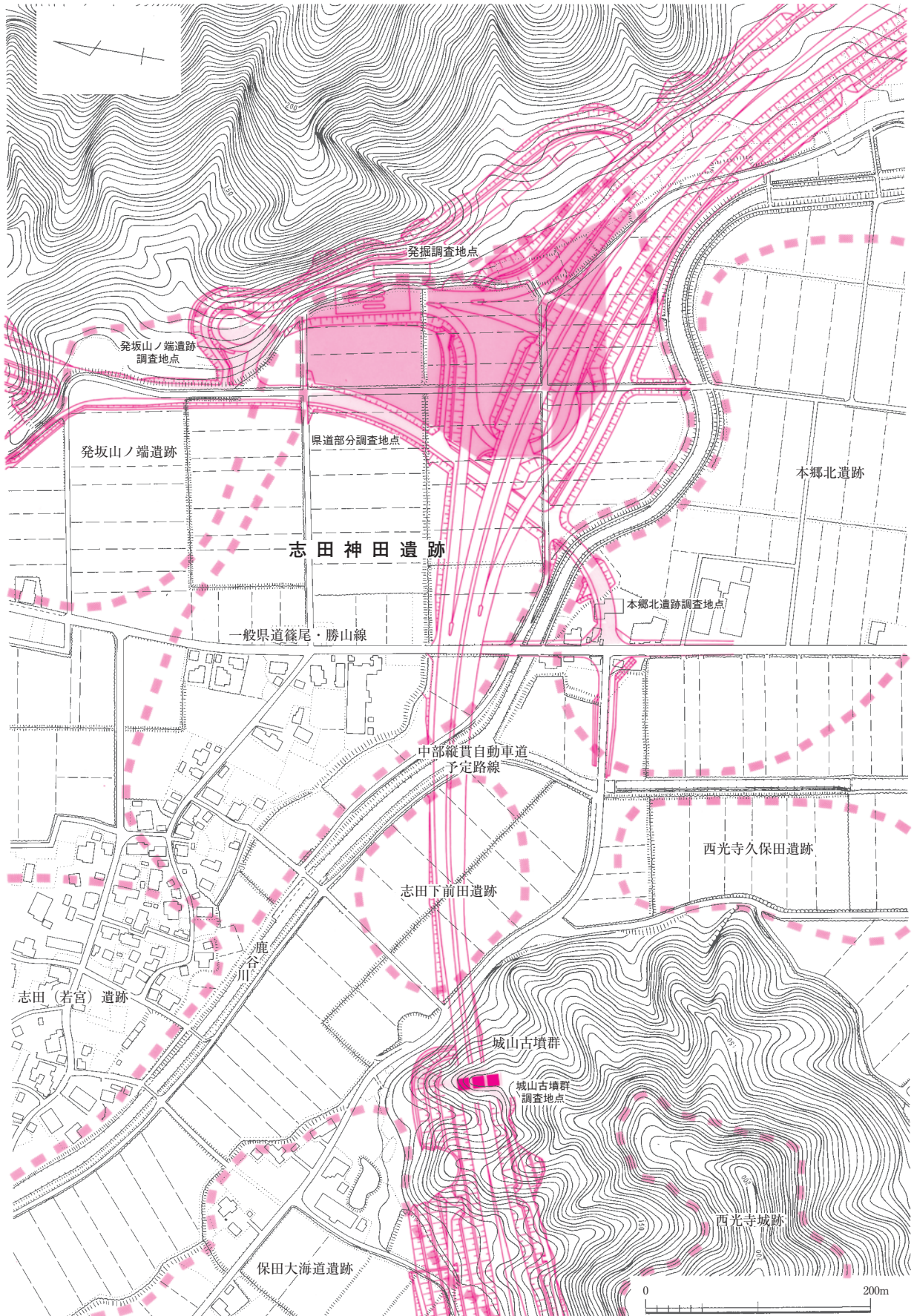
昭和62年（1987）に国の道路審議会の答申により高規格幹線道路網の整備が計画され、県内においても福井市から長野県松本市を結ぶ中部縦貫自動車道の整備が具体化し始めた。中部縦貫自動車道は一般国道158号の自動車専用道路として計画されたもので、総延長は約160kmにもおよぶ。その路線は北陸自動車道福井北インターチェンジを起点として九頭龍川左岸を東進し、一般国道158号に沿う形で岐阜県内を通過して長野県松本市に至るものである。特に、県内については「永平寺大野道路」と呼称される福井市玄正島町の北陸自動車道福井北インターチェンジから大野市中津川に至る延長26.4kmの区間について、まず着手することとなった。

勝山市内では鹿谷町に中部縦貫自動車道の本線と勝山インターチェンジ、ならびに自動車道へ連結する一般県道勝山インター線の建設が計画され、事業予定地内において埋蔵文化財の試掘調査・発掘調査が随時進められた。

志田神田遺跡については、中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジと一般県道勝山インター線の路線に係り、試掘調査ならびに発掘調査が実施された。まず、県道部分の試掘調査が平成9年（1997）10月17日に、福井県教育庁埋蔵文化財調査センター（以下、埋文センターと略す）によって実施され、事業予定地内において弥生時代から平安時代の遺構・遺物の存在を確認した。この結果を受けて、関係機関との協議を行い、志田神田遺跡の発掘調査の実施が決定された。一般県道勝山インター線建設事業に伴う志田神田遺跡の発掘調査は、平成12年（2000）4月19日から10月20日まで実施された⁽⁴⁾。

中部縦貫自動車道建設事業に伴う試掘調査は、建設省近畿地方整備局福井工事事務所（平成13年に国土交通省近畿地方整備局福井工事事務所に改組）の依頼を受けて路線内の他の遺跡と共に平成10年

第1章 調査の経緯



第1図 志田神田遺跡位置図 (縮尺1/5,000)

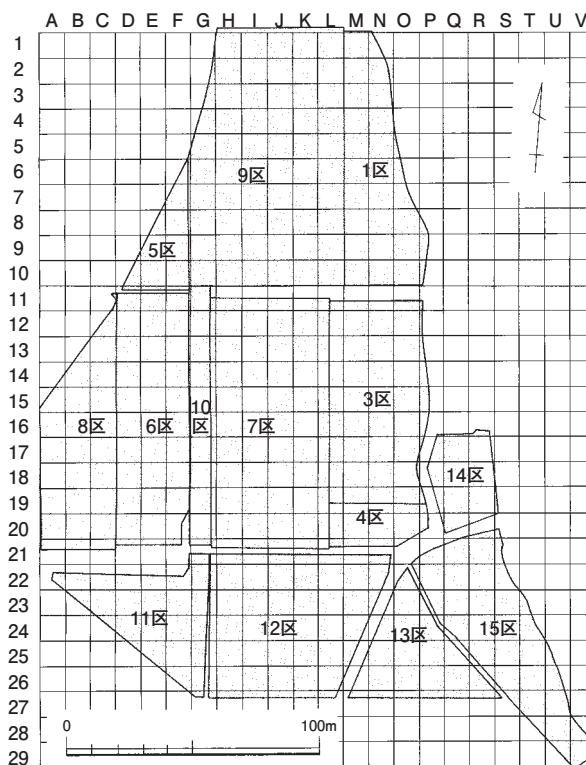
(1998) 7月31日から9月7日にかけて埋文センターにより実施された。試掘調査の結果、事業予定地内において弥生時代から平安時代の遺構・遺物を検出した。以上の試掘調査の結果を基に、建設省近畿地方整備局福井工事事務所と協議を行い、平成11年度の後半より志田神田遺跡の発掘調査に着手することで合意した。ただし、志田神田遺跡の調査対象面積が33,580㎡をはかる広大なものであったため、発掘調査は調査対象地を1～15区に区分して随時実施することとなった⁽⁵⁾。

志田神田遺跡の発掘調査は工事着工の優先順位に基づいて1区より着手し、平成11年（1999）11月1日より開始した。

第2節 調査の経過

前述のように、調査対象地を1～15区に区分し(第2図)、順次調査を実施した。各調査区の調査期間・調査面積・航空測量日は以下の通りである。

- 1区 調査面積 2,000㎡ 調査期間 平成11年（1999）11月1日～平成12年（2000）11月9日
航空測量日 平成12年（2000）11月8日
- 3区 調査面積 3,500㎡ 調査期間 平成12年（2000）8月8日～平成13年（2001）3月28日
航空測量日 平成13年（2001）3月22日
- 4区 調査面積 710㎡ 調査期間 平成13年（2001）3月22日～平成13年（2001）7月10日
航空測量日 平成13年（2001）7月4日
- 5区 調査面積 710㎡ 調査期間 平成13年（2001）3月22日～平成13年（2001）7月10日
航空測量日 平成13年（2001）7月4日
- 6区 調査面積 2,860㎡
調査期間 平成13年（2001）3月22日
～平成13年（2001）7月10日
航空測量日 平成13年（2001）7月4日
- 7区 調査面積 5,000㎡
調査期間 平成13年（2001）8月1日
～平成14年（2002）3月28日
航空測量日 平成14年（2002）3月14日
- 8区 調査面積 2,500㎡
調査期間 平成14年（2002）4月4日
～平成14年（2002）7月2日
航空測量日 平成14年（2002）6月27日
- 9区 調査面積 6,100㎡
調査期間 平成14年（2002）4月4日
～平成15年（2003）3月20日
航空測量日 平成14年（2002）12月20日
- 10区 調査面積 910㎡
調査期間 平成15年（2003）4月7日
～平成15年（2003）12月2日



第2図 グリッド配置図（縮尺1/3,000）

	航空測量日	平成15年（2003）11月20日
11区	調査面積 1,300㎡	調査期間 平成15年（2003）4月7日～平成15年（2003）11月20日
	航空測量日	平成15年（2003）11月20日
12区	調査面積 3,400㎡	調査期間 平成15年（2003）4月7日～平成15年（2003）12月15日
	航空測量日	平成15年（2003）11月20日
13区	調査面積 1,490㎡	調査期間 平成15年（2003）4月7日～平成15年（2003）11月20日
	航空測量日	平成15年（2003）11月20日
14区	調査面積 650㎡	調査期間 平成15年（2003）11月20日～平成16年（2004）7月15日
	航空測量日	平成16年（2004）7月1日
15区	調査面積 2,450㎡	調査期間 平成15年（2003）9月4日～平成16年（2004）7月15日
	航空測量日	平成16年（2004）7月1日

第3節 遺物整理

本遺跡の遺物整理は平成14年度から開始した。以下、年度毎に実施した主な作業について記述する。

平成14年度 洗浄・注記

平成15年度 洗浄・注記・接合

平成16年度 洗浄・注記・接合

平成17年度 接合・分類・復元

平成18年度 復元・土器図化トレース・石器図化トレース・測量図合成・木製品保存処理

平成19年度 土器図化トレース・石器図化トレース

平成20年度 遺構トレース・遺物の写真撮影・原稿執筆

なお、平成16年の福井豪雨により、整理作業場所であった埋文センターの本部が被災したため、一部の出土遺物や図面類が流失した。遺物では特に木製品の被害が甚大で、井戸から出土した曲物や掘立柱建物の柱材などは大半が流失したため、実測図や写真の掲示を行えない場合が多い。また土器類では、流失を免れた場合でも、出土地が分からなくなったものや、形状が変わってしまったものがある。図面類では、調査現場で作成したメモ類や調査日誌、遺物整理の際に集計・整理したメモやデジタルデータなどの一部は判読不能となった。水害による被害の全容を把握する術がないため、次章以降の遺構・遺物の説明に際しては、不確かな要素が残っていることをお断りしておく。

註

1 試掘調査を担当した中司照世前所長による。

2 中司照世編 1977 『鹿谷本郷遺跡』勝山市埋蔵文化財調査報告第1集 勝山市教育委員会

3 福井県教育委員会 1993 『福井県遺跡地図－平成4年度－』

4 川越光洋編 2003 『志田神田遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

5 志田神田遺跡では、中部縦貫自動車道と一般県道勝山インター線の二つの建設事業に伴う発掘調査が同時期に併行して実施された。このため調査区の設定については、遺跡全体の遺構の配置状況を把握・整理するため、一般県道勝山インター線建設事業予定地も含めて区分けを行った。この県道部分については2区として扱い、詳細は前掲註4の文献にて既に報告されている。なお、調査面積の33,580㎡には2区は含まれていない。

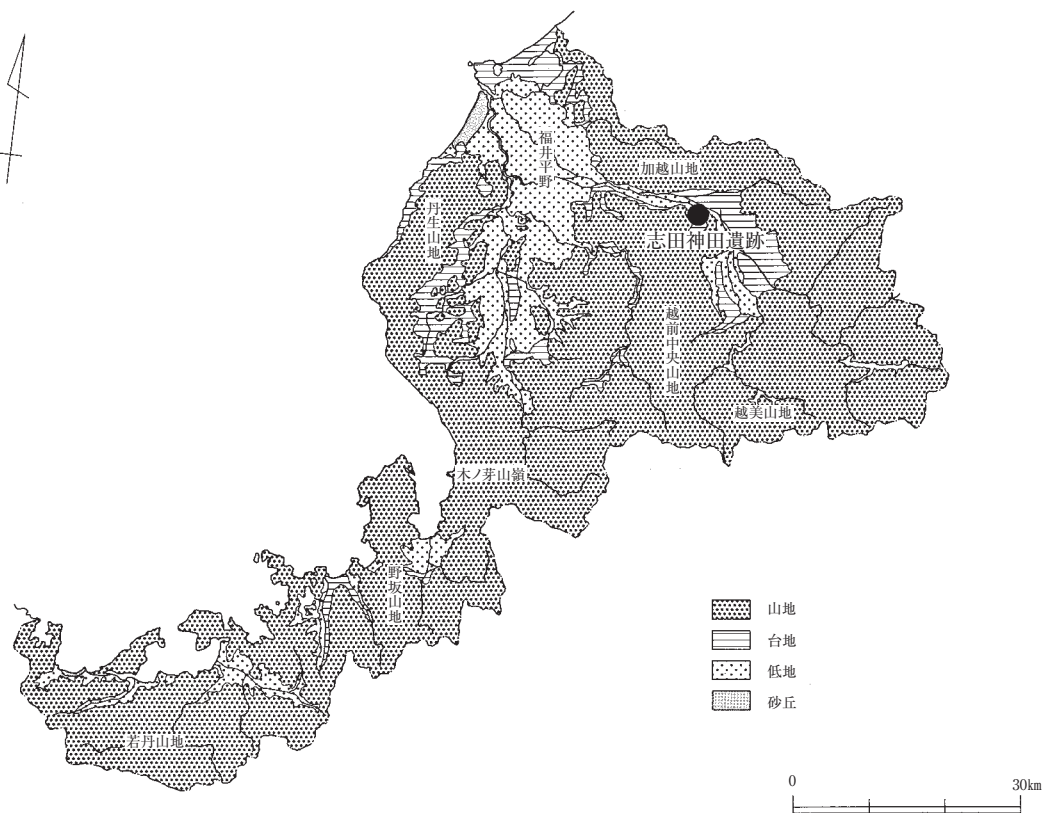
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

第1節 地理的環境

福井県は本州中央部の凹部に位置し、西側は日本海に面している。東西約130km、南北約100kmをはかり、面積は約4,189km²をはかる（第3図）。福井県は敦賀市の北東部にある木ノ芽山嶺を境として、行政的には北側を嶺北地方、南側を嶺南地方と呼称する。現在では嶺南地方に含まれている敦賀市から以北を近代以前では越前国、敦賀市を除く嶺南地方を若狭国として区分していた。福井県の北側は加越山地で石川県と、南東側は越美山地で岐阜県と接し、南西側から西側にかけては野坂山地・若丹山地で滋賀県および京都府と境を接する。福井県の嶺北地方はあまり凹凸のない海岸線を有するものの、東尋坊や呼鳥門のような切り立った岩肌が海岸線に連なり、奇岩の景勝地として知られる。一方、嶺南地方は細くのびる半島が複雑に入り組む日本海側有数のリアス式海岸を有している。

嶺北地方は周囲を山地に囲まれ、唯一北西側で日本海に面して開く。各山地より流れ出る九頭龍川・足羽川・日野川などの主要河川は、この開口部に向かって集まる。これらの主要河川の堆積物で形成された沖積平野が、北陸地方有数の穀倉地帯である福井平野である。

嶺北地方北東部に位置する勝山市は九頭龍川中流域に位置し、周囲を加越山地・越前中央山地に囲まれた勝山盆地と呼ばれる盆地地形を呈する（第4図）。勝山市の地形は、大きく山地と平地に分けられる。山地は、加越山地と越前中央山地である。加越山地は九頭龍川以北の山地で、前述したように石川県と境を接する。県境付近には西側から浄法寺山（標高1,053m）・大日山（標高1,368m）・兜山（標高1,319



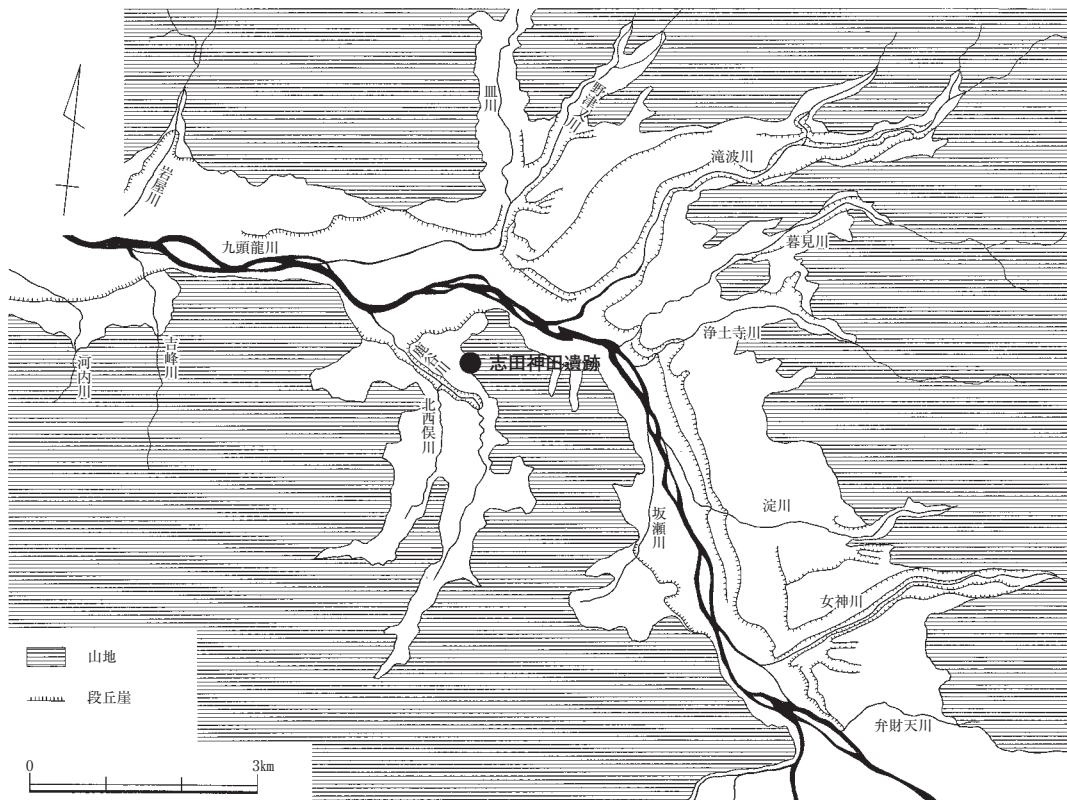
第3図 福井県の地形区分図（縮尺1/1,000,000）

m)・取立山(標高1,307m)・烏岳(標高1,327m)・大長山(標高1,671m)・赤兎山(標高1,629m)などの標高1,000mを超える諸山がそびえている。これらの山々は白山火山群と同時期、もしくはそれよりも古い火山性の山々である。一方、越前中央山地は、九頭龍川以南の勝山市鹿谷町・同市遅羽町を取り巻く山地である。加越山地に比して高度が低い壮年期の山地で、沈降性山地の特色を持つ。永平寺町との境には、経ヶ岳(標高765m)がそびえる。

平地は勝山盆地と志比地溝に分かれる。勝山盆地内は、九頭龍川をはじめとする河川によって形成された扇状地・河岸段丘・氾濫原に地形がさらに区分できる。九頭龍川の支流である岩屋川・滝波川・暮見川・浄土寺川・女神川の流域には扇状地が形成され、その両岸には河岸段丘が見られる。九頭龍川の両岸にも1～3段の河岸段丘が形成されており、勝山市平泉寺町大渡地区から永平寺町鳴鹿地区にかけての断続的な段丘崖を「七里壁」と呼称している。

志比地溝は、勝山市荒土町伊波地区と同市鹿谷町発坂地区を結ぶ線から永平寺町鳴鹿地区にかけての谷底平野である。南北を加越山地と越前中央山地に挟まれ、その間を九頭龍川が流れる。山地は急斜面をなし、九頭龍川は中流域の特色である網状河川を呈している。

勝山市鹿谷町は勝山市の西部に位置し、東西および南側を山地に囲まれ、北側に大きく開口する谷内に所在する。鹿谷町を囲う山地は越前中央山地の北東端にあたり、谷の入り口にあたる保田地区から発坂地区にかけては九頭龍川による河岸段丘が形成されている。鹿谷町は、町内の中央部を北流する鹿谷川とその支流である北西俣川によって開析された谷地形を呈する。この地形は鹿谷町発坂地区から矢戸口地区にかけての勾配が100分の1にすぎず、極めて平坦な袋状の埋積谷の特色を示している。鹿谷川はこの袋状の埋積谷を流れるが、深い浸食は見られない。鹿谷町は周囲が山地に囲まれた地形であるた



第4図 勝山市の地形図(縮尺1/10,000)

め、北西俣地区と福井市皿谷町との間には芦見坂が、矢戸口地区と大野市大矢戸地区の間には矢戸坂が、東遅羽地区と勝山市遅羽町蓬生地区との間には蓬生坂が所在し、峠交通路が発達していた。

第2節 歴史的環境

勝山市では、市域において遺跡の発掘調査が多数実施されている。考古学的知見からの勝山市の歴史的環境についてはすでに各種の文献にて詳述されているため、詳細についてはそれらの文献に譲りたい。本節では志田神田遺跡が所在する鹿谷町について、時代毎に主要な遺跡を取り上げ、鹿谷町の歴史的環境についてまとめたい（第5図、第1表）。

縄文時代

縄文時代の遺跡として、本郷北遺跡・本郷遺跡が挙げられる。

本郷北遺跡（第5図16）は、鹿谷川左岸の自然堤防上に立地する。平成10・11年（1998・1999）に、一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された⁽¹⁾。この遺跡からは貯蔵穴と考えられる直径1m前後の円形の土坑を検出し、土坑内からは縄文時代前期末葉の土器が出土している。遺構の配置状況から、本郷北遺跡の中心は調査区南側一帯に広がるものと想定される。

本郷遺跡（第5図17）は、昭和50年（1975）に圃場整備事業に伴って試掘調査が実施された⁽²⁾。調査は遺跡の遺存状況の把握を主としていたため、小規模な発掘にとどまり、僅かに柱穴状のピットを確認したのみである。出土した遺物は、縄文時代後期後葉から晩期前葉に位置づけられる。本郷遺跡は本郷北遺跡に南接する形で立地しており、このことから両遺跡が一つの遺跡群としてまとまりを持つことが容易に想定できる。

弥生時代

弥生時代の遺跡として、発坂山ノ端遺跡・志田神田遺跡・本郷北遺跡・城山古墳群が挙げられる。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）は、鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面の水田地帯に立地する。平成11・12年（1999・2000）に、中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された⁽³⁾。調査箇所は志田神田遺跡に北接する低丘陵上であり、弥生時代後期後半から末にかけての竪穴住居を4棟検出している。その他に、掘立柱建物も多数検出しているが、その多くは時期を判別できる遺物が伴わないため帰属時期が明確ではない。しかし、掘立柱建物が竪穴住居と重複して構築されていないため、弥生時代に帰属する可能性がある。また、低丘陵前面の水田地帯においても、平成7年（1995）に勝山市教育委員会により雇用促進住宅の建設事業に伴って発掘調査が実施されており、弥生時代後期末の遺物を含む河川跡を検出している⁽⁴⁾。

志田神田遺跡（第5図10）は、鹿谷川右岸の水田地帯に立地する。平成12年（2000）に、一般県道勝山インター線建設事業に伴って発掘調査が実施された⁽⁵⁾。圃場整備の際の削平が著しく、明確ではないが、弥生時代に属する可能性がある掘立柱建物を1棟検出している。

発坂山ノ端遺跡および志田神田遺跡の様相から、弥生時代の集落が鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面に展開していたことがうかがえる。

本郷北遺跡（第5図16）では、削平のため遺存状況はあまり良好とはいえないが、弥生時代後期末の竪穴住居を1棟検出している⁽⁶⁾。これにより、谷中央部の自然堤防上にも該期の集落が存在することが明らかとなった。

発坂山ノ端遺跡・志田神田遺跡および本郷北遺跡が鹿谷町内の弥生時代の集落域であるならば、墓域

に相当するのが城山古墳群である。

城山古墳群（第5図14）は鹿谷川左岸の丘陵上に立地し、鹿谷川を挟んで東側の発坂山ノ端遺跡と対峙している。城山古墳群は古墳とは称するものの、正確には弥生時代後期後半から末にかけての墳丘墓である。平成10・11年（1998・1999）に中部縦貫自動車道建設事業に伴って発掘調査が実施され、丘陵頂部において一辺が9 m前後をはかる方形の墳丘墓を3基検出した⁽⁷⁾。2・3号墓では墳丘盛土の流出が著しく、遺存状況は芳しいものではなかったが、1号墓は比較的遺存状況が良好で、墳丘頂部において埋葬施設1基を検出した。しかし、埋葬施設からは、副葬品は出土しなかった。

古墳時代

鹿谷町の発坂地区において2基の古墳が確認されているが、詳細は不明である。しかもその内の1基である発坂1号墳（第5図12）は土取りによってすでに消滅している。

古代

古代の遺跡では、志田神田遺跡・発坂山ノ端遺跡が挙げられる。

志田神田遺跡（第5図10）の県道勝山インター線建設事業に伴う調査区において、遺存状況は芳しくなかったが掘立柱建物・溝などを検出している⁽⁸⁾。掘立柱建物の帰属時期は明確ではないが、柱穴内より8世紀後半代の土器が出土していることから、建物はこの時期のものであろうと推定される。また、溝からは陽物形木製品が出土している。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）の中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴う調査区では、掘立柱建物を1棟検出している⁽⁹⁾。削平のため建物の東側の柱穴列のみの検出となったが、径1 m前後をはかる柱穴を8基検出している。検出した柱穴が南北方向に整然と並ぶ様子から、大型の掘立柱建物が存在したことをうかがわせる。掘立柱建物の帰属時期は明確ではないが、柱穴内より出土した遺物から10世紀代もしくはそれ以前の建物と考えられる。

以上の2遺跡の様相から、古代の集落が鹿谷川右岸の低丘陵上およびその前面に展開していたと言えるだろう。

中世

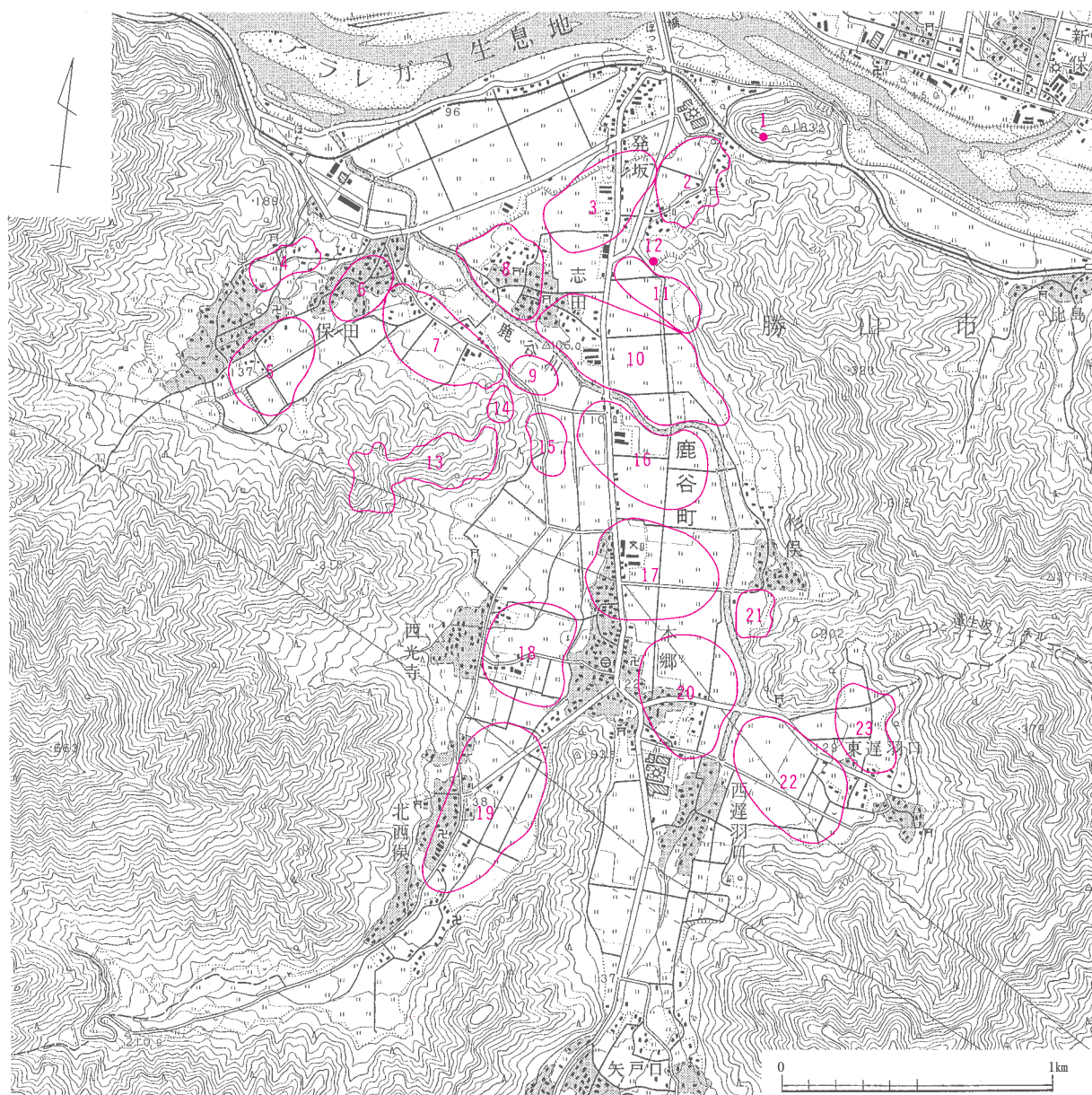
鹿谷町内では現時点において、中世の集落遺跡は明らかではない。鹿谷町自体が狭小な谷地形を呈していることから、中世においても谷の中央部が耕地として利用されたことが容易に想像され、このため現集落域に該期の集落が重なる可能性が非常に高いと言えよう。

集落以外の遺跡では、発坂山ノ端遺跡・西光寺城跡が挙げられる。

発坂山ノ端遺跡（第5図11）の中部縦貫自動車道および一般県道勝山インター線建設事業に伴う調査区では、削平を受けているが中世墓と考えられる石組遺構を1基検出している⁽¹⁰⁾。この石組遺構は、一部は遺存しないものの大型の石をコの字状に配し、その中に小礫を充填していた。遺存部分から推定して石組遺構を復元するならば、一辺が2.6 m前後をはかる方形状に石が組まれていたと考えられる。石組遺構の近傍からは越前焼の片口鉢が1点出土しており、この片口鉢の年代から石組遺構が鎌倉時代に属する可能性がある。

西光寺城跡（第5図13）は鹿谷川左岸の丘陵上に立地し、城山古墳群背後の丘陵頂部を中心に山城遺構が構築されている⁽¹¹⁾。西光寺城跡については記録が残っていないため、築城時期および城主については定かではない。しかし、畝状堅堀が整備されていることから、元亀から永禄期頃には築城されていたと推定され、山城遺構の特徴および文献資料の調査から、朝倉氏配下の嶋田将監が築城あるいは整備に

第2節 歴史的環境



第5図 勝山市鹿谷町の遺跡分布図（縮尺1/25,000）

第1表 遺跡名一覧表（番号は第5図に対応）

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	発坂2号墳	古墳	古墳	13	西光寺城跡	城跡	中世・近世
2	発坂宮ノ前遺跡	散布地	奈良・平安	14	城山古墳群	墳丘墓	弥生
3	発坂中町遺跡	散布地	弥生～近世	15	西光寺久保田遺跡	散布地	奈良・平安
4	保田東小屋敷遺跡	散布地	中世・近世	16	本郷北遺跡	集落	縄文・弥生
5	保田南田遺跡	散布地	奈良・平安・近世	17	本郷遺跡	集落	縄文
6	保田梅木町遺跡	散布地	縄文・奈良～中世	18	西光寺前田遺跡	散布地	中世・近世
7	保田大海道遺跡	散布地	奈良～近世	19	北西俣遺跡	散布地	奈良・平安
8	志田（若宮）遺跡	散布地	縄文～古墳・中世・近世	20	本郷十八堂遺跡	散布地	奈良～近世
9	志田下前田遺跡	散布地	奈良・平安・近世	21	杉俣内河原遺跡	散布地	中世・近世
10	志田神田遺跡	集落	縄文～近世	22	東遅羽口下杉遺跡	散布地	奈良～中世
11	発坂山ノ端遺跡	集落	縄文・弥生・平安・中世	23	東遅羽口横枕遺跡	散布地	縄文・奈良～近世
12	発坂1号墳	古墳	古墳				

係わっていた可能性が指摘されている⁽¹²⁾。

以上、考古学的資料を用いて鹿谷町の歴史的環境を概説してきた。鹿谷町は狭小な谷地形を呈するものの、縄文時代から中世にかけての遺跡が確認されており、豊かな歴史的環境を有していると言える。今後、本報告書で報告する志田神田遺跡の資料が、この地域での研究の発展に寄与することを願いたい。

註

- 1 清水孝之編 2003 『本郷北遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第65集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 2 中司照世編 1977 『鹿谷本郷遺跡』 勝山市埋蔵文化財調査報告 第1集 勝山市教育委員会
- 3 坪田聡子編 2004 『発坂山ノ端遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第77集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 4 宝珍伸一郎 1996 「発坂山ノ端遺跡」『第11回発掘調査報告会資料』 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 5 川越光洋編 2003 『志田神田遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 6 前掲註1
- 7 清水孝之編 2002 『城山古墳群』 福井県埋蔵文化財調査報告 第60集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 8 前掲註5
- 9 前掲註3
- 10 前掲註3
- 11 福井県立朝倉氏遺跡資料館編 1987 『福井県の中・近世城館跡』 福井県教育委員会
- 12 青木豊昭 2003 「朝倉義景時代の山城 - その縄張の特徴と意義 -」『朝倉義景のすべて』 新人物往来社

参考文献

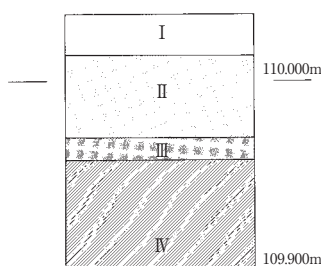
- 勝山市 1974 『勝山市史』第1巻 風土と歴史
- 勝山市 1997 『図説勝山市史』
- 日本地誌研究所編 1970 『日本地誌』第10巻 富山県・石川県・福井県 二宮書店
- 福井県 1986 『福井県史』資料編13 考古
- 福井県教育委員会 1993 『福井県遺跡地図 - 平成4年度 -』

第3章 遺跡の概要

第1節 層序

志田神田遺跡は勝山市鹿谷町志田の東端に位置し、標高108～112mをはかる。調査地は水田および畑地として利用されていた。調査区の大部分では、昭和40年代の圃場整備により大規模な掘削や造成が行われており、一部を除いて包含層はほとんど存在していない。

標準的な層序を模式的に表せば、第6図の通りである。



第6図 土層柱状模式図

第Ⅰ層は、暗褐色粘質土から構成される土層である。層厚は西端では0.1～0.2mをはかるが、東側丘陵部では層厚が増して0.4～0.5mをはかる。表土層である。

第Ⅱ層は、褐色～黒褐色粘質土から構成される土層で、層厚0.4～0.6mをはかる。圃場整備時の盛土層と考えられる。

第Ⅲ層は、黒色粘質土から構成される土層で、層厚0.1～0.5mをはかる。遺物が少量出土する包含層である。14・15区の一部に存在する。

第Ⅳ層は、黄褐色～黄灰色粘質土から構成される土層で、この上面にて遺構を確認する。地山である。

調査区の土層はおおまかに以上の4層にわけることができる。しかし、第Ⅲ層はほとんど存在していない。

第2節 遺構の分布

今回の調査区の総面積は、33,580㎡をはかる。検出した主な遺構は、以下のとおりである。

掘立柱建物 25棟、井戸 8基、溝・自然流路 43条、土坑・柱穴 多数

今回の調査区は丘陵裾部に位置しており、圃場整備前は緩やかな斜面が鹿谷川にむかってのびていたと考えられる。圃場整備時に、この斜面を削平して平坦に整え、鹿谷川は埋め立てて流路を変更している。削平は遺構面にまでおよんでいることから、遺構の遺存状況はあまり果果しくない。なかでも、1・3・6・8・12・13区では、著しく改変が行われており、確認できた遺構は少ない。遺構内から遺物が出土する例が僅かであるため、時期を特定できる遺構は限られるが、弥生時代・平安時代・中近世のものがある。

弥生時代の遺構は、掘立柱建物・土坑・柱穴・溝・自然流路などがあり、調査区内に広く分布している。堅果類を水に晒していたと考えられる土坑は、鹿谷川旧流路内でまとまって検出している。時期を詳細に区分すると、遺構の偏在もみられる。

平安時代の遺構は掘立柱建物・土坑・柱穴・溝・自然流路などがあり、9列以南に分布する。調査区のはほぼ中央を流れる自然流路SD01が、北限となっていた可能性が考えられる。

中近世の遺構は掘立柱建物・井戸・柱穴などがある。中近世に属すると考えられる遺構の数は限られており、3・14区の16列から19列に集中している。

今回の調査区では、各時代の集落が断続的に展開していたと考えられるが、いずれの時期でも鹿谷川

(旧流路)がその南端であった可能性が高い。各時期の遺構の分布には偏在が認められる場合もあるが、後世の改変による影響が少なくないと考えられるため、各時代の集落の広がりについて詳らかにすることは困難である。

第3節 遺物の出土状況

縄文時代早期から近世までの各時期の遺物が出土している。

最も古い土器は、縄文時代早期の押型文土器である。主として第Ⅳ層中から出土しているが、流水作用による二次堆積と考えられる。

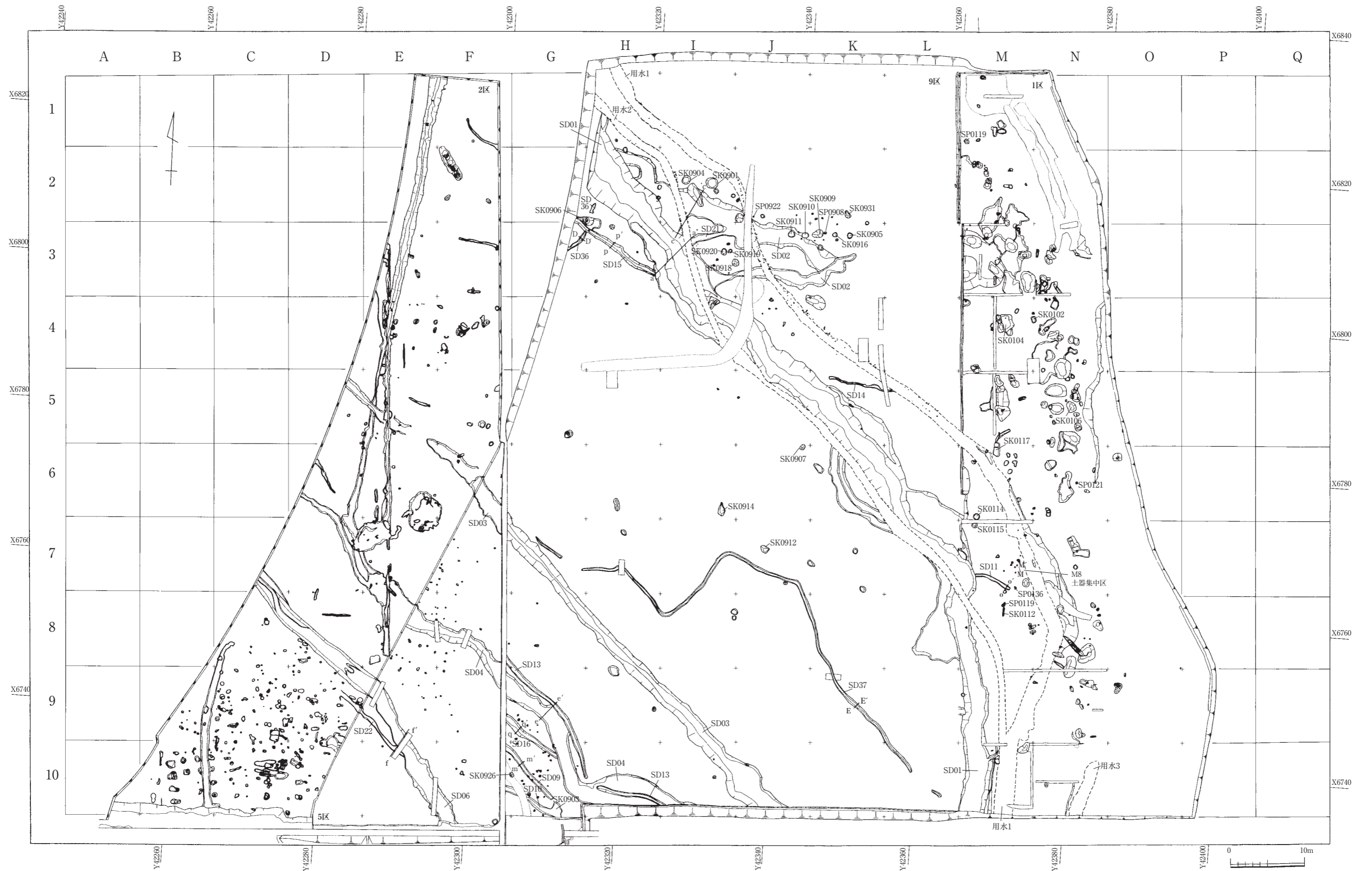
土器の主体となるのは、溝・自然流路や鹿谷川旧流路から出土した、弥生土器や平安時代の須恵器・土師器である。弥生土器は、中期に属するものもあるが、後期後葉から末にかけての時期のものが多い。隣接する発坂山ノ端遺跡でも同じ時期の遺物が出土している。

鹿谷川旧流路で出土した平安時代の須恵器・土師器は、掘立柱建物群に近接するグリッド(G20~I23)に特に集中が認められることから、当時の消費行動に伴って生活拠点の周辺に廃棄されたことがうかがえる。このなかには、墨書や漆書された須恵器・土師器が含まれており、また転用硯と考えられるものも存在する。少し離れるが、同じ鹿谷川旧流路からは風字硯なども出土しており、識字層の存在を示すものといえる。

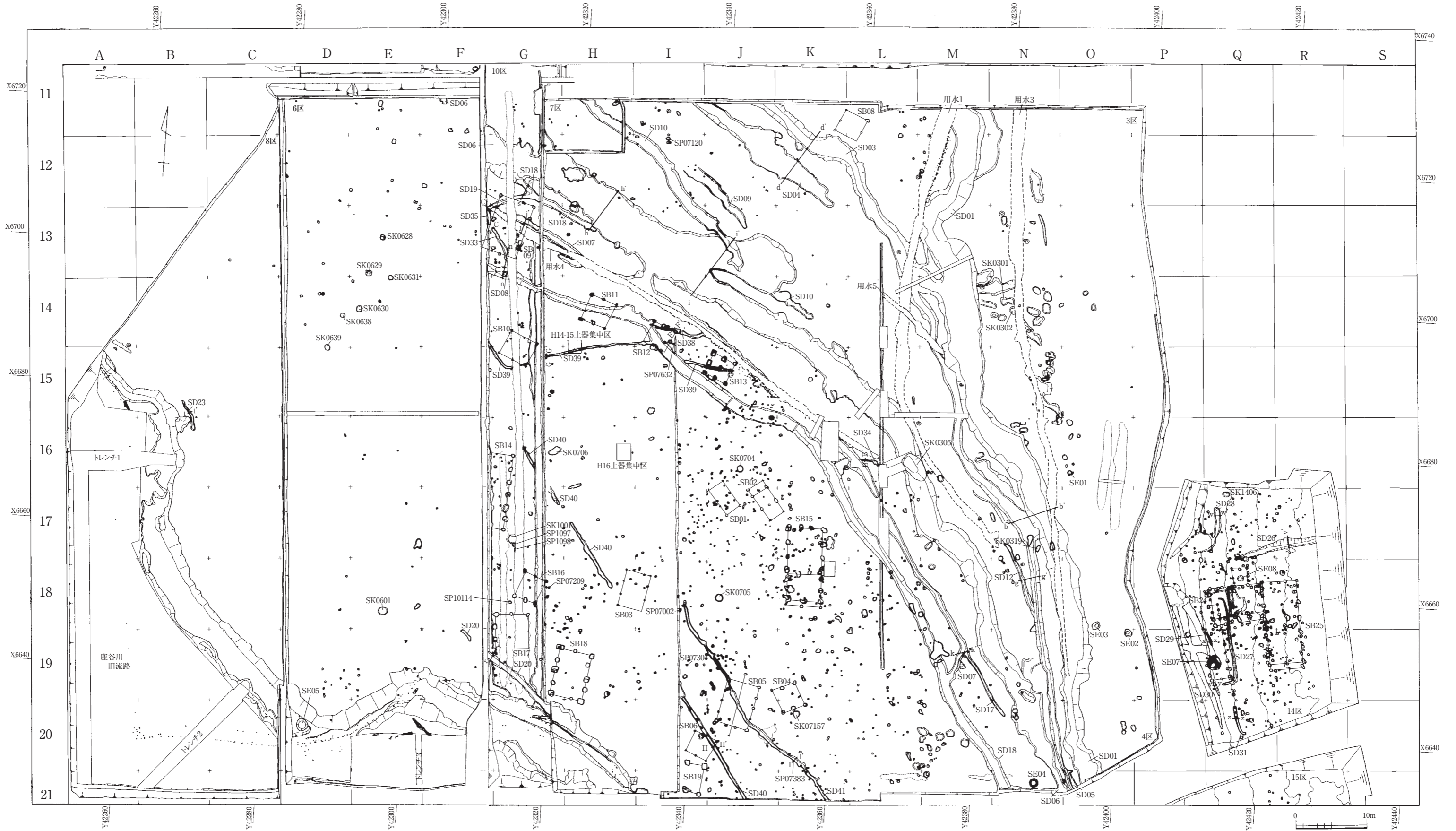
石器は、自然流路や鹿谷川旧流路、表土中から打製石斧が非常に多く出土している。隣接する発坂山ノ端遺跡でも同様の傾向が既に報告されており、当地の地域性を表すものと考えられる。

木製品は各時代のものであるが、量的にはあまり多くない。出土場所は井戸や土坑、自然流路、鹿谷川旧流路などである。特に注目されるものは、堅果類出土土坑に掛け渡していたような形で出土した組み合わせ式布巻具である。

金属器は、自然流路や鹿谷川旧流路、表土から出土しているが、中近世に属するものが大半である。銅銭も同様である。



第7図 全体図1 (S=1/500)



第8図 全体図2 (S=1/500)



第9図 全体図3 (S=1/500)

第4章 遺構と遺物

第1節 遺構および遺構内出土遺物

検出した遺構には、掘立柱建物、井戸、土坑、柱穴、溝、自然流路、河川などがある。各遺構の規模（大きさ・深さなど）や方位（角度）の数値は、すべて遺構確認面を基準として、測量図上で測定・算出した概測値である。

出土遺物の詳細については、観察表（第2～7表）を参照されたい。

I 掘立柱建物

方形を基調として、規則的に配列されている柱穴列を掘立柱建物と認定した。便宜上、柱穴列で構成される四角形の長軸方向を桁行、短軸方向を梁行と規定している。各掘立柱建物の桁行・梁行の長さは、各柱穴列の両端に所在する柱穴の中心を直線で結んだ距離を計測している。また、桁行方向は、座標北に対して、東または西に偏する角度を計測している。

SB01（第10図）

7区J16・J17グリッドで検出した桁行2間（4.40m）、梁行1間（2.34m）の側柱建物である。SB02の1.78m西方にある南北棟の建物で、桁行方向はN38°Wである。柱間寸法は、桁行が2.00～2.40m、梁行が2.34mをはかる。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.26～0.36m、短軸0.21～0.32m、深さ0.10～0.29mをはかる。柱穴からの遺物の出土はほとんどなく、SP07248から弥生土器が少量出土したのみである。

SB02（第10図）

7区J16・J17・K17で検出した桁行2間（4.19m）、梁行1間（2.36m）の側柱建物である。北面には庇が付く。SB01の約1.8m東方に存在する南北棟の建物である。桁行方向はN38°Wである。SB01と同じ角度であり、2棟が正確に平行して並んでいることがわかる。母屋の柱間寸法は、桁行が2.00～2.20m、梁行が2.36mである。庇の柱間は、桁行で1.14mである。

柱穴は円形または楕円形を呈する。母屋の柱穴は、長軸0.23～0.72m、短軸0.20～0.38m、深さ0.10～0.21mをはかる。庇の柱穴は、長軸0.33～0.47m、短軸0.27～0.31m、深さ0.10～0.20mをはかる。いずれの柱穴からも遺物は出土していない。

SB03（第11図）

7区H18・I18グリッドで検出した。南東隅の柱穴を確認することはできなかったが、桁行3間（5.18m）、梁行1間（3.50m）の側柱建物と考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN9°Eである。桁行では、隅の柱から1間目の柱までの柱間寸法がいずれも1.60mであるのに対して、中央にある柱穴間の寸法は1.90mであり、やや長い。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.30～0.35m、短軸0.18～0.28m、深さ0.03～0.33mをはかる。柱穴の深さは一定していない。柱穴SP0723・0725・0727・0728・0729から弥生土器が少量出土しているが、細片のため図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構である可能性が高いと考えられる。

SB04 (第11・23図)

7区J19・K19・K20グリッドで検出した桁行1間(3.54m)、梁行1間(3.36m)の側柱建物である。南北棟の建物で、桁行方向はN28°Wである。北面・南面とも、梁行の中央には支柱と考えられる柱穴があり、その柱穴と主柱穴間の寸法は、1.48～1.84mをはかる。

柱穴はすべて楕円形を呈し、主柱穴は長軸0.40～0.68m、短軸0.25～0.60m、深さ0.48～0.79mをはかる。また、支柱穴は長軸0.58～0.69m、短軸0.48～0.62m、深さ0.06～0.11mで、主柱穴に比べると非常に浅いものである。

柱穴SP07149・07151・07152・07154から弥生土器が出土するが、図化できるものは少ない。このうち、SP07152から出土した底部(第23図3)、SP07154から出土した小型甕(第23図1)と脚部(第23図2)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構と考えられる。

SB05 (第12・23図)

7区J19・J20グリッドで検出した桁行4間(6.40m)、梁行3間(4.42m)の側柱建物である。独立棟持柱をもつ。棟持柱間の寸法は9.00mで、棟持柱と梁行の柱穴列を結んだ直線の間の距離は1.32mをはかる。南北棟の建物で、桁行方向はN10°Eである。柱間寸法は、桁行が1.44～1.66m、梁行が1.28～1.68mをはかる。

母屋の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.27～0.60m、短軸0.26～0.60m、深さ0.10～0.34mをはかる。棟持柱の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.28～0.47m、短軸0.20～0.30m、深さ0.06mをはかる。棟持柱の柱穴は、母屋の柱穴よりもやや浅い。また、柱穴SP0742はSD41に切られる。

柱穴SP0731・0733・0735・0736・0737・0738・0739・0740・0741・0742から弥生土器が少量出土している。このうちSP0733から出土した弥生土器の甕(第23図4)と、SP0740から出土した有孔鉢(第23図5)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属する遺構と考えられる。

SB06 (第13・23図)

7区I20・J20グリッドで検出した桁行2間(3.20m)、梁行1間(3.10m)の側柱建物である。東西棟の建物であり、桁行方向はN67°Wである。桁行の柱間寸法は1.60mで、等間隔となっている。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.23～0.38m、短軸0.24～0.26m、深さ0.33～0.62mをはかる。SP0789はSD40に切られる。

柱穴SP0790・0792・0793からは、弥生土器がわずかに出土している。このうち、SP0790から出土した壺(第23図6)と、SP0793から出土した底部(第23図7)を図示した。

出土遺物から判断すれば、弥生時代後期後葉に属すると遺構と考えられる。

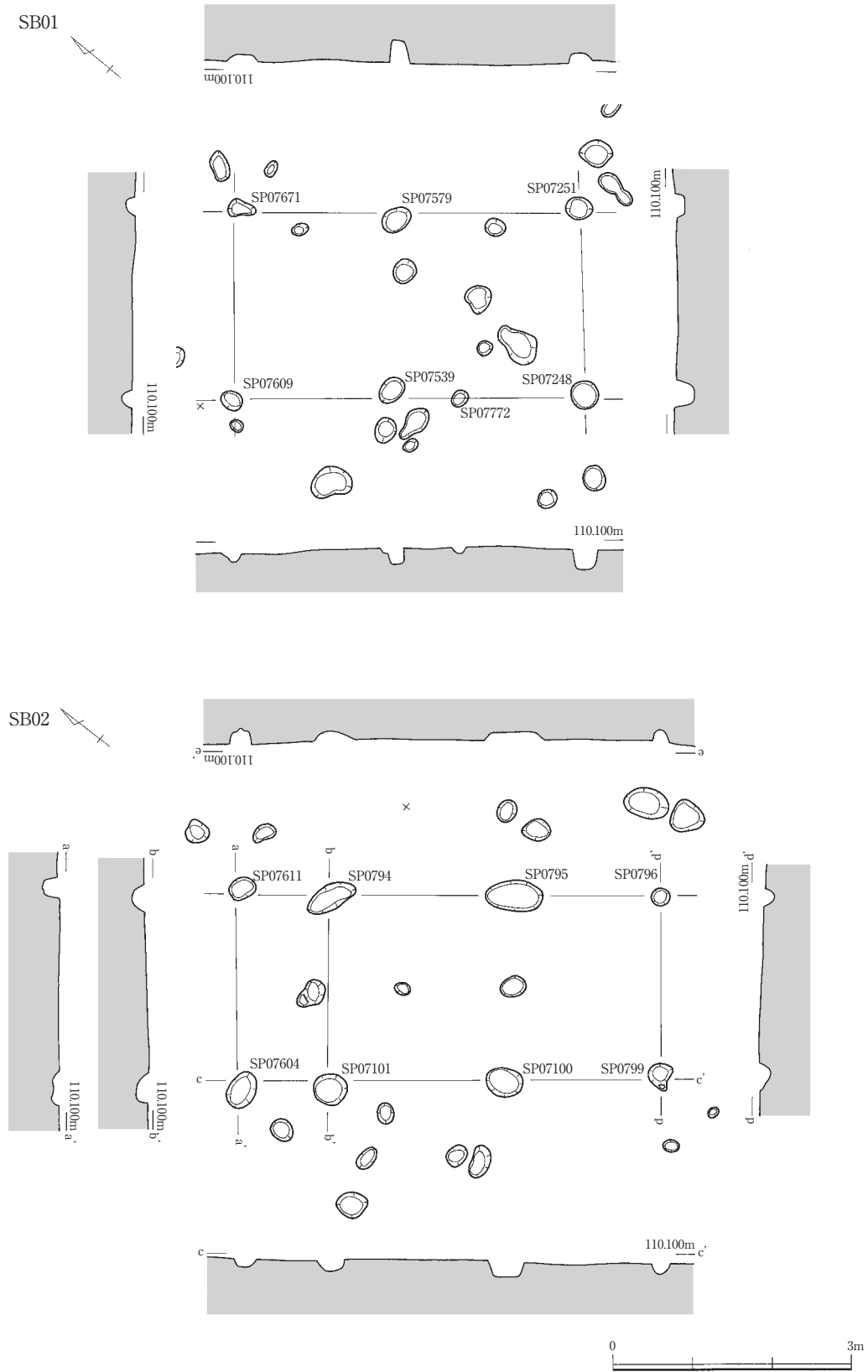
SB07 (第13図)

12区K21・K22グリッドで検出した柱穴列である。2間(3.60m)分を検出しており、柱間寸法は1.80mをはかる。この柱穴列に平行する柱穴列は、南側に存在した可能性が高いが、南側は大きく削平されているため確認することはできない。

柱穴は長軸0.30～0.50m、短軸0.30～0.50m、深さ0.06～0.16mをはかる。土層の観察から、増改築が行われたと考えられる。

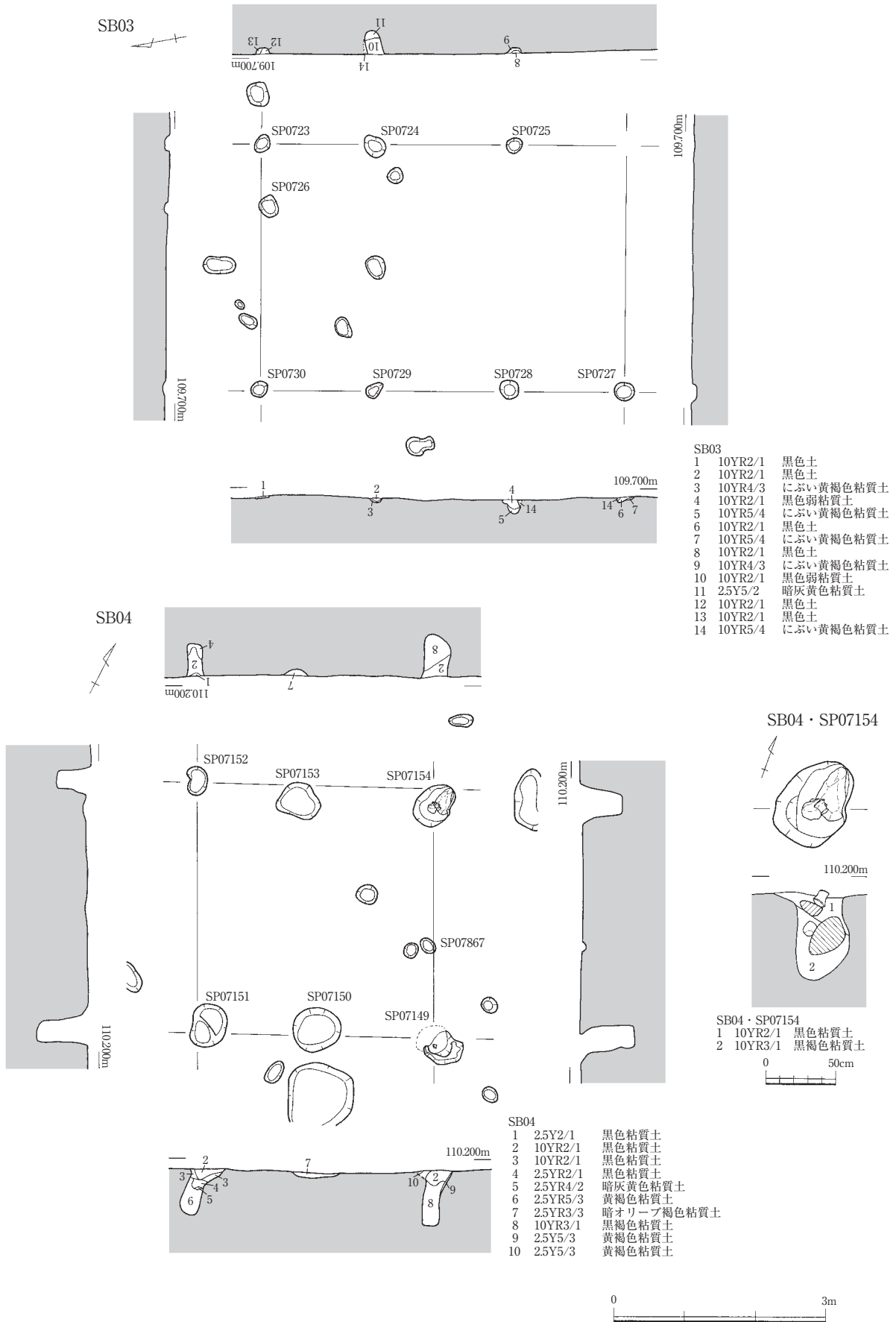
柱穴SP1216・1218からは、弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第10図 掘立柱建物SB01・SB02実測図（縮尺1/80）

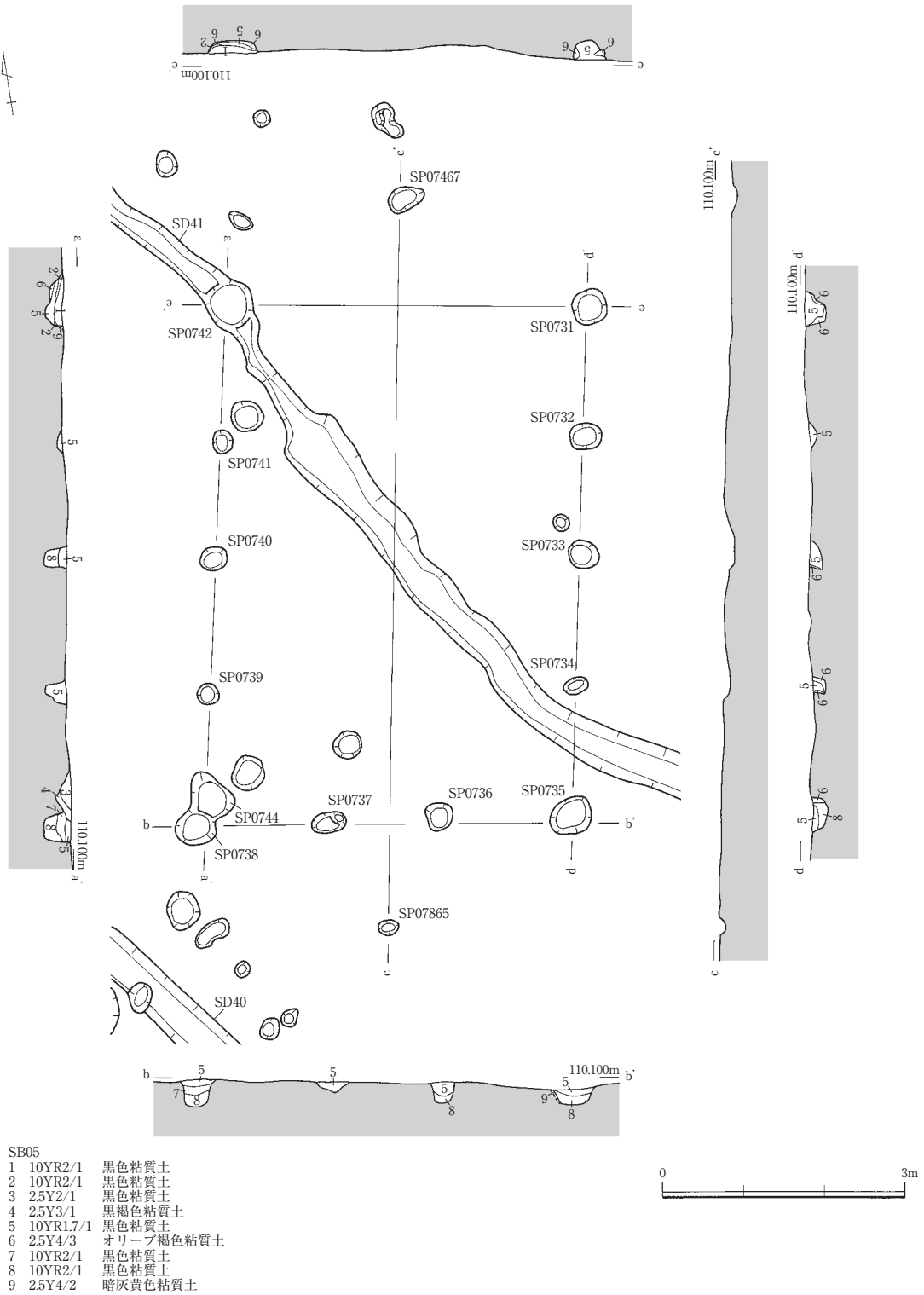
第4章 遺構と遺物



第11図 掘立柱建物SB03・SB04実測図（縮尺1/40・1/80）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

SB05



第12図 掘立柱建物SB05実測図(縮尺1/80)

SB08 (第14図)

7区K11・L11・L12で検出した。攪乱をうけているため南西隅の柱穴は確認できなかったが、桁行1間(3.45m)、梁行2間(3.30m)の側柱建物と考えられる。東西棟の建物で、桁行方向はN65°Wである。梁行の柱間寸法は、1.52~1.84mである。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.26~0.62m、短軸0.18~0.33m、深さ0.05~0.11mをはかる。柱穴の底面の海拔高は、ほぼ一定している。

いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。

SB09 (第14図)

10区F13・G12・G13グリッドで検出した。攪乱をうけているため南西隅の柱穴は確認できなかったが、桁行4間(7.72m)、梁行2間(4.94m)の側柱建物と考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN13°Eである。柱間寸法は、桁行が1.60~2.16m、梁行が1.60~1.70mをはかる。

柱穴は方形が崩れたような楕円形を呈し、長軸0.20~0.76m、短軸0.16~0.72m、深さ0.05~0.48mをはかる。

柱穴SP1012・1014・1018からは、弥生土器がわずかに出土しており、SP1012からは須恵器も1片出土している。いずれも図示できるものはない。また、SP1019には径0.16~0.20mの柱根が遺存していたが、水害で流失したため、図示不能である。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB10 (第15図)

10区G14・G15グリッドで検出した桁行2間(4.16m)、梁行1間(3.60m)の側柱建物である。東西棟の建物で、桁行方向はN70°Wである。桁行の柱間寸法は2.00~2.12mで、ほぼ等間隔となっている。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.30~0.44m、短軸0.22~0.40m、深さ0.24~0.40mをはかる。柱穴SP1058からは弥生土器が、SP1059からは弥生土器と須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、SP1059の底面では、長方形を呈する石を検出した。根石と考えられ、長軸0.22m、短軸0.17m、厚さ0.10mをはかる。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB11 (第15・23図)

7区H14グリッドで、桁行2間(3.74m)、梁行1間(3.74m)の側柱建物として検出した。SB12・SB13の2棟と並立しており、その西端に位置する。SB12からは西方に約4.8m離れている。SD08と重複しているため、中央部分の柱穴の有無を確認することはできなかった。東西棟の建物で、桁行方向はN72°Wである。桁行の柱間寸法は、1.60~2.10mをはかる。

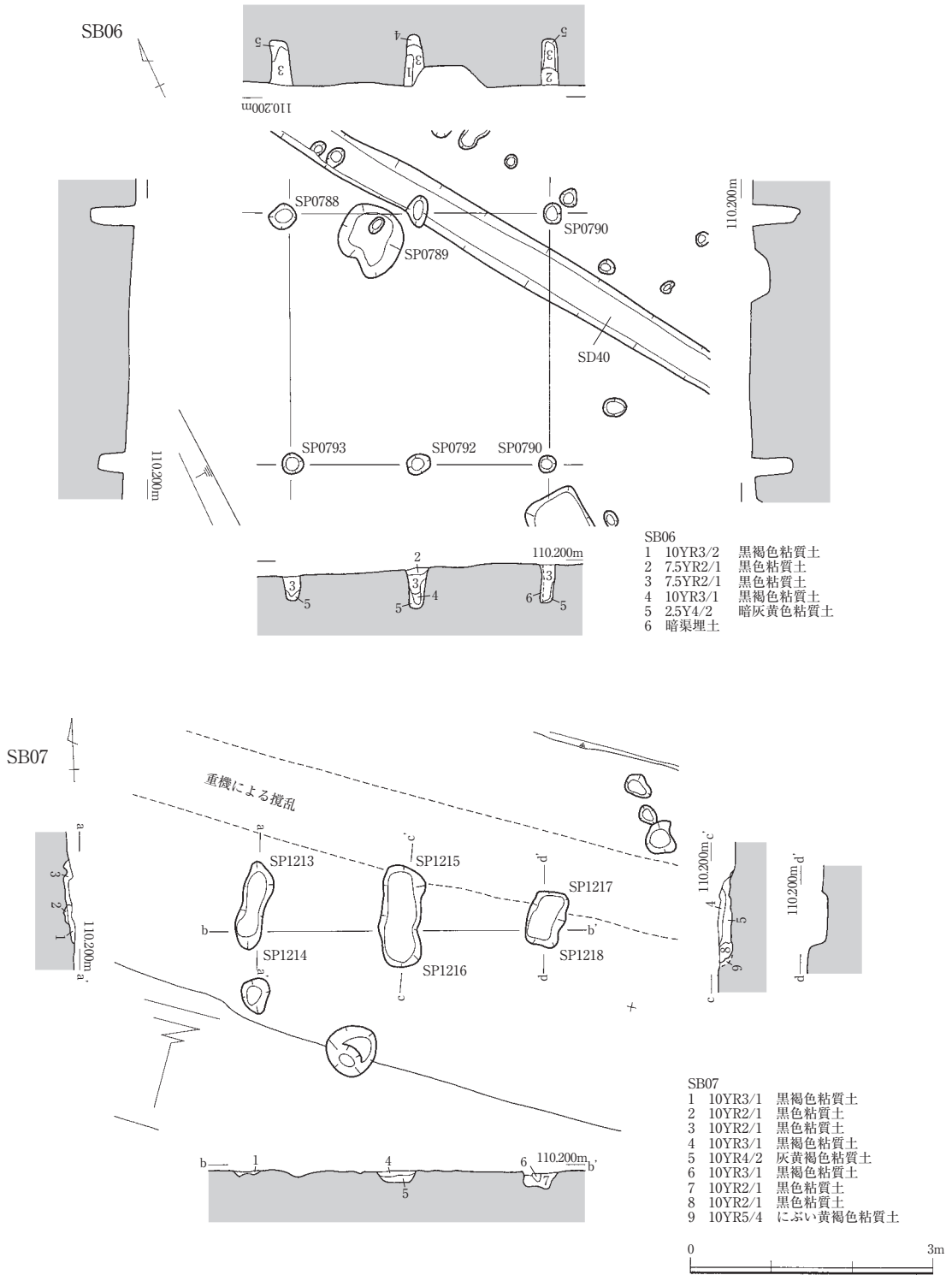
柱穴は楕円形を呈し、長軸0.36~0.66m、短軸0.28~0.55m、深さ0.06~0.20mをはかる。柱穴SP0701・0703から弥生土器が少量出土している。また、SP0705からは、弥生土器、土師器の長胴甕などのほか、剥片(第23図8)が出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

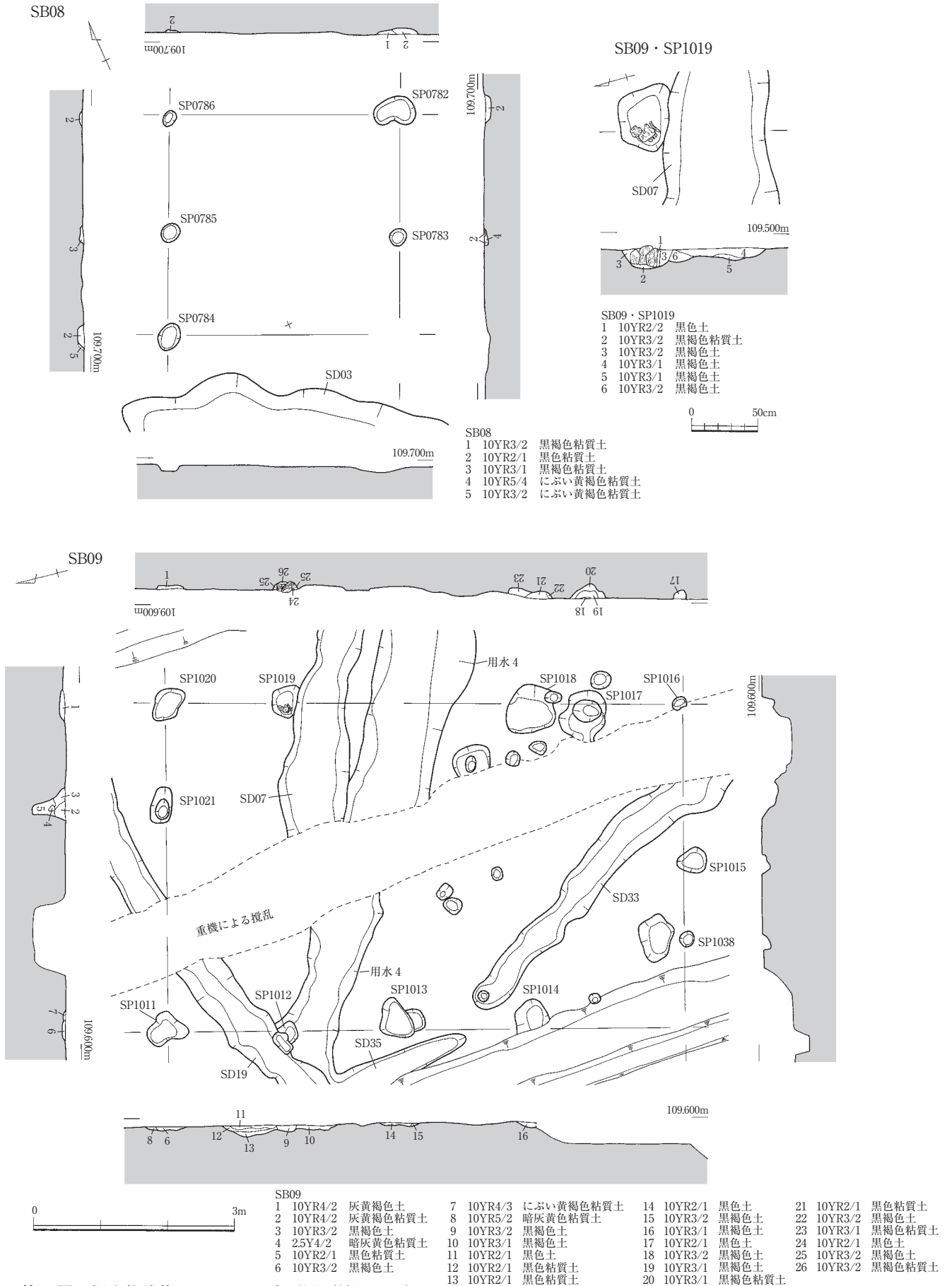
SB12 (第16図)

7区I14・I15グリッドで、桁行2間(3.52m)、梁行2間(3.48m)をはかる側柱建物として検出した。SB11・SB13の2棟と並立しており、その中央に位置している。SB11からは東方に約4.8m、SB13からは西方に3.7mの距離にある。SD08と重複しているため、中央部分と南東隅の柱穴を確認することができ

第1節 遺構および遺構内出土遺物

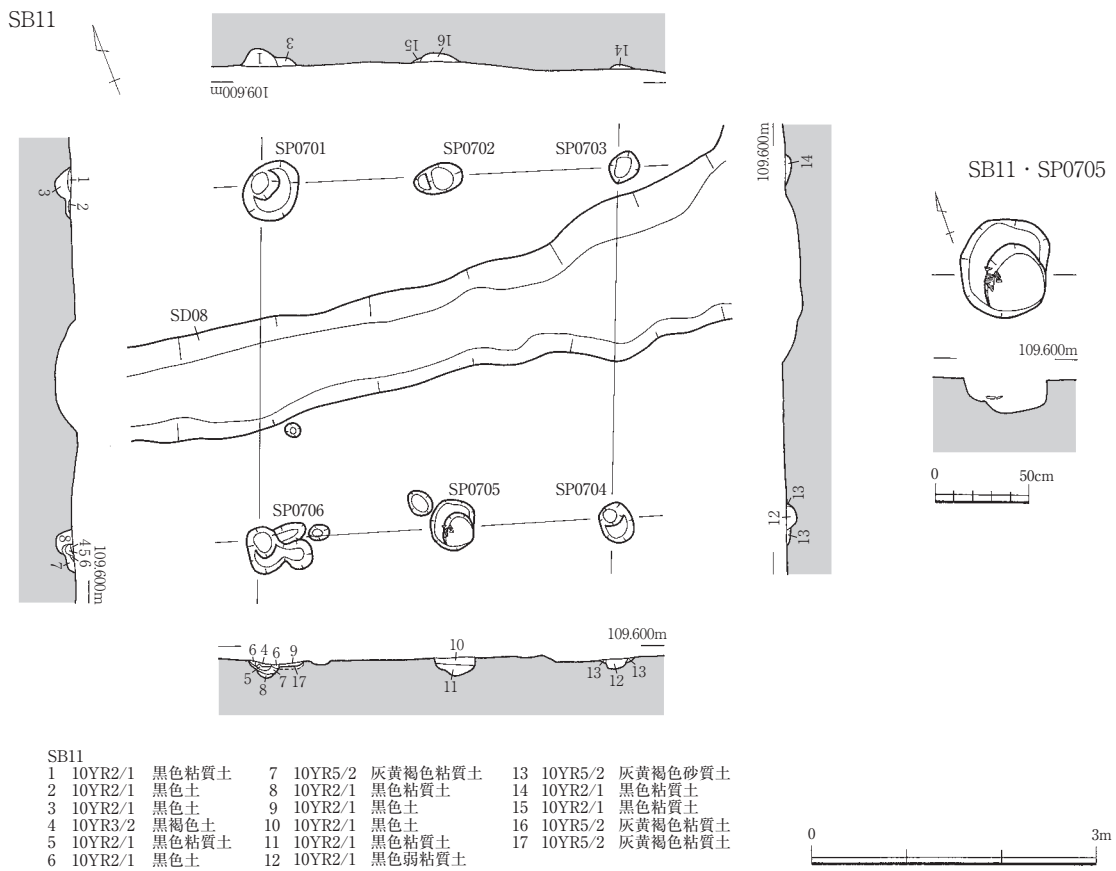
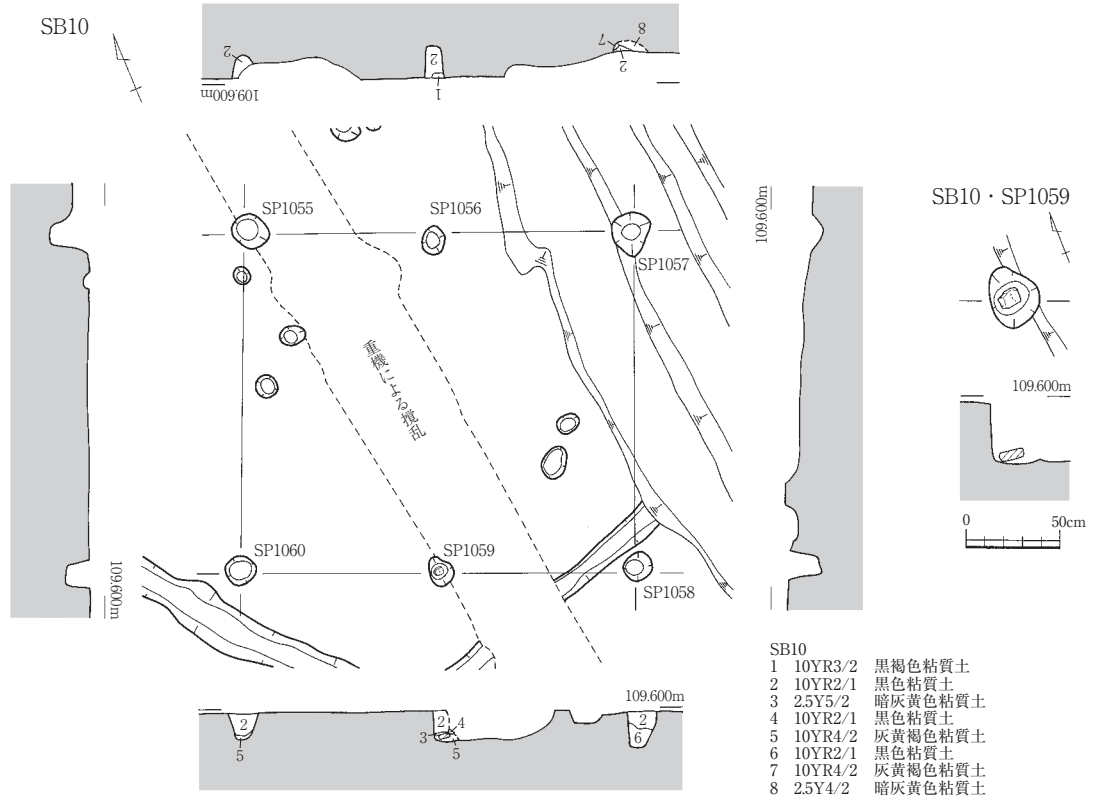


第13図 掘立柱建物SB06・SB07実測図（縮尺1/80）



第14図 掘立柱建物SB08・SB09実測図(縮尺1/80)

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第15図 掘立柱建物SB10・SB11実測図（縮尺1/40・1/80）

なかった。東西棟の建物であり、桁行方向はN67° Wである。柱間寸法は、桁行が1.60～1.80m、梁行が1.62～1.86mをはかる。

柱穴は楕円形を呈し、長軸0.55～1.12m、短軸0.42～0.68m、深さ0.07～0.24mをはかる。柱穴SP07614には、径0.18mの柱根が遺存していたが、水害で行方不明となったため図示不能である。SP07615・07617・07619から弥生土器が出土しており、SP07615からは須恵器の坏も出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB13 (第16・23図)

7区J15グリッドで検出した総柱建物で、桁行2間(3.32m)、梁行2間(3.12m)の東西棟の建物である。SB11・SB12の2棟と並立しており、その東端に位置している。桁行方向はN67° Wである。その角度は前述のSB11・SB12とほぼ同様であり、3棟がほぼ正確に平行して並んでいることがわかる。柱間寸法は、桁行が1.48～1.60m、梁行が1.44～1.82mをはかる。

柱穴は方形または楕円形を呈し、長軸0.56～0.76m、短軸0.42～0.64m、深さ0.07～0.34mをはかる。柱穴SP0773を除く柱穴の底面には柱当たり痕跡が認められ、径0.23～0.33m、深さ0.03～0.05mをはかる。

SP0765・0766・0767・0771・0772・0773から弥生土器が少量出土している。また、SP0772からは、須恵器の坏(第23図9)も出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB14 (第17・23図)

10区F16・F17・G16・G17グリッドで検出した桁行6間(10.60m)の側柱建物である。梁行は1間(2.35m)のみを検出しており、その西側は6区にのびていたと考えられるが、大きく削平されているため確認することができなかった。南北棟の建物と考えられ、桁行方向はN4° Eである。桁行の柱間寸法は、1.60～2.00mをはかる。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.56～1.20m、短軸0.36～0.80m、深さ0.11～0.38mをはかる。柱穴SP1075・1076・1077・1078・1079・1080から弥生土器が少量出土しており、またSP1077・1079・1080からは須恵器が少量出土している。このうち、SP1079から出土した須恵器の坏(第23図10)を図示した。

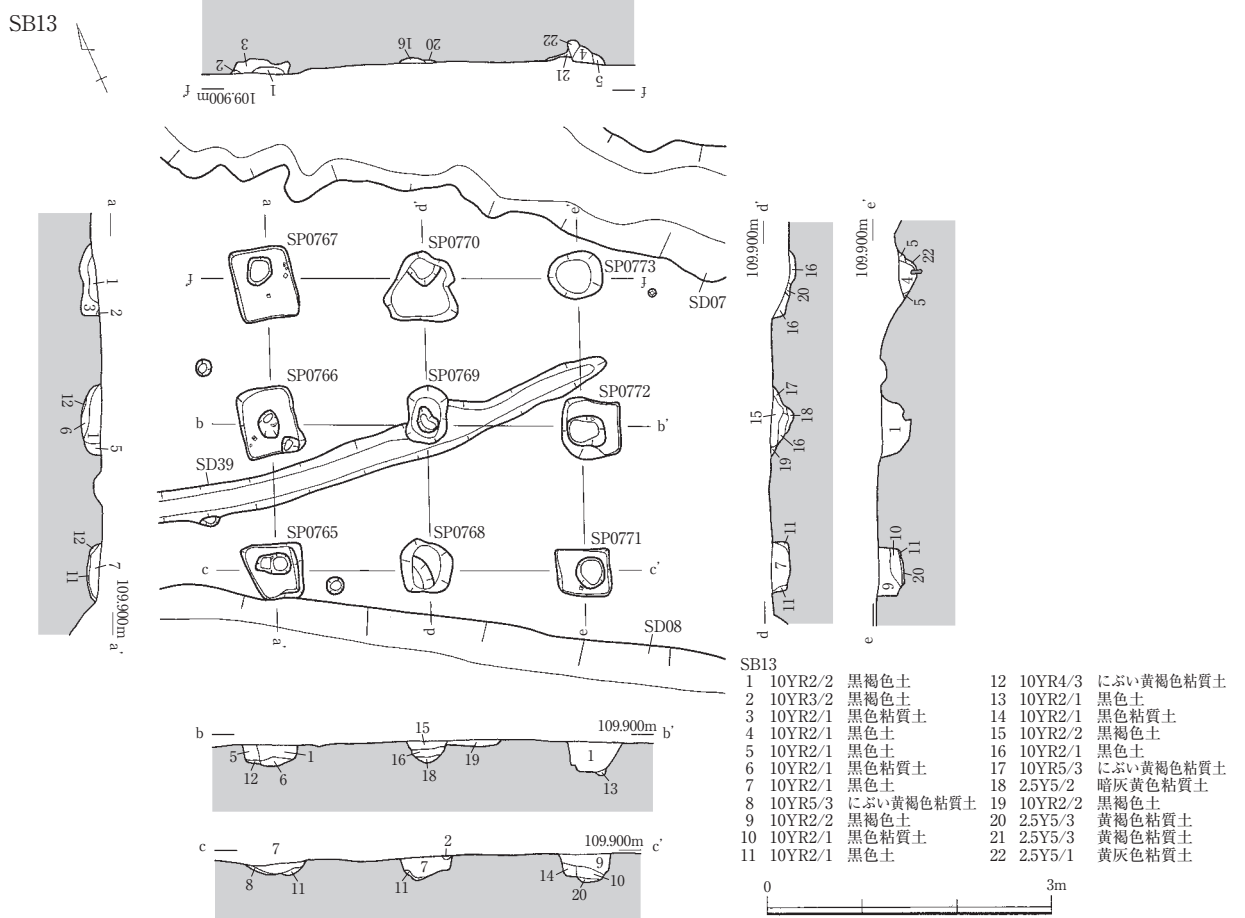
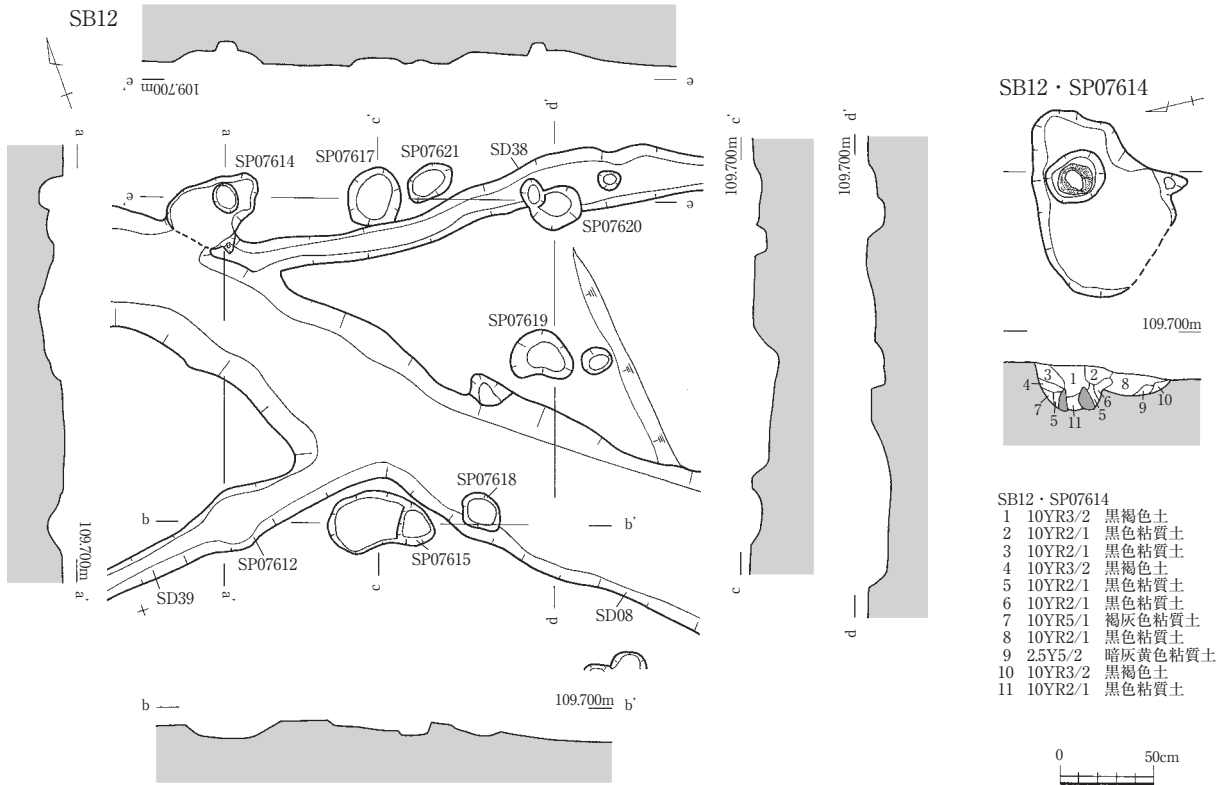
出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB15 (第18図)

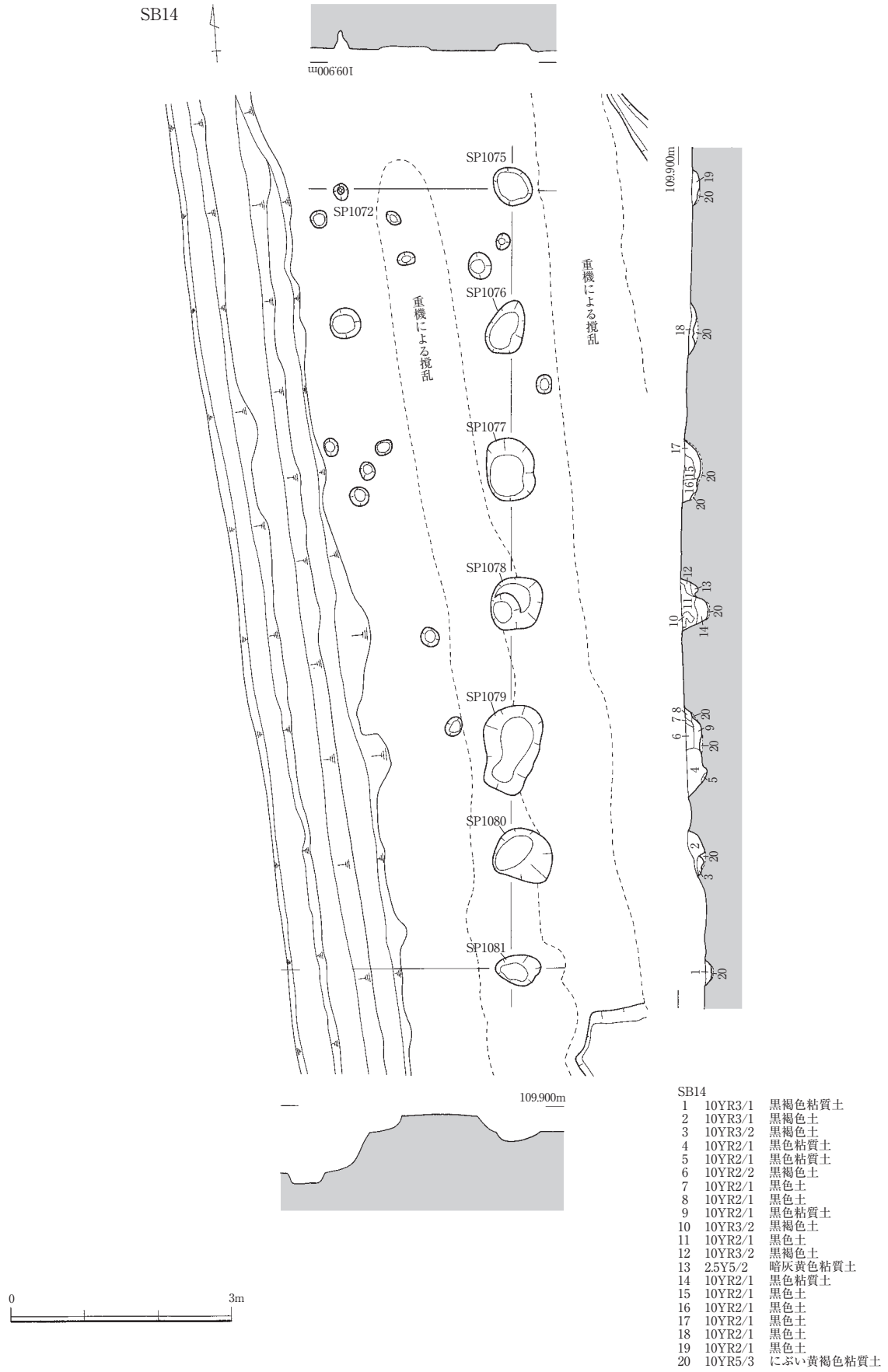
7区K17・K18グリッドで検出した桁行6間(10.30m)の側柱建物である。中央に間仕切りを有し、南面には庇がつく。梁行長は4.78mをはかり、北面と間仕切り部分は3間、南面と庇部分は2間となっている。南北棟の建物で、今回の調査区で規模が確定できた建物のうちでは、最も大きい。桁行方向はN3° Wであり、ほぼ正確に北を向いている。母屋桁行の柱間寸法は0.86～2.12mをはかるが、北面から間仕切りまでの各柱穴の柱間寸法が2.00～2.12mであるのに対し、間仕切りから南面までの各柱穴の柱間寸法は0.86～1.82mと短く、特に間仕切り部分の柱穴と南隣の柱穴の間が最も短くなっている。梁行の柱間寸法は、3間の部分は1.44～1.76mで、2間の部分は2.15～2.67mである。また、庇の柱間寸法は、桁行で0.80～1.00mである。

母屋の柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.68～1.22m、短軸0.42～0.70m、深さ0.10～0.32mをはかる。庇の柱穴は円形を呈し、径0.26～0.48m、深さ0.15～0.28mをはかる。庇の柱穴は、母屋の柱穴と比べると小規模である。

第1節 遺構および遺構内出土遺物

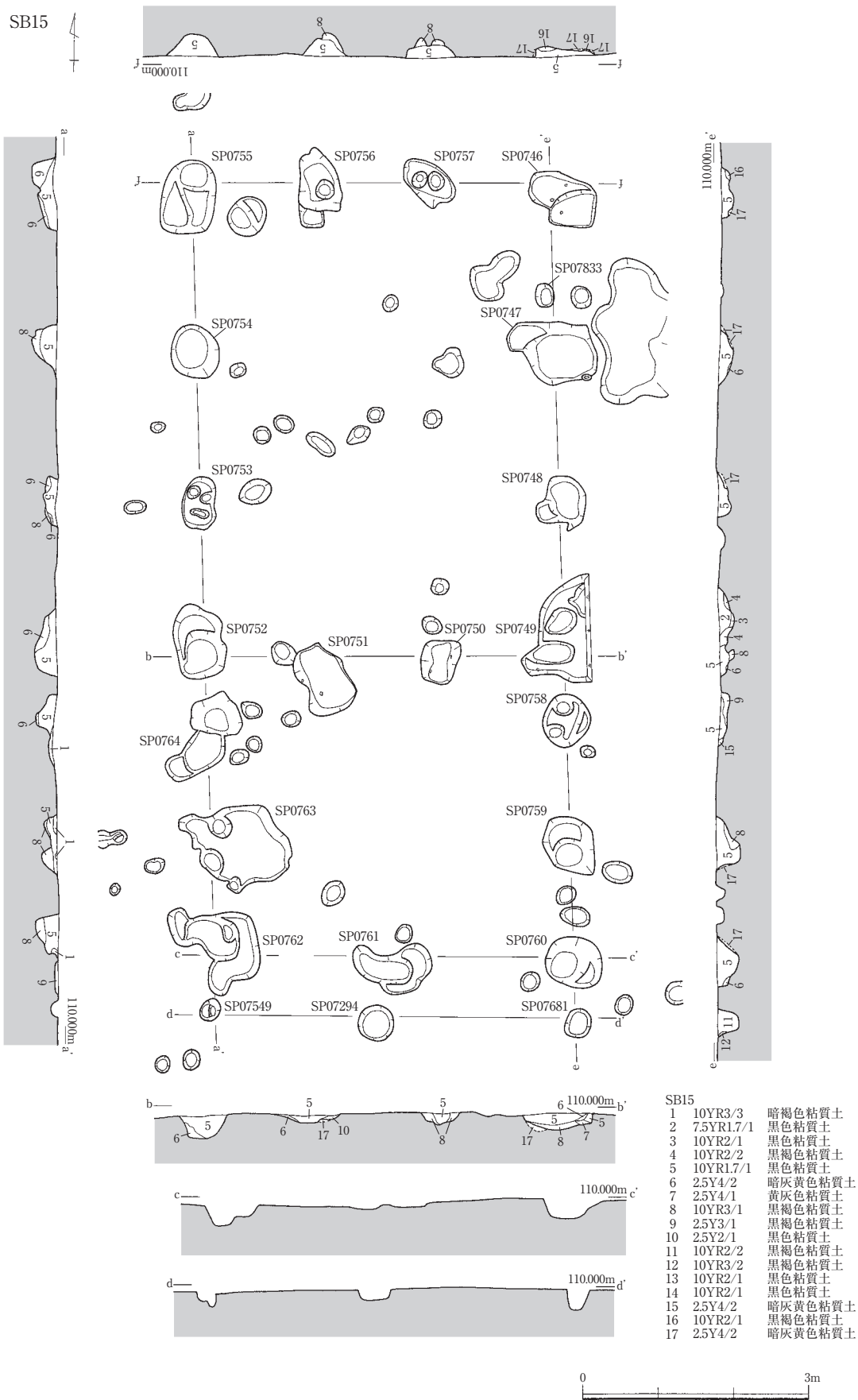


第16図 掘立柱建物 SB12・SB13 実測図 (縮尺1/40・1/80)



第17図 掘立柱建物SB14実測図 (縮尺1/80)

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第18図 掘立柱建物SB15実測図（縮尺1/80）

柱穴SP0746・0747・0748・0749・0750・0751・0752・0753・0754・0755・0756・0757・0758・0759・0760・0761・0763・0764から、弥生土器が少量出土している。また、SP0749からは土師器の長胴甕が出土しているが、図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB16 (第19図)

7・10区G18グリッドで検出した。攪乱を受けているため東面と西面の中央の柱穴を検出することができなかったが、桁行2間(3.54m)、梁行2間(3.14m)の総柱建物の可能性が高いと考えられる。南北棟の建物で、桁行方向はN23°Eである。柱間寸法は、桁行が1.44~1.60m、梁行が1.76mをはかり、ほぼ等間隔となっている。

柱穴は楕円形を呈し、長軸0.36~0.75m、短軸0.30~0.62m、深さ0.11~0.32mをはかる。

柱穴SP10105・10106・10107・10109・10110からは、弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SB17 (第19・23図)

10区F18・F19・G18・G19グリッドで検出した南北棟の建物である。攪乱などにより、南面中央と南東隅の柱穴を検出することができなかったが、桁行3間(5.20m)、梁行2間(4.60m)の側柱建物と考えられる。南面はさらにのびて桁行4間以上となる可能性もあるが、SD20と重複しているため判然としない。桁行方向はN1°Eであり、ほぼ正確に北を向いている。柱間寸法は、桁行が1.32~2.04m、梁行が2.20~2.40mをはかる。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.48~0.73m、短軸0.40~0.68m、深さ0.04~0.36mをはかる。柱穴SP10117・10118・10119・10120・10124から弥生土器が少量出土したほか、SP10120・10121からは須恵器がわずかに出土している。このうち、SP10120から出土した須恵器の坏(第23図11)を図示した。また、SP10120の中央では、径0.14m、高さ0.24mをはかる河原石が直立した状態で出土している。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB18 (第20・23図)

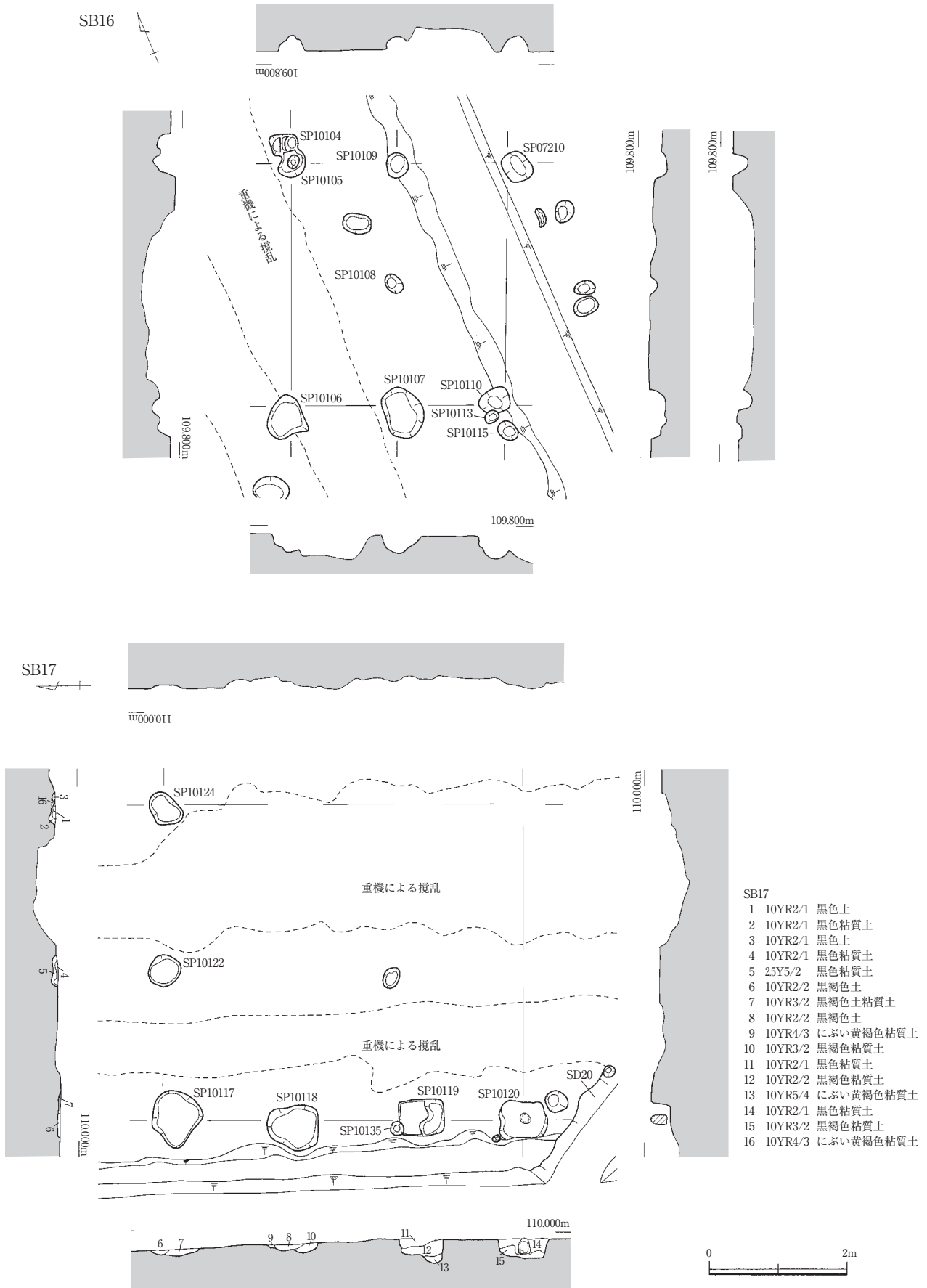
7区G19・G20・H19・H20グリッドで検出した桁行5間(6.74m)、梁行2間(4.36m)の側柱建物である。南北棟の建物で、桁行方向はN8°Eである。桁行の柱間寸法は、東面が1.52~2.00m、西面が1.60~1.80mで、ばらつきがある。また、梁行の柱間寸法は北面が2.18mの等間隔であるのに対し、南面は中央の柱穴SP0745が東隅の柱穴SP0716の方に寄っているため、西隅の柱穴SP0717と中央の柱穴SP0745との柱間寸法は2.80mと広がっている。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.60~1.06m、短軸0.56~0.88m、深さ0.07~0.30mをはかる。梁行の中央にある柱穴SP0722とSP0745は楕円形を呈し、長軸0.44~0.56m、短軸0.38~0.48m、深さ0.14~0.18mで、四隅の柱穴より小さめである。

柱穴SP0714・0715・0716・0717・0718・0719・0720・0721・0722・0745から弥生土器が少量出土している。また、SP0714・0718・0719・0720・0721・0745から、土師器の長胴甕もわずかに出土している。このうち、SP0714から出土した土師器の長胴甕(第23図12)を図示した。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第19図 掘立柱建物SB16・SB17実測図（縮尺1/80）

SB19 (第20図)

7区I20・I21・J21グリッドで検出した梁行1間(4.10m)の側柱建物である。桁行は1間(2.16m)のみ確認している。西側にさらにのびていたと考えられるが、削平を受けているため規模を確定することはできない。東西棟の建物と考えられ、桁行方向はN85°Wである。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.66～1.06m、短軸0.62～0.80m、深さ0.36～0.48mをはかる。土層の観察から、これらの柱穴は人為的に埋められたと考えられる。

柱穴SP07103・07105・07106から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SB20 (第21図)

15区P21・P22・Q21・Q22グリッドで、桁行5間(9.84m)分、梁行1間(2.28m)分を検出した側柱建物である。建物の西側と南側は大きく削平されているため、規模を確定することはできない。南北棟の建物と考えられ、桁行方向はN13°Wである。桁行では、北東隅の柱穴から3間目の柱穴SP1505と4間目の柱穴SP1506との柱間寸法が3.08mあり、その他の柱穴の柱間寸法(1.40～1.80m)と比較すると約2倍となっている。このことから、SP1505とSP1506の間に柱穴が1基存在していたとも考えられ、桁行は6間以上であった可能性がある。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.40～0.80m、短軸0.38～0.76m、深さ0.06～0.35mをはかる。柱穴SP1501・1502の2基は、その他の柱穴を検出した地山面より上層で掘り方を確認できたものであり、他の柱穴も本来はもっと深かったと考えられる。

柱穴SP1501からは、弥生土器がわずかに出土している。

SB21 (第21図)

15区R24・S24・S25グリッドで検出した、桁行3間(6.40m)、梁行2間(4.40m)の側柱建物である。東西棟の建物で、桁行方向はN66°Eである。桁行の柱間寸法は1.80～2.40mであり、梁行の柱間寸法は2.20mで等間隔となっている。

柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.65～0.98m、短軸0.48～0.76m、深さ0.17～0.36mをはかる。柱穴SP1546・1547の2基は、その他の柱穴を検出した地山面より上層で掘り方を確認できたものであり、他の柱穴も本来はもっと深かったと考えられる。

柱穴SP1543・1546・1547・1548・1549・1551からは、弥生土器の破片が少量出土している。また、SP1546からは須恵器の坏も1片出土しているが、図示できるものはない。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB22 (第22図)

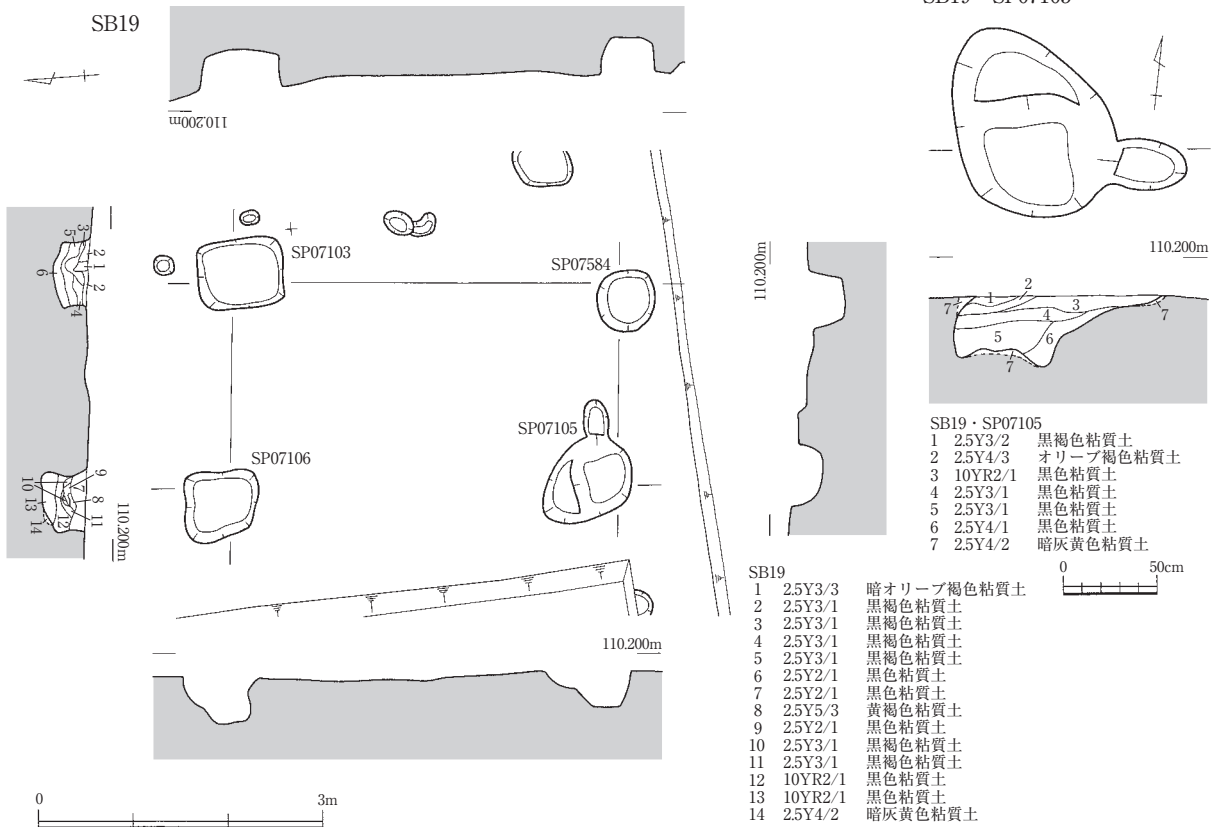
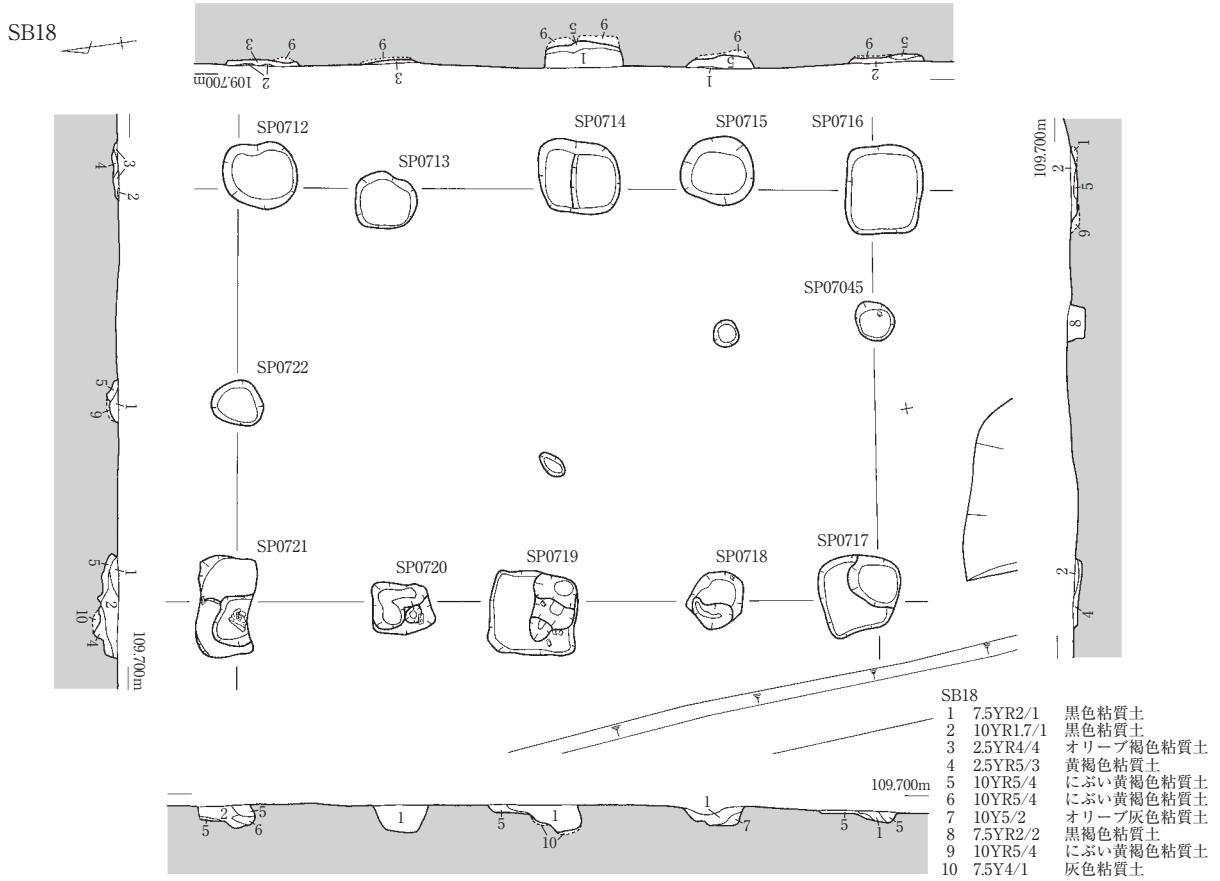
15区R25・S25・S26グリッドで検出した、梁行2間(4.14m)の側柱建物である。桁行は3間で、東面は5.33m、西面は5.10mである。東面と比較すると、西面では南西隅の柱穴SP1536と北へ1間目の柱穴SP1537が北へ寄っているため、柱穴列で形成される四角形は南西隅が若干すぼまる歪んだ長方形を呈している。南北棟の建物で、桁行方向はN26°Wである。柱間寸法は、桁行が1.64～1.88m、梁行が1.80～2.46mをはかる。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.23～0.60m、短軸0.16～0.55m、深さ0.03～0.20mをはかる。いずれの柱穴からも、遺物は出土していない。

SB23 (第22・23図)

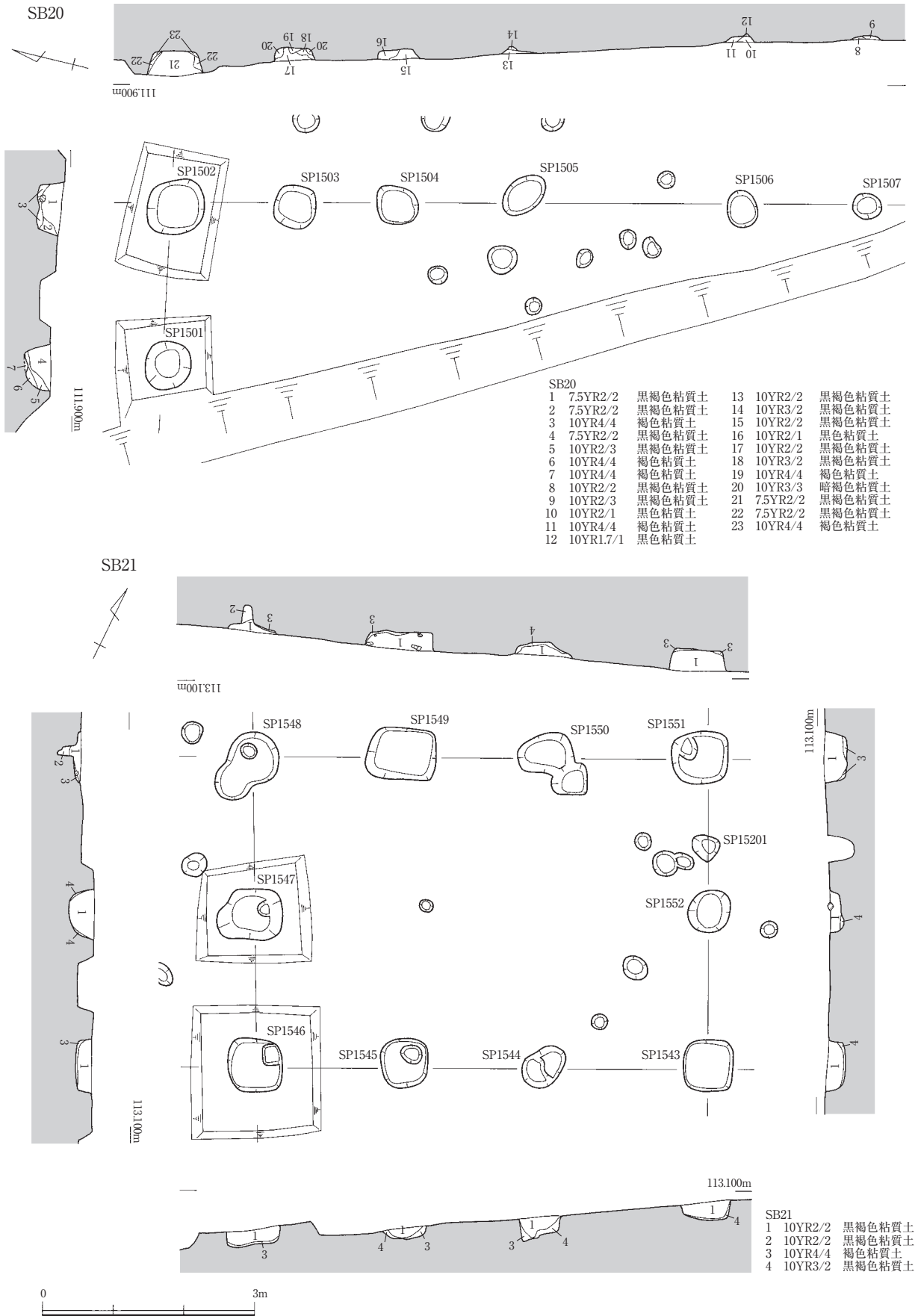
15区T26・T27・U26・U27グリッドで検出した桁行3間(6.46m)、梁行2間(4.26m)の側柱建物で

第1節 遺構および遺構内出土遺物



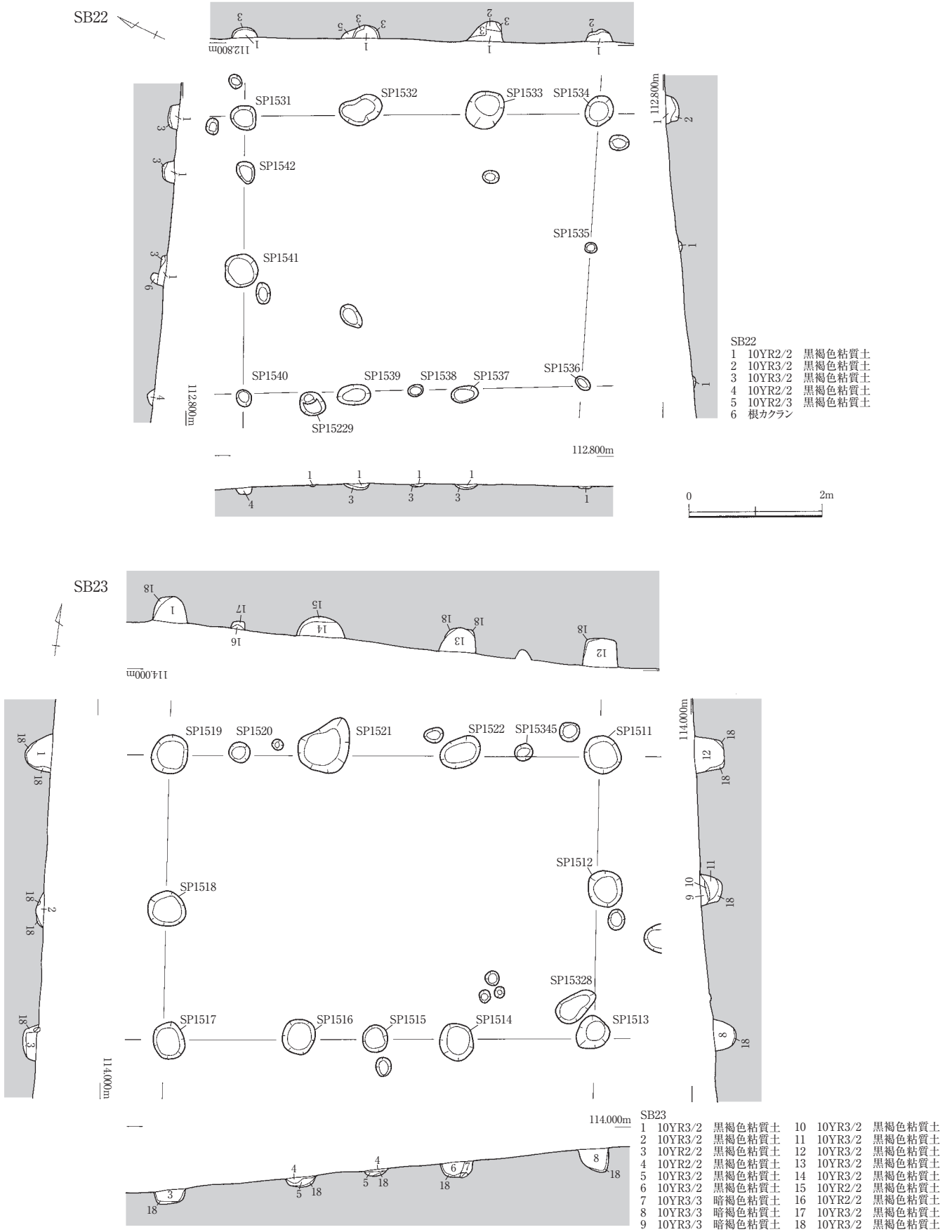
第20図 掘立柱建物SB18・SB19実測図 (縮尺1/40・1/80)

第4章 遺構と遺物

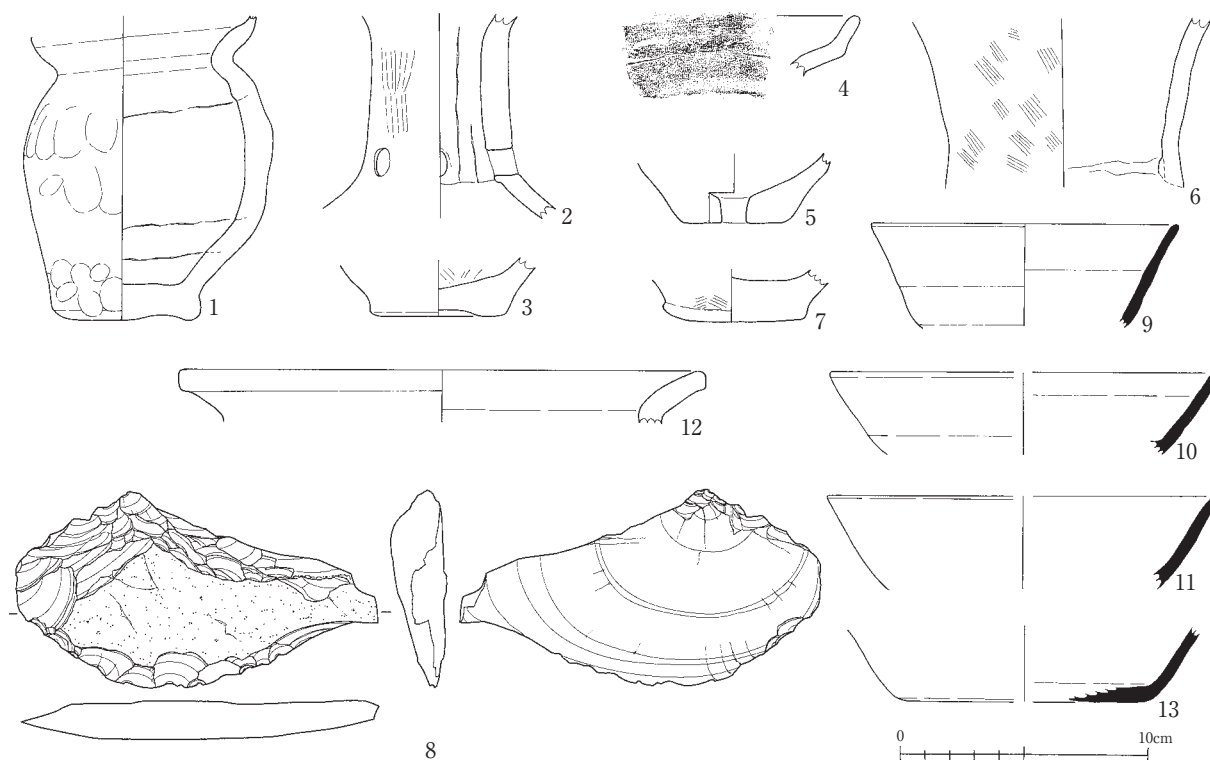


第21図 掘立柱建物SB20・SB21実測図（縮尺1/80）

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第22図 掘立柱建物SB22・SB23実測図（縮尺1/80）



第23図 掘立柱建物・柱穴出土遺物実測図（縮尺1/3）

1・2：SB04・SP07154、3：SB04・SP07152、4：SB05・SP0733、5：SB05・SP0740、6：SB06・SP0790、7：SB06・SP0793
8：SB11・SP0705、9：SB13・SP0772、10：SB14・SP1079、11：SB17・SP10120、12：SB18・SP0714、13：SB23・SP1511

ある。東西棟の建物で、桁行方向はN82°Eである。柱間寸法は、桁行が2.00～2.32m、梁行が1.96～2.36mをはかる。南面の中央にある柱穴SP1515は、その位置と規模から支柱穴の可能性はある。

柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.52～0.90m、短軸0.42～0.74m、深さ0.10～0.43mをはかる。また、支柱穴の可能性のあるSP1515は、長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.10mの楕円形を呈しており、主柱穴より小規模である。

柱穴SP1512・1513・1517からは、弥生土器がわずかに出土している。また、SP1511・1517からは須恵器が少量出土しており、SP1511から出土した須恵器の坏（第23図13）を図示した。

出土遺物から判断すれば、平安時代に属する遺構と考えられる。

SB24（第24・25図）

14区P18・Q18・Q19グリッドで検出した。丘陵裾部の緩斜面上に構築される。桁行4間（9.74m）の側柱建物で、北面に庇がつくと考えられる。梁行は1間（2.52m）分を確認しており、さらに西側にのびていた可能性もあるが、攪乱をうけているため詳細は不明である。南北棟の建物で、山（東）側に雨落溝SD27を設ける。SD27はコの字状を呈し、幅0.20～0.52m、深さ0.06～0.44mをはかる。溝の北側はSB25の別棟部分の掘り込みを設けた際に削平されており、本来はもう少し西側にのびていた可能性が高いと考えられる。

桁行方向はN13°Wで、桁行の柱間寸法は2.36～2.60mとほぼ等間隔である。庇の柱間寸法は、桁行で0.80mをはかる。桁行の主柱穴と主柱穴の間にはその中央に支柱と考えられる柱穴が存在し、その柱穴と主柱穴間の寸法は、1.00～1.40mをはかる。

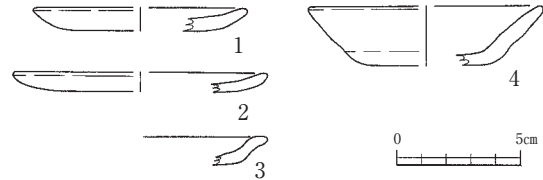
主柱穴は隅丸方形または楕円形を呈し、長軸0.35～0.72m、短軸0.35～0.58m、深さ0.14～0.72mをはか

る。底面の海拔高は111.700～112.000mでほぼ一定している。柱痕が認められるものが多く、その径は0.28～0.32mをはかる。

支柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.24～0.82m、短軸0.18～0.38mをはかる。深さは0.04～0.20mで、支柱穴に比べると非常に浅いものが多い。

庇部分の柱穴SP14320は楕円形を呈する。長軸0.33m、短軸0.29m、深さ0.20mで、中央に径0.22mの柱痕が認められる。柱痕は、SB24で確認されたもののなかでは最も細い。

支柱穴SP14331からは、土器が1片出土している。また雨落溝SD27からは、弥生土器のほか、土師質皿（第25図1～4）が少量出土している。



出土遺物から判断すれば、中世に属する遺構と **第25図** 掘立柱建物SB24・雨落溝SD27出土遺物実測図（縮尺1/3）

SB25（第26～29図）

14区Q18・Q19・R18・R19グリッドで検出した側柱建物である。全ての柱穴の断面が視認できるようにするため、柱穴列の両端を結ぶ線上に並ばない柱穴（SP1416・1417・14200）については、横断面に見通しを入れて作成している。

主棟である南北棟の建物に対して、直角に東西棟の別棟を突出させる形態で、平面形はL字形を呈する。

主棟は桁行6間（11.56m）、梁行2間（4.88～5.20m）で、南面に庇がつく。桁行方向はN13°Wであり、柱間寸法は、桁行が1.52～2.28m、梁行が2.52～2.80mをはかる。庇の柱間寸法は、桁行が0.74m、梁行が2.00～2.80mをはかる。

主棟の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.28～1.04m、短軸0.24～0.62m、深さ0.20～0.58mをはかる。柱穴底面の海拔高は113.200～113.000mで、ほぼ一定している。柱痕が認められるものもあり、その径は0.32～0.44mをはかる。庇の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.25～0.52m、短軸0.25～0.36m、深さ0.12～0.35mをはかる。庇の中央の柱穴は、隅の2基よりも浅く、掘り方も小さいため、支柱穴である可能性も考えられる。母屋の柱穴SP1407からは、弥生土器がわずかに出土している。

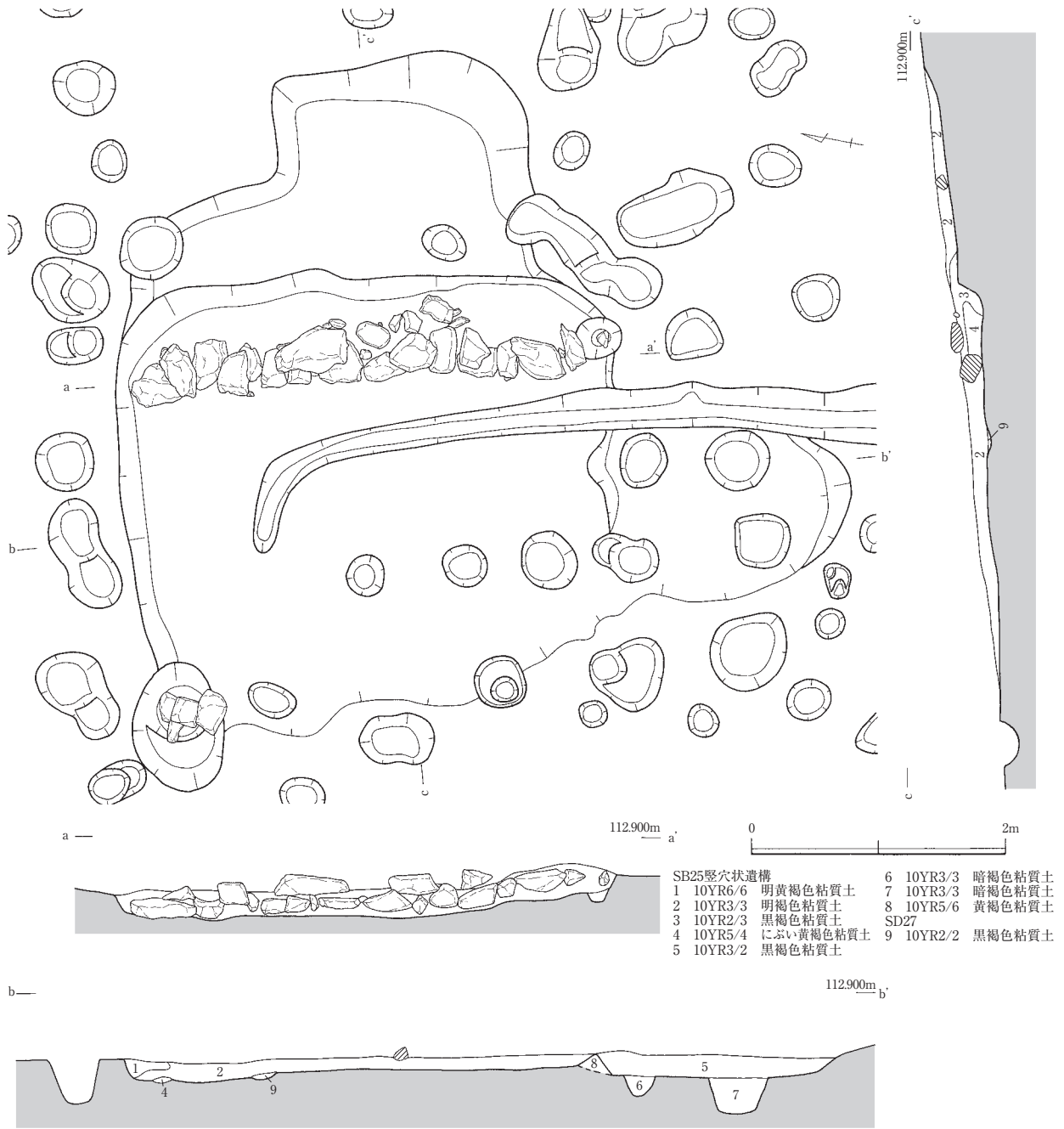
別棟は桁行4間（7.00m）、梁行2間（4.40m）で、南面に庇がつく。柱間寸法は、桁行が1.60～1.88m、梁行が1.04～1.84mをはかり、ばらつきがある。庇の柱間寸法は、桁行が0.86m、梁行が1.16～2.24mをはかる。

別棟の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.40～0.96m、短軸0.28～0.56m、深さ0.34～0.58mをはかる。柱痕が認められるものもあり、その径は0.14～0.18mをはかる。庇の柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.37～0.68m、短軸0.30～0.60m、深さ0.25～0.61mをはかる。別棟の柱穴SP1450からは、土師質皿とみられる破片がわずかに出土しているが、細片であるため図示することはできない。また、庇の柱穴SP14309からは凹石（第28図3）が出土した。

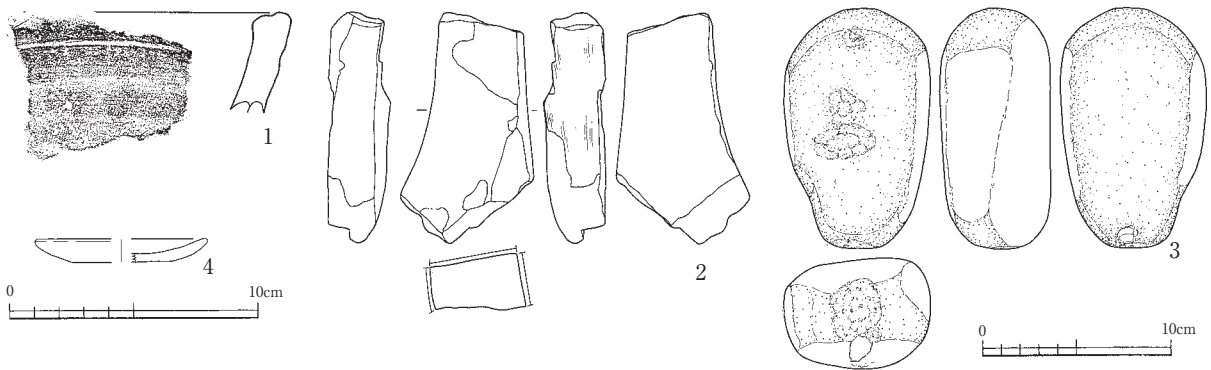
別棟の内部は、中央より西側が土坑状の掘り込みにより一段低くなっており、これにより2つの空間に分かれていたことがわかる。西側の掘り込み部分の東端には石積があり、近世の民家の事例では厩とされている。東側の高い部分は土間とみられる。

別棟の西部、海拔高が低い部分には竪穴状の掘り込み（第27図）が設けられており、その部分は海拔

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第27図 掘立柱建物SB25堅穴状遺構実測図（縮尺1/50）



第28図 掘立柱建物SB25堅穴状遺構・井戸SE08出土遺物実測図（1・4：縮尺1/3、2・3：1/4）
 1～3：堅穴状遺構、4：SE08

高112.300~112.200mでほぼ水平となっている。掘り込みの東端には2段の石積みが残る。石積みには、長軸0.06~0.56m、短軸0.04~0.36m、厚さ0.05~0.17mの山石または川原石を使用している。この掘り込み（竪穴状遺構）からは弥生土器・須恵器・土師質皿・越前焼や、石製品などが出土している。また、石積の裏込からは伊万里焼1片が出土した。このうち、越前焼片口鉢（第28図1）、砥石（第28図2）を図示した。

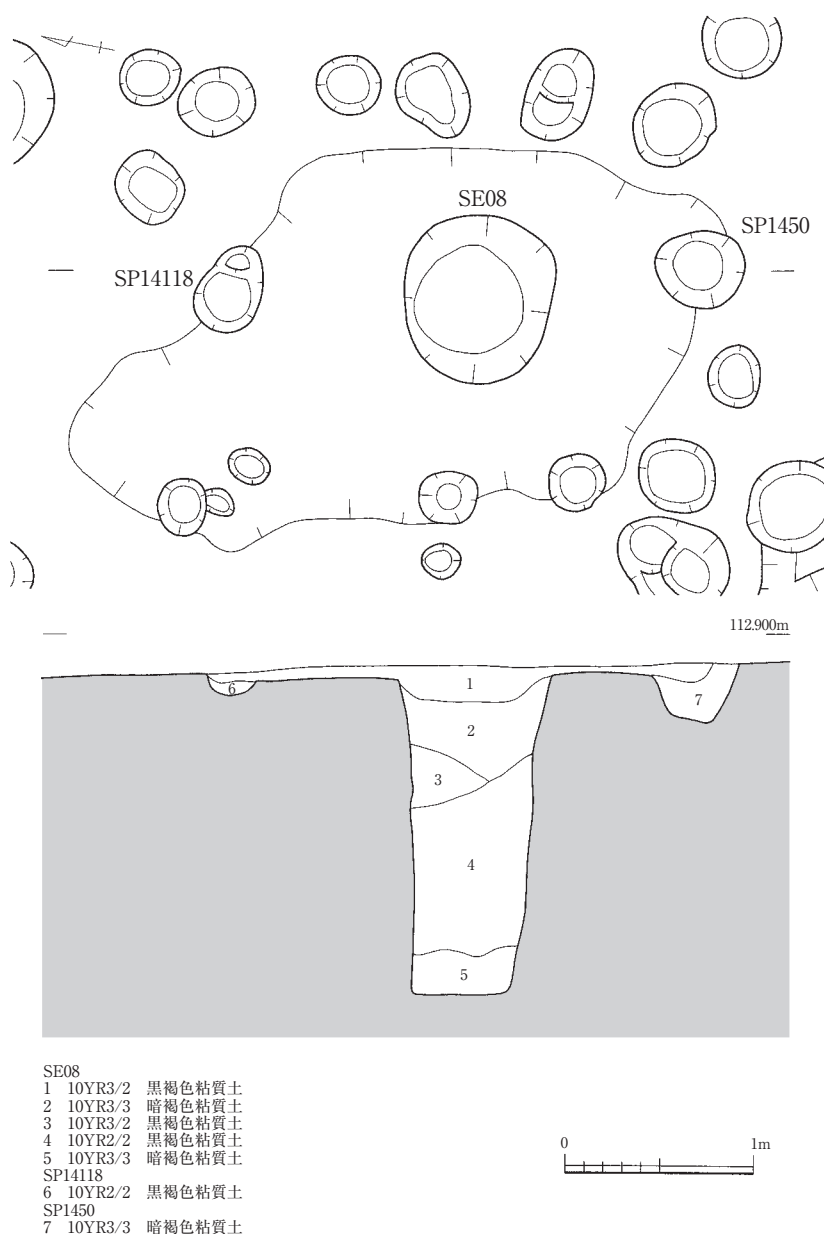
別棟の北側には桁行2間(2.68~2.80m)、梁行1間(2.00~2.28m)の上屋をもつ井戸SE08（第29図）が付属しており、別棟の土間部分からの行き来ができるようになっている。井戸の上屋の柱間寸法は桁行が1.20~1.48mをはかる。その柱穴は円形または楕円形を呈し、長軸0.32~0.48m、短軸0.28~0.42m、深さ0.12~0.48mをはかる。

井戸SE08の掘形は楕円形を呈し、長軸0.90m、短軸0.76m、深さ1.70mをはかる。素掘りで、

底面より0.05~0.10m上層で川原石または山石6石がまとめて出土した。石は長軸0.07~0.26m、短軸0.05~0.12m、厚さ0.06~0.15mをはかる。底は湧水層に達しており、その海拔高は111.000mである。下層から土師質皿（第28図4）と、石皿1点、押型文土器1片などが出土している。

炉は確認することができなかった。

別棟西側の掘り込み（竪穴状遺構）を作る際に掘立柱建物SB24の雨落溝SD27を削平していることから、SB24よりも新しい時期のものと考えられる。



第29図 掘立柱建物SB25・井戸SE08実測図（縮尺1/40）

Ⅱ 井戸

単独で検出したものについて記述する。SE01～03は丘陵裾部にまとまって存在しており、当初は上部が削平されたために、底部のみが遺存した井戸と考えていた。しかしながら、底部が湧水層に達していないことを重視すれば、草戸千軒町遺跡などで検出されているような曲物埋設遺構の可能性が指摘できる。

SE01 (第30図)

3区O16グリッドで検出したもので、同形態のSE02やSE03から20数m北方にある。掘り方は楕円形を呈し、長軸0.78m、短軸0.62m、深さ0.42mをはかる。ほぼ中央に径0.50m、高さ0.22mの曲物を据えており、曲物は1段のみ遺存する。底部は粘土層であり、湧水層に達していない。その海拔高は、109.800mである。曲物内から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、曲物は流失したため、図化不能である。

SE02 (第30図)

3区O19グリッドで検出した。SE01の約23.0m南方、SE03の約3.6m東方に存在する。掘り方は楕円形を呈し、長軸1.17m、短軸1.07m、深さ0.50mをはかる。ほぼ中央に曲物を据えており、2段分が残る。上段の曲物は、東側が圧力により押しつぶされたようになっており、その径は0.42m、残存する高さは0.23mをはかる。下段の曲物は、径0.40m、高さ0.33mである。底は湧水層に達していない。底面の海拔高は、109.670mである。曲物内や掘り方から弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、曲物は流失したため、図化不能である。

SE03 (第30・31図)

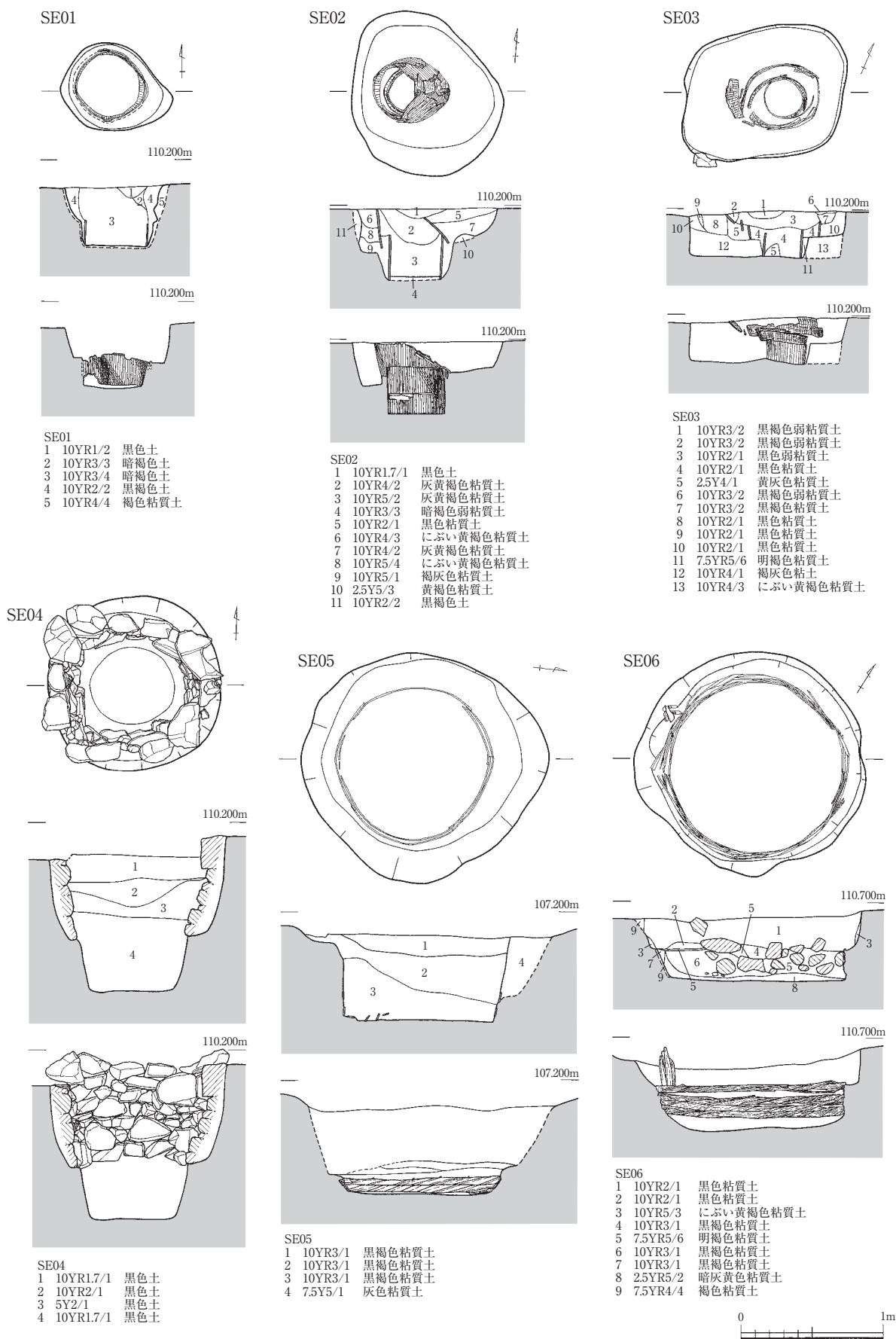
3区O18グリッドで検出した。SE01の約21.0m南方、SE02の約3.6m西方に存在する。掘り方は隅丸方形を呈し、長軸1.11m、短軸0.92m、深さ0.32mをはかる。わずかに東方に寄せて曲物を据えており、3段分が残る。上段と中段の曲物は留めが外れており、楕円形を呈する。上段の曲物は長軸0.56m、短軸0.44m、残存する高さ0.13mで、中段の曲物は長軸0.42m、短軸0.35m、残存する高さ0.09mである。下段の曲物は、径0.22m、高さ0.14mをはかる。底部は粘土層であり、湧水層に達していない。その海拔高は、109.850mである。掘り方からは弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。また、下段の曲物に挟まった形で、土師質皿(第31図1・2)が出土している。これらはSE03を廃棄する際に紛れ込んだものと考えられる。このほか、辛うじて流失を免れた、上段の曲物の一部も図示した(第31図3)。出土遺物から判断すれば、中世に属する遺構と考えられる。

SE04 (第30図)

4区N21グリッドで検出した円形の石組井戸で、西側は攪乱をうけている。掘り方は円形を呈し、径1.22m、深さ1.09mをはかる。石組の内径は0.95mである。長軸0.42～0.80m、短軸0.23～0.55mの川原石または山石を用いて、楕円形に7段積み上げるが、石積みの下部約0.4mは素掘りである。底は湧水層に達しており、その海拔高は109.000mである。弥生土器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SE05 (第30図)

6区D20グリッドの鹿谷川旧流路内で検出する。掘り方は円形を呈し、長軸1.74m、短軸1.60m、深さ0.60mをはかる。壁面には桶のタガが3段分残っていたが、降雨により上段部分が崩落したため、中・下段のみを図化している。タガの高さは0.05mをはかる。結桶積みの井戸で、廃棄の際に桶板だけ再利用す



第30図 井戸SE01～SE06実測図 (縮尺1/40)

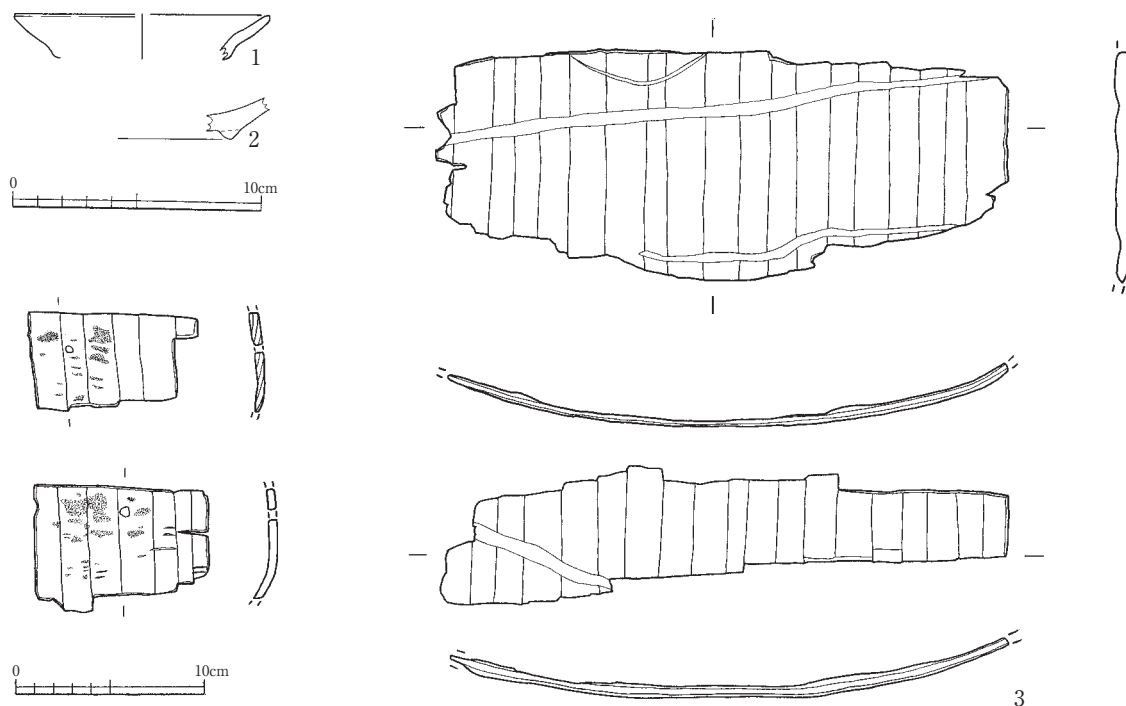
るため抜き取ったのではないかと考えられる。底は湧水層に達しており、その海拔高は106.400mである。弥生土器、土師器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SE06 (第30図)

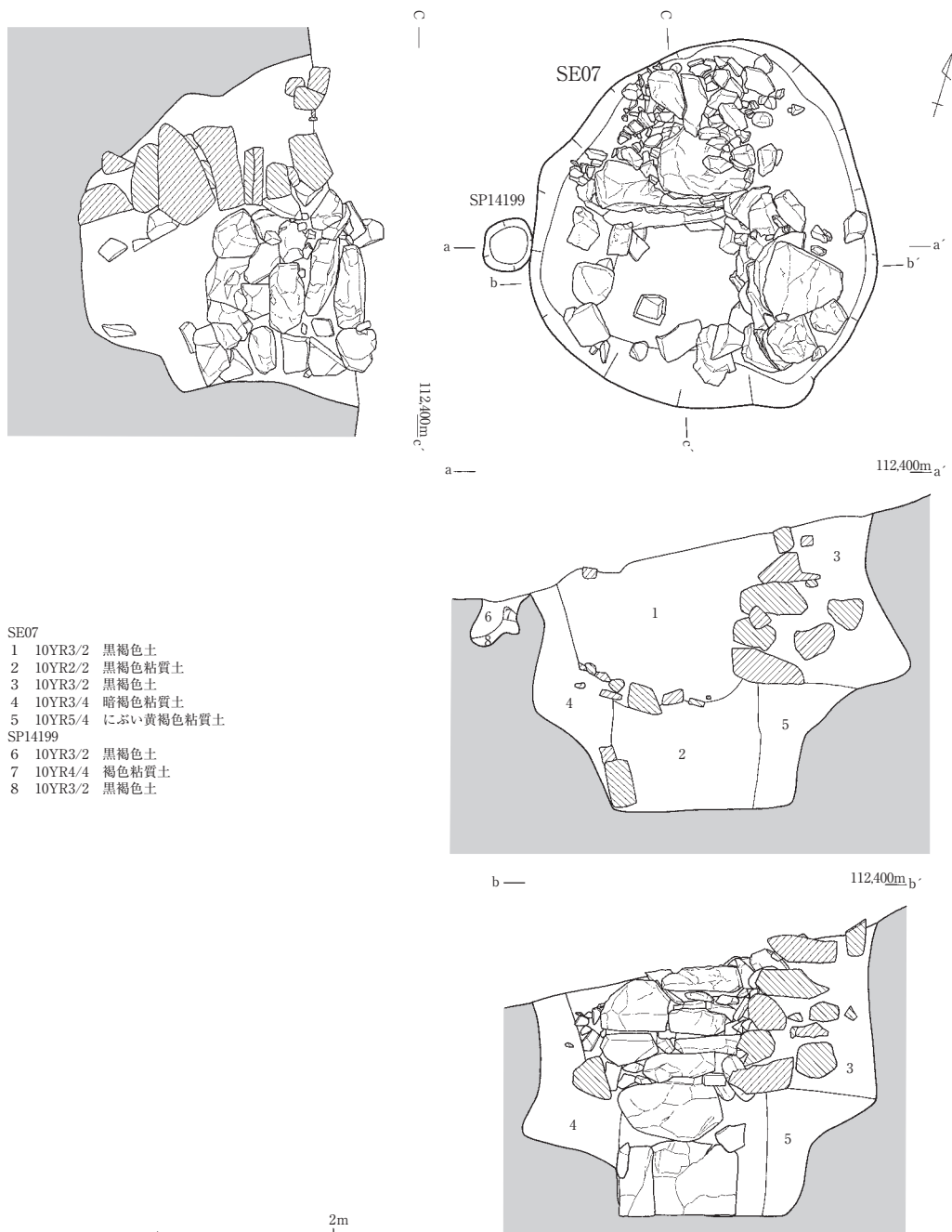
15区Q24グリッドのSD01内で検出した。掘り方は径1.60mをはかる円形を呈し、深さは0.58mをはかる。壁面には桶のタガ4段が残る。タガの高さは0.05mをはかる。結桶積みの井戸で、廃棄の際に桶板だけ再利用するため抜き取ったのではないかと考えられる。埋土には多量の山石を含む。底は湧水層に達しており、その海拔高は110.000mである。前述したSE05とほぼ同じ規模・構造である。弥生土器や須恵器が少量出土しているが、図示できるものはない。このほか、亀の腹甲(写真図版第60参照)も出土している。

SE07 (第32・33図)

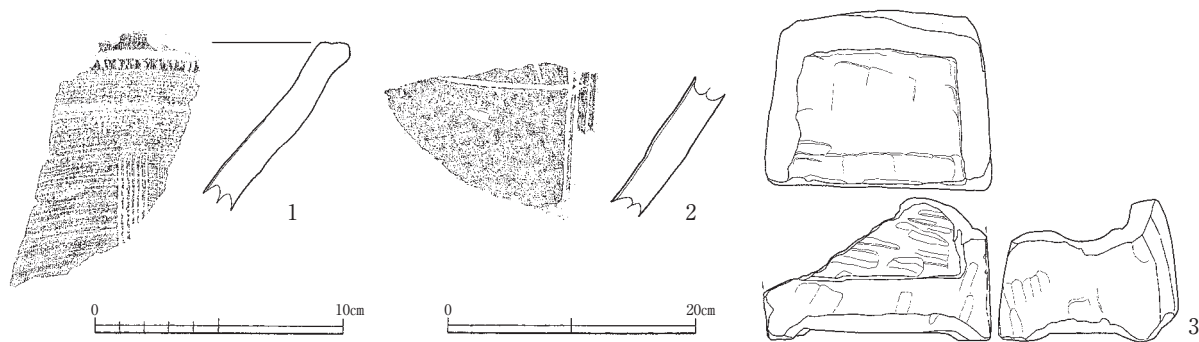
14区Q19グリッドで検出した石組方形井戸である。掘立柱建物SB24の柱穴を切って構築されたと考えられる。掘り方は楕円形を呈し、長軸2.13m、短軸1.98m、深さ1.70mをはかる。石組は南に寄せて構築されており、長軸0.68m、短軸0.60mの長方形を呈する。長軸0.12~0.54m、短軸0.06~0.46mの山石を用いて、やや乱雑に積み上げている。北面は底部まで石積みがあり、7段を数える。東面は、上部のみ5段の石積みで、下部は素掘りである。西面・南面は、最上部に一石まばらに置いてあるだけで、素掘りである。底は湧水層に達しており、その海拔高は109.500mである。石組内の上層より、越前焼の播鉢(第33図1・2)とバンドコ(第33図3)が出土しているが、これらは井戸を埋め立てた際に混入したものと考えられる。このほか、石組内では、弥生土器や、須恵器の坏なども少量出土しているが、図示できるものはない。弥生土器は、裏込めからも出土している。出土遺物から判断すれば、中世以降に廃棄された遺構と考えられる。



第31図 井戸SE03出土遺物実測図(1・2:縮尺1/3, 3:縮尺1/4)



第32図 井戸SE07実測図 (縮尺1/40)



第33図 井戸SE07出土遺物実測図 (縮尺1/3・1/6)

Ⅲ 水場遺構・堅果類出土土坑

12区鹿谷川旧流路の肩部で検出した水場遺構と、鹿谷川の川底で検出した堅果類出土土坑8基を取り上げて記述する。堅果類出土土坑は、鹿谷川旧流路がつくる曲線に沿って、水場遺構の北西側に0.9～2.1m間隔で5基、水場遺構の南側に5.1～6.7m間隔に3基存在する。7基は主としてトチが出土する土坑であるが、最も南にある1基は主としてクリが出土する土坑である。

出土した堅果類は、完形のもの、1/2程度遺存しているもの、破片の3種類にわけて、数を計測している。

SX01（第34・35図）

12区K24・K25・L24・L25グリッドで検出した。楕円形を呈し、長軸4.88m、短軸2.85mをはかる。川底からの深さは0.88mで、肩部からの深さは1.50mである。底は湧水層に達しており、その海拔高は106.840mである。底面には川原石が集積しており、そのなかには打製石斧2点なども含まれていた。これらは、既に転石と化しており、磨耗が激しいため図化していない。

SK1200（第34・35図）

12区K24グリッドで検出した。堅果類出土土坑のなかで、最も北に位置しており、SX01からは北西方向に約8.3m離れている。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.55m、深さ0.05mをはかる。断面形態は浅皿状を呈する。底面には、長軸0.37m、短軸0.24m、深さ0.17mをはかる楕円形の掘り込みがあり、2段掘りとなっている。上段の底面で完形のトチ果実2点が出土した。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1201（第34・35図）

12区K24グリッドで検出した。SK1200から南東方向に約1.9m、SX01からは北西方向に約5.6m離れて存在する。上面形態は円形を呈し、径0.82m、深さ0.69mをはかる。断面形はU字状を呈する。中層（3層）は植物遺体をやや多く含み、細小な自然木がまばらに出土している。堅果類は、底面でまとまって出土した。トチが主体であり、その数は、完形のもものが8個、1/2程度遺存するものが46個、破片が160個である。クルミもわずかに出土しており、その数は完形のもものが2個、1/2程度遺存するものが1個である。また、弥生土器が1片だけ出土しているが、細片であるため図示することはできない。

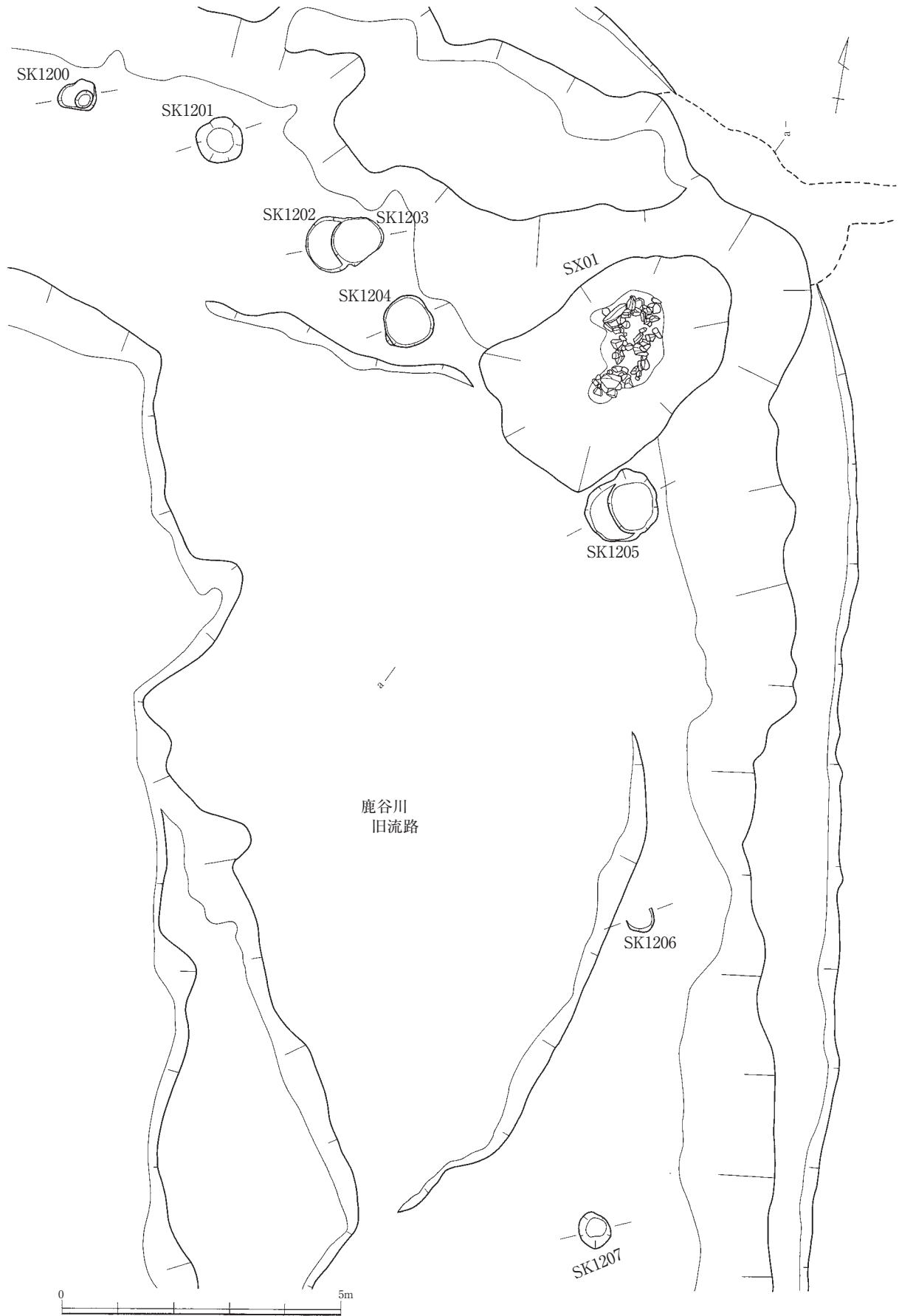
SK1202（第34・35図）

12区K24グリッドで検出した。SK1201から南東方向に約1.8m、SX01からは北西方向に約3.0m離れて存在する。SK1203を切って構築される。上面形態は円形を呈し、径1.00m、深さ0.19mをはかる。断面観察の結果、東側が1段深い2段掘りであったと考えられる。上層（1層）は植物遺体をやや多く含み、堅果類の出土は底面に集中する。トチが主体であり、その数は、完形のもものが43個、1/2程度遺存するものが35個、破片17個である。また、クルミもわずかながら出土しており、その数は1/2程度遺存するものが1個、破片が1個である。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1203（第34・35図）

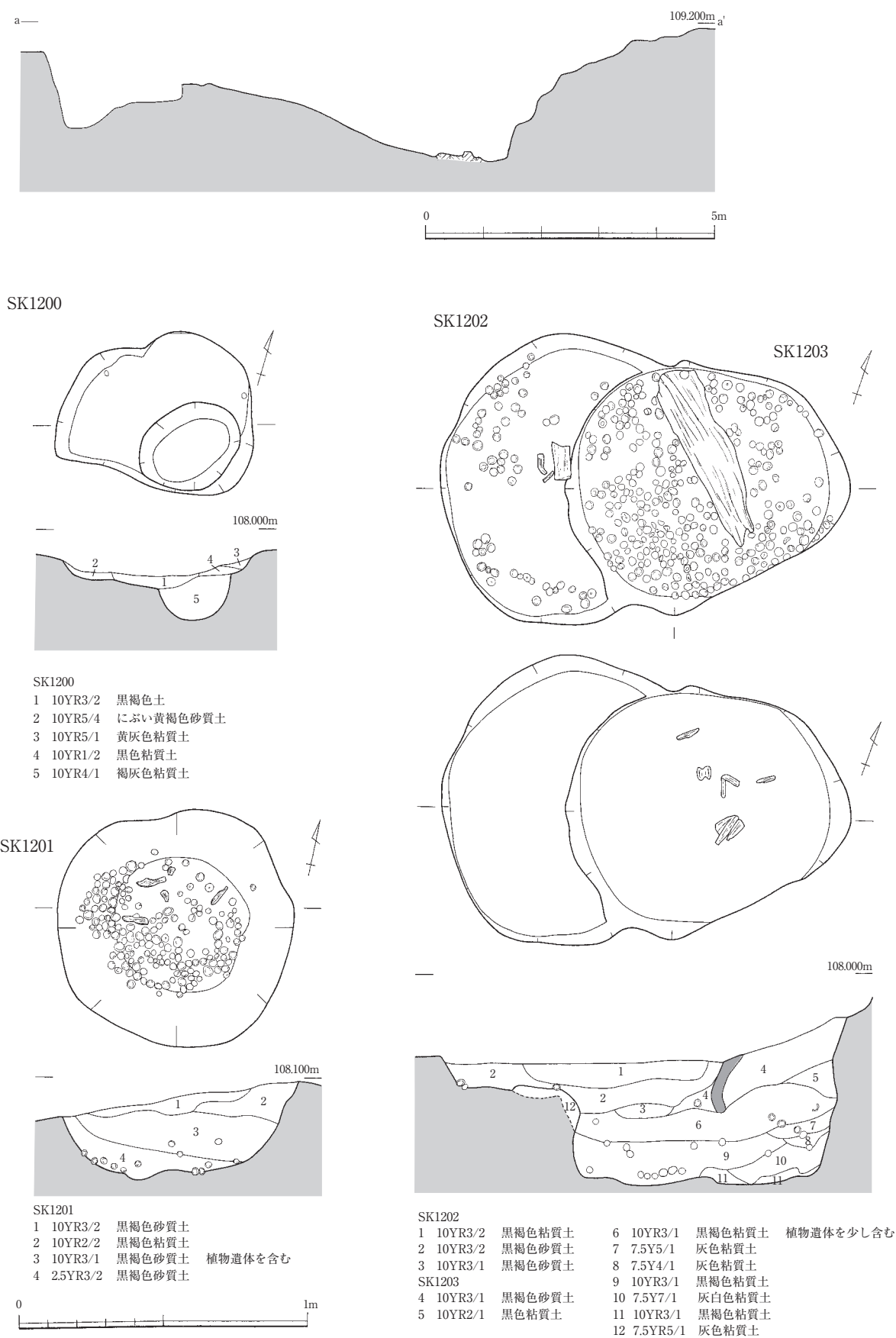
12区K24グリッドで検出した。SK1201から南東方向に約2.1m、SX01からは北西方向に約2.7m離れて存在する。上層は、SK1202に切られる。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.98m、短軸0.88m、深さ0.58mをはかる。また、断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。

土坑の上面では、長さ0.66m、幅0.17m、厚さ0.04mの板状の自然木を検出した。これは、土坑の中央部において、南北方向に架け渡されたような形で出土している。中層（6層）は植物遺体を少し含み、



第34図 水場遺構SX01・土坑SK1200～SK1207実測図（縮尺1/100）

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第35図 水場遺構 SX01・土坑SK1200～SK1203 実測図（縮尺1/100・1/20）

堅果類の出土は中・下層に集中する。上層で出土したトチの数は、完形のもの17個、1/2程度遺存するものが10個、破片が11個である。ほかに、クルミもわずかに出土しており、その数は完形のもの5個、1/2程度遺存するものが1個、破片が3個である。中・下層で出土したトチの数は、完形のもの279個、1/2程度遺存するものが118個、破片が19個である。クルミの数は、破片が5個である。また、下層から杉花粉の殻が1点、完形で出土している。SK1203では、弥生土器2片が出土しているが、細片であるため図示することはできない。

SK1204 (第34・36図)

12区K24グリッドで検出した。SK1203から南東方向に約0.90m、SX01からは北西方向に約1.0m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.92m、短軸0.81m、深さ0.10mをはかる。断面形は箱形を呈する。堅果類は底面でまとまって出土しており、その上には少量の細かい自然木が散在していた。

堅果類はトチが主体であり、その数は、完形のもの214個、1/2程度遺存するものが187個、破片が70個である。また、クルミもわずかに出土しており、1/2程度遺存するもの1個と破片3個を確認した。この土坑では、南半分で出土したトチの大半を、図化する前に誤って取り上げてしまった。このため、トチの出土総数も約2倍と考える必要がある。上層で弥生土器2片が出土しているが、細片であるため図示することはできない。

SK1205 (第34・36・37図)

12区L25グリッドで、SX01の南西部に近接して存在する。SX01を挟んで、SK1204からは南東方向に約4.00m離れている。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.12m、深さ0.27mをはかる。底面の東半分は2段掘りとなっており、長軸0.93m、短軸0.88m、深さ0.21mをはかる楕円形の掘り込みがある。断面形は、上段がU字状、下段が箱形を呈する。

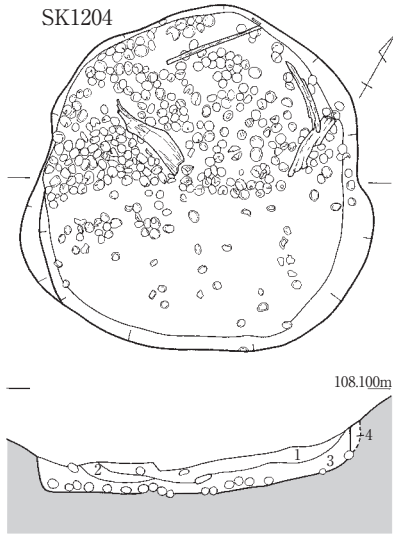
上面では、加工材と自然木が土坑の中央部でややまとまって出土している。加工材には、長さ0.51m、幅0.18m、厚さ0.02mの板材や、組み合わせ式布巻具(第37図2)がある。また、上記の板材の直下で、打製石斧(第37図3)が出土している。

上層(3層)は植物遺体を少し含み、堅果類は上段底面と、上層(3層)と下層(4層)の境で集中して出土している。堅果類の主体はトチであり、その出土総数は、完形のもの1802個、1/2程度遺存するものが477個、破片が286個である。クルミも少量出土しており、完形のもの5個、1/2程度遺存するもの9個、破片12個がある。これらを、出土層位ごとに計測すると、以下のようになる。上層(1層が中心)で出土したトチの数は、完形のもの70個、1/2程度遺存するものが27個、破片が7個である。また、クルミの数は完形のもの4個、破片が4個である。上段底面や、上層(3層)と下層(4層)の境界周辺から出土したトチの数は、完形のもの1677個、1/2程度遺存するものが435個、破片が276個であり、クルミの数は1/2程度遺存するものが8個、破片が7個である。下段の底面から出土したトチの数は、完形のもの55個、1/2程度遺存するものが15個、破片が3個であり、クルミの数は完形のもの1個、1/2程度遺存するものが1個、破片が1個である。

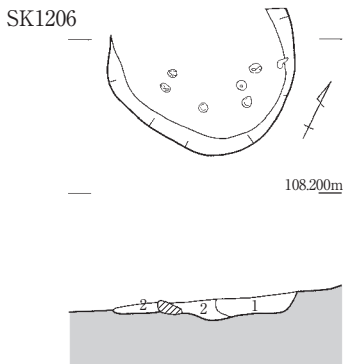
堅果類を取り除くと、その下層には、細かい自然木が散在していた。

上層で、弥生土器の壺(第37図1)が出土しており、この遺物は弥生時代中期後葉に属すると考えられる。このほかに、刃部の欠けた打製石斧(第37図4)も出土している。

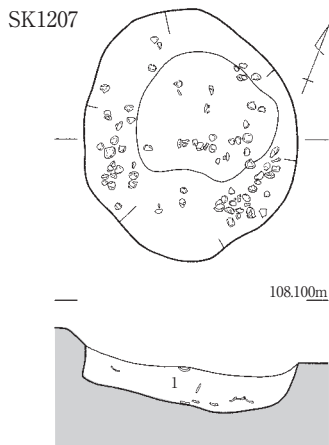
第1節 遺構および遺構内出土遺物



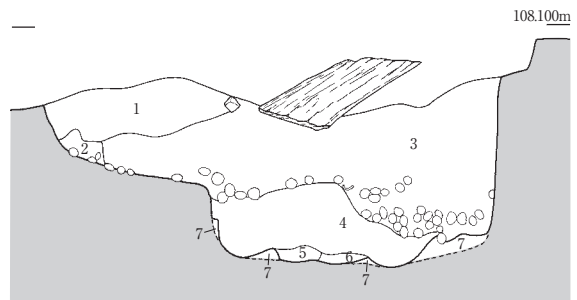
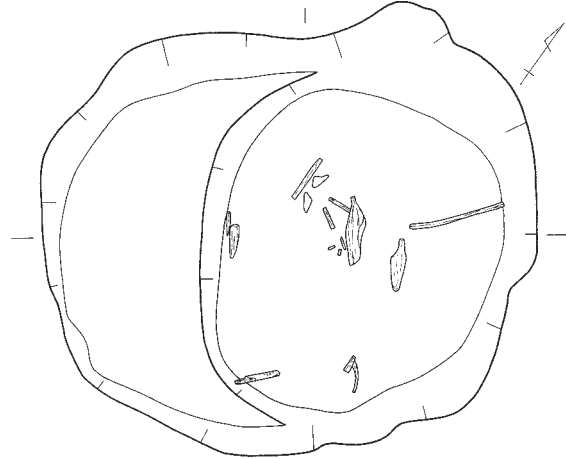
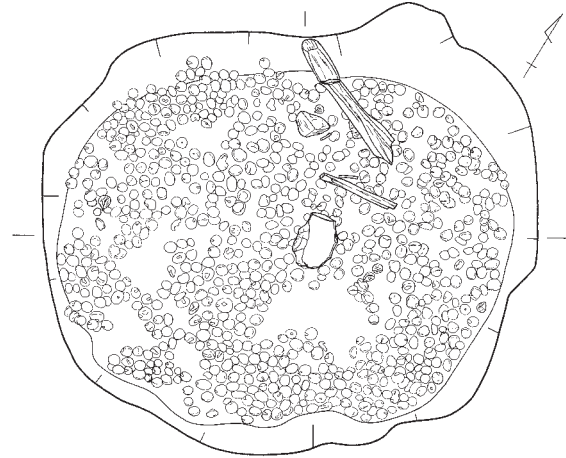
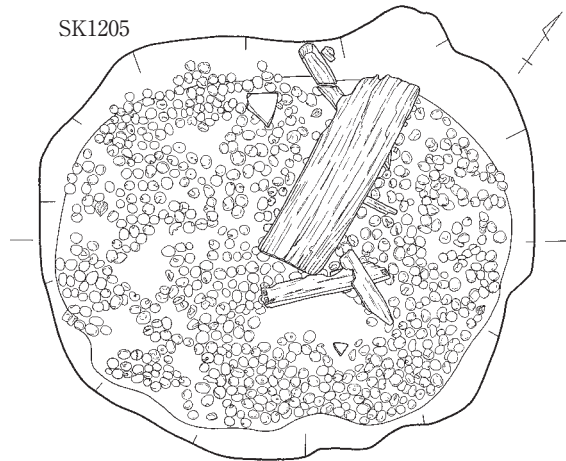
SK1204
 1 10YR3/1 黒褐色土 腐植土 3 10YR3/3 暗褐色砂質土
 2 2.5Y3/1 黒褐色砂質土 4 10YR5/3 におい黄褐色砂質土



SK1206
 1 10YR3/1 黒褐色粘質土
 2 2.5Y4/1 褐灰色粘質土



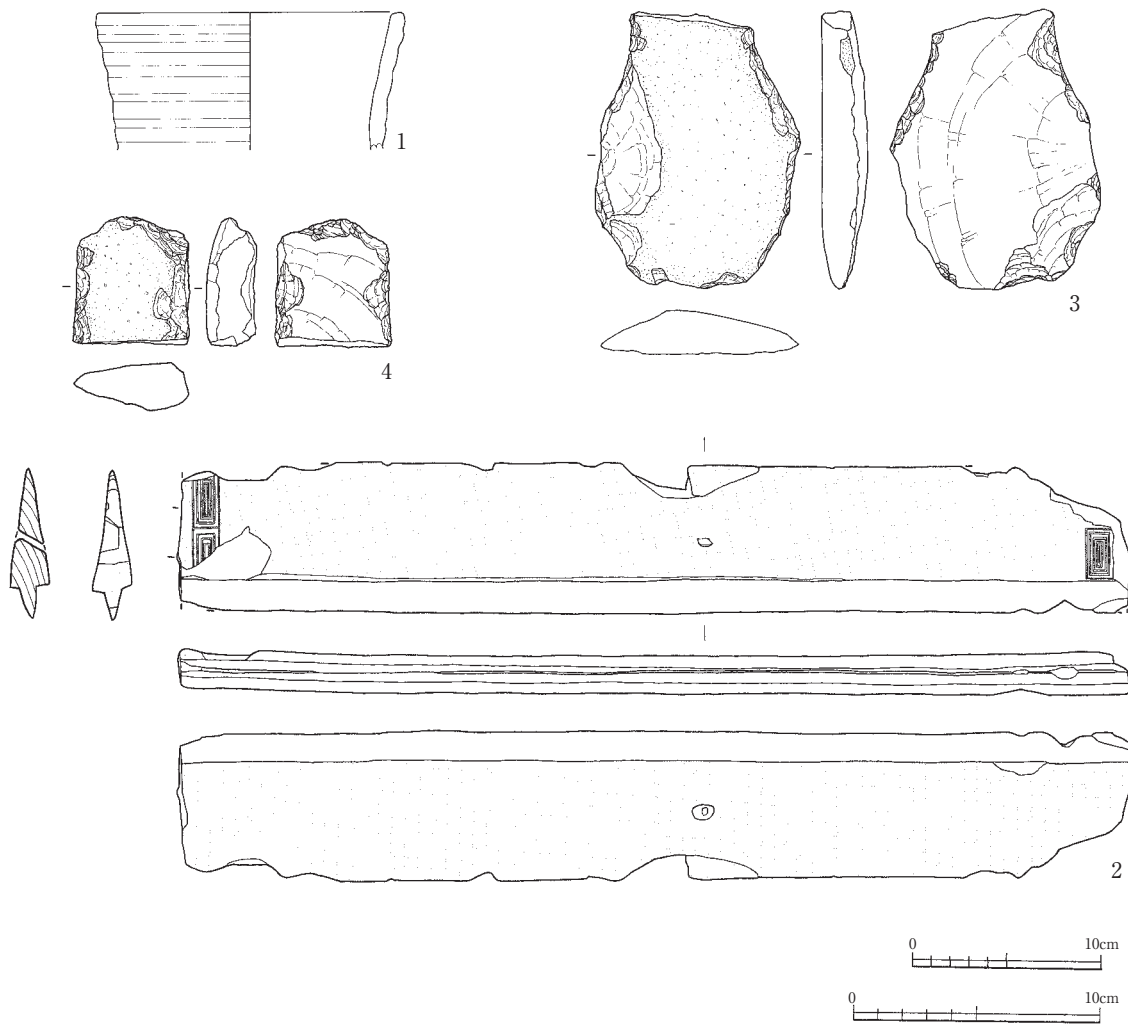
SK1207
 1 2.5YR3/1 黒褐色粘質土



SK1205
 1 10YR3/1 黒褐色粘質土 4 10YR2/1 黒色粘質土
 2 10YR3/1 黒褐色粘質土 5 10YR2/1 黒色粘質土
 3 10YR3/1 黒褐色粘質土 植物遺体を含む 6 7.5YR2/1 灰色粘質土
 7 10YR2/1 灰色粘質土



第36図 土坑SK1204~SK1207実測図 (縮尺1/20)



第37図 土坑SK1205出土遺物実測図（1・2：縮尺1/3、 3・4：縮尺1/4）

SK1206（第34・36図）

12区L25・L26グリッドで検出した。SK1205から南方に約6.7m、SX01からは南方に約7.7m離れて存在する。遺存状態が悪く、南半分のみを辛うじて検出することができた。上面形態は円形または楕円形を呈していたと考えられ、長軸0.49m、深さ0.06mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。底面にトチがわずかに残っており、その数は1/2程度が遺存するもの3個、破片が3個である。堅果類以外の遺物は確認していない。

SK1207（第34・36図）

12区L26グリッドで検出した。SK1206から南方に約5.1m、SX01からは南方に約12.9m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.67m、短軸0.56m、深さ0.10mをはかる。断面形はU字状を呈する。底面を中心にクリが出土しており、その数は、完形のもの7個、1/2程度遺存するもの17個、破片56個である。なお、クリはトチと比べると脆弱であり、うまく取り上げられなかったものもあったため、実測図上で数を計測した。当遺跡で検出した堅果類出土土坑のなかで、クリが出土するのはSK1207のみである。堅果類以外の遺物は確認していない。

Ⅳ 土坑

今回の調査では、多数の土坑を検出している。全てを記述すると煩雑になるため、遺物を伴う土坑を中心に取り上げている。なお、土坑の番号は、最初の2桁が調査区を表している。

SK0102 (第38・43図)

1区M4・N4グリッドで検出した。上面形態は隅丸方形を呈し、長軸0.88m、短軸0.63m、深さ0.18mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器の甕(第43図1)が出土している。

SK0104 (第38図)

1区M4グリッドで検出した。SK0105に切られる。上面形態は隅丸方形を呈し、長軸1.94m、短軸1.50m、深さ0.19mをはかる。断面形は浅皿状を呈し、底面は平坦である。遺物は出土していない。

SK0105 (第38図)

1区M4グリッドで検出した。SK0104を切って構築される。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.52m、短軸0.92m、深さ0.35mをはかる。断面形は緩やかなV字状を呈する。瀬戸の破片1点が出土している。

SK0106 (第38図)

1区N5グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.33m、短軸1.08m、深さ0.29mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0114 (第38・43図)

1区M7グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.75m、短軸0.69m、深さ0.41mをはかる。断面形は箱形を呈する。磨製石斧(第43図3)が出土している。

SK0115 (第38図)

1区M7グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.79m、深さ0.20~0.30mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。遺物は確認していない。

SK0117 (第38図)

1区M5・M6グリッドで検出した。上面形態は隅丸長方形を呈し、長軸1.70m、短軸0.84m、深さ0.15mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0901 (第39・43図)

9区I2グリッドで検出した。SK0904から東方に約2.0m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.55m、短軸1.40m、深さ0.36mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生時代中期~後期を主体とする土器(第43図4~13)と、打製石斧(第43図13)が出土している。

SK0903 (第39図)

9区G10グリッドで検出した。SD10と重複する。上面形態は不定形で、長軸1.26m以上、短軸1.50m、深さ0.06mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0904 (第39図)

9区I2グリッドで検出した。北西部は攪乱を受ける。SK0901から西方に約2.0m離れて存在する。上面形態は不整な円形を呈し、長軸1.24m、短軸1.15m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器が少量出土している。

SK0905 (第39・43図)

9区K3グリッドで検出した。SK0916から東方に約1.3m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.81m、短軸0.71m、深さ0.20mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器(第43

図14)のほか、クルミ（完形4個）が出土している。

SK0906（第40・43図）

9区G2・G3・H2・H3グリッドで検出した。南側をSD15に切られており、北側は攪乱を受けているため、上面形態は判然としない。残存する部分は、長軸2.42m、短軸1.72m、深さ0.15mをはかる。西隅には掘り込みがあり、その中央には長軸0.44m、短軸0.36m、深さ0.22mをはかる楕円形の掘り込みがある。その断面形はU字状を呈する。弥生時代中期の土器（第43図15～17）が出土している。

SK0907（第38図）

9区J6グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.54m、深さ0.23mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器が少量出土したほか、クルミ（完形3個・1/2遺存するもの8個）も出土している。

SK0909（第39・43図）

9区K3グリッドで検出した。SK0910から東方に約0.4m、SK0916から西方に約1.2m離れて存在する。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.55m、短軸1.08m、深さ0.32mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器の底部（第43図18）と、クルミ（完形5個・1/2遺存するもの1個）などが出土している。

SK0910（第39図）

9区J3グリッドで検出した。SD02と重複する。SK0911から東方に約0.9m、SK0909から西方に約0.4m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.88m、短軸0.70m、深さ0.40mをはかる。断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。クルミ（完形1個）が出土している。

SK0911（第39・43図）

9区J3グリッドで検出した。SD02と重複する。SK0910から西方に約0.9m離れて存在する。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.90m、深さ0.40mをはかる。断面形は、袋状を呈する。弥生土器の体部（第43図19）と甕（第43図20）などのほか、クルミ（完形137個、1/2遺存するもの44個）が出土している。

SK0912（第40図）

9区J7グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.62m、短軸0.92m、深さ0.44mをはかる。断面形はV字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0914（第40図）

9区I6グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.64m、短軸0.92m、深さ0.11～0.31mをはかる。断面形はU字状を呈し、底面は平坦ではない。遺物は確認していない。

SK0916（第39図）

9区K3グリッドで検出した。SK0909から東方に約0.9m、SK0905から西方に約1.3m離れて存在する。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.69m、短軸0.63m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

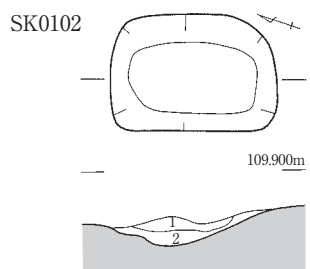
SK0918（第40図）

9区I3・J3グリッドで検出した。上面形態は不整な円形を呈し、長軸0.96m、短軸0.92m、深さ0.36mをはかる。断面形は台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

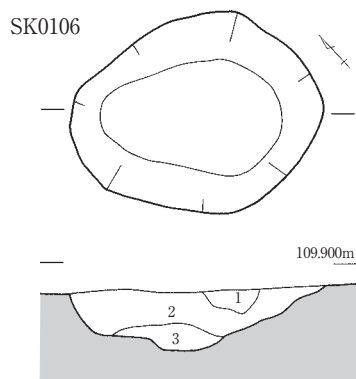
SK0919（第38図）

9区I3グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.66m、短軸0.51m、深さ0.14mをはかる。

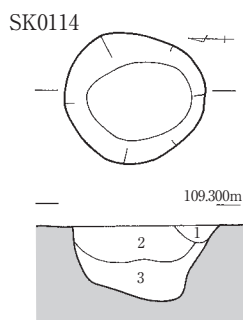
第1節 遺構および遺構内出土遺物



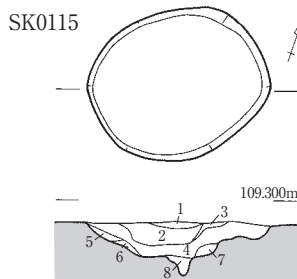
SK0102
1 10YR2/2 黒褐色砂質土
2 7.5YR2/1 黒色粘質土



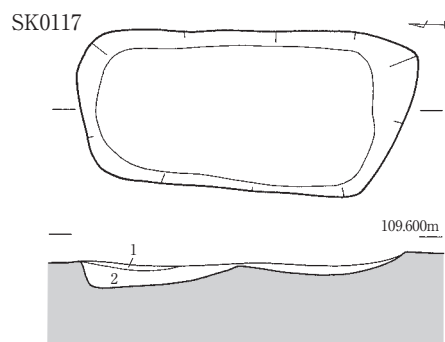
SK0106
1 5Y4/3 暗オリーブ色粘質土
2 2.5Y2/1 黒色粘質土
3 2.5Y3/1 暗褐色粘質土



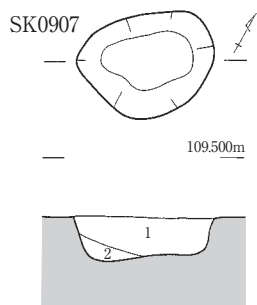
SK0114
1 10YR3/2 黒褐色粘質土
2 10YR2/2 黒褐色粘質土
3 10YR2/2 黒褐色粘質土



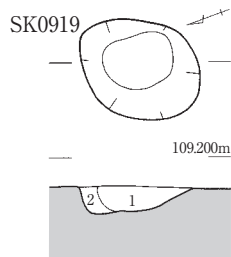
SK0115
1 10YR3/1 黒褐色粘質土
2 10YR5/2 灰黄褐色粘質土
3 10YR5/2 灰黄褐色粘質土
4 10YR3/1 黒褐色粘質土
5 10YR3/1 黒褐色粘質土
6 10YR5/2 灰黄褐色粘質土
7 2.5Y4/1 黄灰色粘質土
8 10YR5/1 褐灰色粘質土



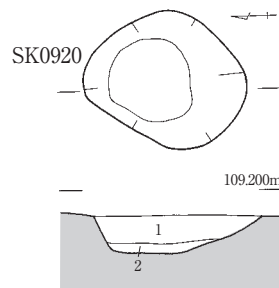
SK0117
1 10YR2/1 黒色粘質土
2 10Y3/2 黒褐色粘質土



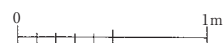
SK0907
1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
2 10YR2/1 黒色粘質土



SK0919
1 10YR3/1 黒褐色粘質土
2 10YR4/1 褐灰色粘質土



SK0920
1 10YR2/1 黒色粘質土
2 10YR4/1 褐灰色粘質土



第38図 土坑実測図 (縮尺1/40)

SK0102・SK0104・SK0106・SK0114・SK0115・SK0117・SK0907・SK0919・SK0920

断面形はU字状を呈する。クルミ（完形1個）が出土している。

SK0920（第38図）

9区I3グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.79m、短軸0.67m、深さ0.22mをはかる。

断面形は角が緩やかな逆台形を呈する。弥生土器1片が出土している。

SK0926（第40図）

9区G10グリッドで検出した。上層は重機による攪乱を受けている。上面形態は円形を呈し、長軸0.54m、短軸0.51m、深さ0.80mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0931（第39・43図）

9区K2グリッドで検出した。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.16m、短軸0.60m、深さ0.28mをはかる。

断面形はU字状を呈する。弥生土器の底部（第43図21）が出土している。

SK0301（第40図）

3区N14グリッドで検出した。東端は用水3に接する。上面形態は瓢箪形を呈し、長軸1.94m、短軸1.21m、深さ0.08～0.17mをはかる。遺物は確認していない。

SK0302（第40図）

3区N14グリッドで検出した。東側を用水3に切られる。上面形態は楕円形を呈していたと考えられ、長軸1.11m、短軸0.76m、深さ0.20mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0305（第41・44図）

3区L16・M16グリッドで検出した。SD06を切って構築される。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸3.20m、短軸2.10m、深さ1.36mをはかる。断面形は逆台形を呈する。上層（1層）で漆椀が出土したが、水害で流失した。壁面の地山層から、押型文土器（第44図1）が出土したほか、覆土から弥生土器（第44図2～4）と打製石斧（第44図5）が出土している。時期は中世以降と考えられる。

SK0319（第41・44図）

3区N17グリッドで検出した。西側はSD05に切られる。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.25m、短軸1.21m、深さ0.13mをはかる。断面形は逆台形を呈する。弥生時代中期の土器（第44図6）が出土している。

SK0704（第41図）

7区J16グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.97m、短軸0.86m、深さ0.24mをはかる。

断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

SK0705（第41図）

7区J18グリッドで検出した。上面形態は円形を呈し、長軸1.02m、短軸0.96m、深さ0.23mをはかる。

断面形は逆台形を呈する。弥生土器が少量出土している。

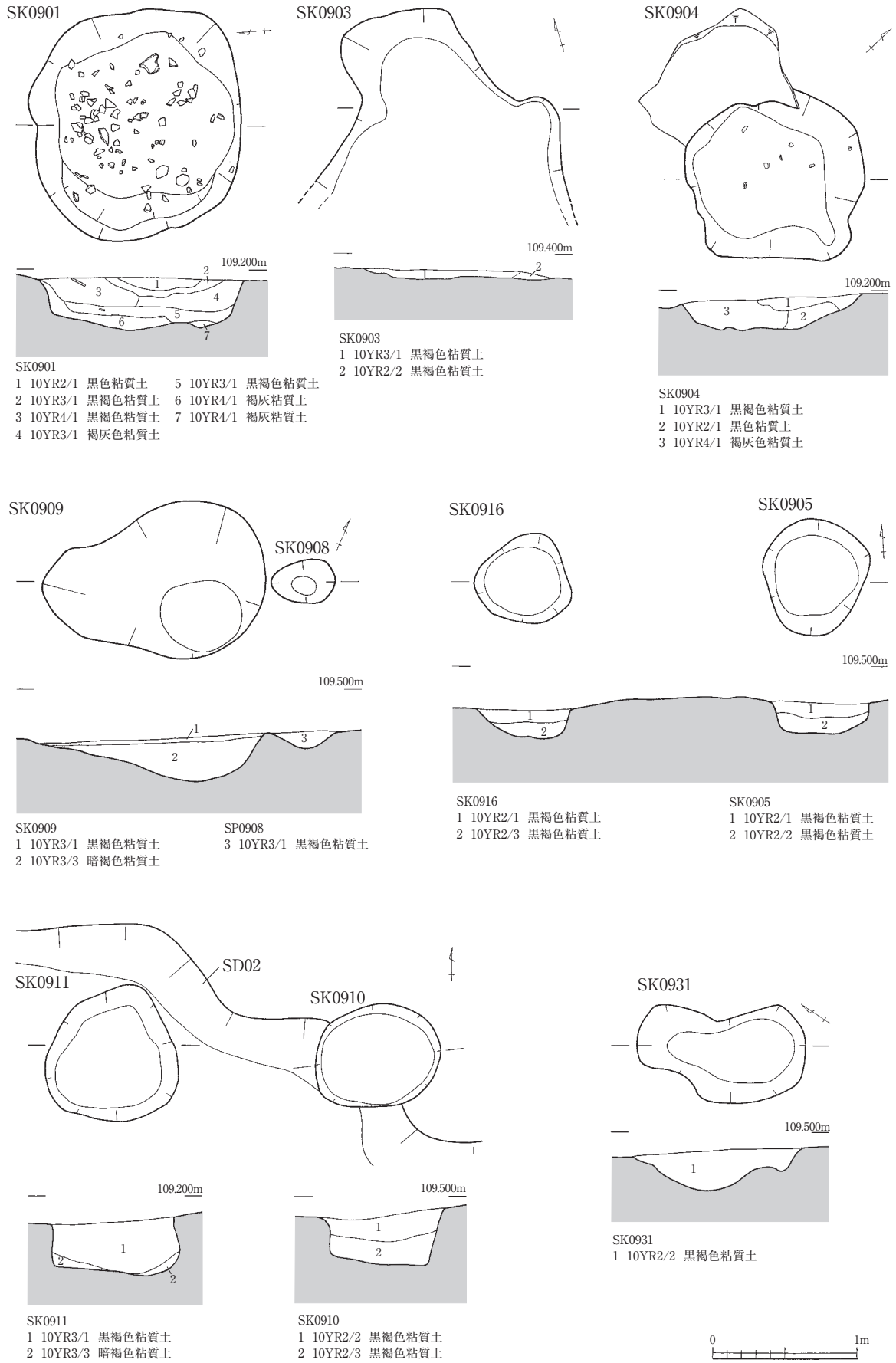
SK0706（第41図）

7区G16グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.94m、短軸0.98m、深さ0.30mをはかる。断面形は浅皿形を呈する。遺物は確認していない。

SK07157（第41・44図）

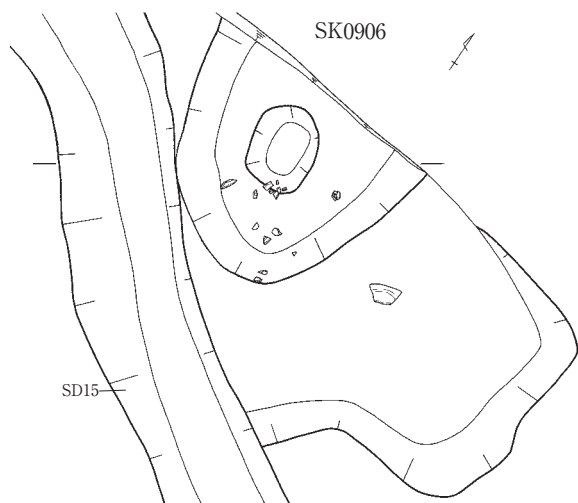
7区K20グリッドで検出した。東側は暗渠に切られる。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.09m、短軸0.96m、深さ0.32mをはかる。断面形はU字状を呈する。弥生土器の甕（第44図7）、器台（第44図8）、脚部（第44図9）などが出土している。

第1節 遺構および遺構内出土遺物

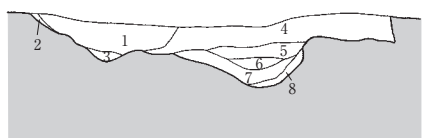


第39図 土坑実測図 (縮尺1/40)

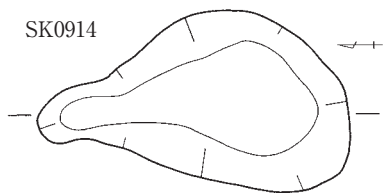
SK0901・SK0903・SK0904・SK0905・SK0908・SK0909・SK0910・SK0911・SK0916・SK0931



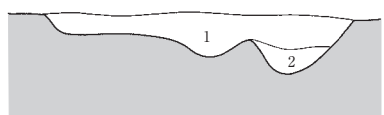
109.200m



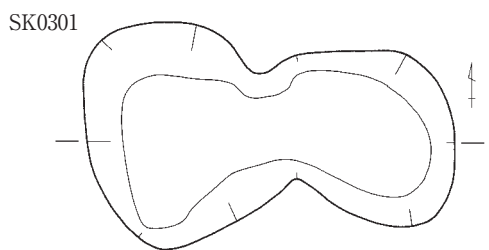
- SD15
 1 10YR3/1 黒褐色粘質土
 2 10YR4/1 褐灰色粘質土
 3 10YR3/1 黒褐色粘質土
 SK0906
 4 10YR3/1 黒褐色粘質土
 5 10YR3/1 黒褐色粘質土
 6 10YR3/1 黒褐色粘質土
 7 10YR2/1 黒色粘質土
 8 10YR3/1 黒褐色粘質土



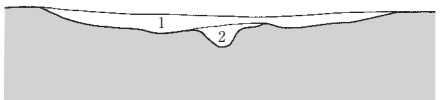
109.500m



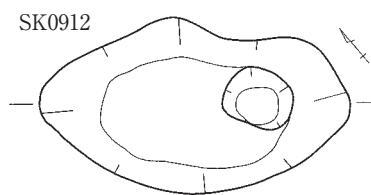
- SK0914
 1 10YR3/1 黒褐色粘質土
 2 10YR5/1 褐灰色粘質土



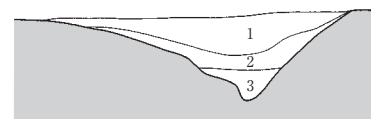
110.000m



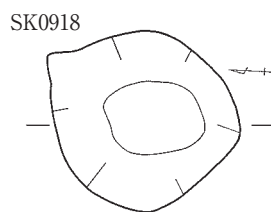
- SK0301
 1 10YR2/1 砂礫混黒色土
 2 10YR2/2 黒色粘質土



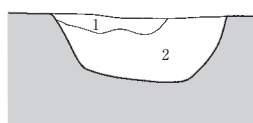
109.500m



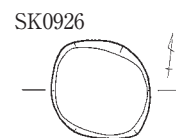
- SK0912
 1 10YR2/1 黒色粘質土
 2 10YR5/2 灰黄褐色粘質土
 3 10YR4/1 褐灰色粘質土



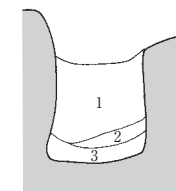
109.200m



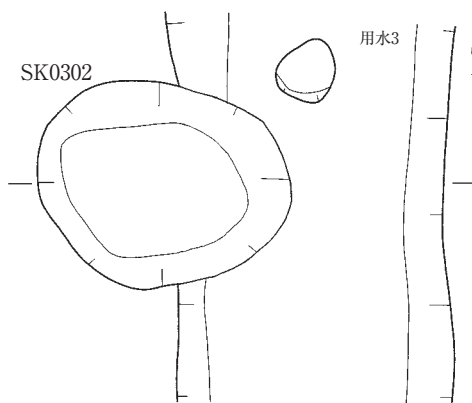
- SK0918
 1 10YR3/1 黒褐色粘質土
 2 10YR2/1 黒色粘質土



109.300m



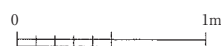
- SK0926
 1 10YR4/2 灰黄褐色粘質土
 2 10YR3/1 黒褐色粘質土
 3 10YR3/3 暗褐色粘質土



110.000m



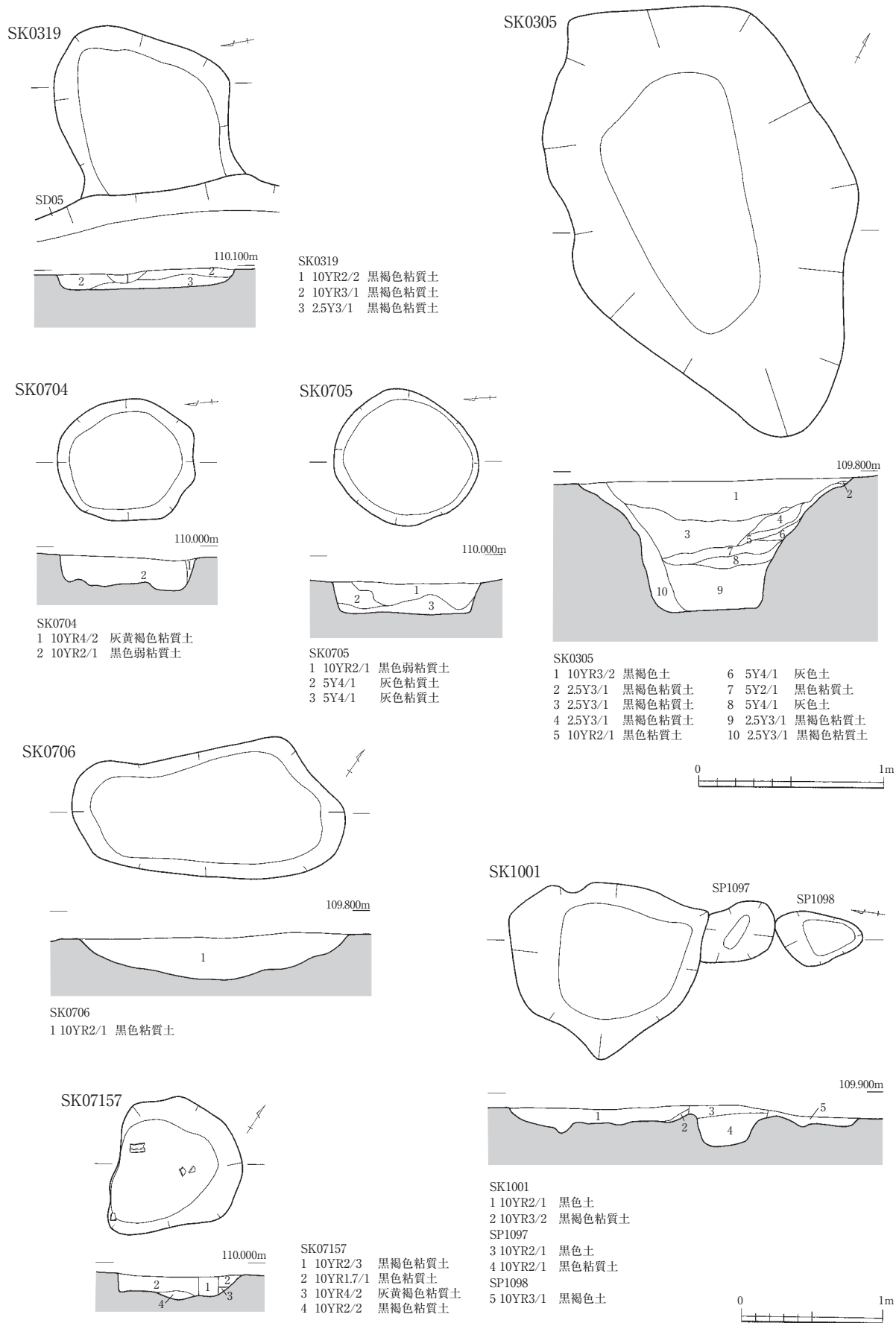
- 用水3
 1 10YR2/2 黒褐色粘質土
 SK0302
 2 10YR2/1 砂礫混黒色土



第40図 土坑実測図 (縮尺1/40)

SK0906・SK0912・SK0914・SK0918・SK0926・SK0301・SK0302

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第41図 土坑実測図 (縮尺1/40・1/60)
 SK0305・SK0319・SK0704・SK0705・SK0706・SK07157・SK1001

SK1001 (第41図)

10区G17グリッドで検出した。東側は重機による攪乱を受ける。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.38m、短軸1.24m、深さ0.11～0.19mをはかる。断面形は浅皿形を呈し、底面は平坦ではない。弥生土器が少量出土している。

SK0601 (第42図)

6区E18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.28m、短軸1.14m、深さ0.10mをはかる。断面形は浅皿形を呈する。弥生土器、土師器、須恵器が少量出土している。

SK0628 (第42図)

6区E13グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.70m、短軸0.68m、深さ0.38mをはかる。南側には長軸0.62m、短軸0.48m、深さ0.11mをはかる掘り込みがあり、2段掘りとなっている。遺物は確認していない。

SK0629 (第42図)

6区E13グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.76m、深さ0.61mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

SK0630 (第42図)

6区E14グリッドで検出した。上面形態は不整な円形を呈し、径0.82m、深さ0.33mをはかる。断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

SK0631 (第42図)

6区E13・E14グリッドで検出した。上面形態は円形を呈し、長軸0.64m、短軸0.62m、深さ0.31mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0638 (第42図)

6区D14グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.68m、短軸0.50m、深さ0.41mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK0639 (第42図)

6区D14・D15グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.40mをはかる。断面形は箱形を呈する。遺物は確認していない。

SK1406 (第42図)

14区Q17グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸1.02m、短軸0.72m、深さ0.25mをはかる。断面形はU字状を呈する。打製石斧1点と越前焼1片が出土している。

SK1503 (第42図)

15区S26グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸1.00m、短軸0.75m、深さ0.11mをはかる。断面形は逆台形を呈する。遺物は確認していない。

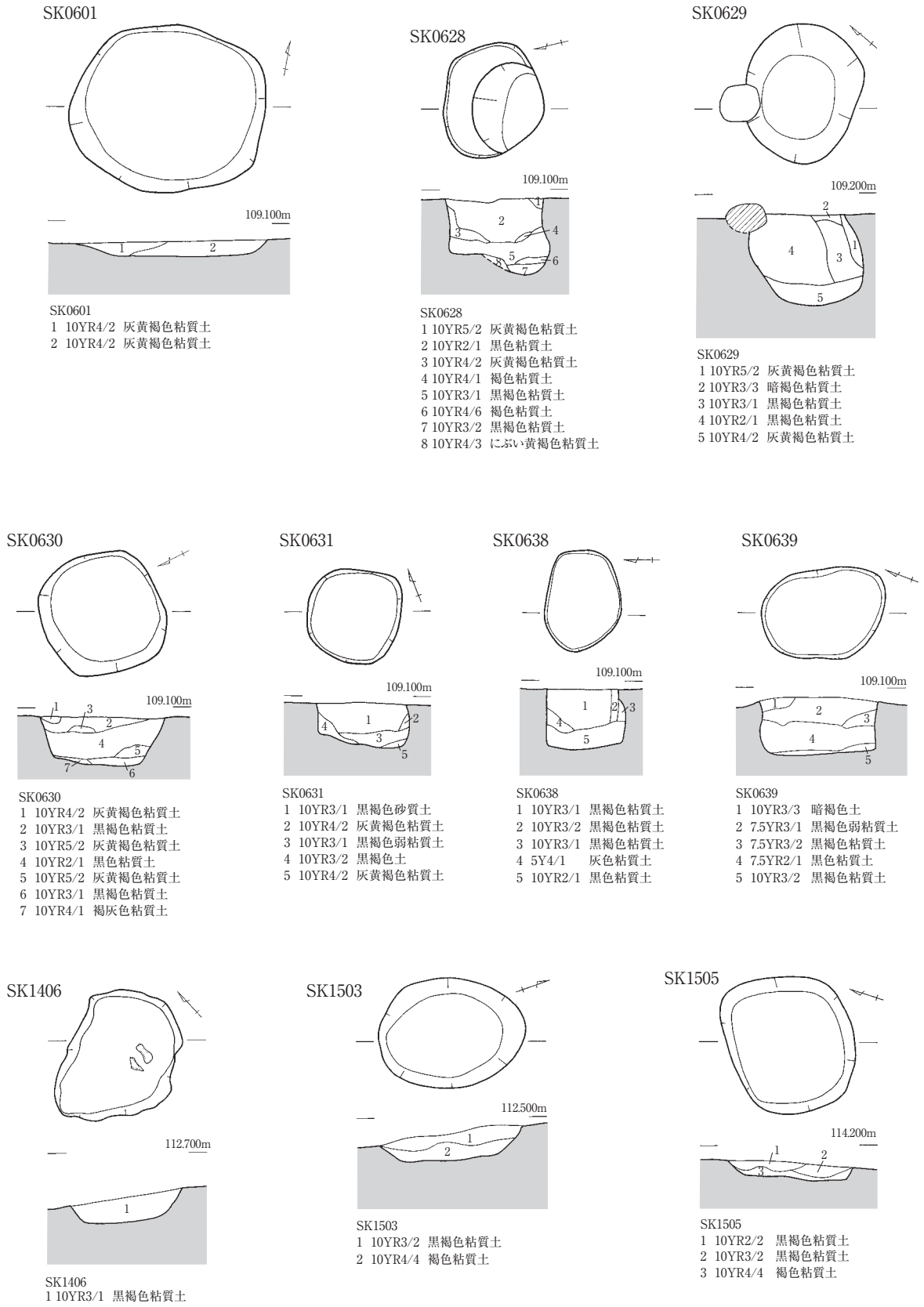
SK1505 (第42図)

15区U26グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.92m、短軸0.84m、深さ0.10mをはかる。断面形はU字状を呈する。遺物は確認していない。

V 柱穴

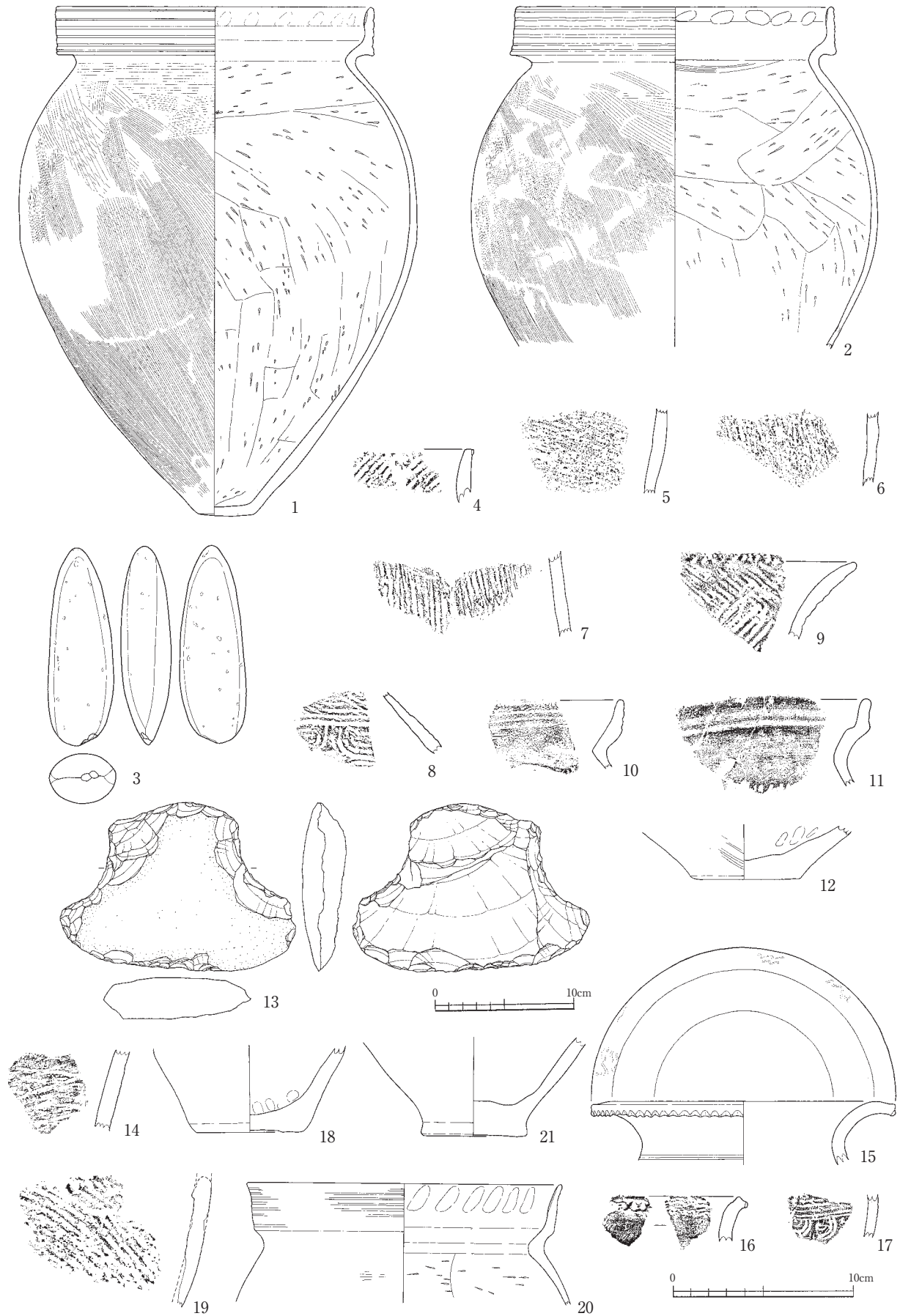
多数の柱穴または柱穴状ピットを検出しているが、遺物を伴うものを中心に取り上げる。

第1節 遺構および遺構内出土遺物



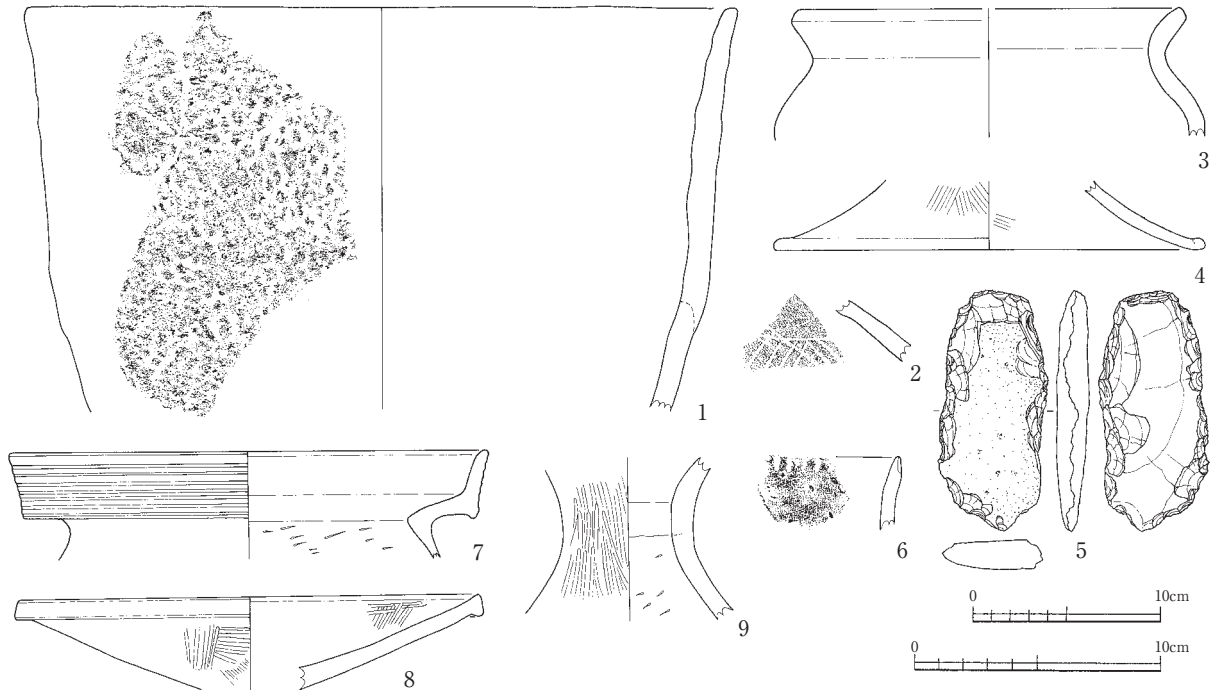
第42図 土坑実測図 (縮尺1/40)

SK0601・SK0628・SK0629・SK0630・SK0631・SK0638・SK0639・SK1406・SK1503・SK1505



第43図 土坑出土遺物実測図 (1・2・4~12・14~20:縮尺1/3, 3・13:縮尺1/4)

1: SK0102, 2: SK0112, 3: SK0114, 4~13: SK0901, 14: SK0905, 15~17: SK0906, 18: SK0909, 19・20: SK0911, 21: SK0931



第44図 土坑出土遺物実測図（1・4・6～8：縮尺1/3， 5：縮尺1/4）
1～5：SK0305， 6：SK0319， 7～9：SK07157

SP0119（第45図）

1区M1グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.71m、短軸0.39m、深さ0.20mをはかる。北側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.19mをはかる。

SP0136（第45・46図）

1区M8グリッドで検出した。上面形態は不整な楕円形を呈し、長軸0.59m、短軸0.36m、深さ0.05mをはかる。西側は2段掘りで、上段からの深さは0.12mである。弥生土器の壺（第46図1）が出土した。

SP07002（第45・46図）

7区I18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.56m、短軸0.29m、深さ0.27mをはかる。北東側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.11mをはかる。弥生土器の壺（第46図4）が出土した。

SP07120（第45・46図）

7区I12グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.72m、短軸0.44m、深さ0.13mをはかる。断面形は浅皿状を呈する。弥生土器の体部（第46図3）が出土している。

SP07209（第45・46図）

7区G18グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.34m、短軸0.27m、深さ0.47mをはかる。断面形はU字状を呈する。磨石（第46図6）が出土している。

SP07304（第45・46図）

7区I19グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.27m、深さ0.07～0.12mをはかる。断面形は逆台形を呈する。須恵器の坏（第46図5）が出土している。

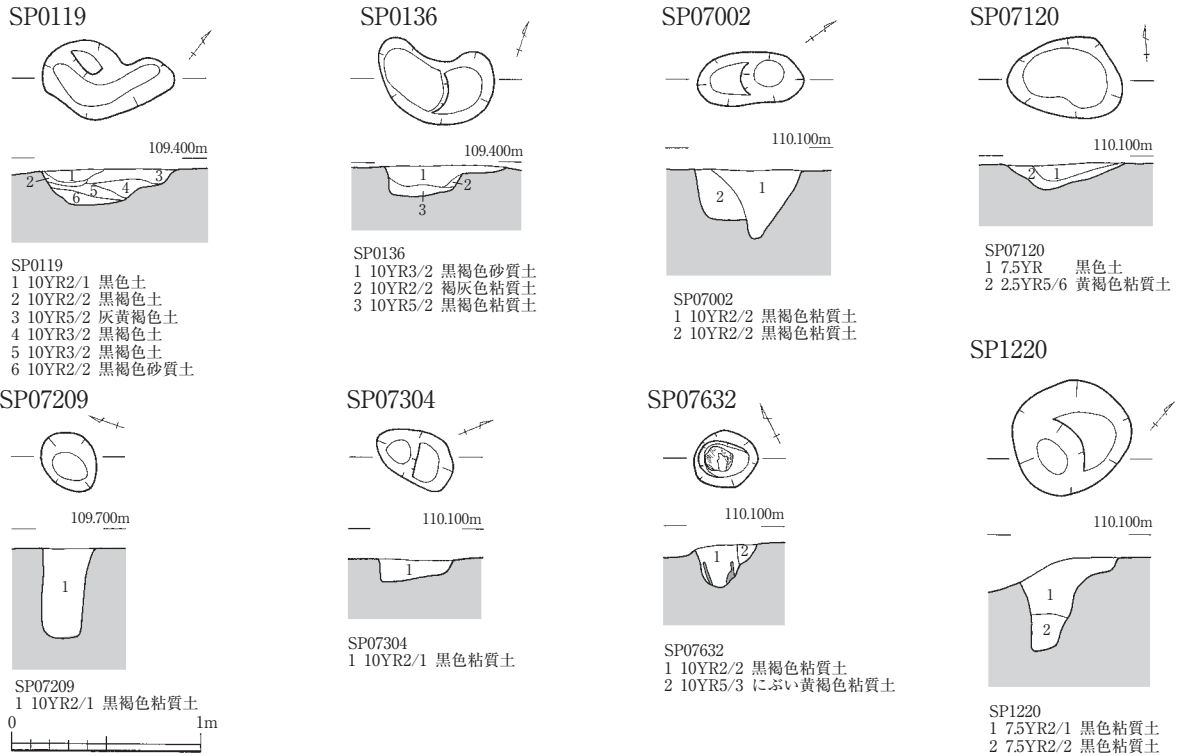
SP07632（第45・46図）

7区I14グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.44m、短軸0.30m、深さ0.22mをはかる。

柱根（第46図7）が遺存していた。

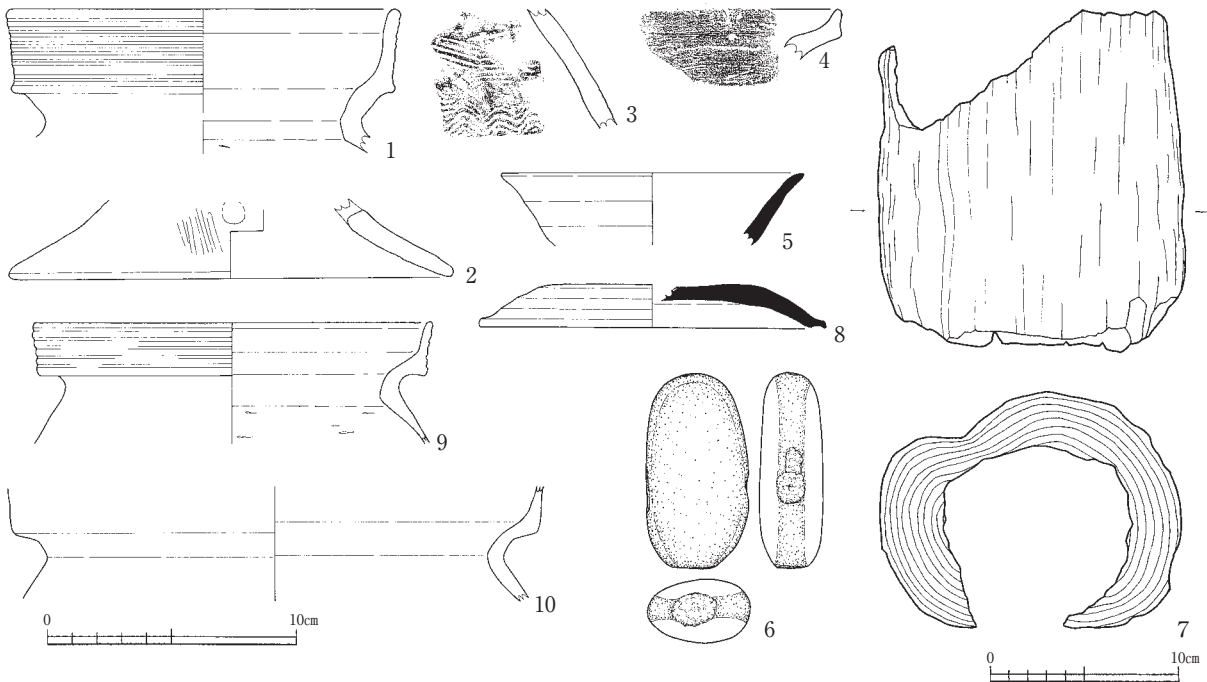
SP1220（第44・46図）

12区K22グリッドで検出した。上面形態は楕円形を呈し、長軸0.63m、短軸0.58m、深さ0.09mをはかる。南側は2段掘りとなっており、上段からの深さは0.39mをはかる。弥生土器の甕（第46図9・10）



第45図 柱穴実測図（縮尺1/40）

SP0119・SP0136・SP07002・SP07120・SP07209・SP07304・SP07632・SP1220



第46図 柱穴出土遺物実測図（1～5・8～10：縮尺1/3・6・7：縮尺1/4）

1：SP0136、2：SP0922、3：SP07126、4：SP07002、5：SP07304、6：SP07209、7：SP07632、8：SP10114、9：SP1220

が出土している。

VI 溝・自然流路

溝・自然流路は43条検出した。なお、鹿谷川旧流路については、別項を設ける。

SD01（第7～9・47・50～54図）

1・3・4・9・13・15区G2～R26グリッドにかけて検出した、丘陵裾を巡る自然流路である。南から北西方向に流れていたと想定される。幅2.05～6.10m、深さ0.42～1.26mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、木製品、石器、金属製品などが出土しており（第50～54図）、多岐にわたる。縄文時代から近世までの長期間にわたって、機能していたと考えられる。

SD02（第7・47・54図）

9区I2～K3グリッドにかけて検出した。半弧状を呈する自然流路で、南から北西方向に流れていたと想定される。SD01と区別したが、SD01が氾濫した時の流路である可能性が高い。流路は幅0.55～3.10m、深さ0.09～0.25mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は弥生土器と石器が主に出土している（第54図6～11）。

SD03（第7・8・47・55図）

3・5・7・9区F6～M14グリッドにかけて検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていたと想定される自然流路である。SD01の西肩部を切って構築されているが、SD03が機能している間もSD01は幅を縮小して流れていたと考えられる。幅1.76～3.63m、深さ0.17～0.26mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。出土遺物は弥生土器が中心である（第55図1～5）。

SD04（第7・8・47・55図）

5・7・9区E8～K12グリッドにかけて検出した。SD03と並列して、南東から北西方向に流れていたと想定される自然流路である。幅1.90～4.58m、深さ0.07～0.21mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器や石器（第55図19・20）も少量出土しているが、中心となる遺物は平安時代の土師器・須恵器である（第55図6～18）。

SD05（第8・47・56図）

3・4区L14～O21グリッドにかけて検出した自然流路で、南から北西方向に流れていたと想定される。現状ではSD01と併走してSD03に合流するが、SD01の流路の一部であった可能性もある。幅0.76～5.01m、深さ0.05～0.39mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生時代後期の土器（第56図1～7）を中心に、石器（第56図8～10）も出土している。

SD06（第7・8・47・57～59図）

3・4・5・7・10区E9～O21グリッドにかけて検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。調査地の制限により、SD01との前後関係については確認することができなかった。幅0.84～6.55m、深さ0.11～0.53mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物の中心は弥生土器であるが、縄文土器や石器も出土している（第57～59図）。また、上面では須恵器が出土している。

SD07（第8・48・56図）

3・4・7・10区F12～M19グリッドにかけて検出した。SD08から分かれて、南から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD17を切って構築され、用水4に切られる。SD38との前後関係を確認

することはできなかったが、SD38がSD07よりも新しい可能性が高いと考えられる。幅0.70～1.92m、深さ0.11～0.34mをはかり、U字状の断面形を呈する。出土遺物の中心は、弥生土器（第56図11～14）と石器である（第56図15～18）。

SD08（第8・9・48・60図）

3・4・12・13区G13～O23グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路で、SD01に切られる。SD38・SD39との前後関係を確認することはできなかったが、SD38・SD39がSD08よりも新しい可能性が高いと考えられる。幅0.83～2.35m、深さ0.13～0.77mをはかり、U字状の断面形を呈する。出土遺物の中心は、弥生土器と石器である（第60図）。

SD09（第7・8・48図）

7・9区F9～J13グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD10と並列する。幅1.95～3.63m、深さ0.02～0.06mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD10（第7・8・47・61図）

7・9区G10～K14グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD09と並列しており、SD06の氾濫時の流路を切って構築される。幅0.58～2.18m、深さ0.08～0.20mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。縄文土器、弥生土器、土師器などが一定量出土しているが、細片が多く、図化できるものは限られている。このうち、弥生時代中期の土器を図示した（第61図1）。

SD11（第7・48・61図）

1区M7～N8グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.37～0.50m、深さ0.14～0.22mをはかり、断面形は角が丸い箱形を呈する。弥生土器がまとまって出土している（第61図2～7）。

SD12（第8・47図）

3区K17・K18グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.40～0.72m、深さ0.07～0.12mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がややまとまって出土しているが、細片が多いため、図示することはできない。

SD13（第7・47・62図）

9区F8からI10グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。SD04を切って構築されており、耕作に伴うものである可能性が高い。幅0.38～0.68m、深さ0.04～0.12mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器のほか、須恵器（第62図1）、勾玉（第62図2）が出土している。

SD14（第7図）

9区K5・L5グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.22～0.54m、深さ0.19～0.26mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD15（第7・48・61図）

9区G3～H3グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。SK0906を切って構築される。幅0.60～1.06m、深さ0.08～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。縄文土器（第61図8）が出土している。

SD16（第7・48・61図）

9区F9～G10グリッドにかけて検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅

0.58～1.02m、深さ0.04～0.21mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。完形の手づくね土器（第61図9）などが出土している。

SD17（第8・48図）

3・4区M19～N20グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD07に切られる。幅0.27～0.85m、深さ0.06～0.15mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD18（第8・47・61図）

7・10区G12～H13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD06から分かれて、再びSD06に合流している。土層を観察すると、SD06に切られていることから、SD06の氾濫時の流路と見るべきであろう。幅0.52～1.10m、深さ0.09～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器が多く出土しているが、図示できるものは少ない（第61図10～14）。このほか、少量の須恵器と、石器（第61図15）などが出土している。

SD19（第8・48・49・62図）

10区F13～G12グリッドにかけて検出した。SD18から分かれて、東から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。SD35と用水4に切られる。幅0.60～0.74m、深さ0.08～0.16mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。須恵器（第62図3）が出土している。

SD20（第8・48・62図）

6・10区F19～G20グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝であり、鹿谷川旧流路から水を引いていた水路と考えられる。幅0.35～1.45m、深さ0.05～0.82mをはかり、断面形は逆台形を呈する。弥生土器、須恵器（第62図4～7）、土師器、石器（第62図8）などが出土している。

SD21（第7図）

9区I3グリッドで検出した。SD02から分かれて、SD01に合流しており、西から東方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.55～1.26m、深さ0.06mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD22（第7・47図）

5区E9・E10グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.33～0.85m、深さ0.04～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD23（第8・49図）

8区B15・B16グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝である。幅0.28～0.61m、深さ0.05～0.09mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD24（第9・49図）

13区O23グリッドで検出した。北東から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.82～1.61m、深さ0.04～0.08mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD25（第9図）

13区P23・P24グリッドで検出した。SD01から分かれて、南東から北西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.86～1.18m、深さ0.09～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD26 (第8・49図)

14区Q18～R17グリッドにかけて検出した。東から西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.40～1.55m、深さ0.08～0.30mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図化できるものはない。

SD28 (第8・49図)

14区Q17グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.35～0.88m、深さ0.07～0.22mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD29 (第8・49図)

14区Q19グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.25～0.35m、深さ0.09～0.16mをはかり、U字状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD30 (第8・49図)

14区Q19グリッドで検出した。南から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.38～0.42m、深さ0.05～0.12mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。須恵器がわずかに出土している。

SD31 (第8・49図)

14区Q20グリッドで検出した。南西から北西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.40～0.45m、深さ0.07～0.11mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD32 (第9・49・62図)

15区U27～T28グリッドで検出した。北西から南西方向に流れていた自然流路と考えられる。幅0.85～2.68m、深さ0.31～1.01mをはかり、U字状の断面形を呈する。越前焼(第62図9)と石器(第62図10)が出土している

SD33 (第8・48図)

10区G13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.44～0.65m、深さ0.05～0.18mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD34 (第8・49図)

7区L16グリッドで検出した。東から西方向に流れていた自然流路と考えられ、SD07に合流する。幅0.19～0.58m、深さ0.05～0.09mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD35 (第8図)

10区F13グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられ、SD33と同一の溝である可能性もある。SD19を切り、用水4に切られる。幅0.35～0.55m、深さ0.03～0.05mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図示できるものはない。

SD36 (第7・49図)

9区G3・H2グリッドで検出した。南西から北方向に流れていた溝と考えられる。幅0.28～0.58m、深さ0.02～0.10mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD37 (第7・49図)

9区G7～L10グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝と考えられる。耕作に伴う溝と想定され、その流路は2回折れ曲がる。幅0.35～0.65m、深さ0.03～0.18mをはかり、U字状の断面形を呈する。弥生土器がわずかに出土しているが、図示できるものはない。

SD38 (第8・49図)

7区I14グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝で、耕作に伴うものと考えられる。幅0.30～0.68m、深さ0.21mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD39 (第8・49図)

7・10区I15～F14グリッドで検出した。東から西方向に向かって流れていた溝で、途中で折れ曲がって北を向く。耕作に伴うものと考えられる。幅0.22～0.45m、深さ0.10～0.14mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD40 (第8・9・49図)

7・10・12区G16～J22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝で、SD41・SD42とほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.20～0.80m、深さ0.05～0.20mをはかり、角が緩やかな箱状の断面形を呈する。弥生土器が少量出土しているが、図示できるものはない。

SD41 (第8・9・49図)

7・12区I18～L22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝で、SD40・SD42とほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.23～0.78m、深さ0.02～0.19mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。弥生土器がややまとまって出土しているが、細片が多いため、図化することはできない。

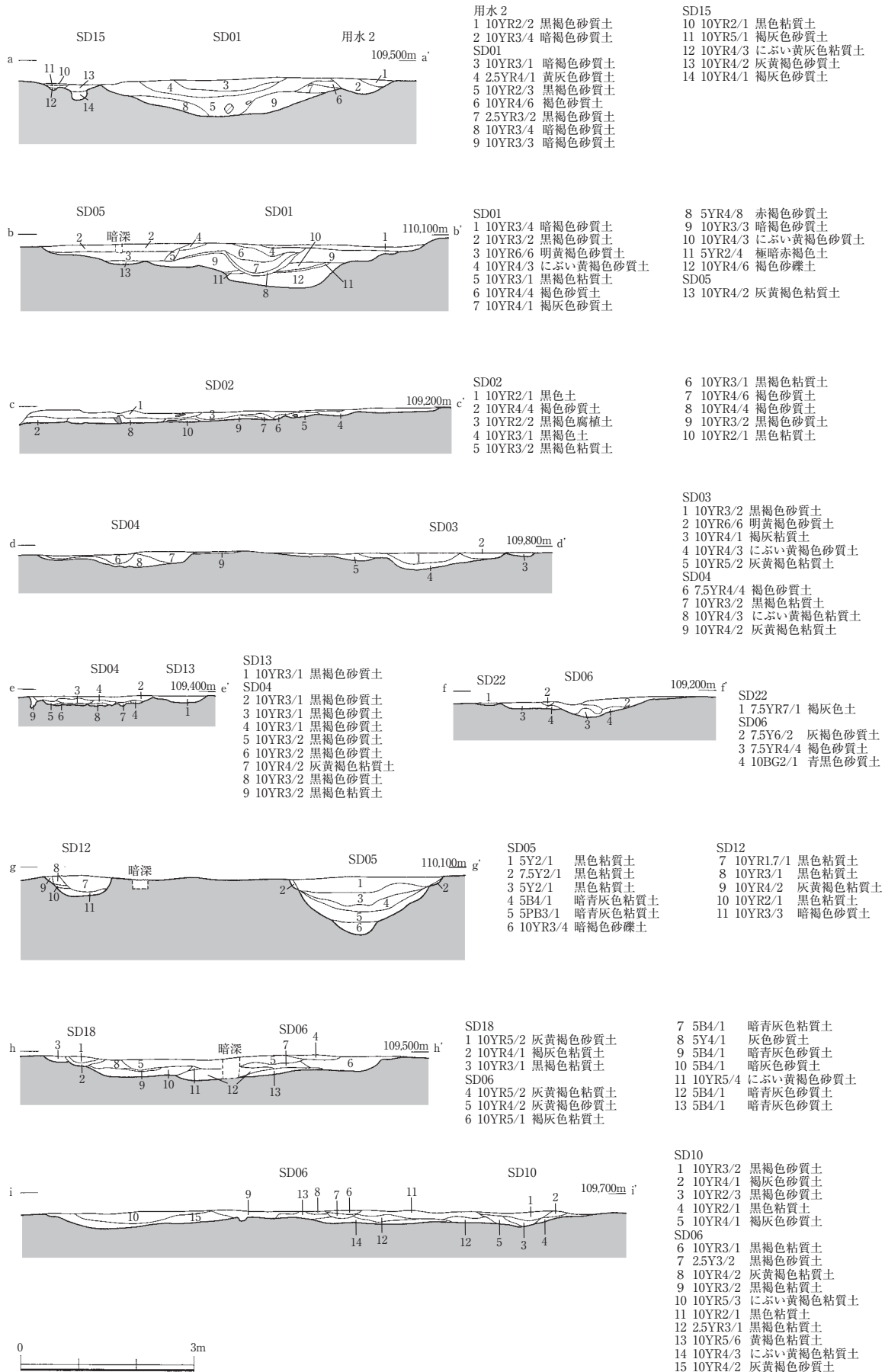
SD42 (第9・49図)

12区I21・I22グリッドで検出した。南東から北西方向に流れていた溝であり、SD40・SD41とほぼ並行して走る。耕作に伴うものと考えられる。幅0.25～0.57m、深さ0.05～0.18mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

SD43 (第9・49図)

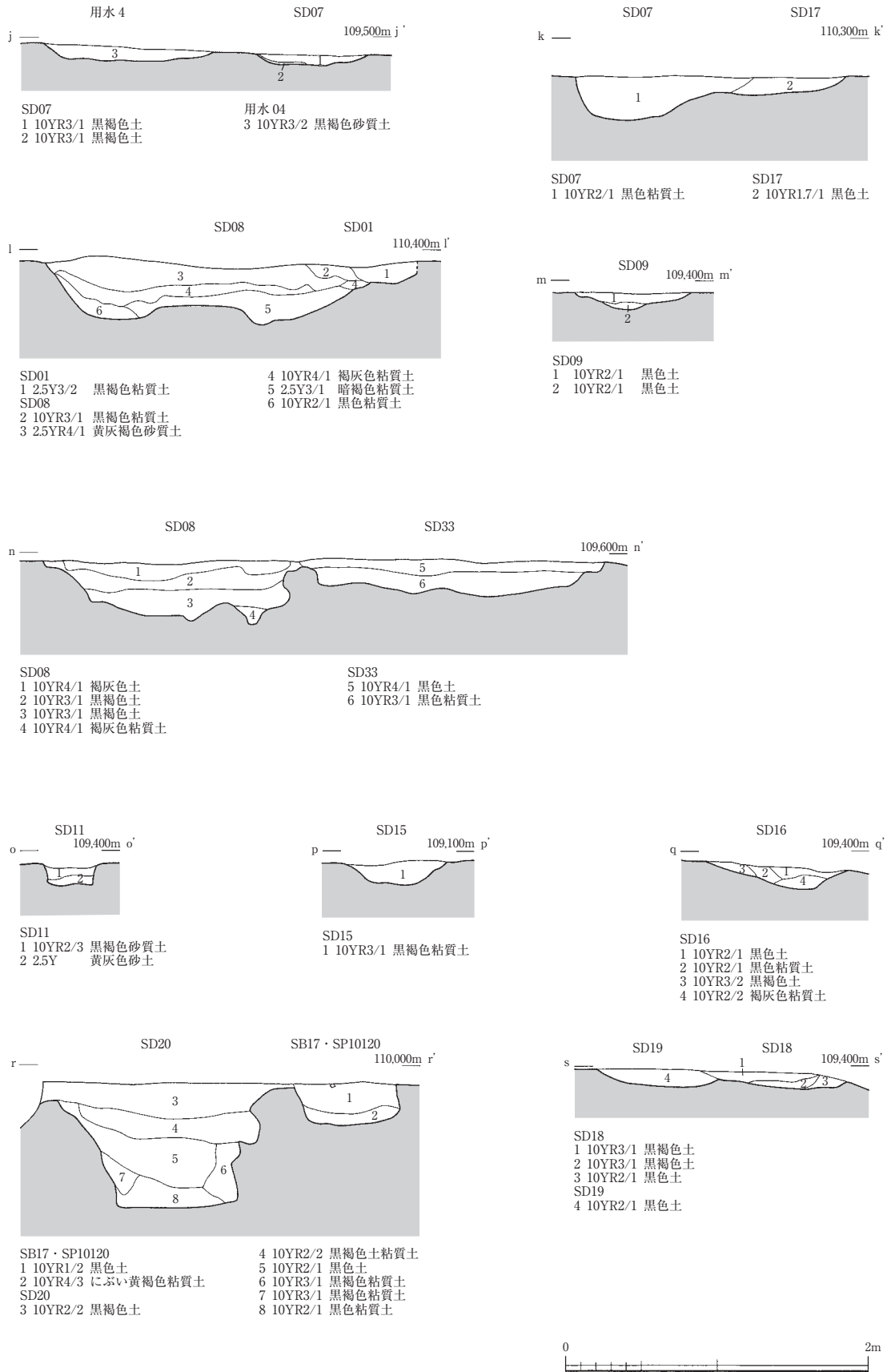
13区O24・P24グリッドで検出した。東から西方向に流れていた溝と考えられる。幅0.25～0.33m、深さ0.04～0.07mをはかり、浅皿状の断面形を呈する。遺物は確認していない。

第4章 遺構と遺物



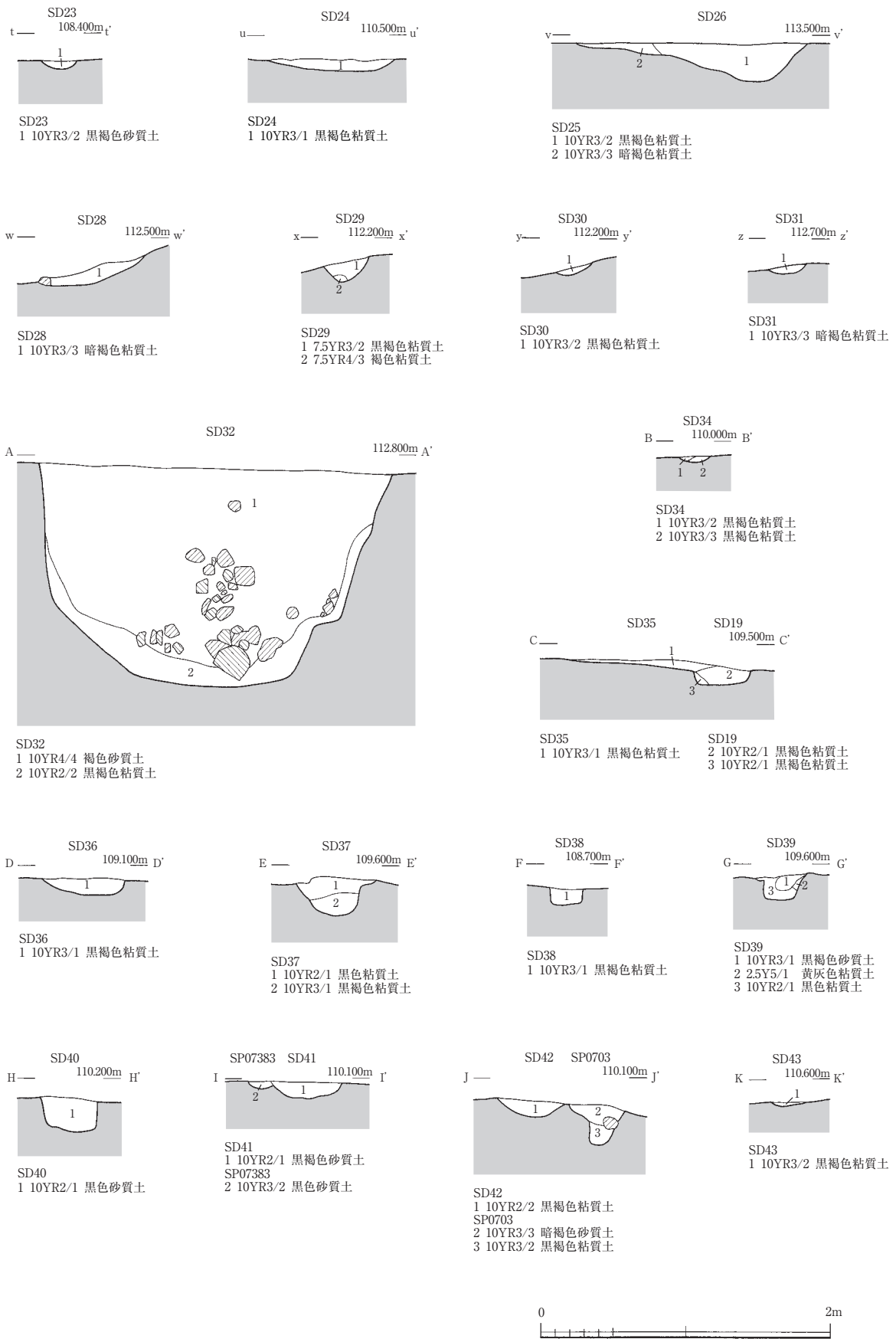
第47図 溝・自然流路土層断面図 (縮尺1/100)
 SD01~06・SD10・SD12・SD13・SD18・SD22

第1節 遺構および遺構内出土遺物



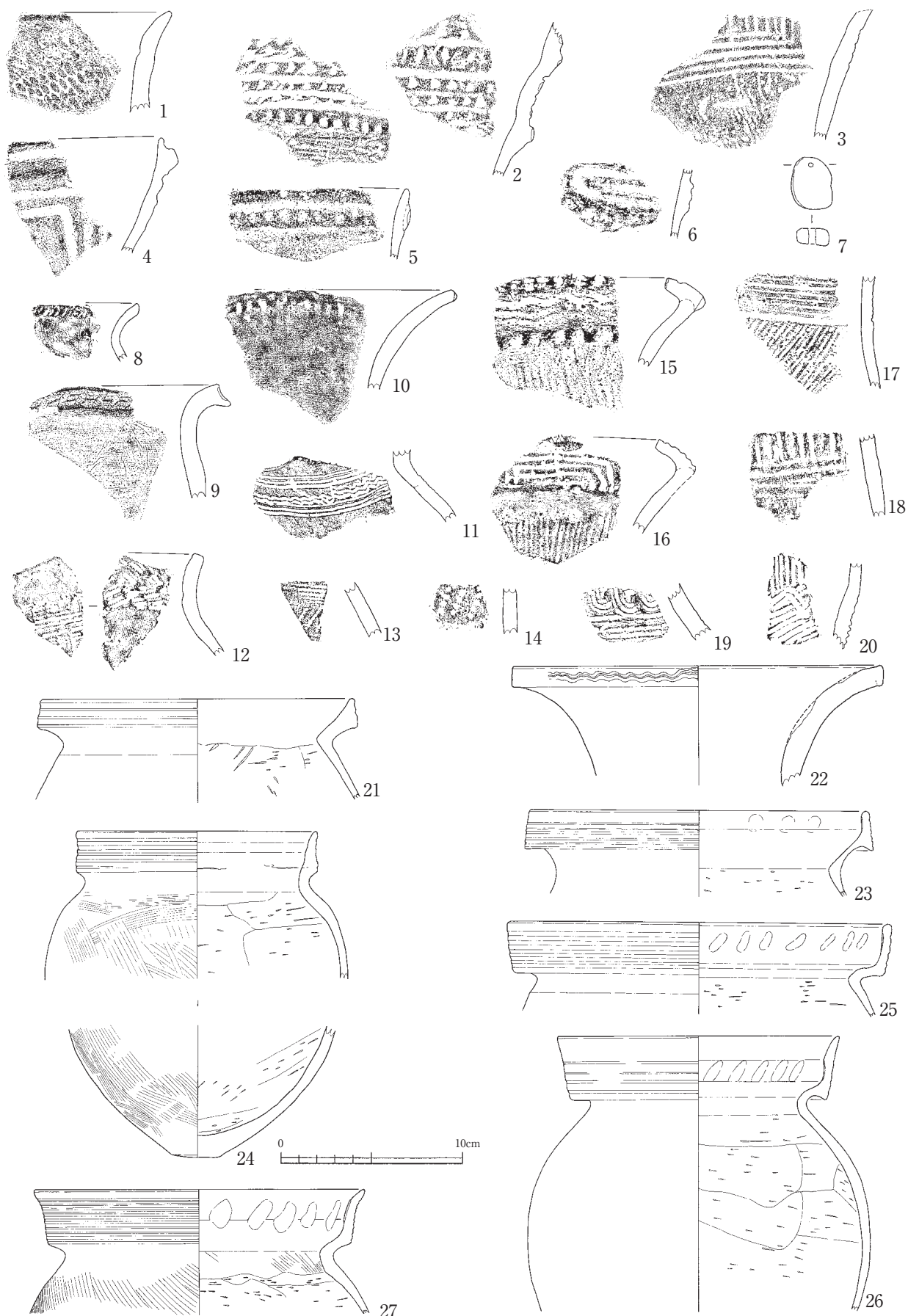
第48図 溝・自然流路土層断面図 (縮尺1/40)
SD01・SD07~09・SD11・SD15・SD16~20, SD33

第4章 遺構と遺物

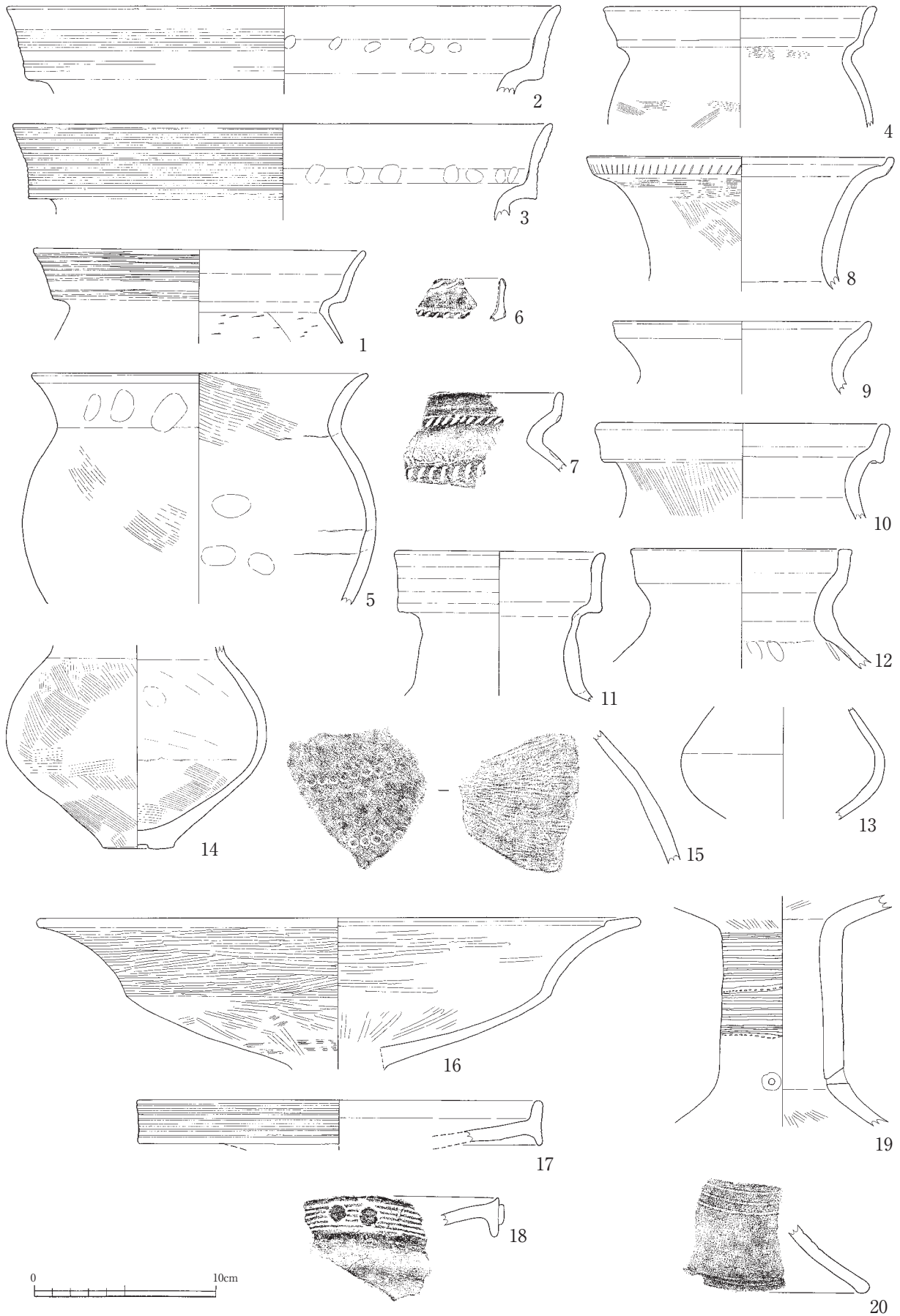


第49図 溝・自然流路土層断面図 (縮尺1/40)
SD19・SD23・SD24・SD26・SD28~32・SD34~43

第1節 遺構および遺構内出土遺物

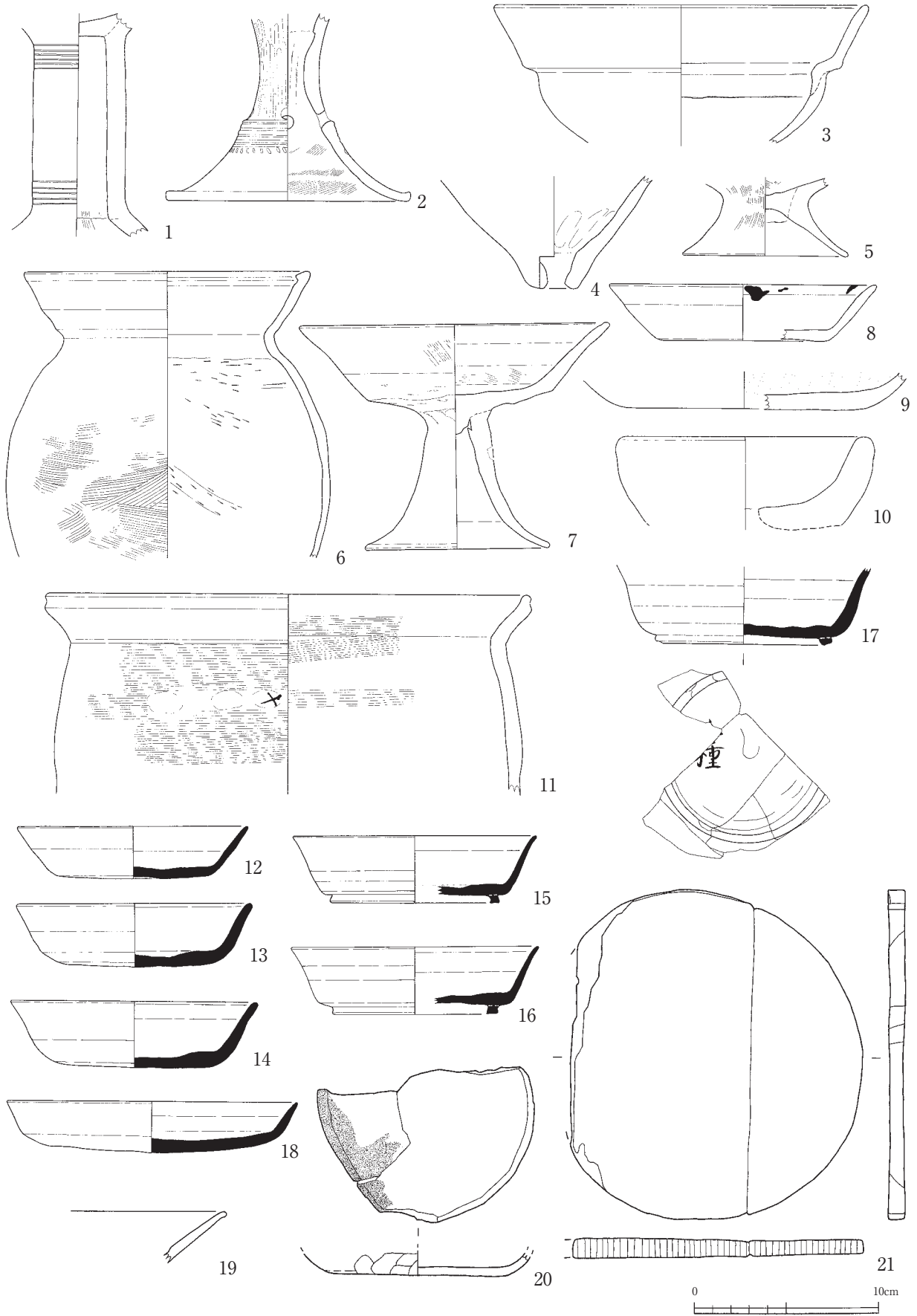


第50図 自然流路SD01出土遺物実測図 (縮尺1/3)



第51図 自然流路SD01出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

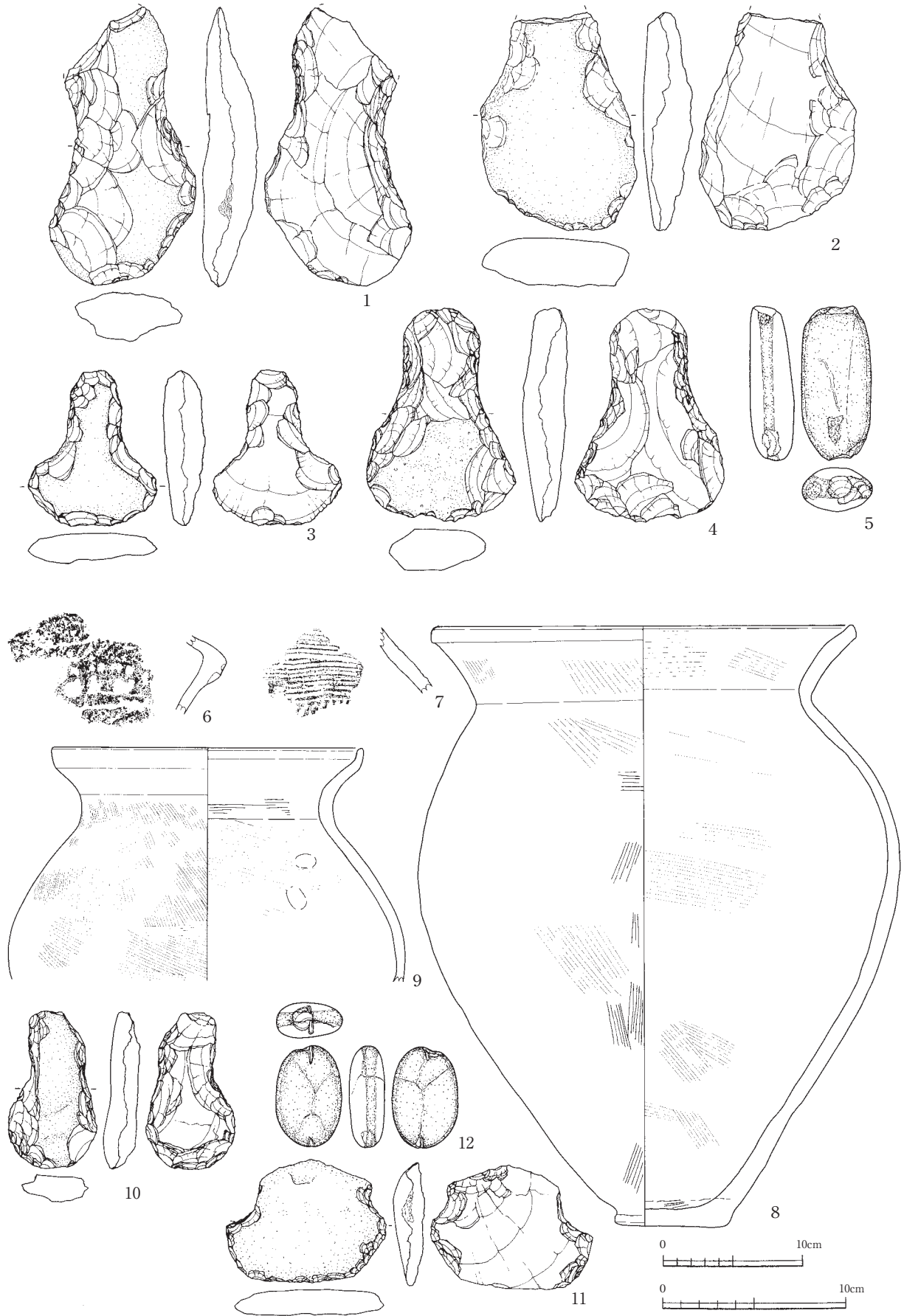


第52図 自然流路SD01出土遺物実測図（縮尺1/3）

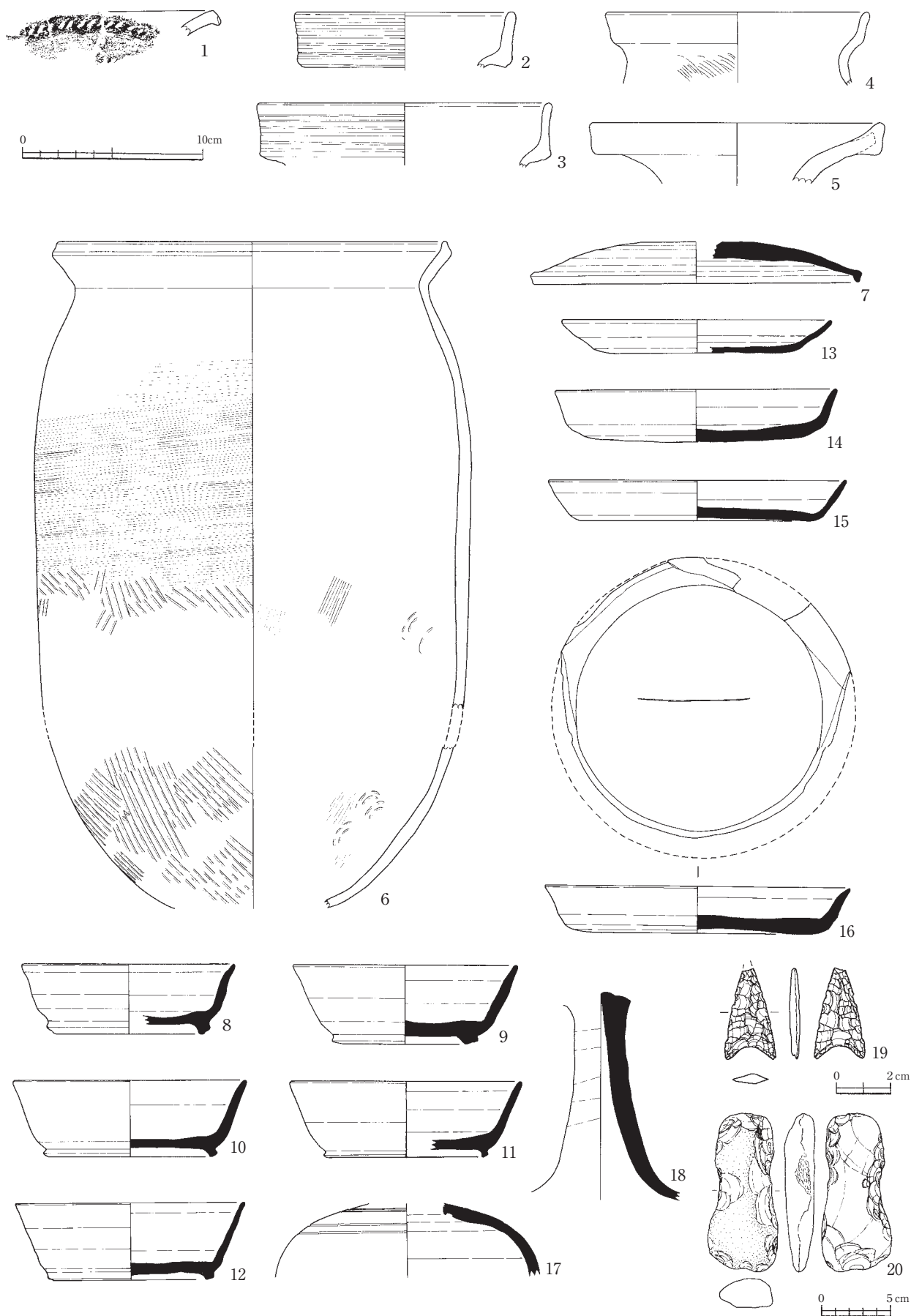


第53図 自然流路SD01出土遺物実測図 (1・2:縮尺1/2, 3~11:縮尺1/4, 12:縮尺1/3)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

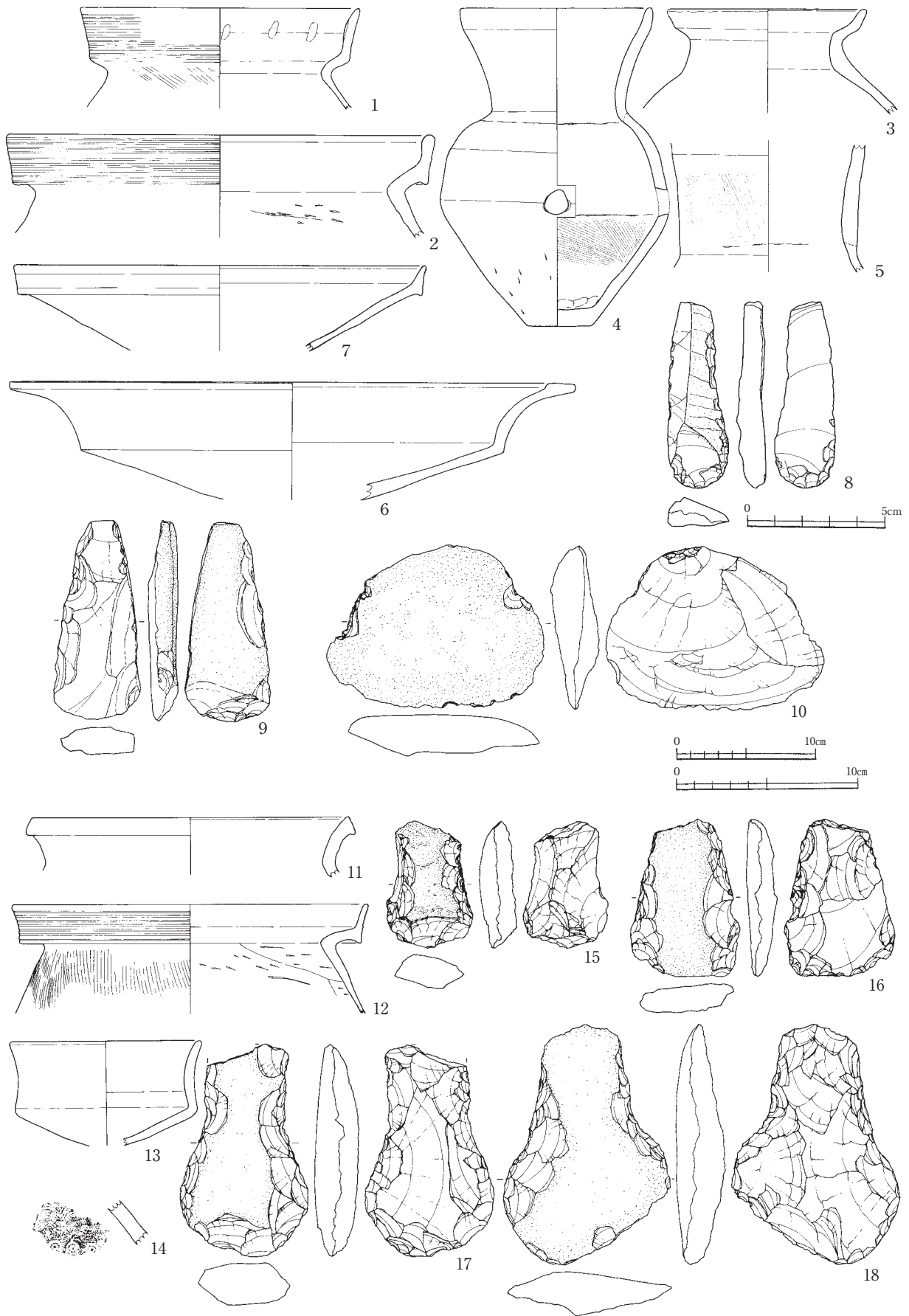


第54図 自然流路SD01・SD02出土遺物実測図 (1~5・10~12:縮尺1/4, 6~8:縮尺1/3)
 1~5:SD01, 6~11:SD02

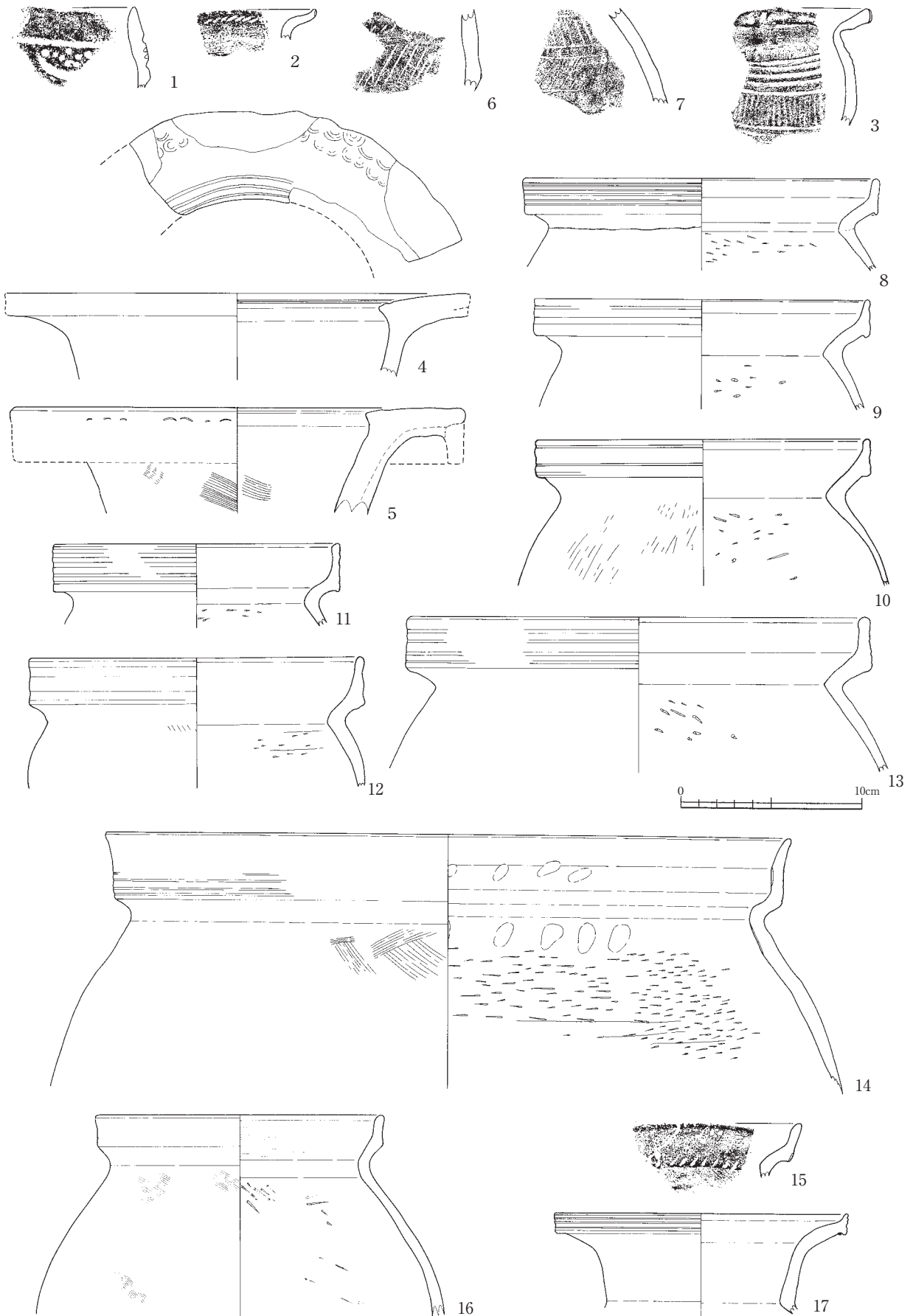


第55図 自然流路SD03・SD04出土遺物実測図 (1~18: 縮尺1/3, 19: 縮尺1/2, 20: 縮尺1/4)
1~5: SD03, 6~20: SD04

第1節 遺構および遺構内出土遺物

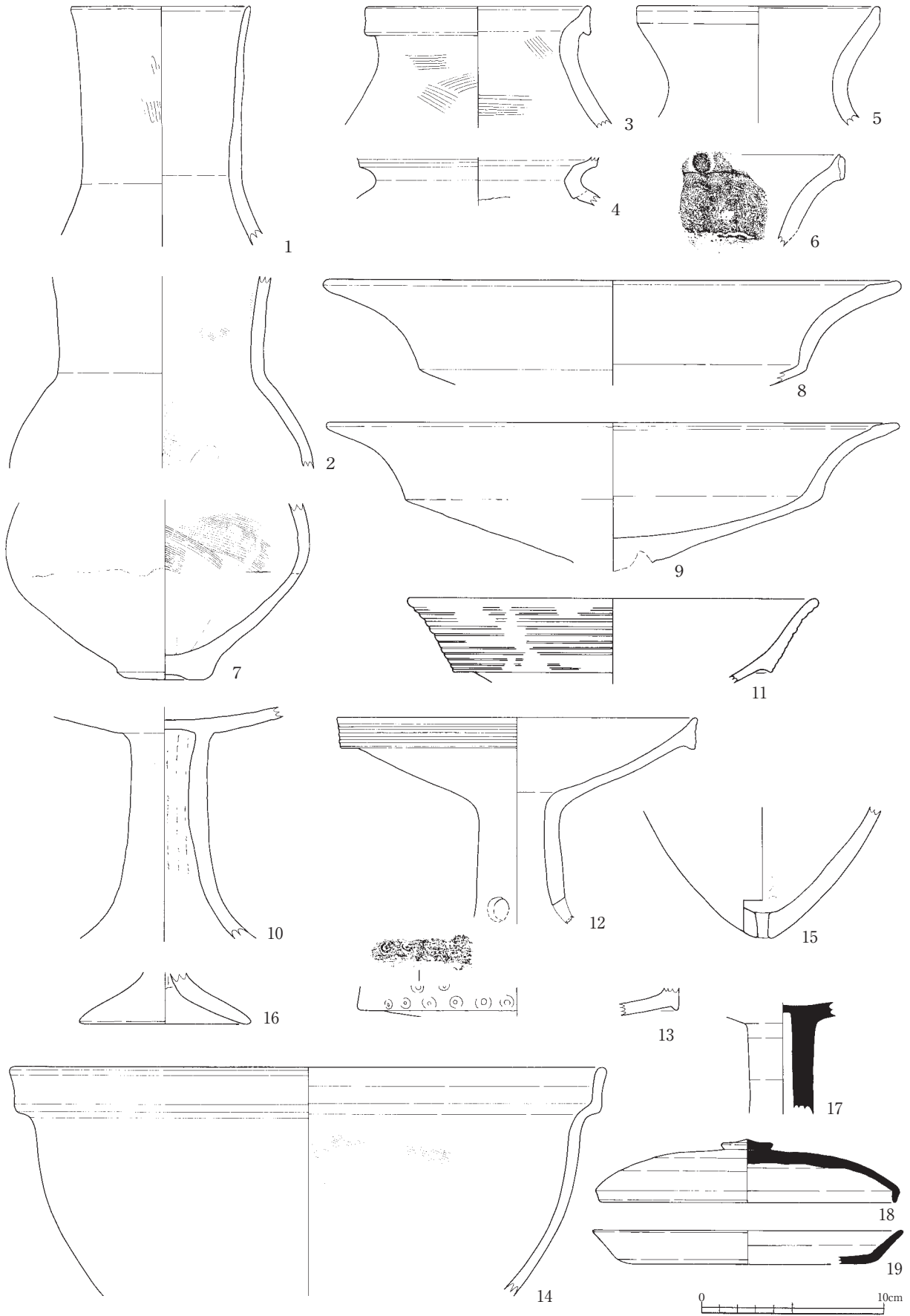


第56図 自然流路SD05・SD07出土遺物実測図(1～7・11～14：縮尺1/3, 8：縮尺1/2, 9・10・15～16：縮尺1/4)



第57図 自然流路SD06出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

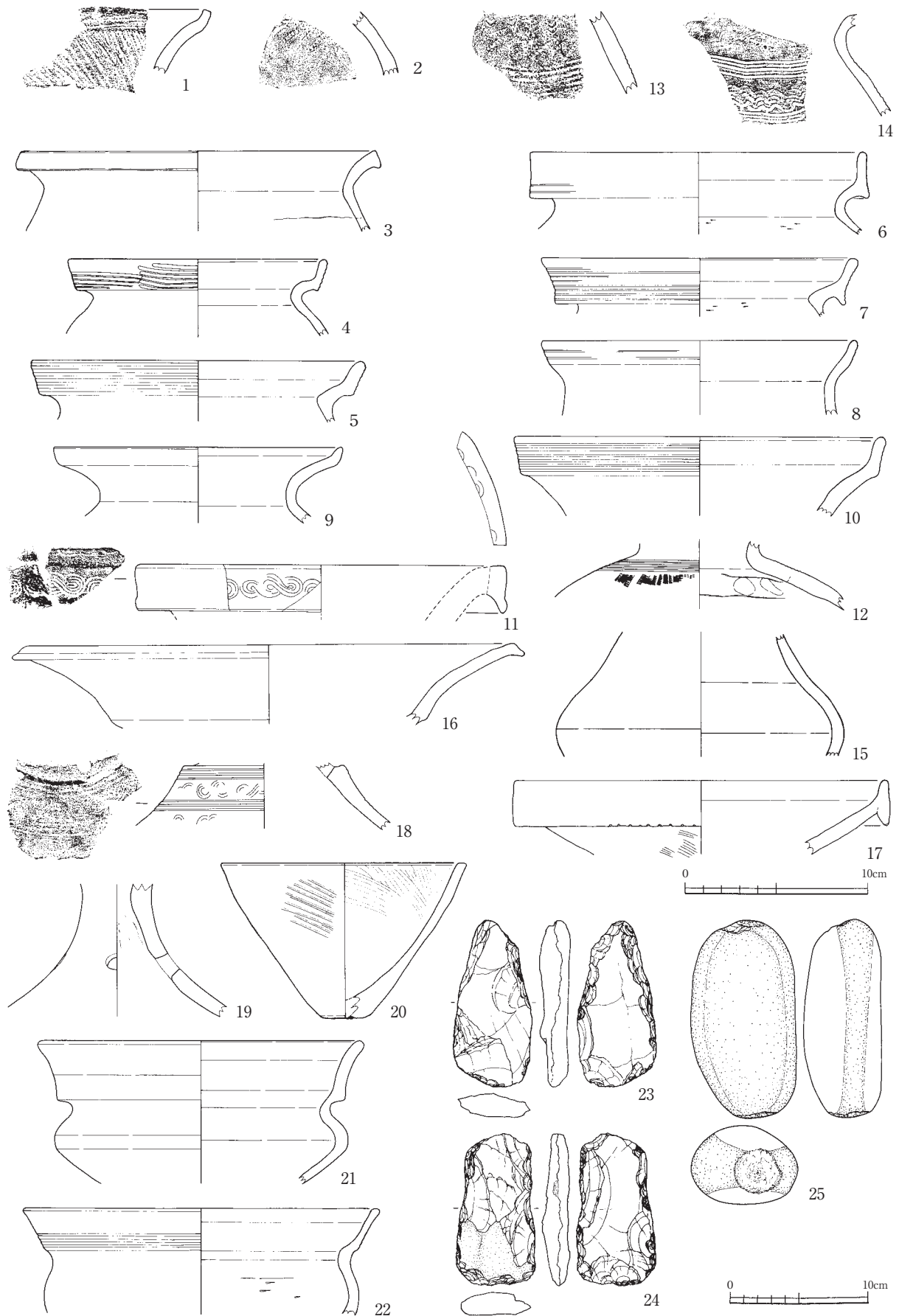


第58図 自然流路SD06出土遺物実測図（縮尺1/3）

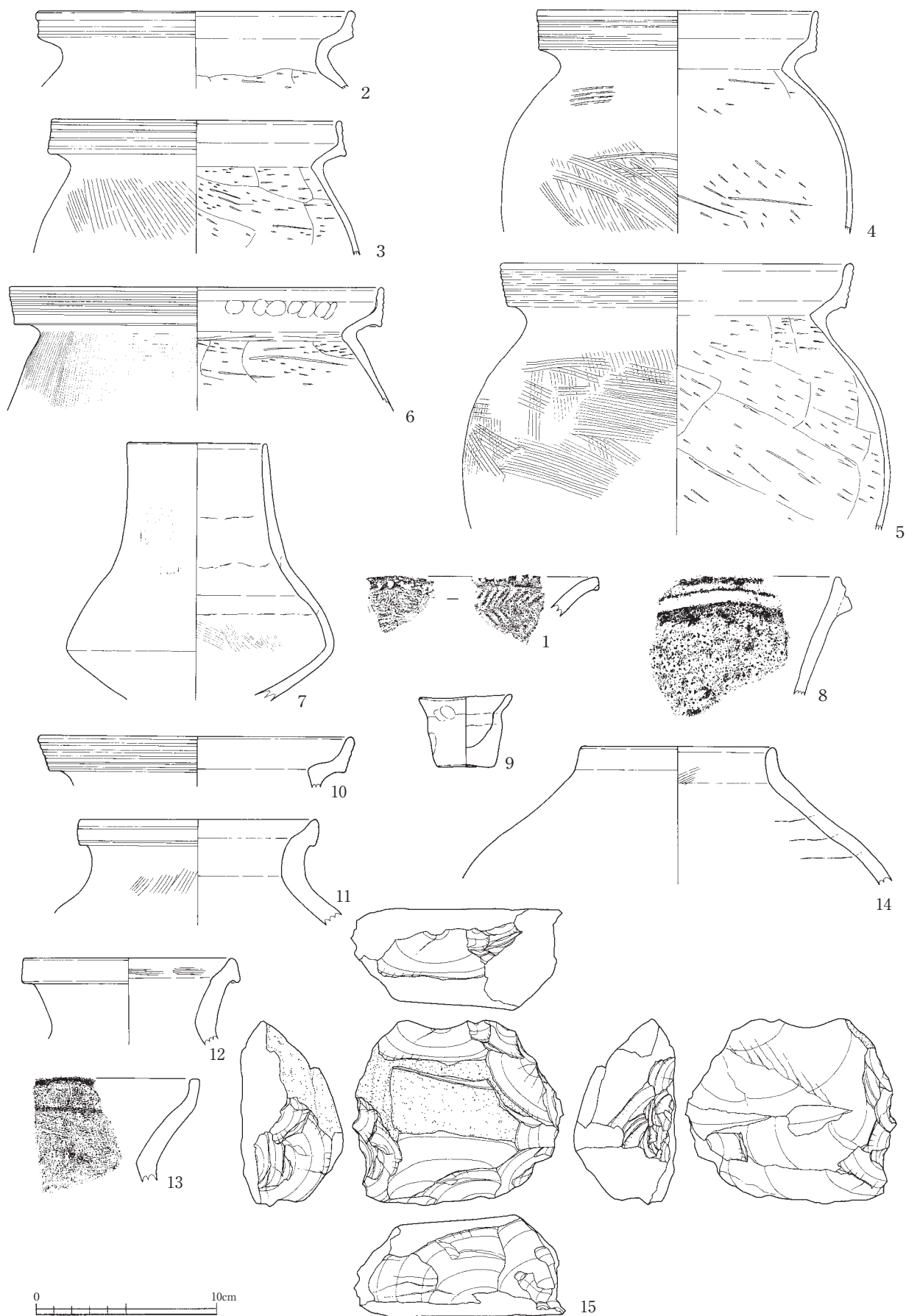


第59図 自然流路SD06出土遺物実測図 (縮尺1/4)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

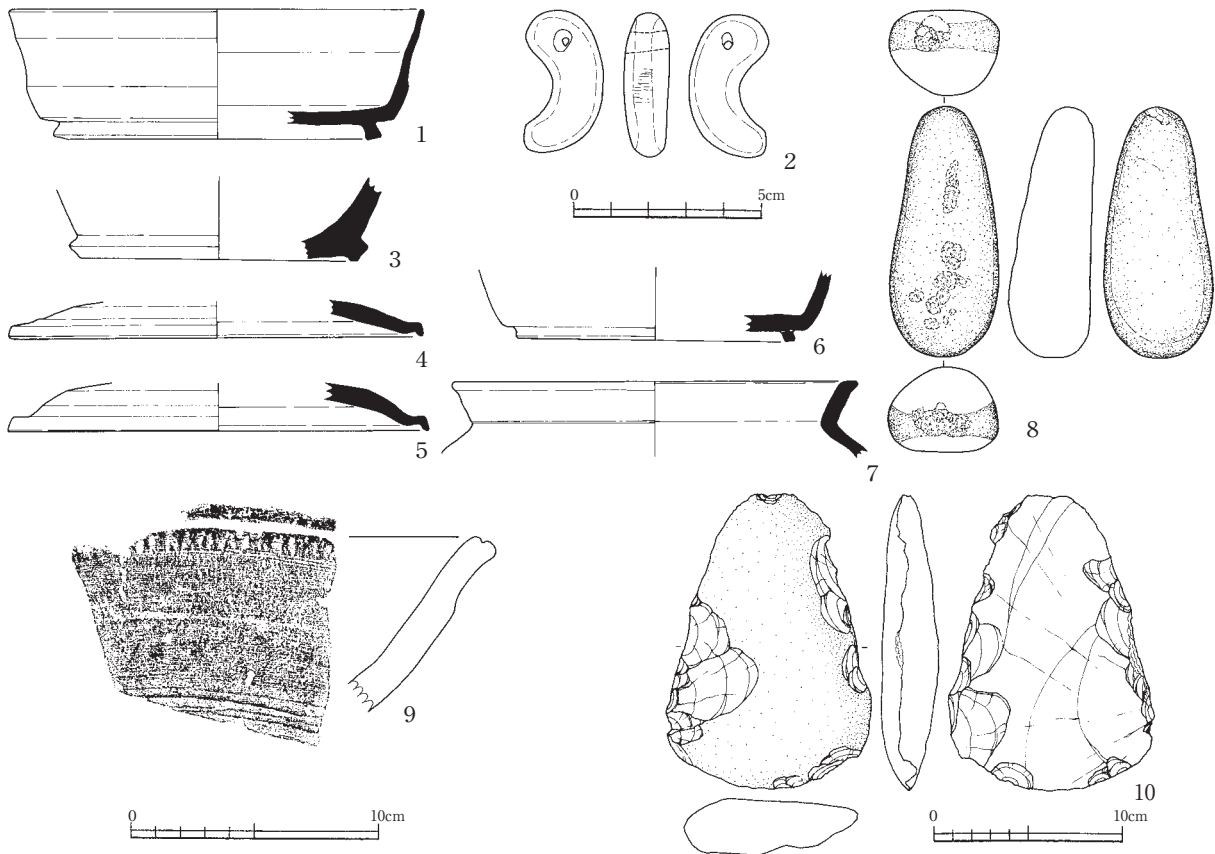


第60図 自然流路SD08出土遺物実測図 (1~22: 縮尺1/3, 23~25: 縮尺1/4)



第61図 溝・自然流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

1 : SD10, 2~7 : SD11, 8 : SD15, 9 : SD16, 10~15 : SD18



第62図 溝・自然流路出土遺物実測図（1・3～7・9：縮尺1/3，2：縮尺1/2，8・10：縮尺1/4）
1・2：SD13，3：SD19，4～8：SD20，9・10：SD32

Ⅶ 鹿谷川旧流路（第63図～第87図）

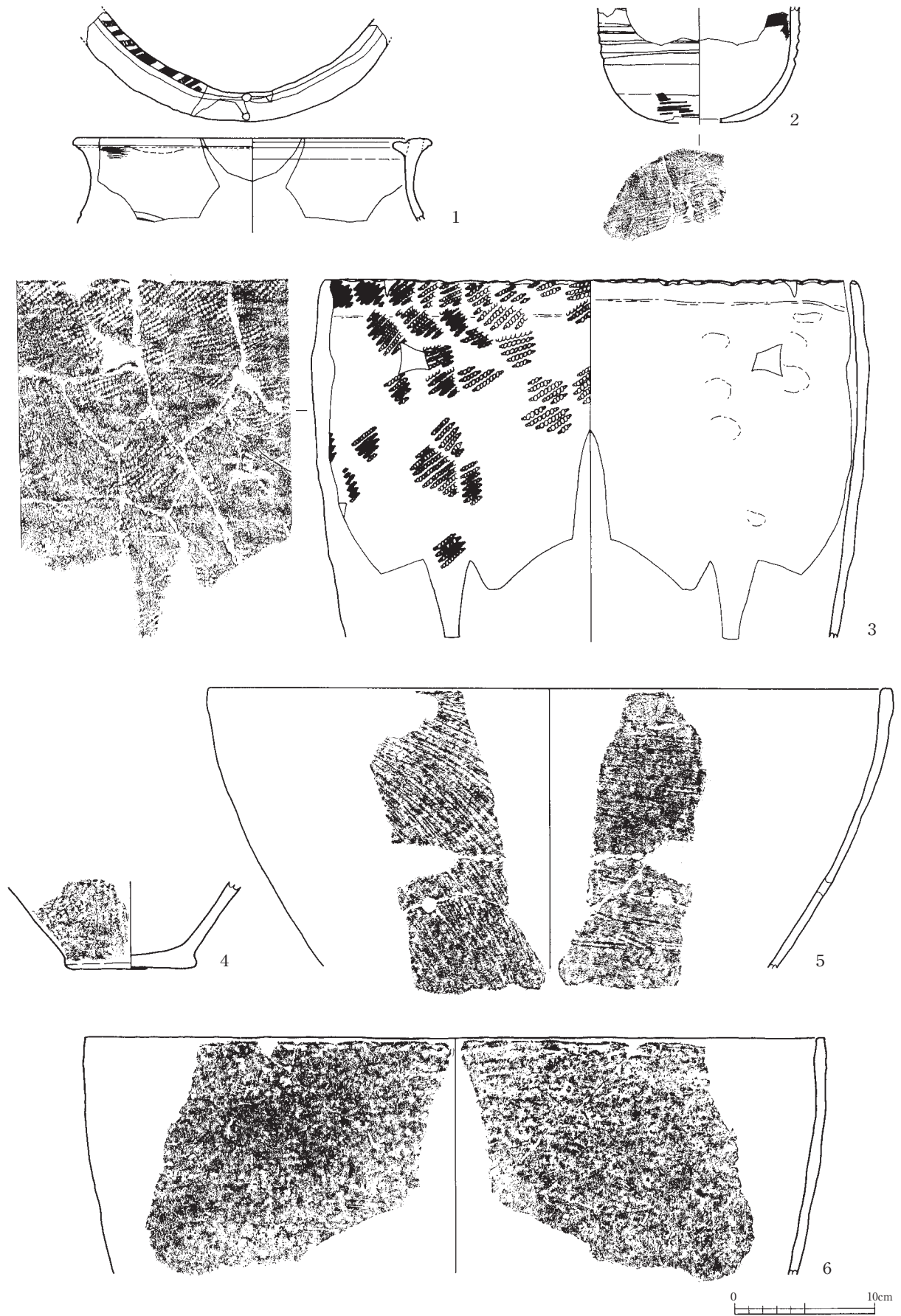
6・7・8・10・11・12区A15～L26グリッドで検出した河川である。その流路は、今回の調査区の南側を掠めるように北進するもので、右岸のみを確認している。昭和40年代の圃場整備時に当地を流れていた鹿谷川の流路を変更したことが知られており、今回検出した河川がその規模と位置から鹿谷川の旧流路であると判断した。

現在の鹿谷川は調査区の南端から約50m離れたところにあり、南東から北西方向に流れて九頭龍川に合流している。

右岸のみの検出であるため、川幅は不明であるが、現在の鹿谷川が10～20mであることを考えると、ほぼ同等の川幅であったのではないかと想像される。深さは0.30～1.25mをはかり、海拔高は105.400～108.700mである。上層は圃場整備時の厚い埋土（1～21層）に覆われていた。22層～67層は自然堆積と考えられ、流木を多数含んでいた。

縄文時代から近・現代までの遺物が出土している（第64図～第87図）。

第1節 遺構および遺構内出土遺物

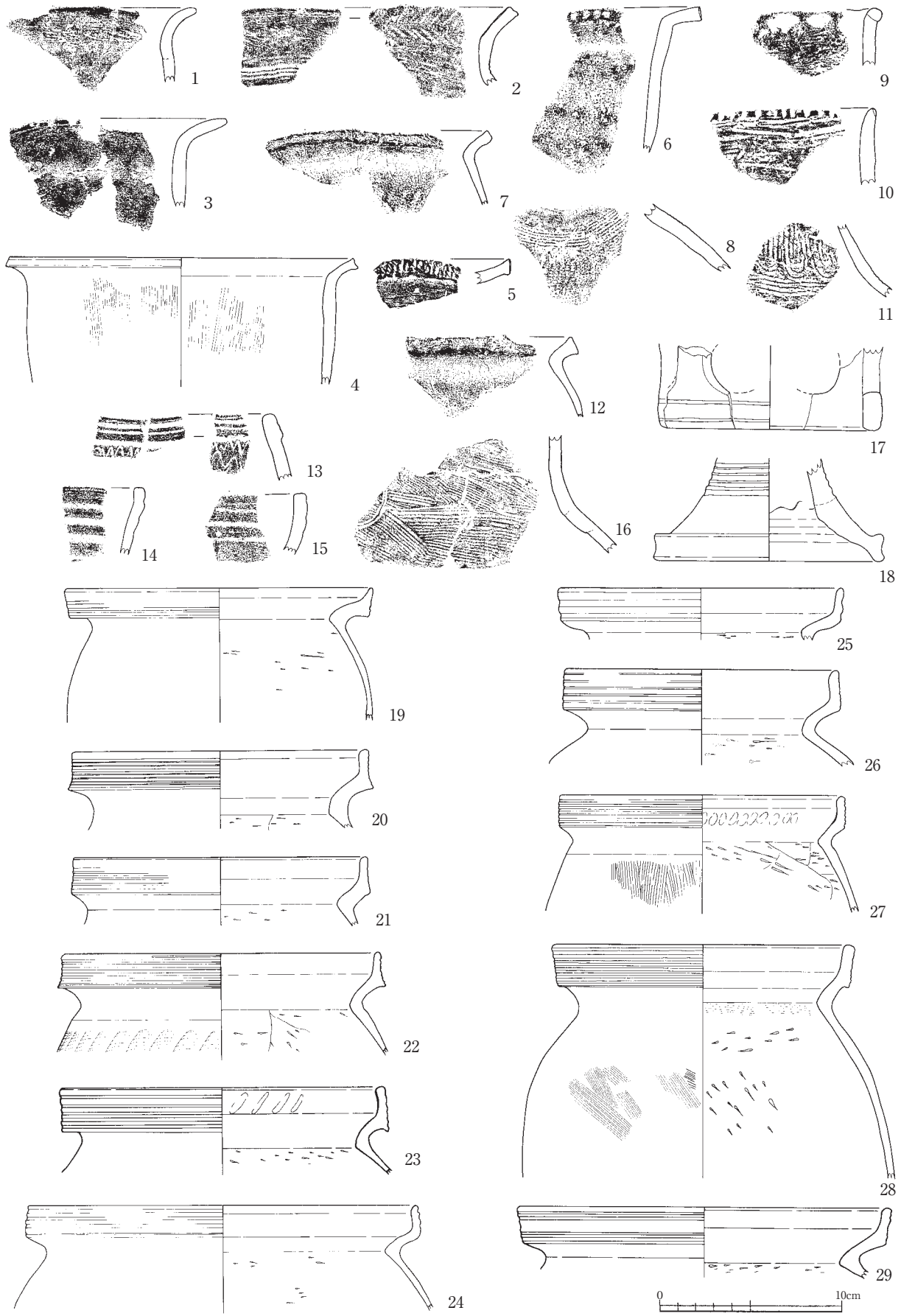


第64図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

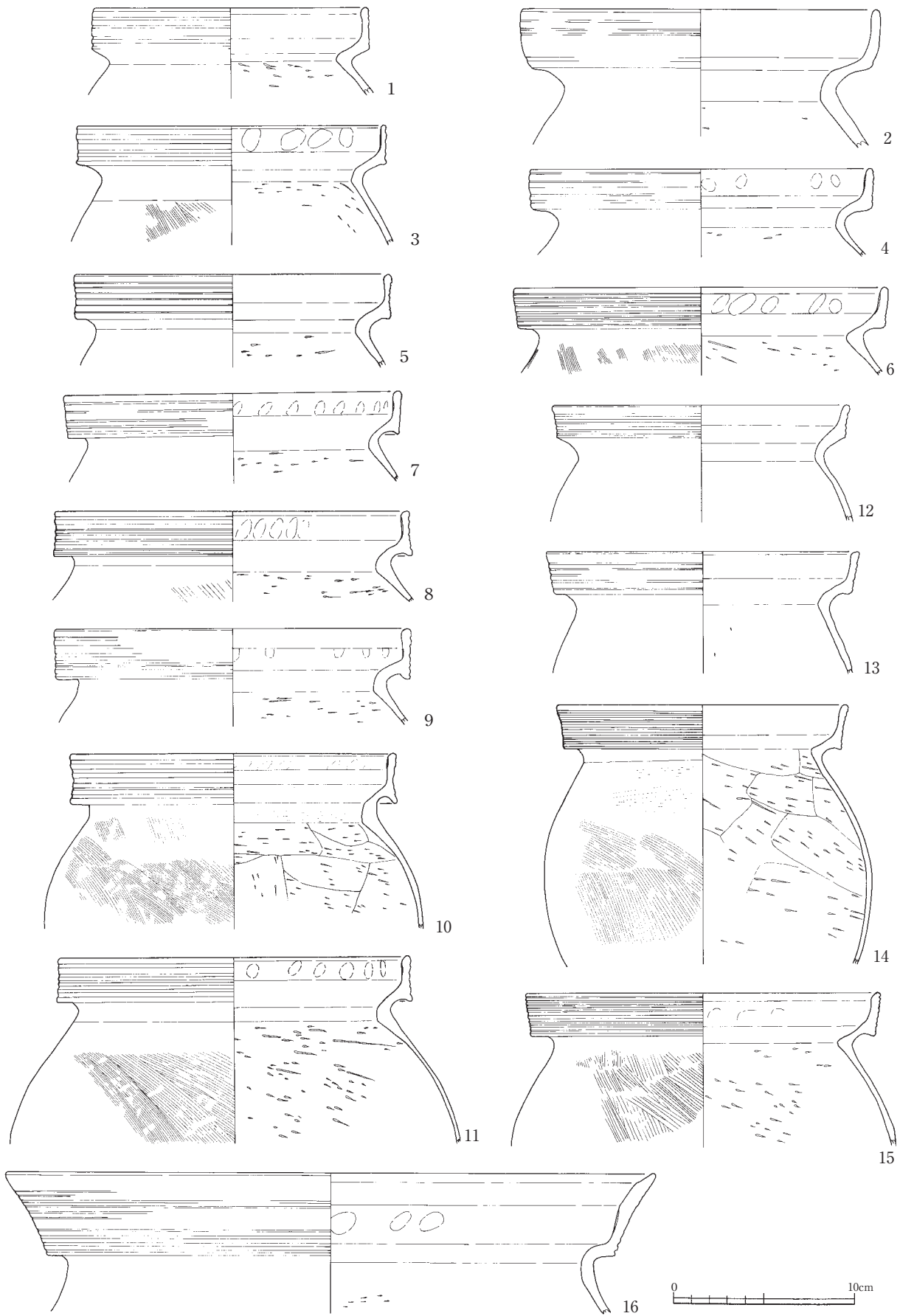


第65図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

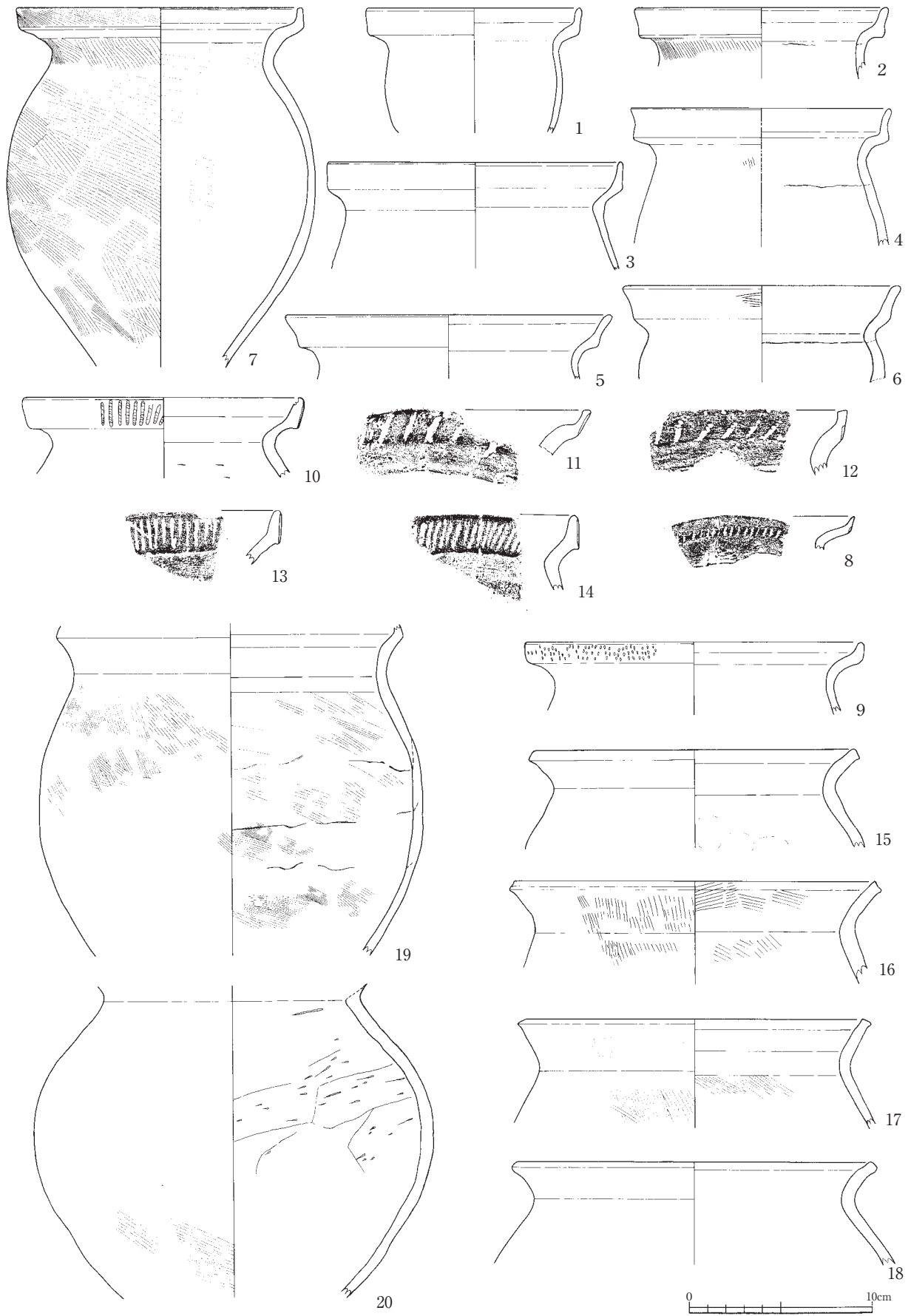


第66図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

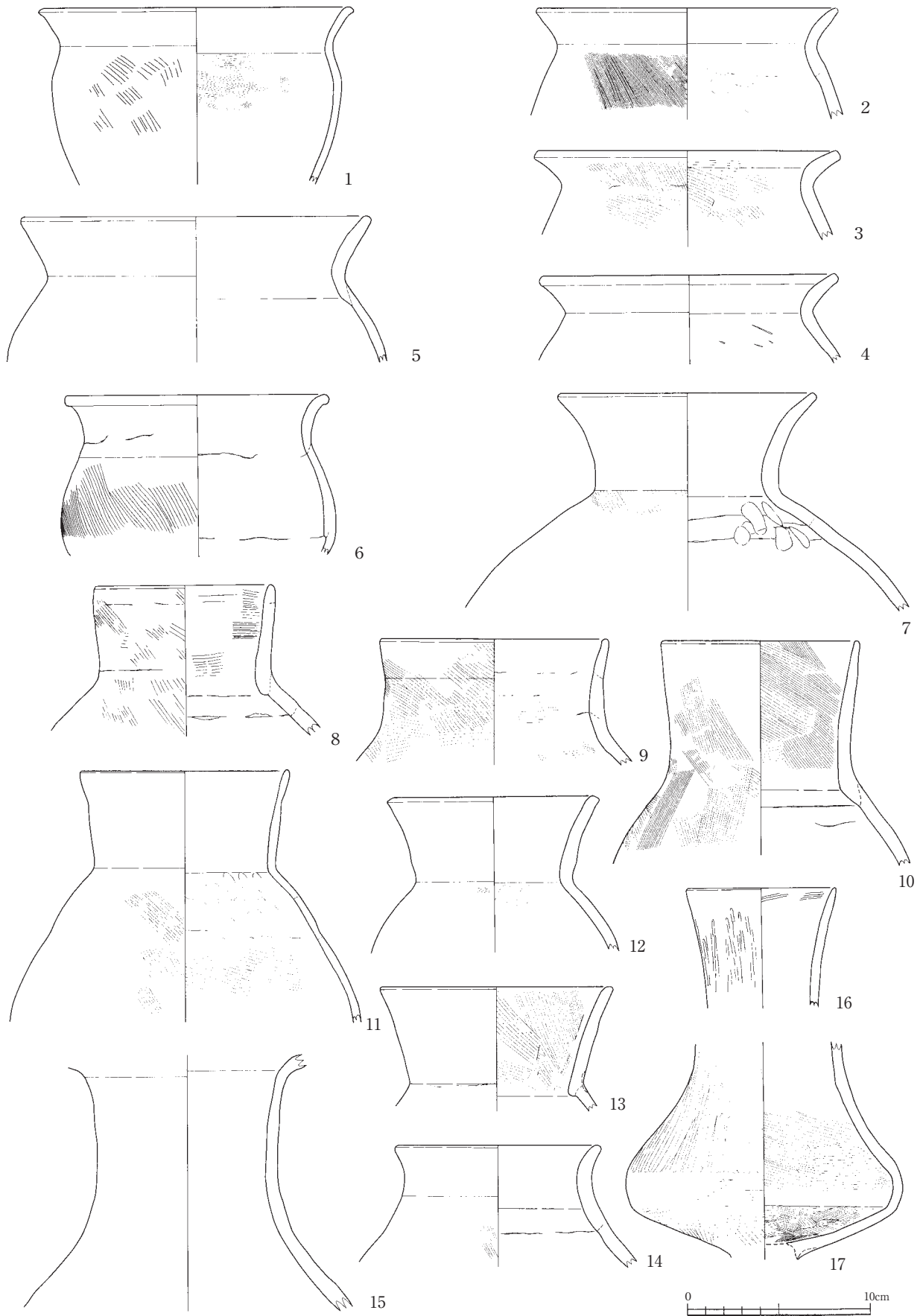


第67図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

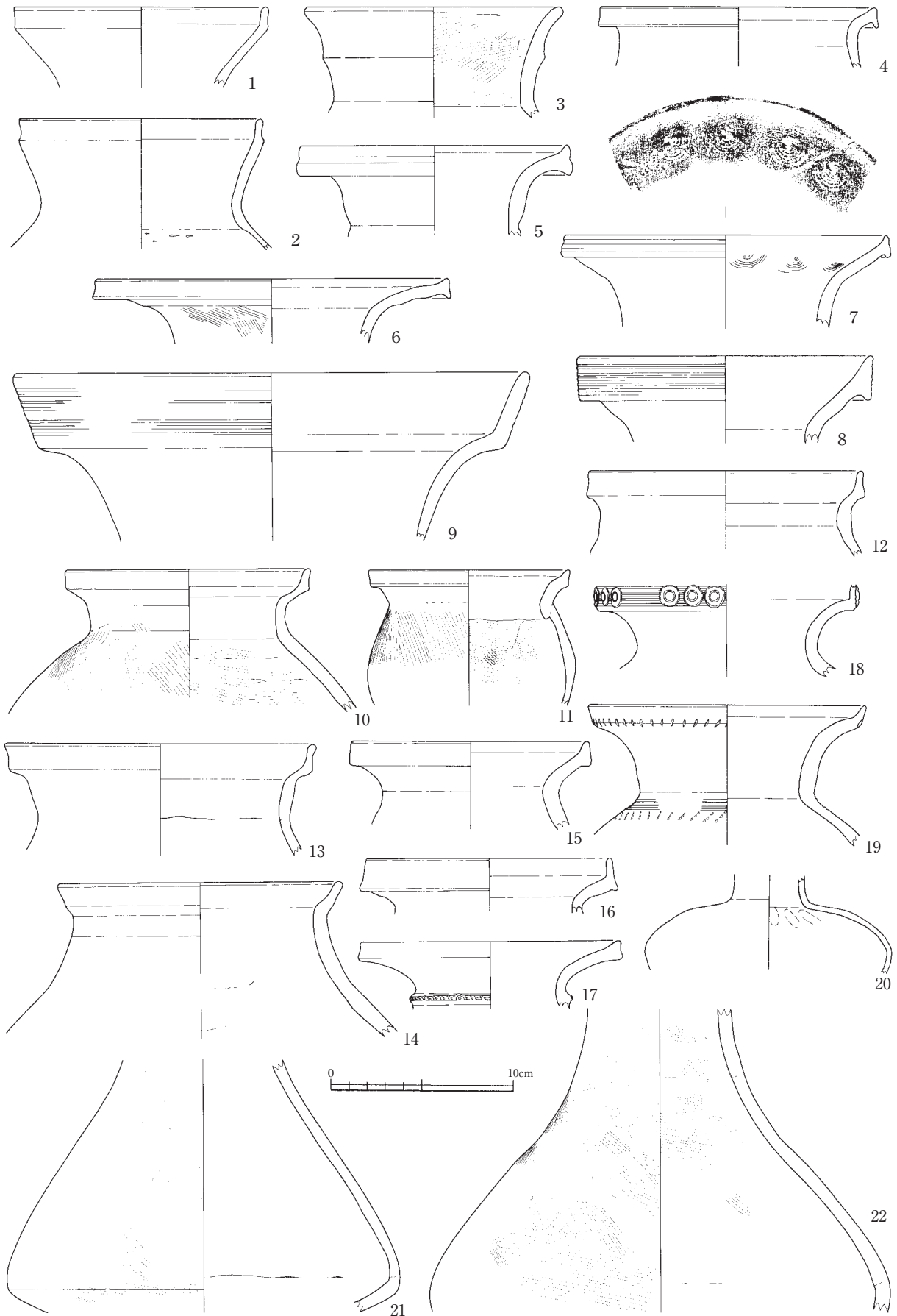


第68図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

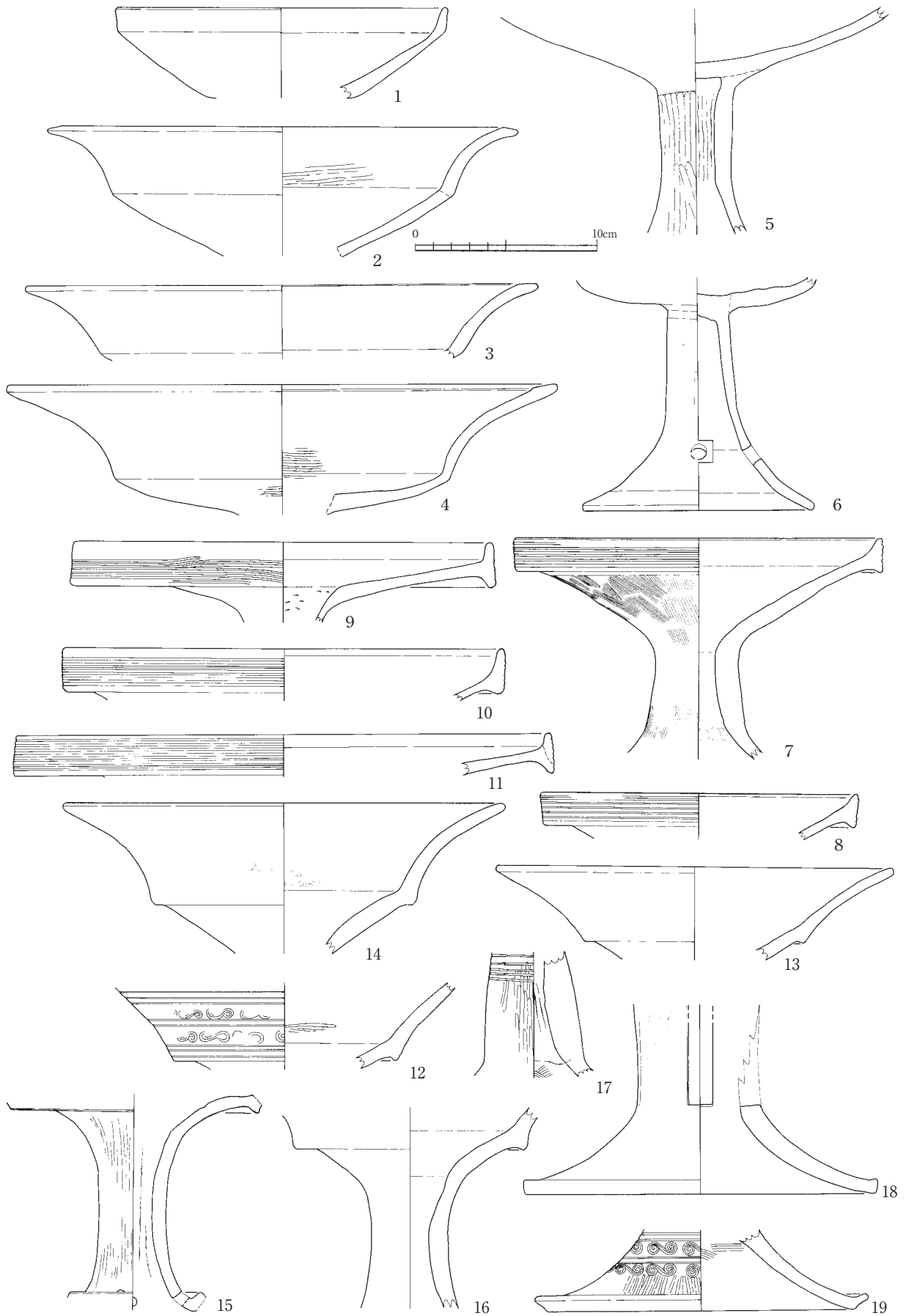


第69図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

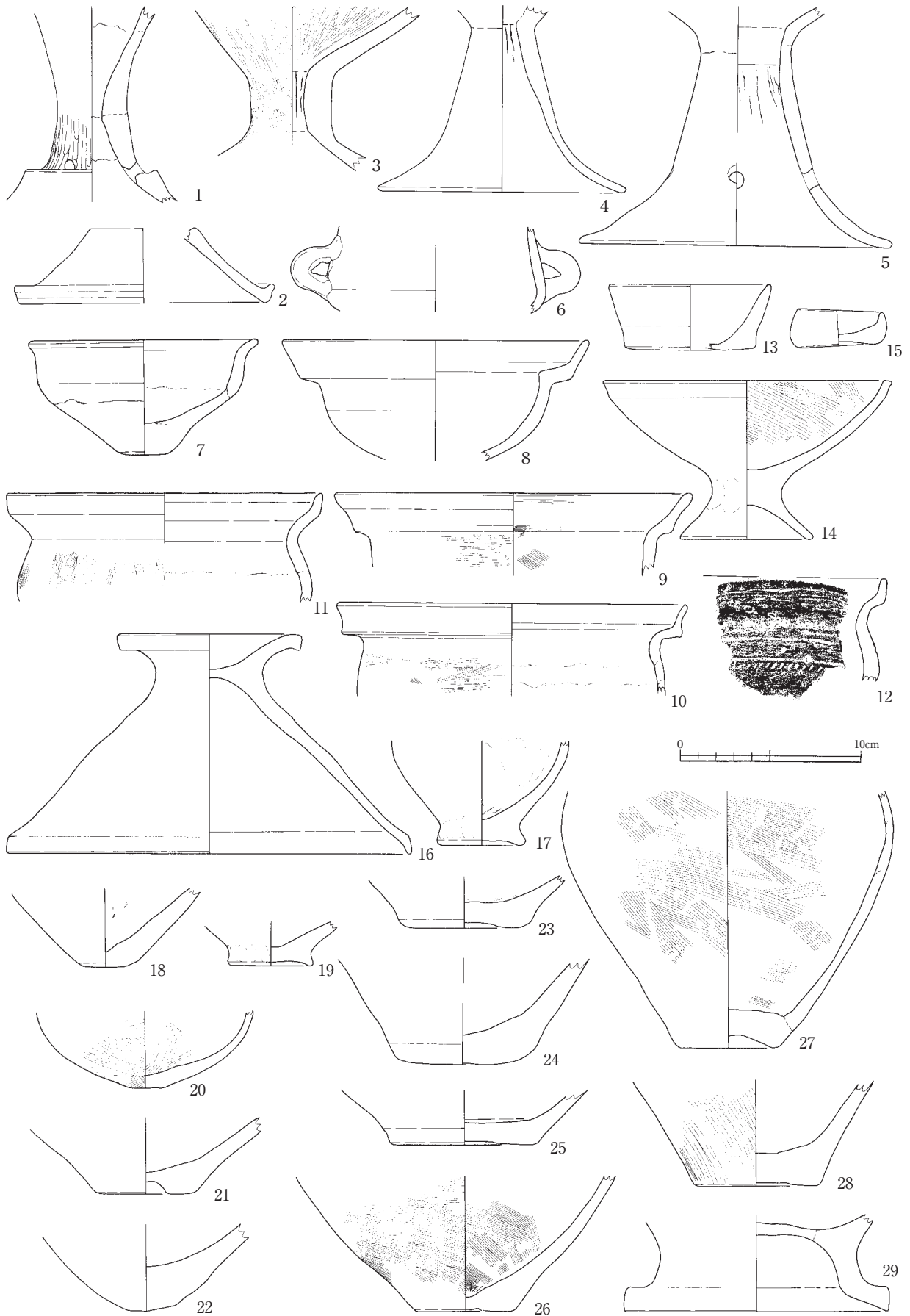


第70図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

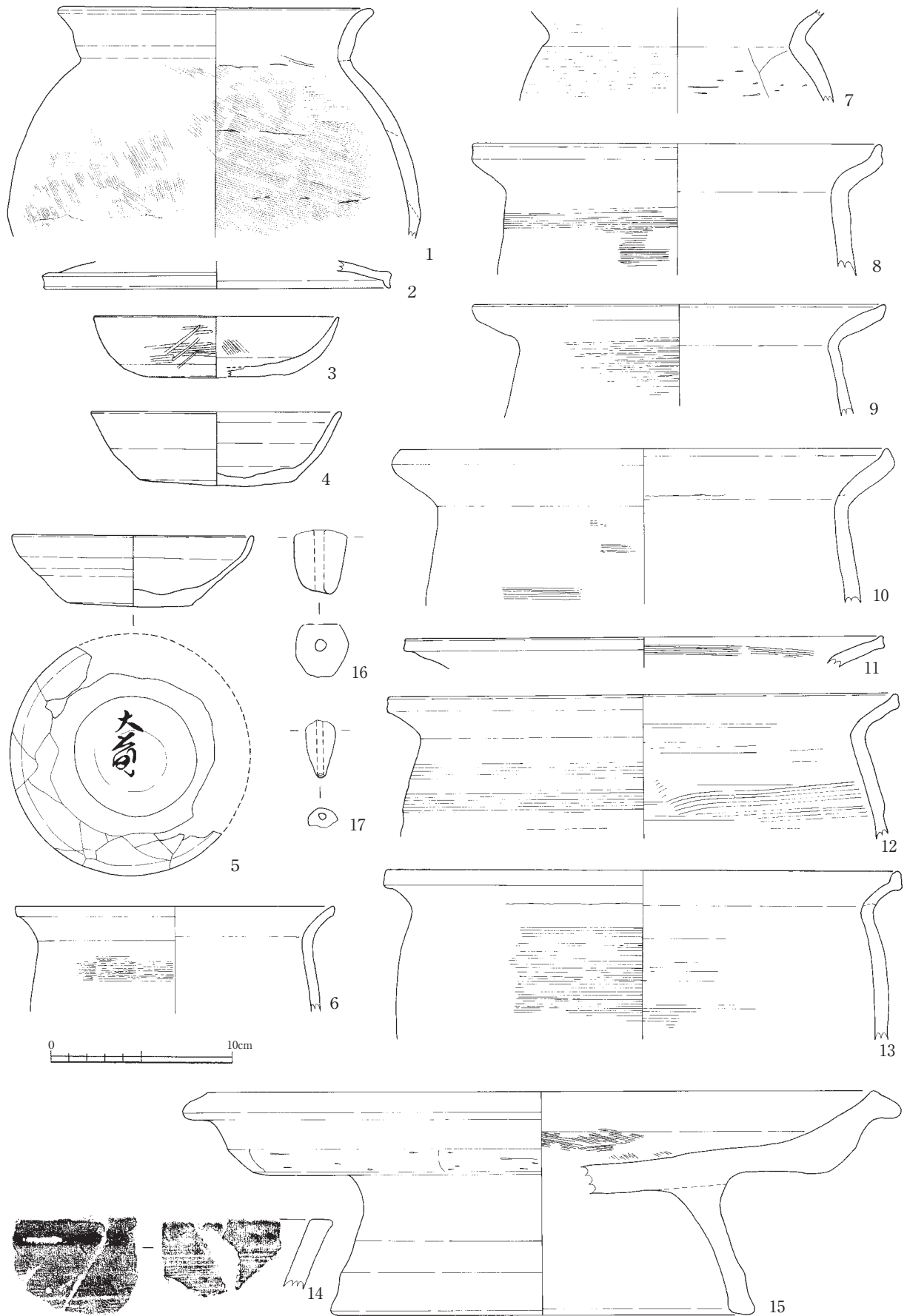


第71図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

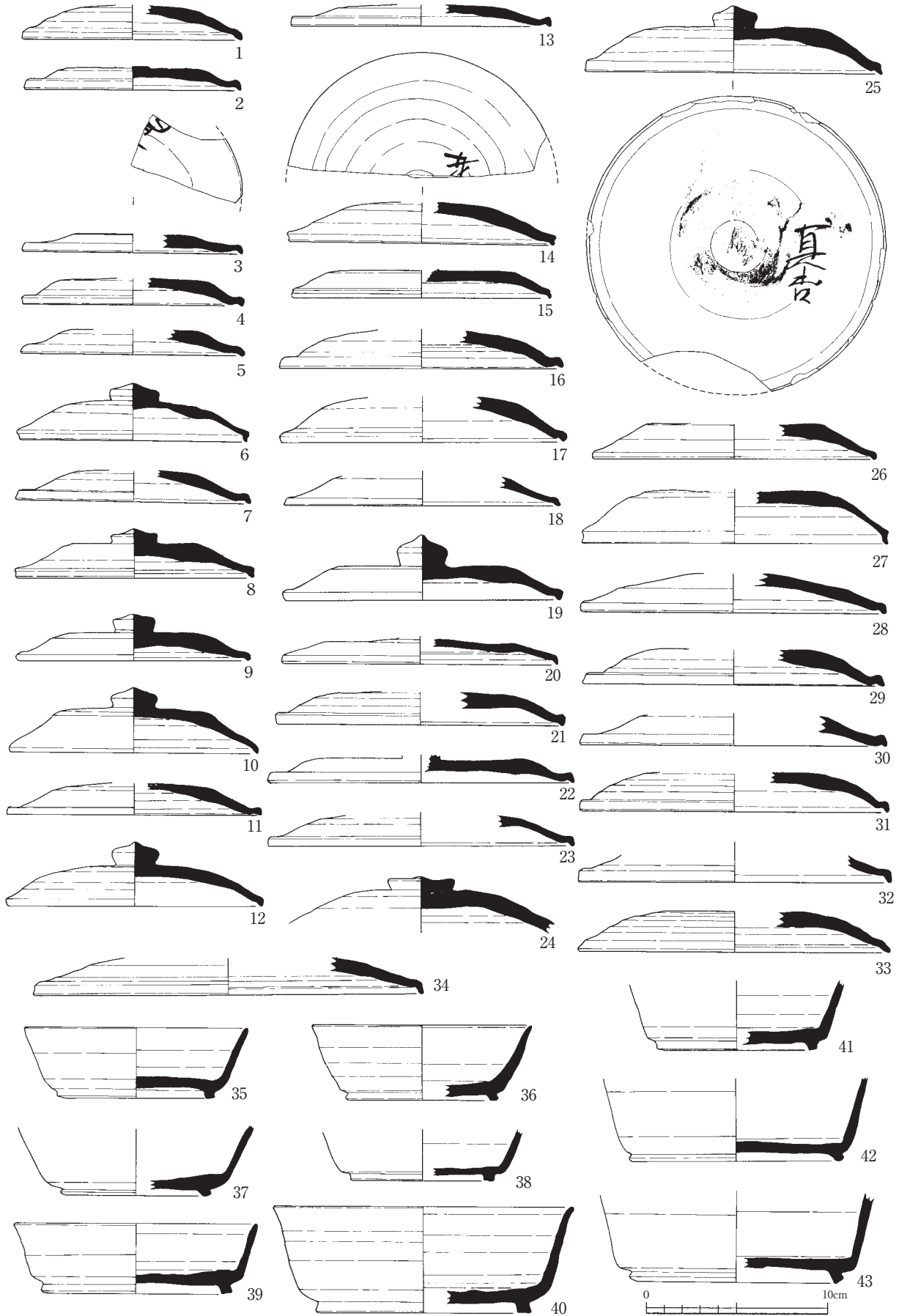


第72図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

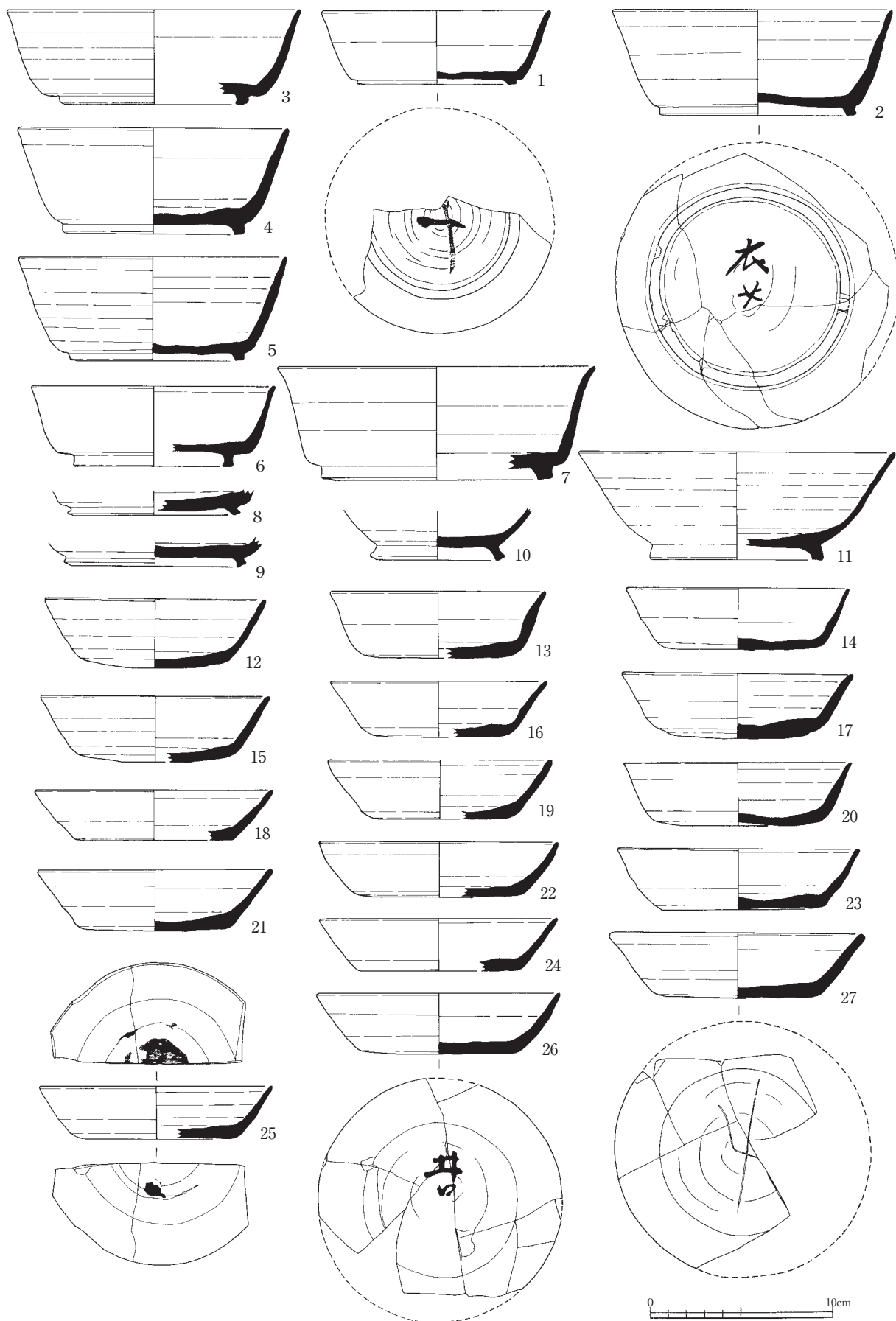


第73図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

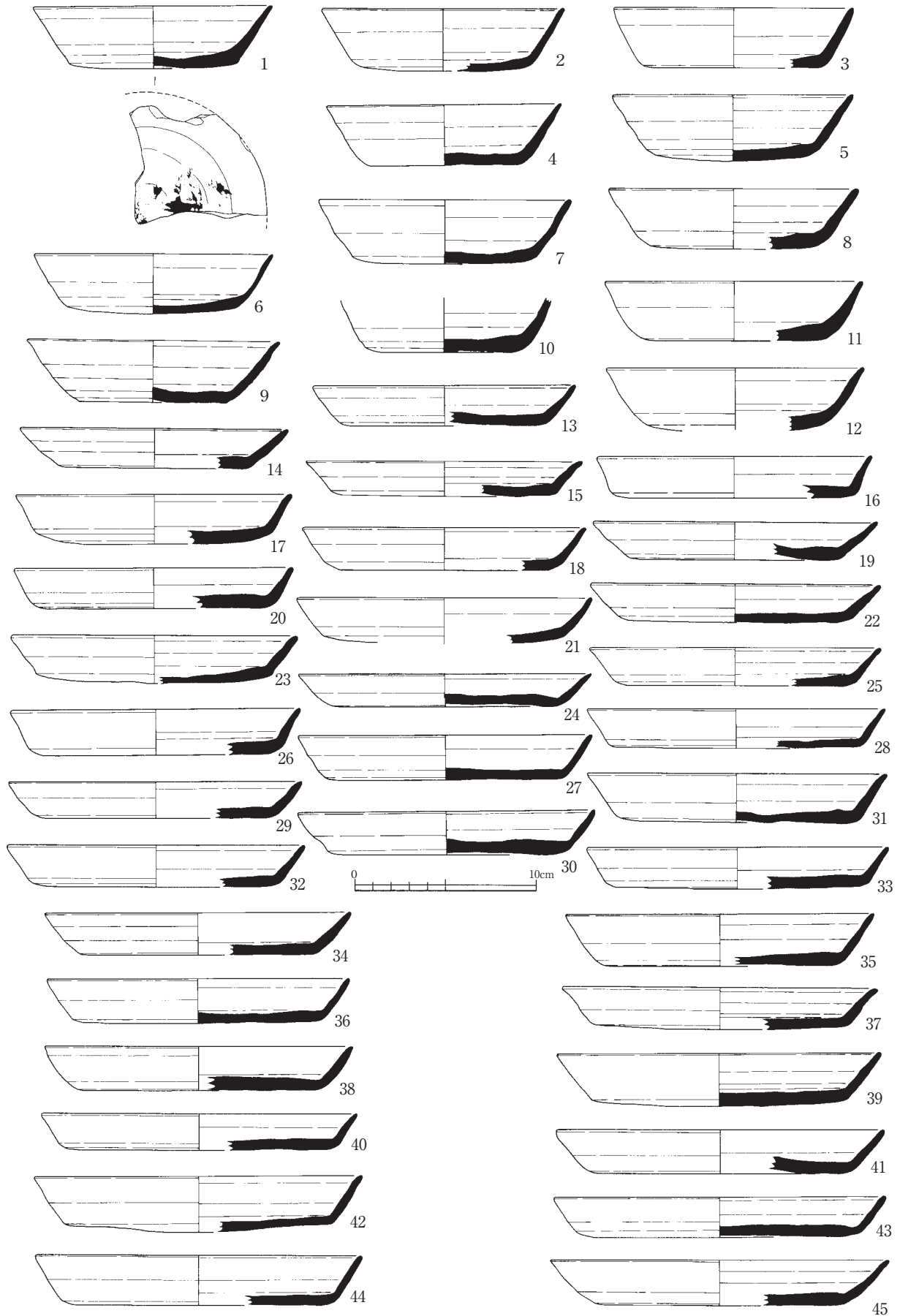


第74図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

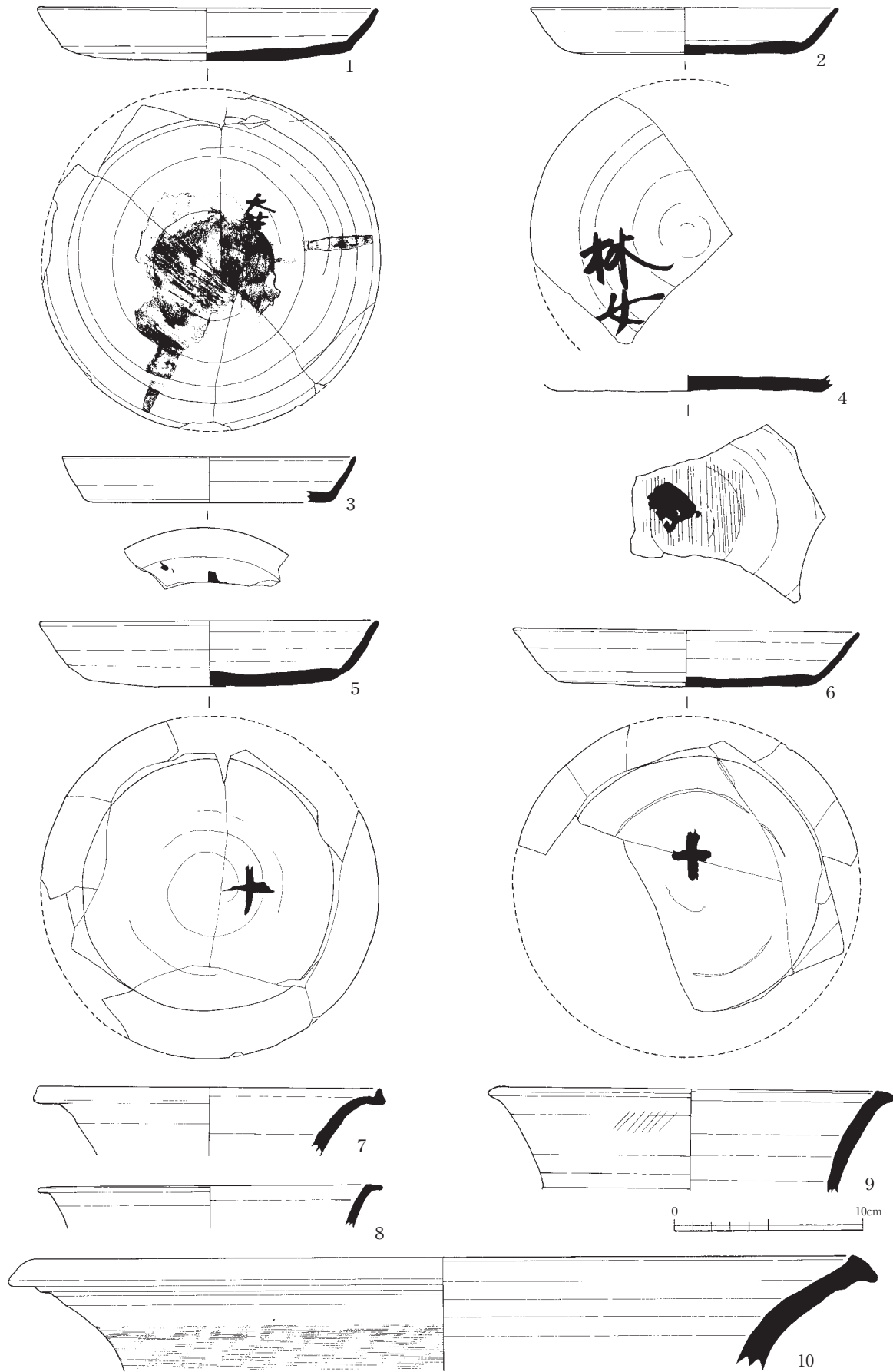


第75図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）

第1節 遺構および遺構内出土遺物

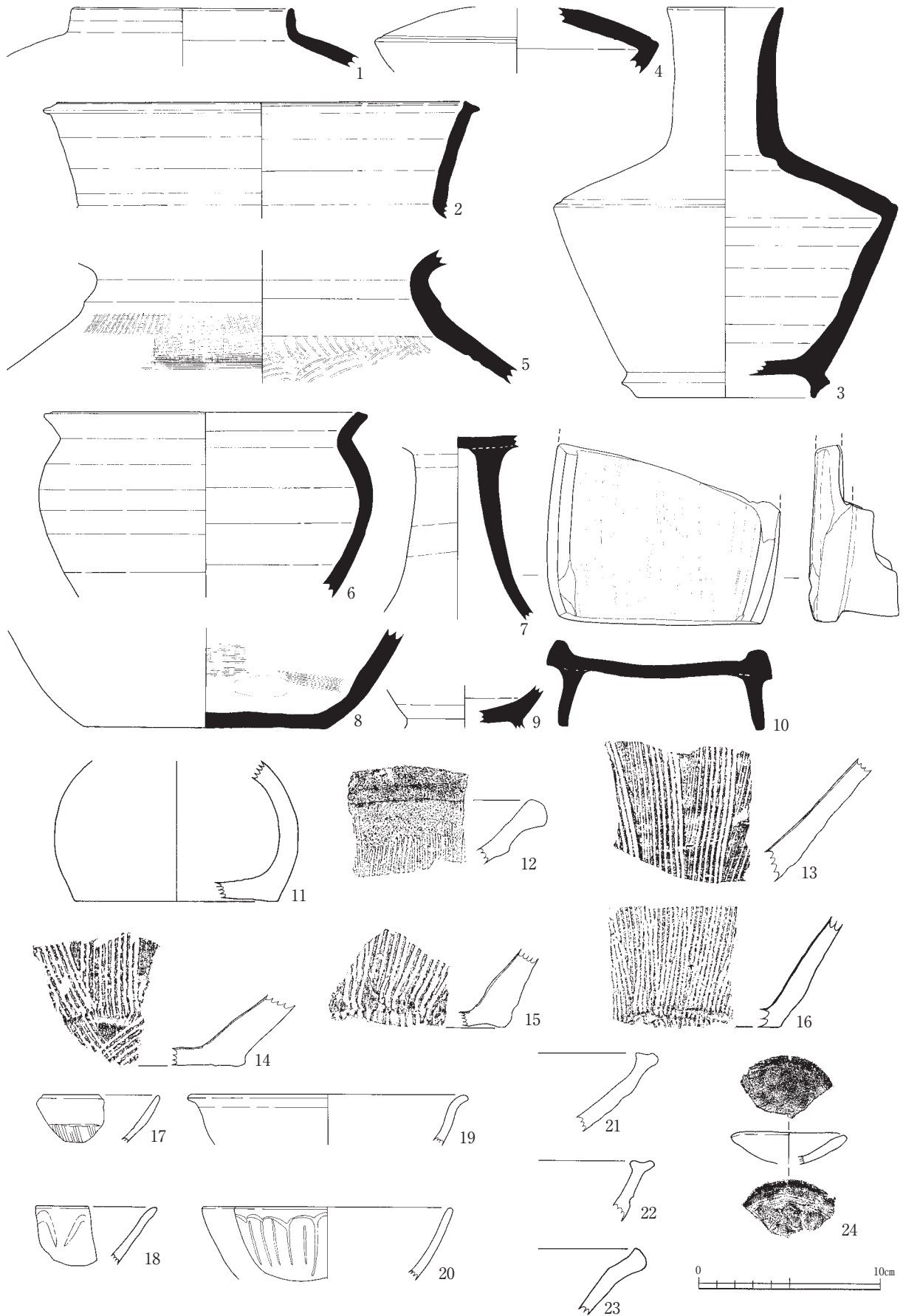


第76図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）



第77図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (縮尺1/3)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

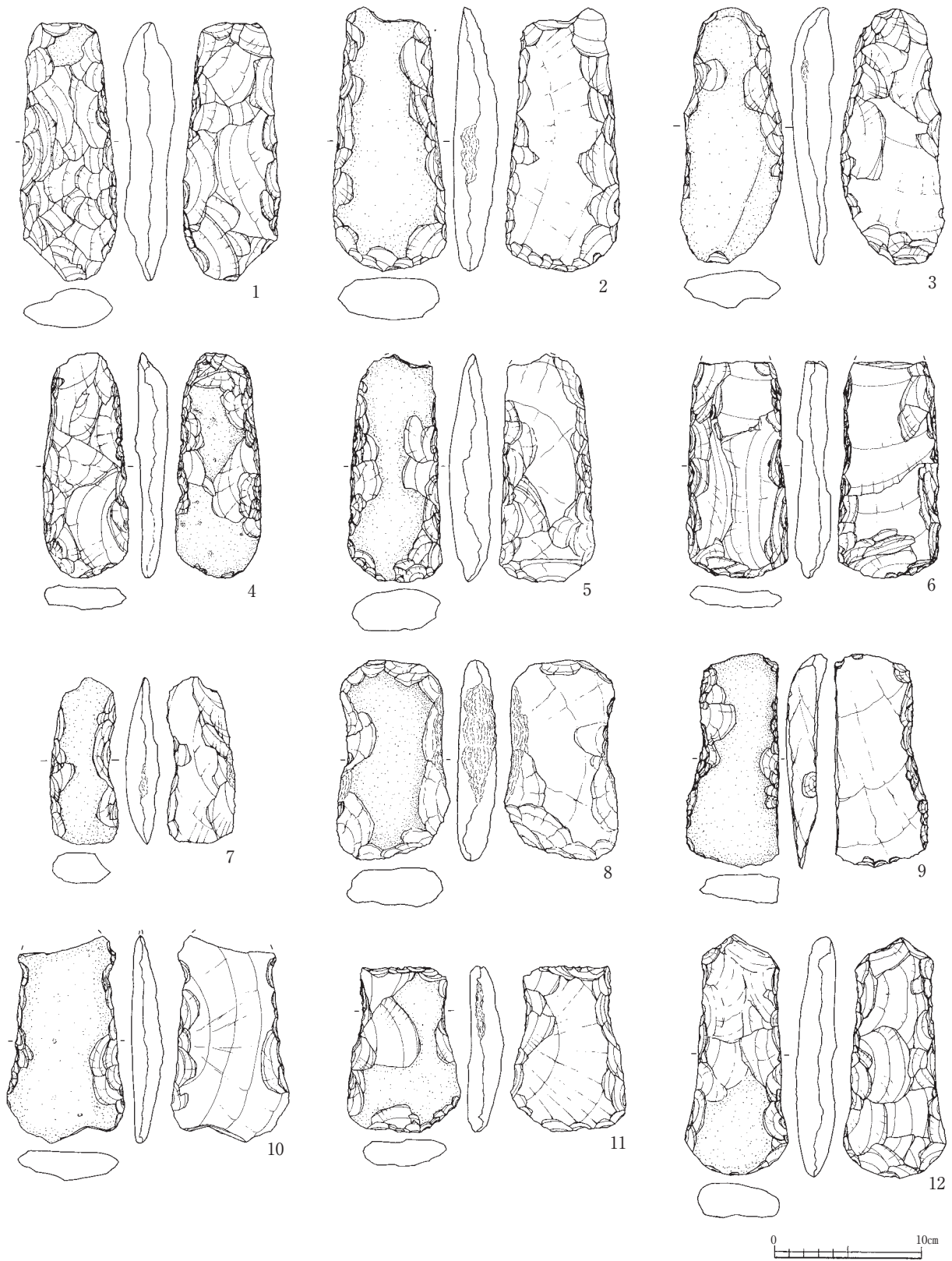


第78図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/3）



第79図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図 (1:縮尺1/2, 2~17:縮尺1/4)

第1節 遺構および遺構内出土遺物

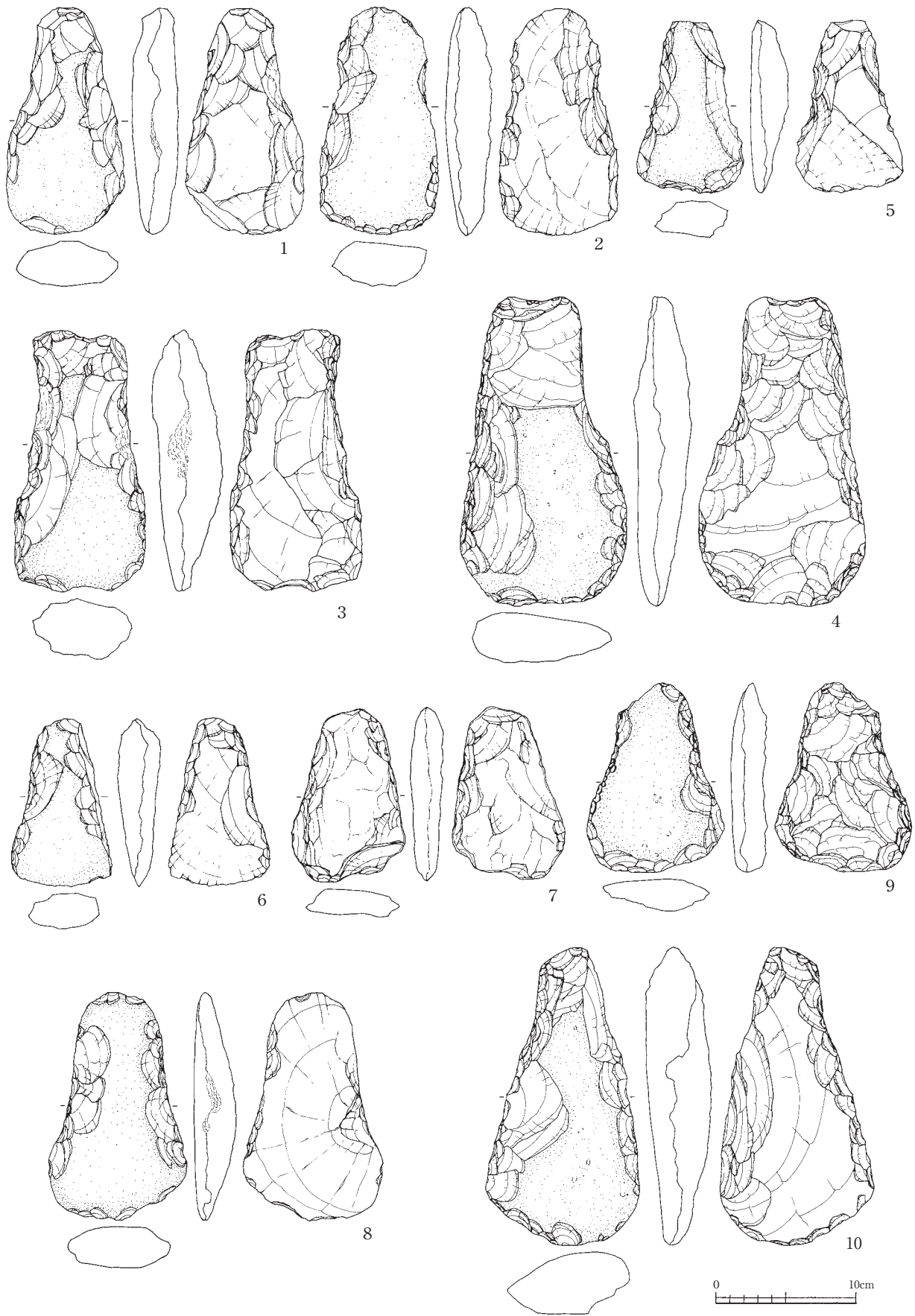


第80図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）

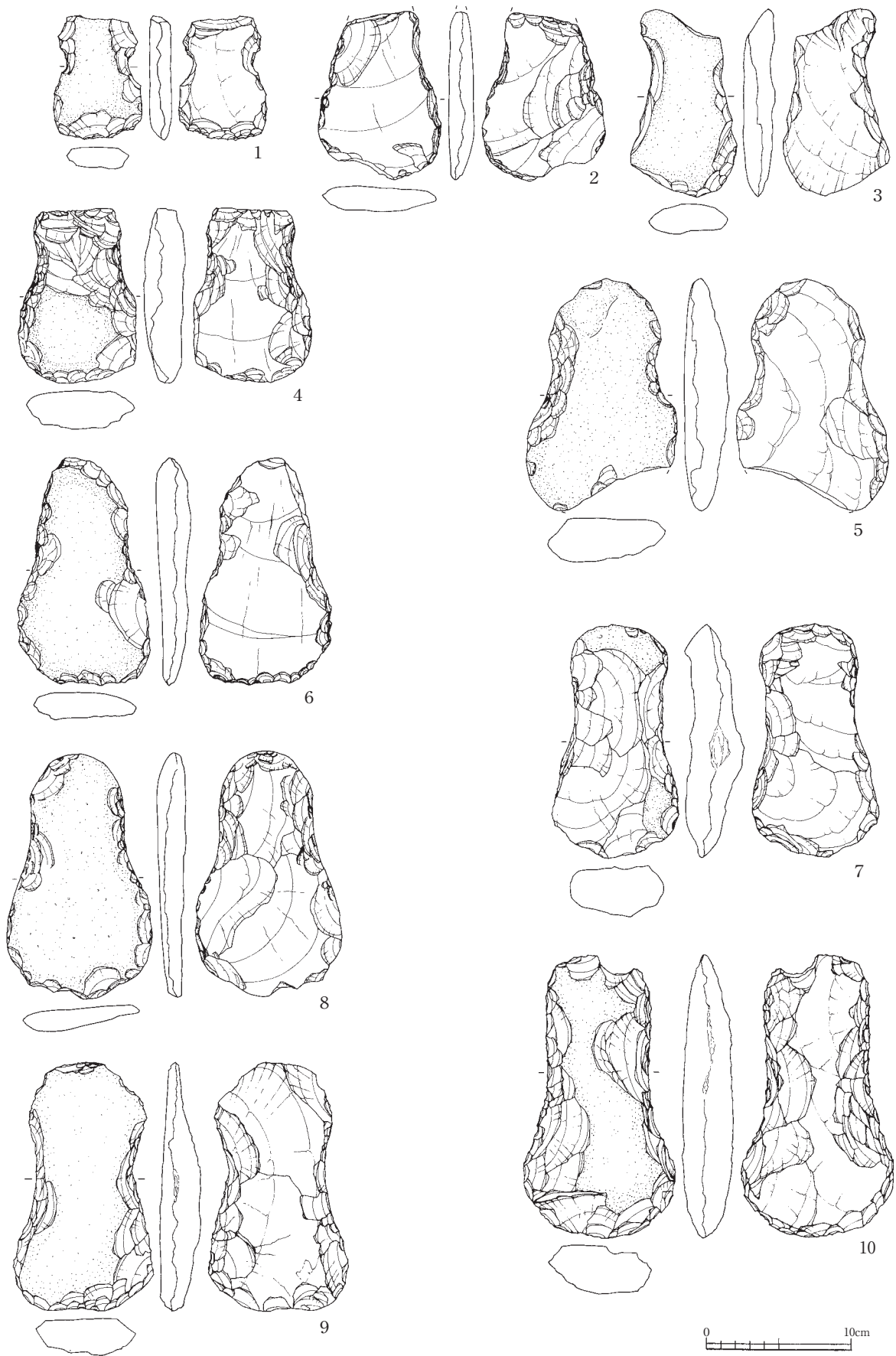


第81図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）

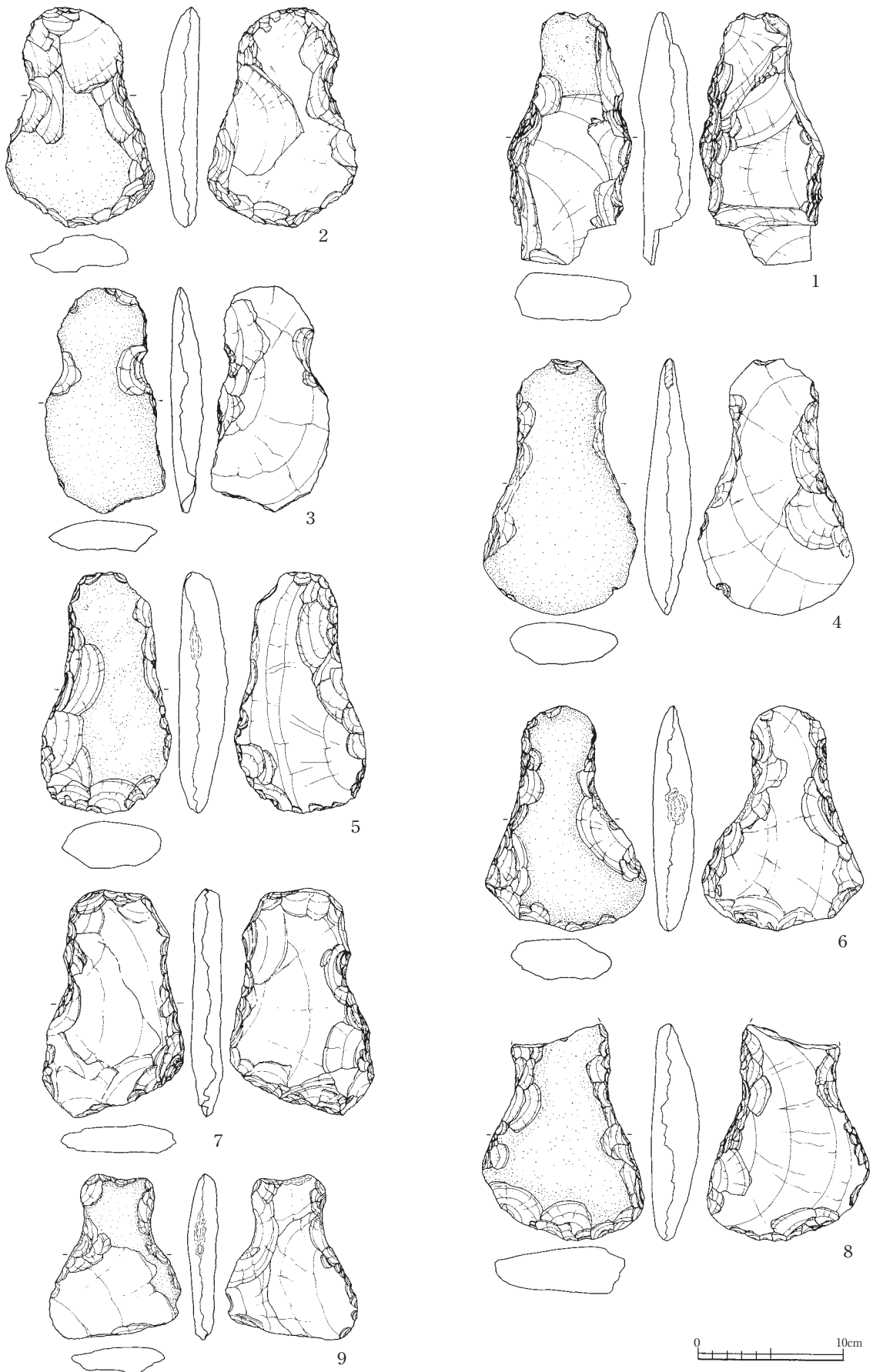
第1節 遺構および遺構内出土遺物



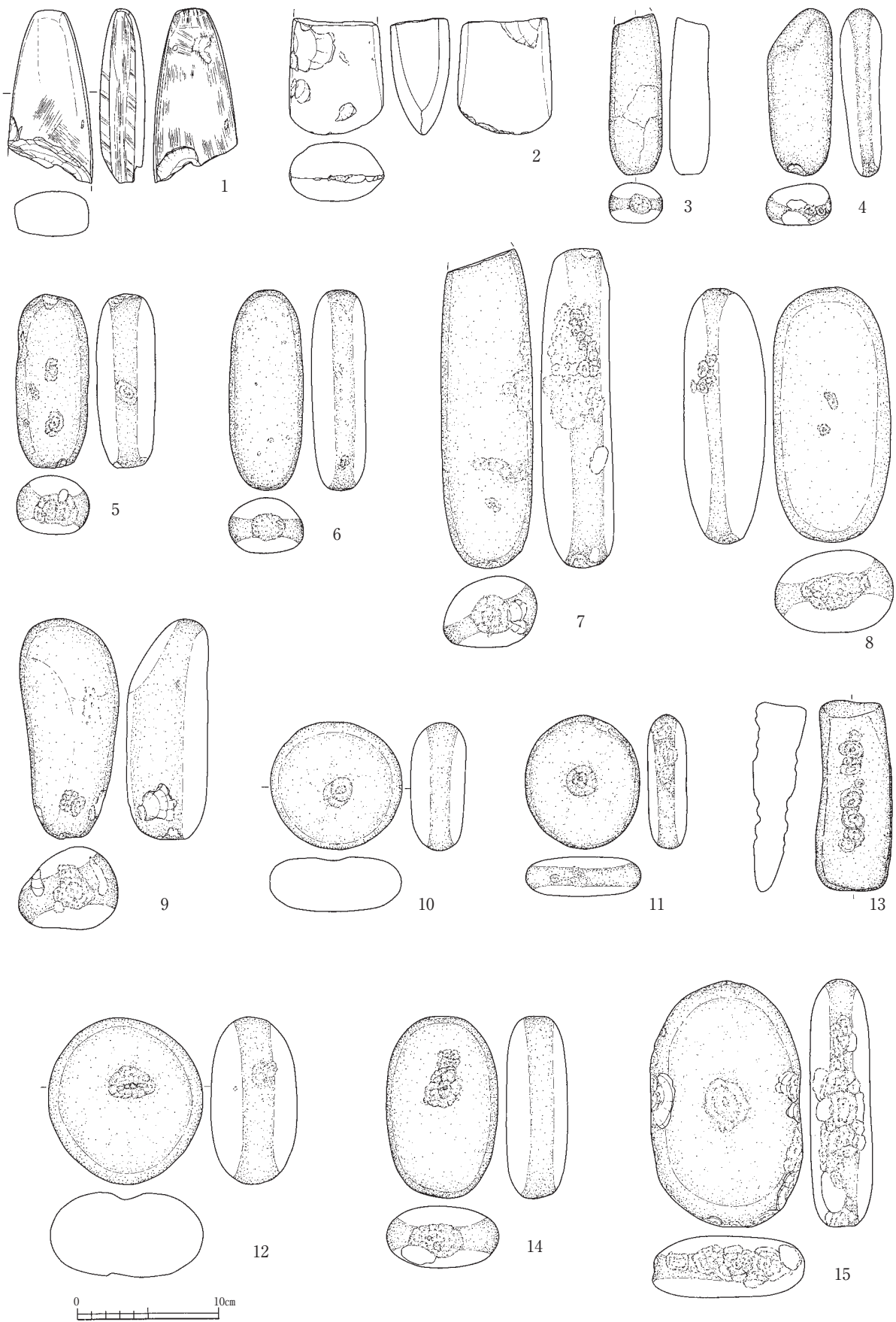
第82図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）



第83図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）

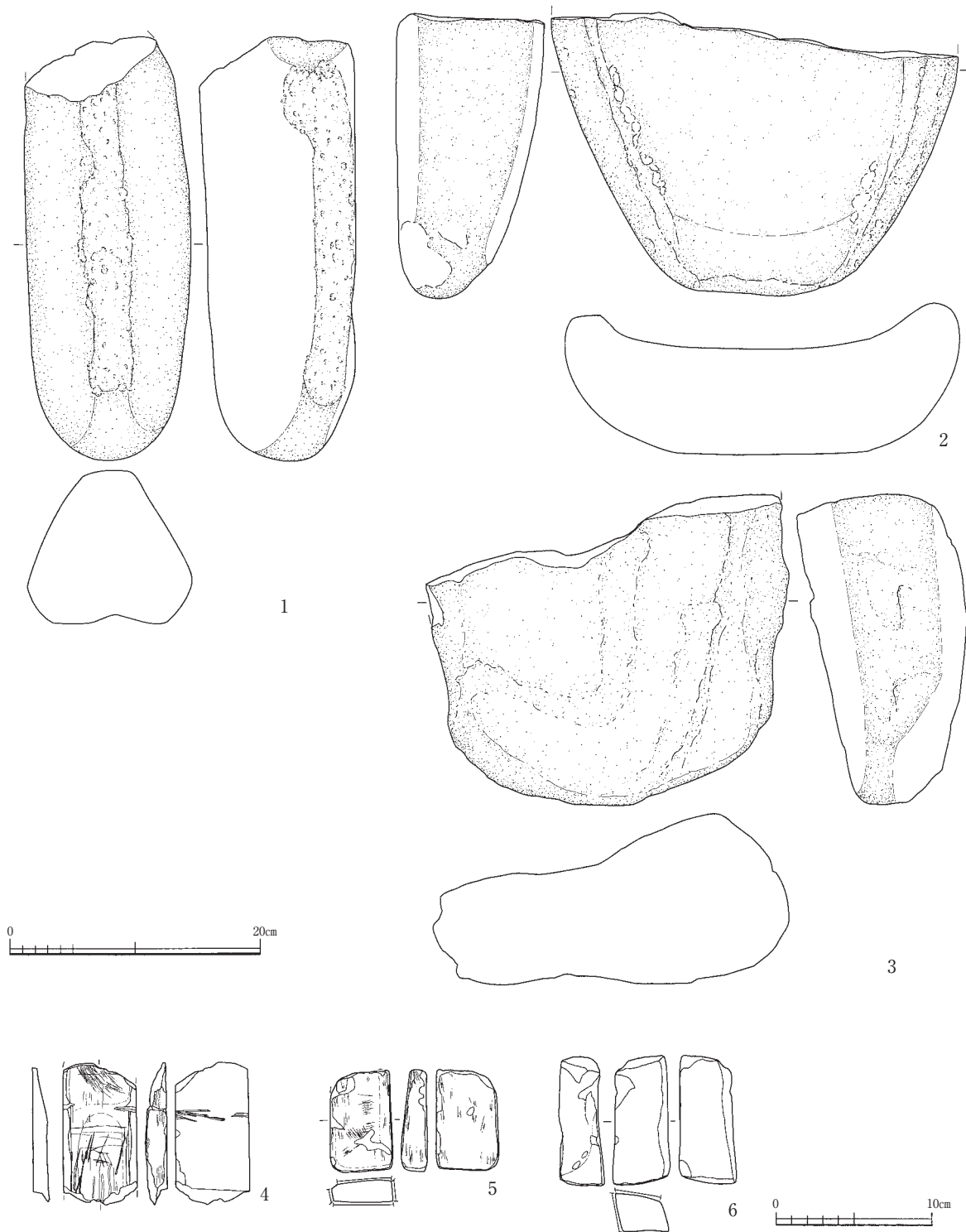


第84図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）

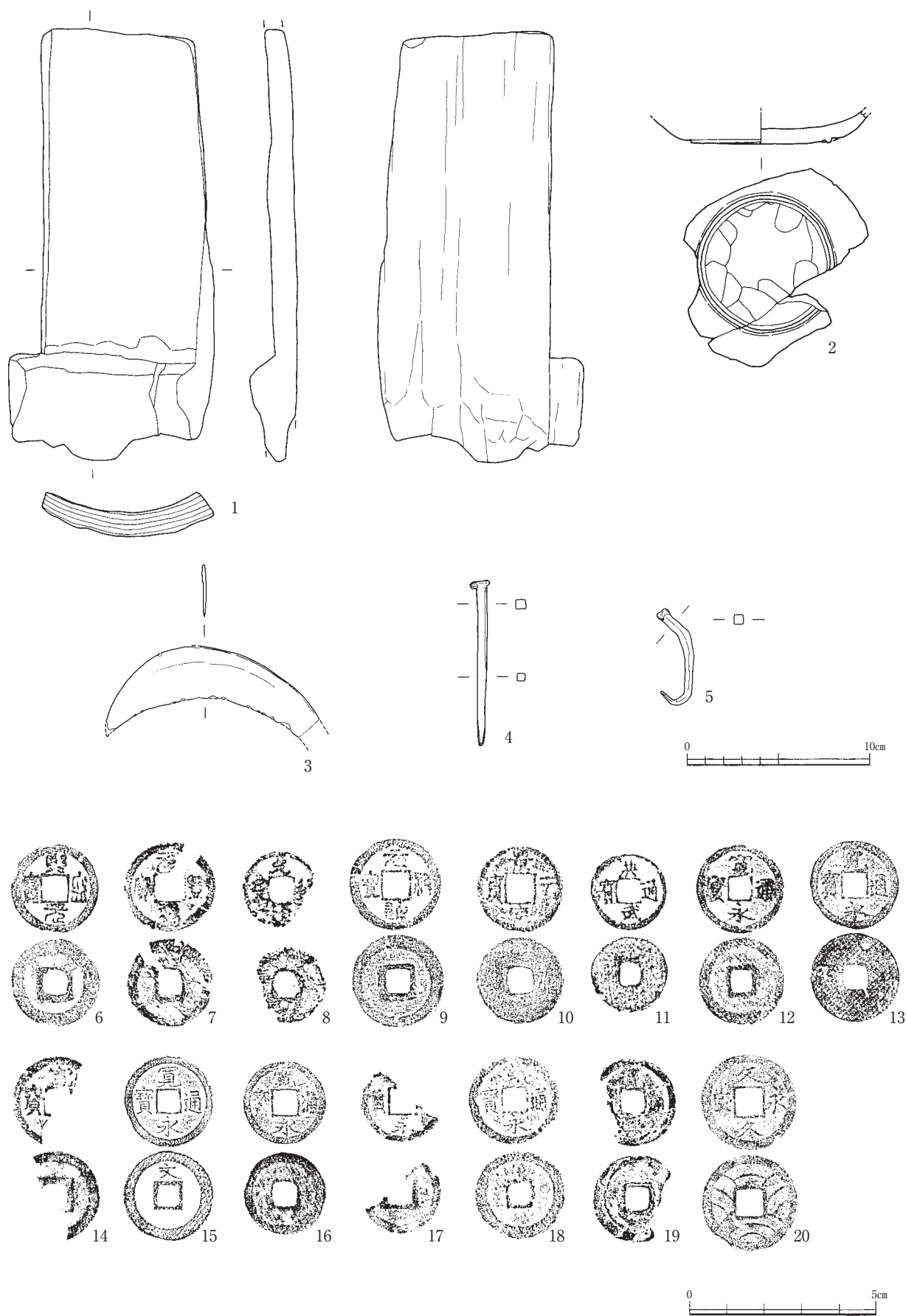


第85図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（縮尺1/4）

第1節 遺構および遺構内出土遺物



第86図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図（1～3：縮尺1/5，4～6：縮尺1/4）



第87図 鹿谷川旧流路出土遺物実測図・拓影（1～5：縮尺1/3，6～20：縮尺2/3）

第2節 遺構外出土遺物

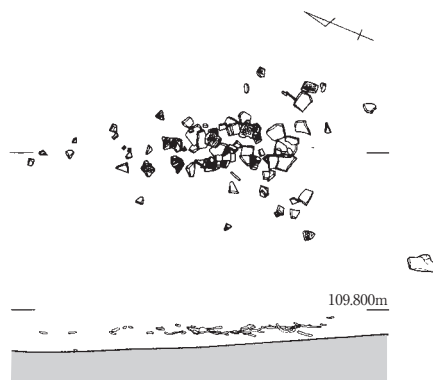
志田神田遺跡では、押型文土器が集中的に出土した地点があり、その出土状況を図示した（第88図）。1区M7グリッドでは、遺構確認面で集中して出土しており、このうちの一部を図化することができた（第89図1・2）。

7区では遺構確認面に押型文土器の断面が目視できたことから、その周囲を掘り下げて検出している。7区のもの、図化することができなかった。1区・7区とも、集中地点の下層に遺構は確認できず、また器壁が磨耗している小片が多いことから、流水作用による二次堆積と考えられる。

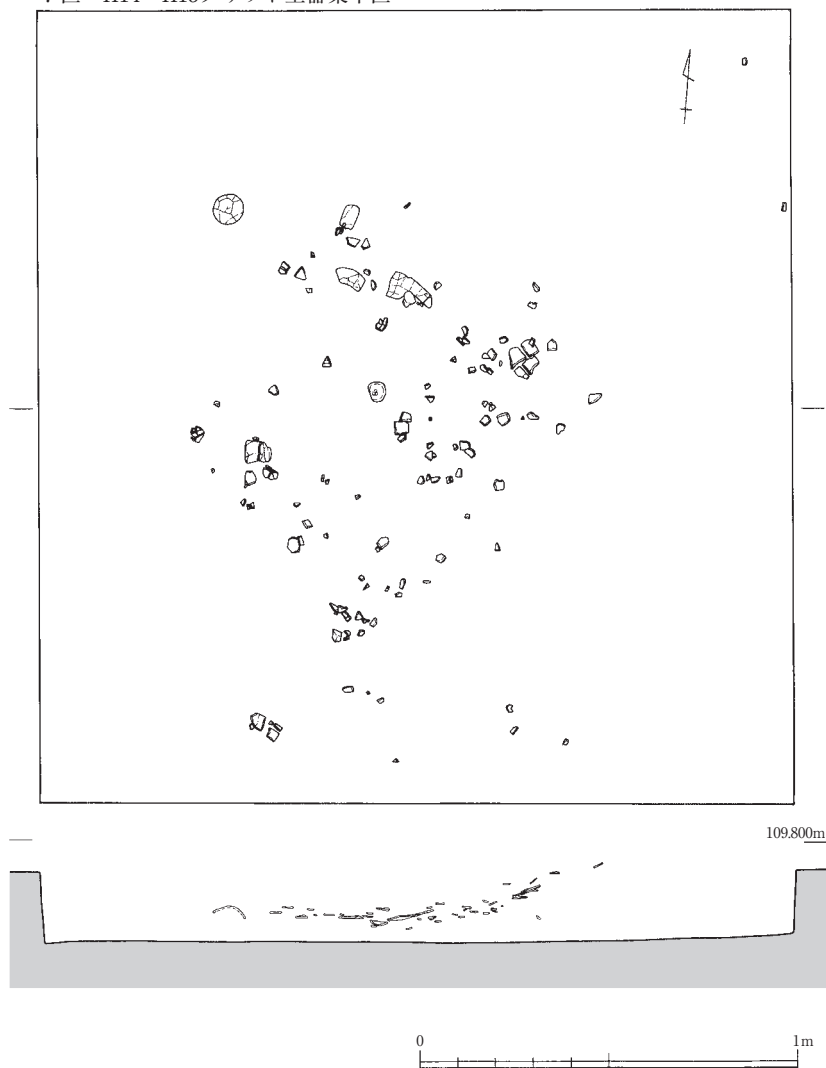
第2節では、このほかに、遺構外で出土した土器類149点、石器111点、石製品7点、木製品1点、金属製品2点、銅銭38点を図示した（第89図～第104図）。

様々な時期の様々な遺物を網羅するように、抽出して掲載している。

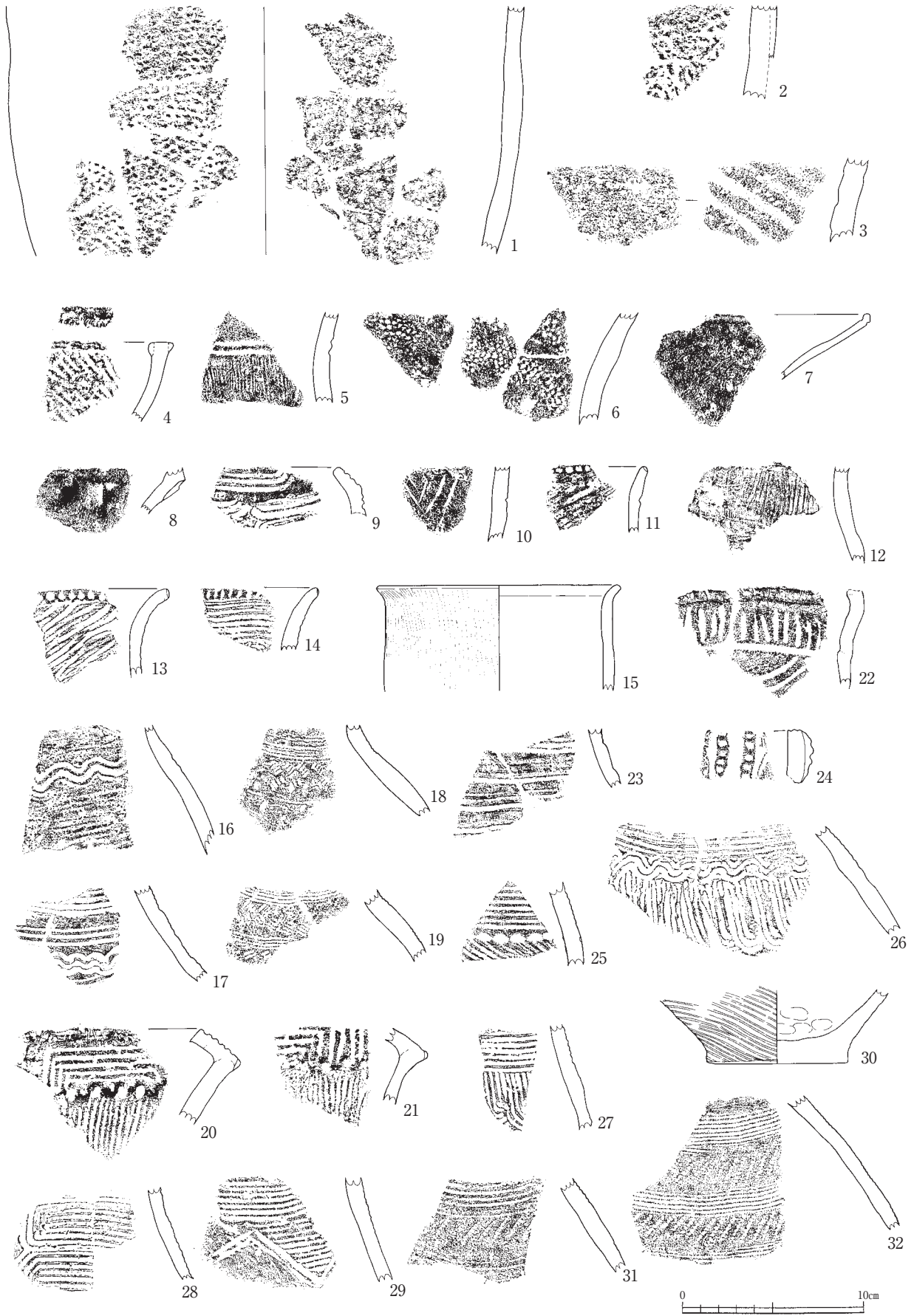
1区 M7グリッド土器集中区



7区 H14・H15グリッド土器集中区

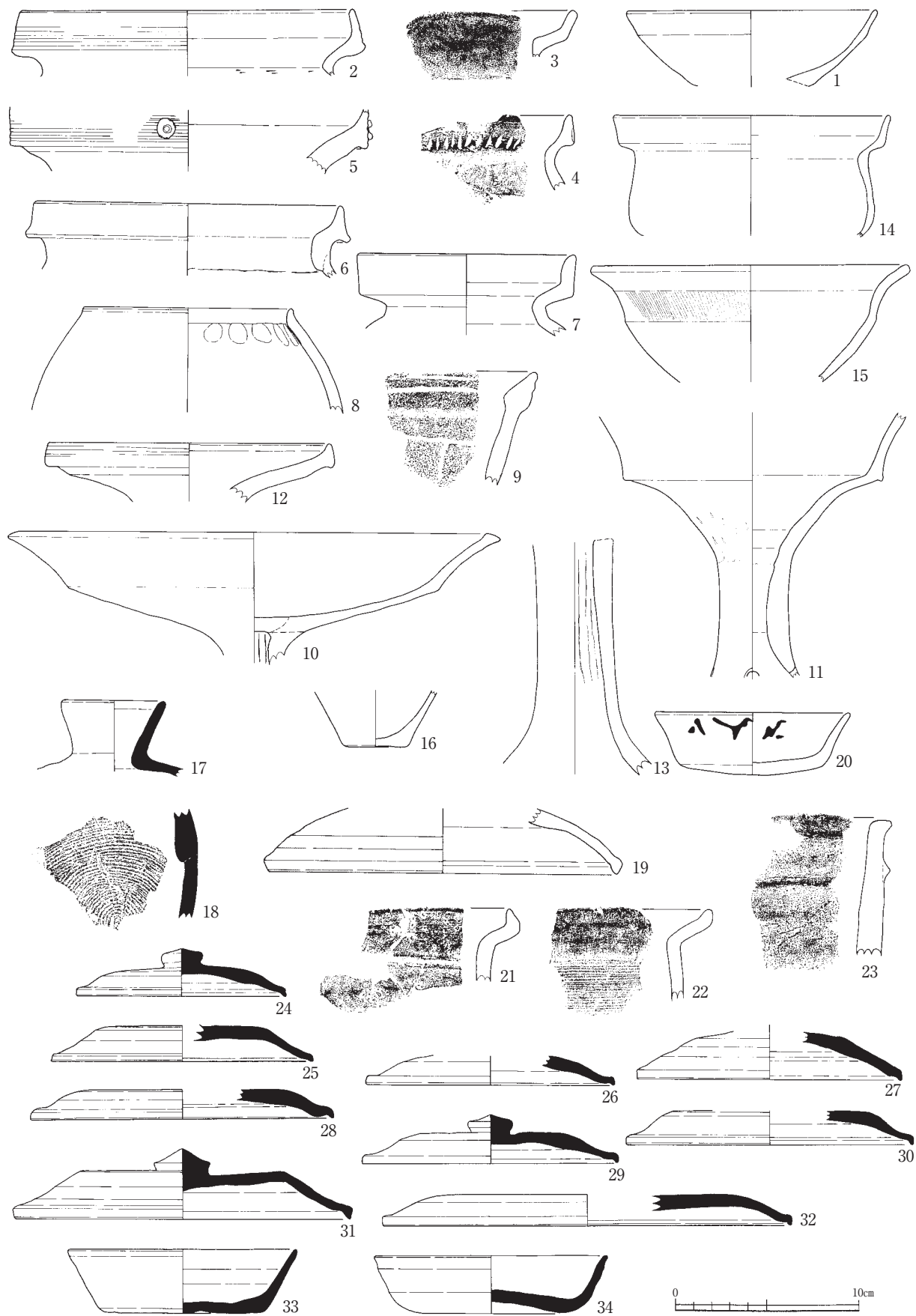


第88図 縄文土器出土状況実測図（縮尺1/20）

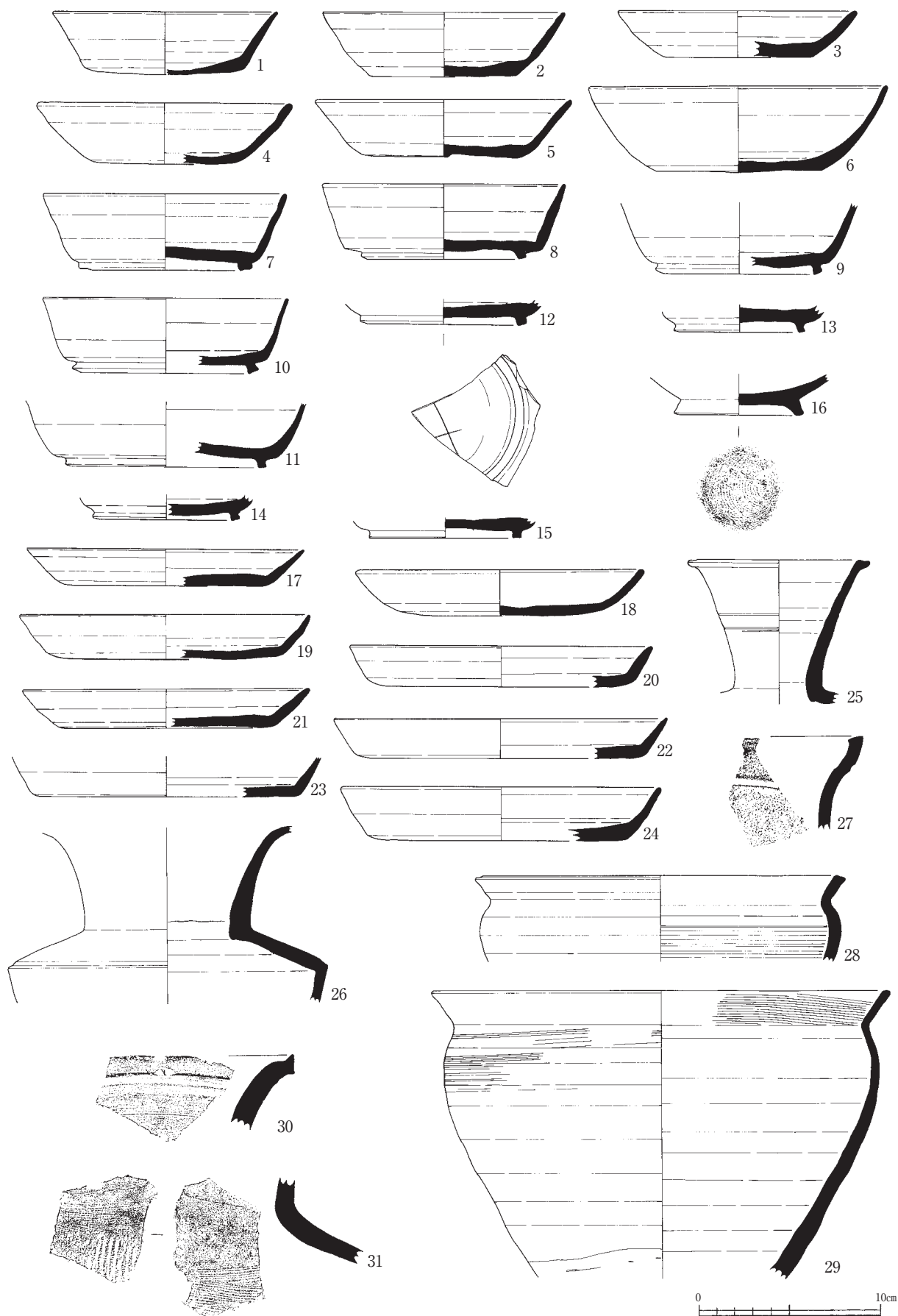


第89図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/3）

第2節 遺構外出土遺物

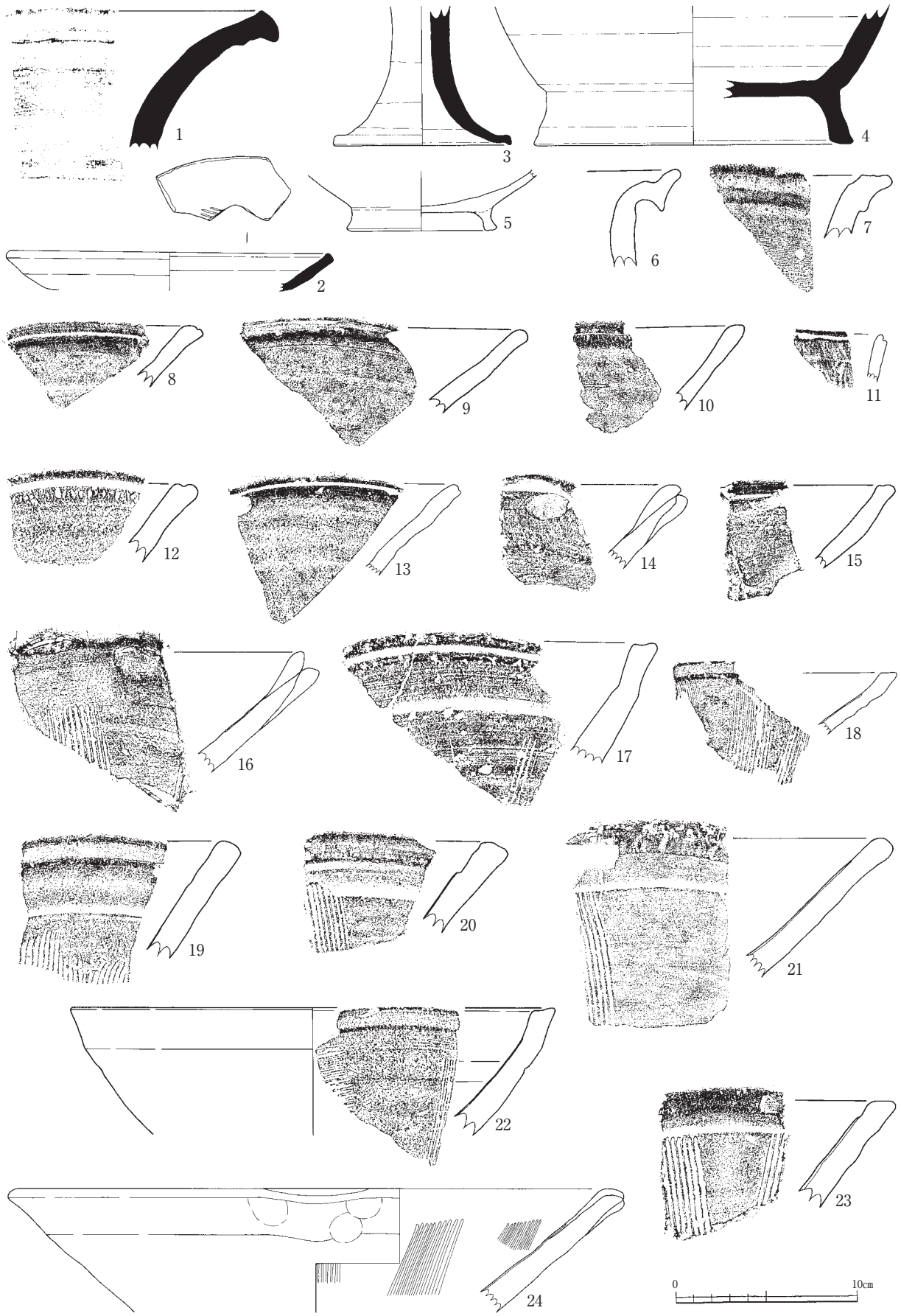


第90図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)

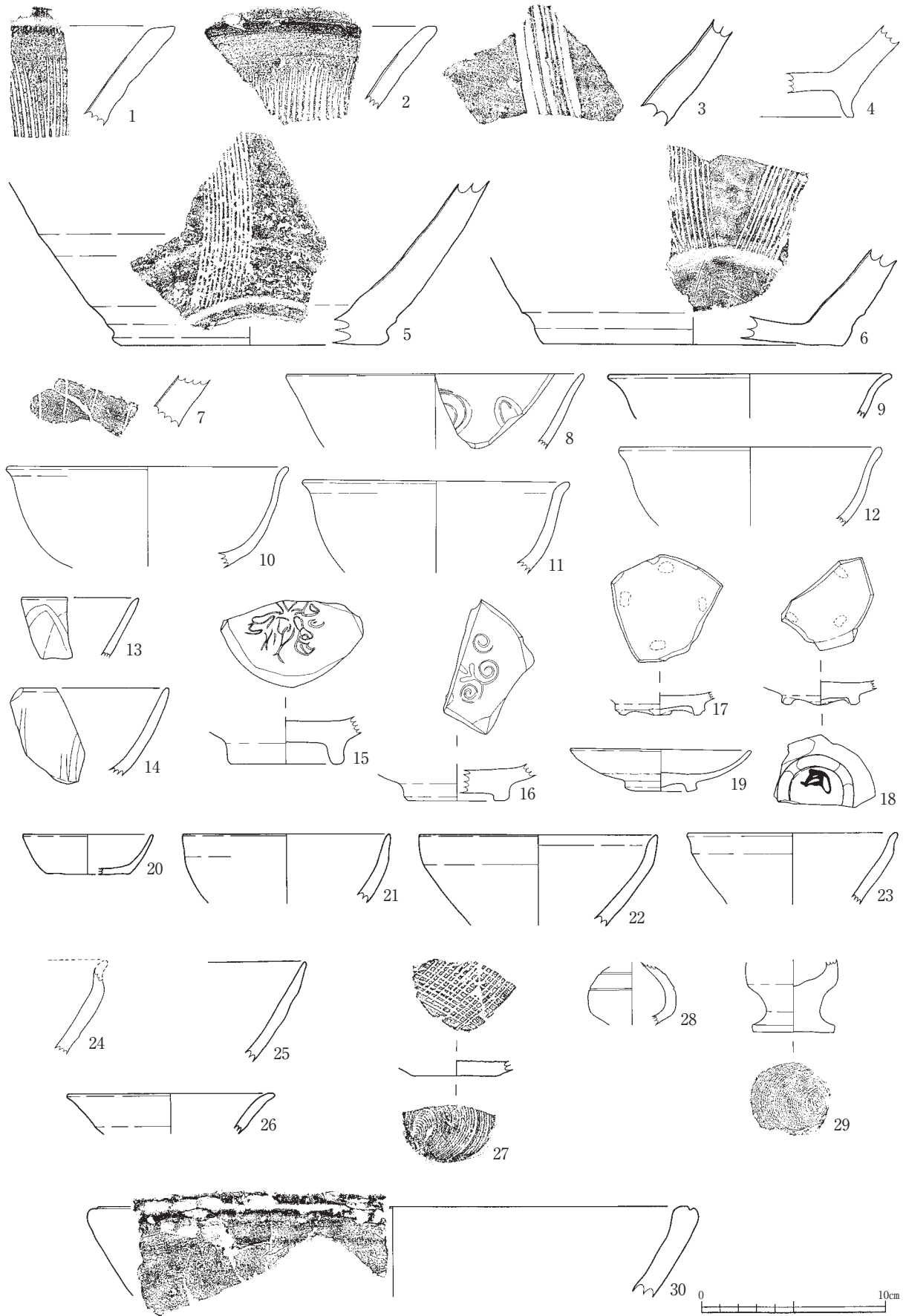


第91図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/3）

第2節 遺構外出土遺物

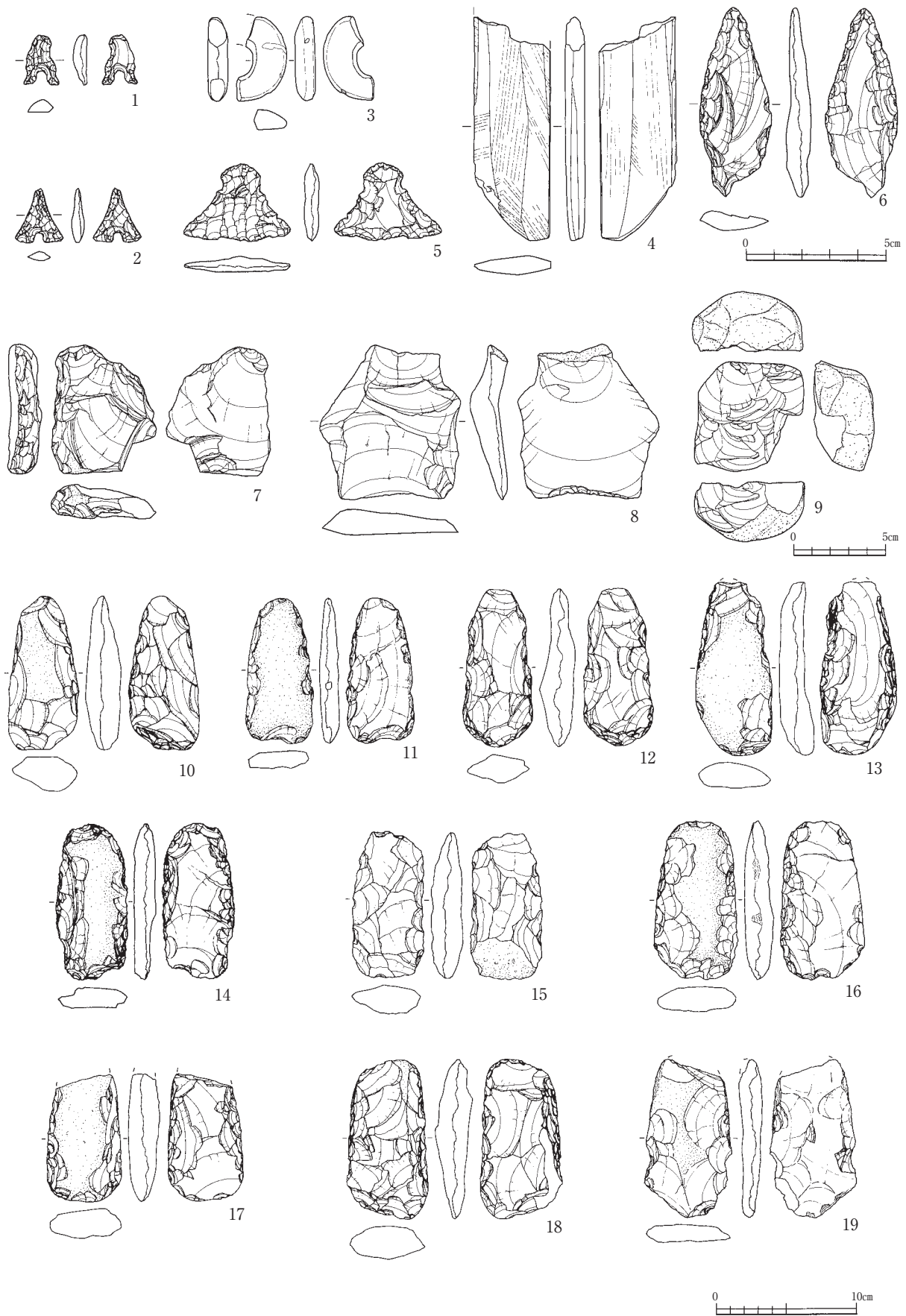


第92図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)

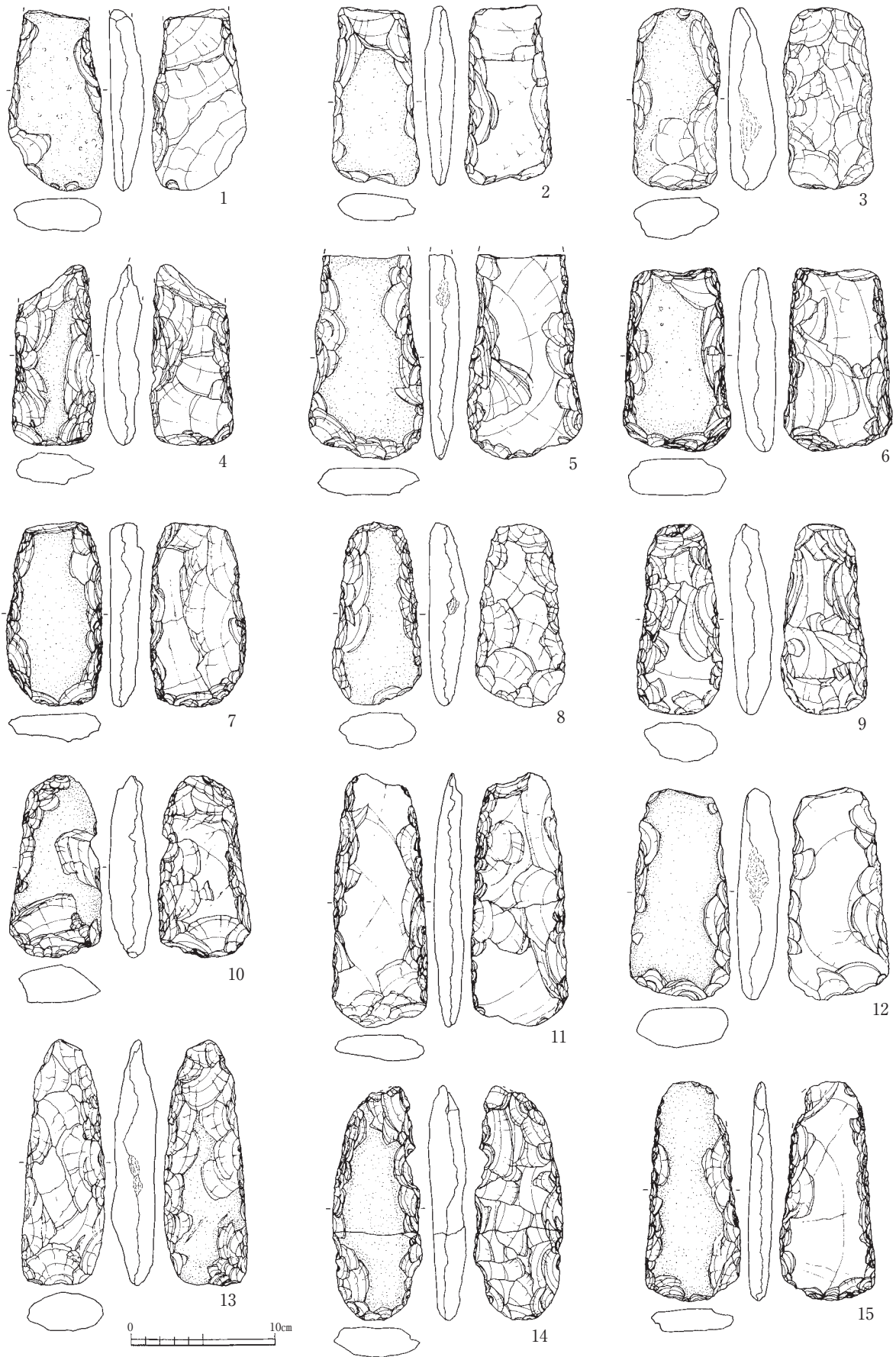


第93図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/3)

第2節 遺構外出土遺物

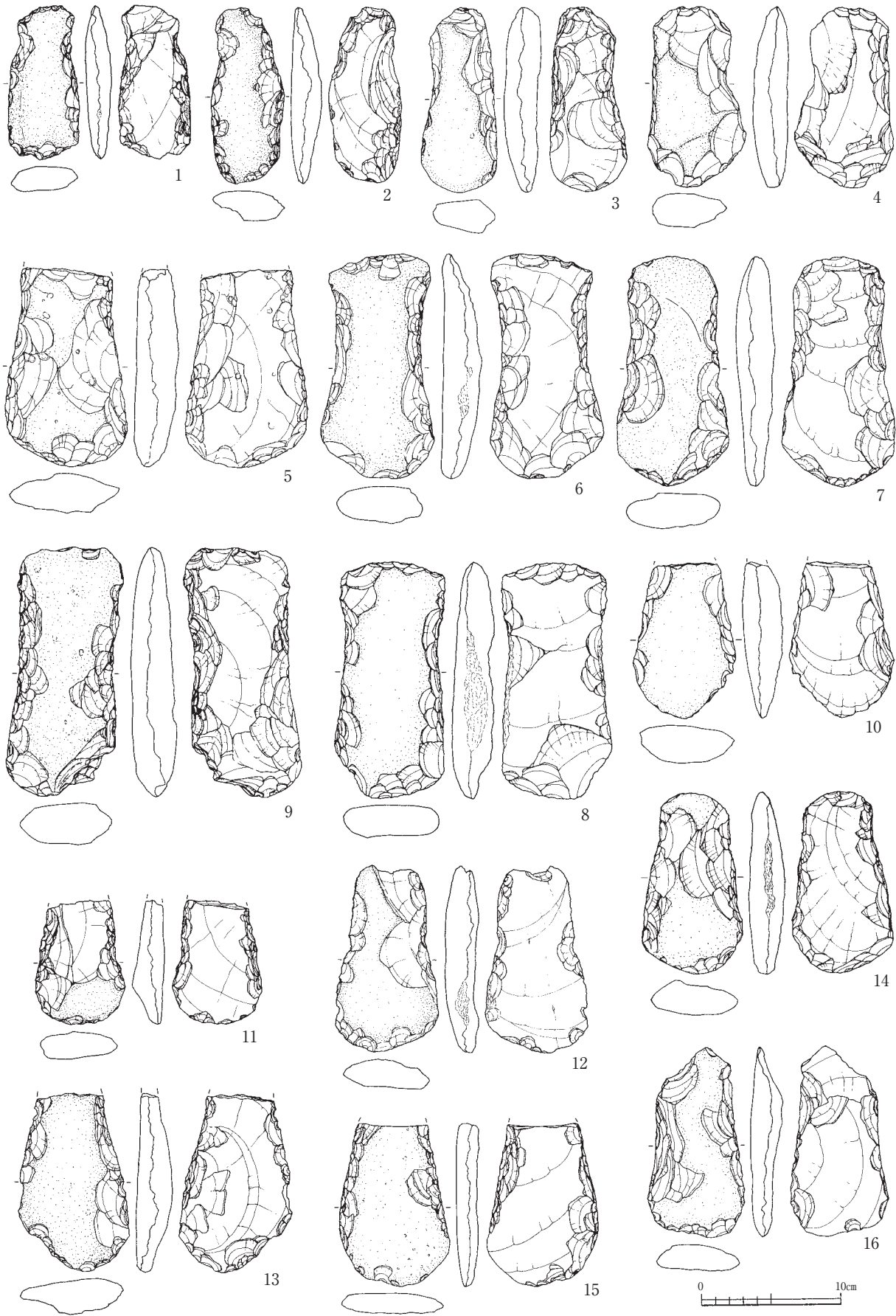


第94図 遺構外出土遺物実測図 (1~6:縮尺1/2, 7~9:縮尺1/3, 10~19:縮尺1/4)



第95図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/4)

第2節 遺構外出土遺物

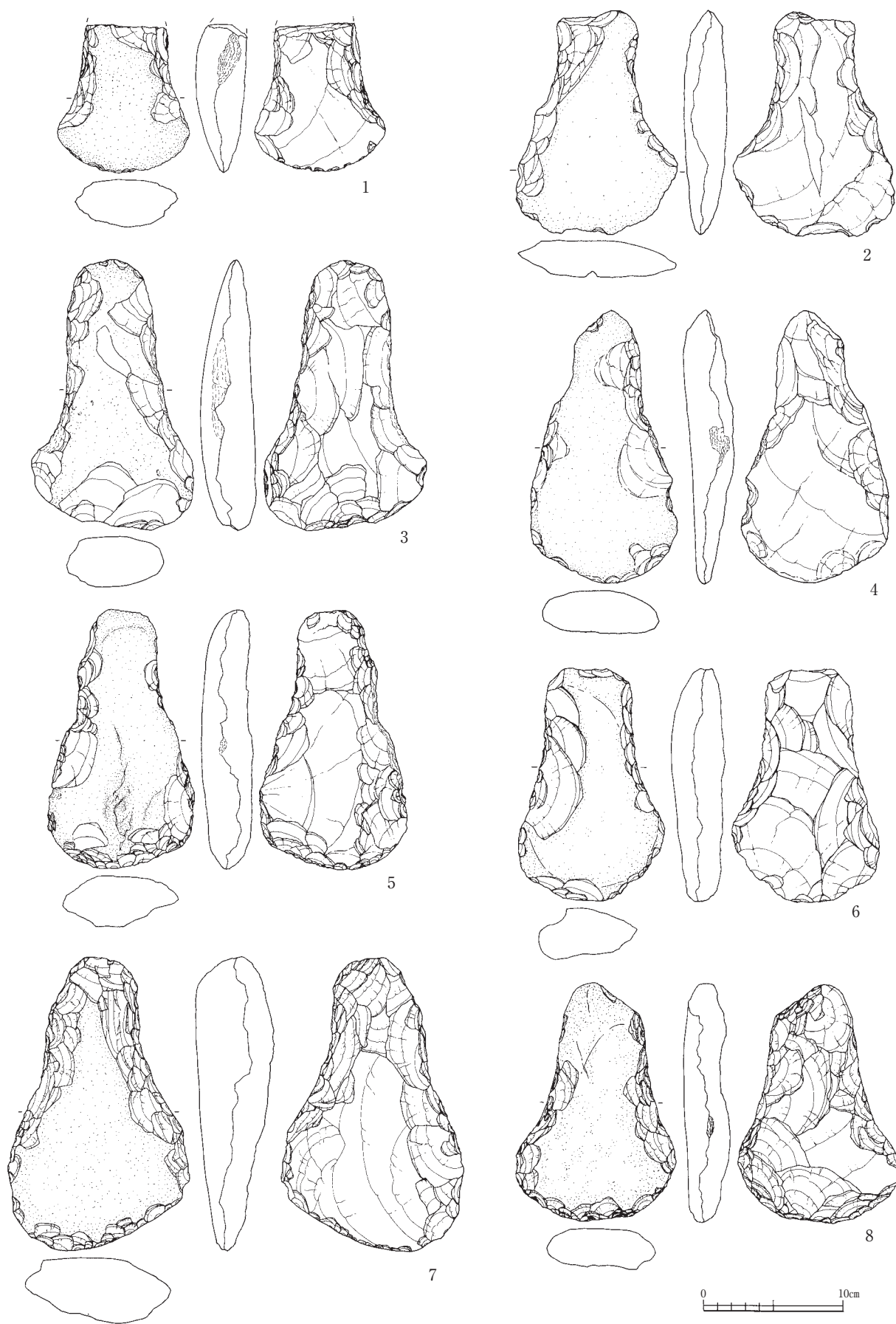


第96図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）



第97図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）

第2節 遺構外出土遺物

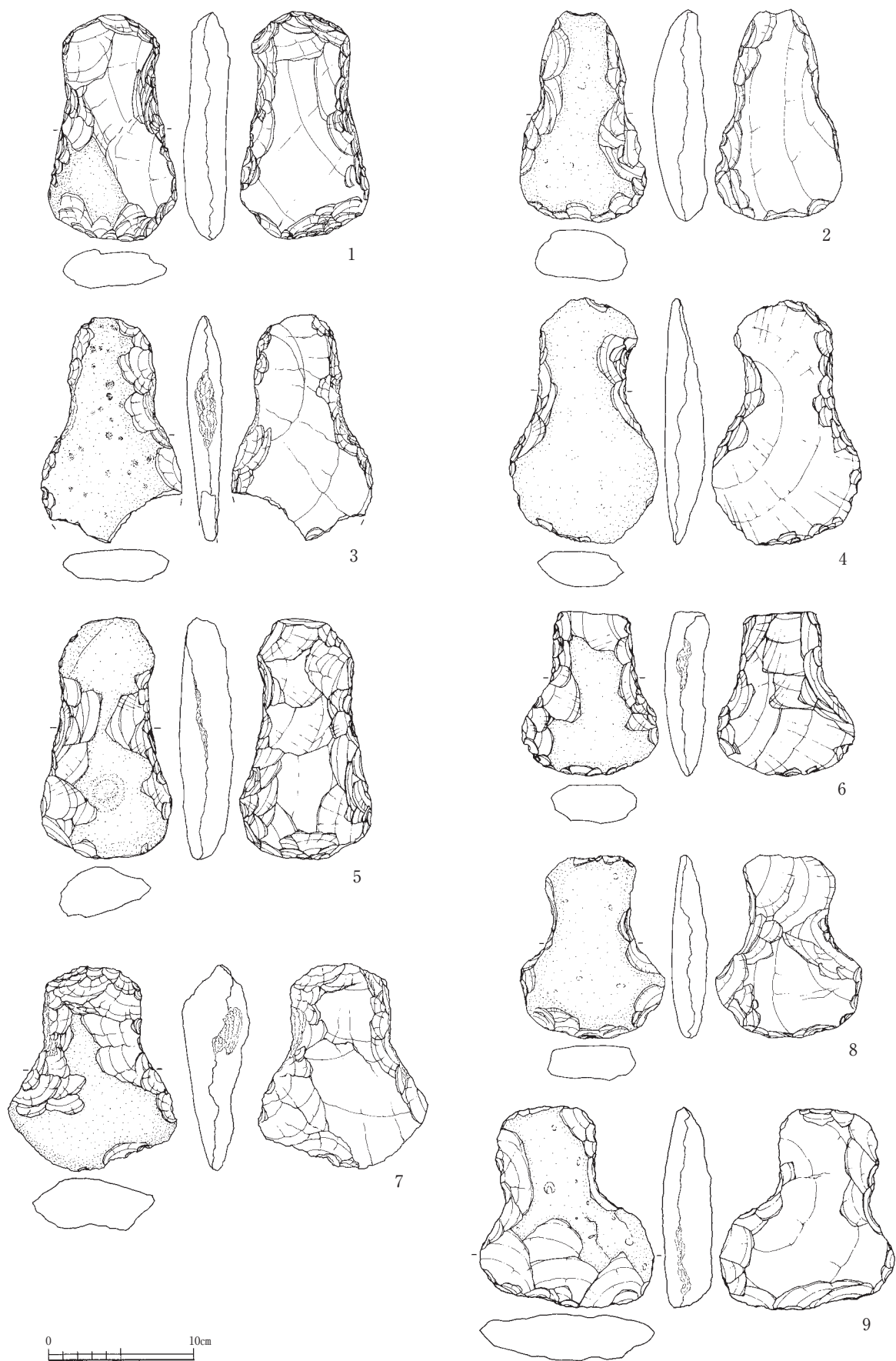


第98図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）

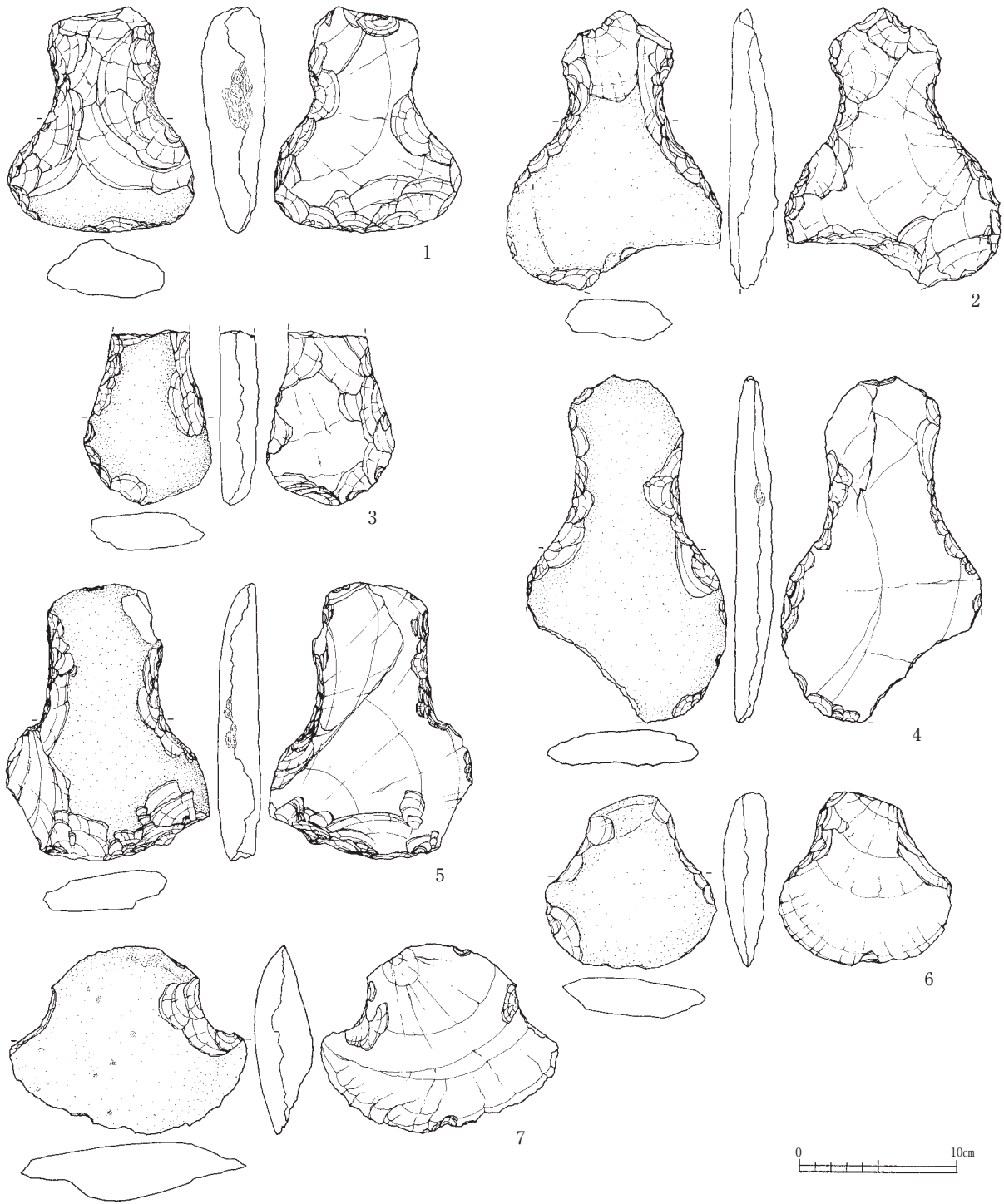


第99図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）

第2節 遺構外出土遺物

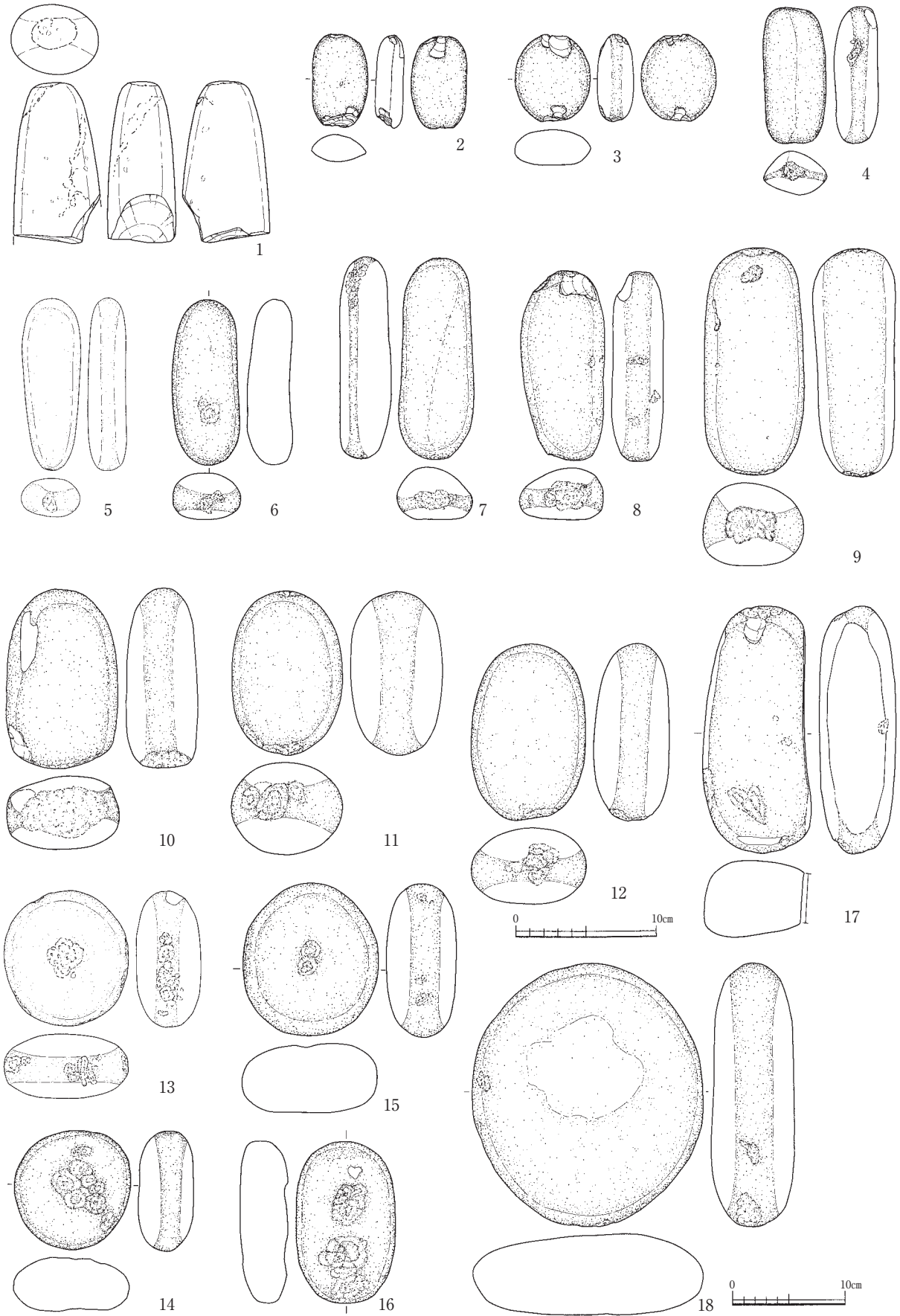


第100図 遺構外出土遺物実測図（縮尺1/4）

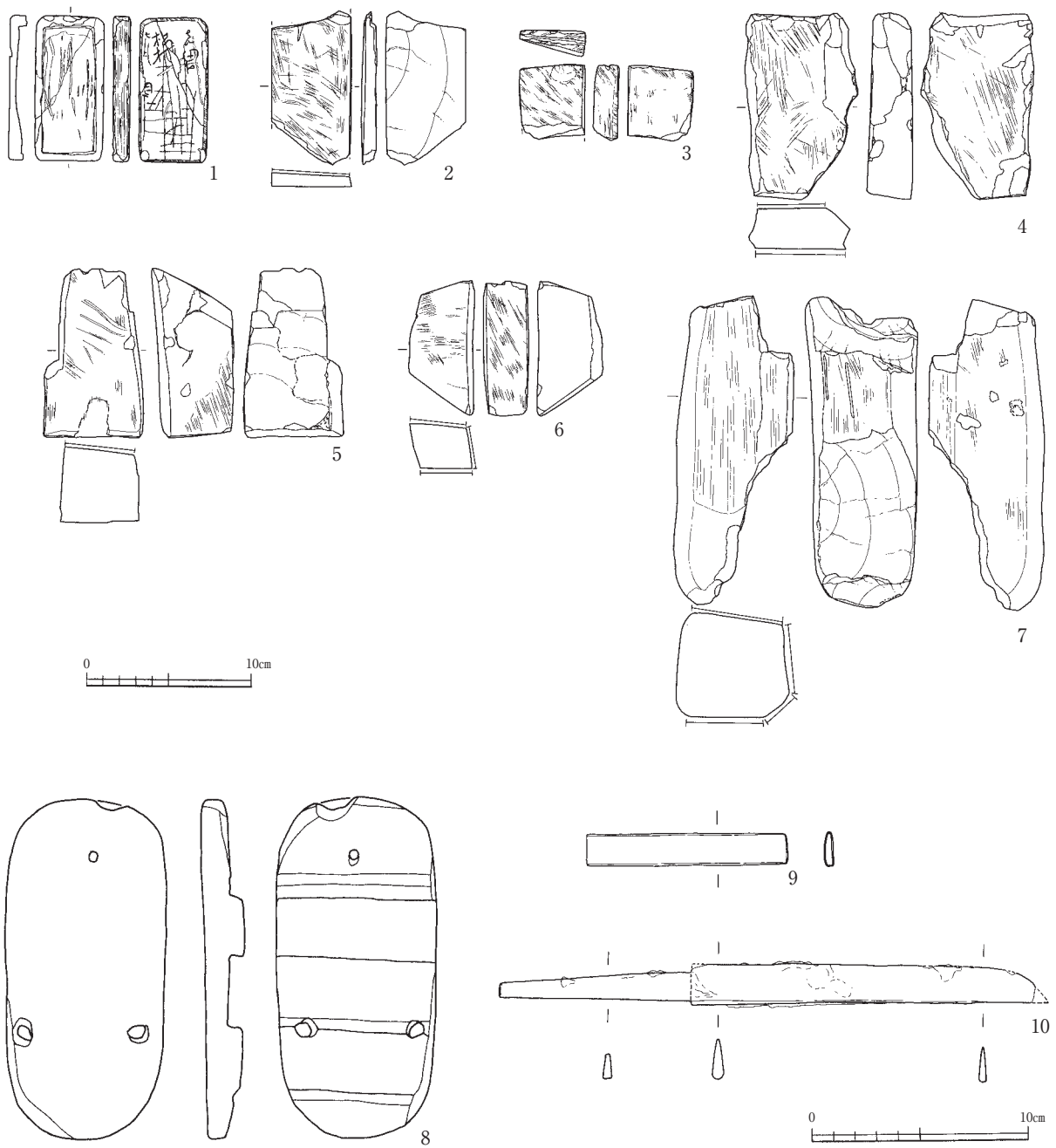


第101図 遺構外出土遺物実測図 (縮尺1/4)

第2節 遺構外出土遺物



第102図 遺構外出土遺物実測図 (1~17: 縮尺1/4, 18: 縮尺1/5)



第103図 遺構外出土遺物実測図（1～7：縮尺1/4，8～10：縮尺1/3）

第4章 遺構と遺物

第2表 土器・土製品観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率/12	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									口縁部	底部	外面	内面	底部				外面
23図1	7	K19	SB04・SP07154	弥生土器壺		6			12.0	横ナデ・指頭圧痕	横ナデ		10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR6/6 褐色	1mm~2mm程度の石英・チャート・砂岩系粒子を含む	良	
23図2	7	J19	SB04・SP07154	弥生土器脚部						横ナデ・ミガキ	横ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	穿孔
23図3	7	I19	SB04・SP07152	弥生土器底部		5.4			12.0	横ナデ	ハケ	ナデ	7.5YR4/1 褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	1mm程度の石英その他黒色粒子を含む	良	
23図4	7	J20	SB05・SP0733	弥生土器壺						横ナデ	横ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の白・黒色粒子を含む	良	
23図5	7	J20	SB05・SP0740	弥生土器底部		4.2			3.0	摩滅	摩滅	ナデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	底部穿孔
23図6	7	H20	SB06・SP0790	弥生土器壺						ハケ	摩滅		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm程度の白色粒子・チャートを含む	良	
23図7	7	I20	SB06・SP0793上面	弥生土器底部		5.6		1.2		ハケ・横ナデ	横ナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm程度の白・黒色粒子を含む	良	
23図9	7	I15	SB13・SP0774	須恵器環	12.2				2.0	回転ナデ	回転ナデ		5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	1mm以下の長石・石英を含む	良	
23図10	10	G17	SB14・SP1079	須恵器環	15.4					回転ナデ	回転ナデ		2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	1~2mmの白・黒色粒子を含む	良	
23図11	10	G19	SB17・SP10120	須恵器環	15.2				1.0	回転ナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	5Y4/1 灰色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	
23図12	7	H19	SB18・SP0714	土師器壺	20.8				6.0	横ナデ	横ナデ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	1mm程度の白・赤粒子を含む	良	
23図13	15	U26	SB23・SP1511	須恵器無台環		10.0			0.8	回転ナデ	回転ナデ	ハラ切りの チナデ	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	
25図1	14	Q19	SD27上面	土師質皿						ナデ	ナデ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を微量含む	良	
25図2	14	Q18	SD27	土師質皿						ナデ	ナデ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を微量含む	良	
25図3	14	Q19	SD27上層	土師質皿						ナデ	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を中量含む	良	
25図4	14	Q18	SD27	土師質皿						ナデ	ナデ		7.5YR7/6 褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	
28図1	14	Q18	SB25 掘り込み 上層	越前焼片口鉢						摩滅	ロクロナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	5YR7/4 にぶい褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	やや軟	口縁端部に沈線
28図2	14	Q18	SB25 SE08 下層	土師質皿						ナデ	ナデ		10YR8/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を微量含む	良	
31図1	3	Q18	SE03	土師質皿						ナデ	ナデ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を微量含む	良	
31図2	3	Q18	SE03	土師質皿						ナデ	ナデ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を微量含む	良	曲物に挟まって出土
33図1	14	P19	SE07上層	越前焼指鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y5/2 暗黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量、5mmの礫(褐色)含む	良	目目6条・口縁端部に沈線
33図2	14	Q19	SE07上層	越前焼指鉢						回転ハラケズリ	ロクロナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量、2~3mmの礫(白・褐色)を微量含む	良	内面に窯印
37図1	12	L25	SK1205 上層	弥生土器壺	12.0			1.0		縦線文(6)・横ナデ	横ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1~2mm程度の砂粒を含む	やや軟	
43図1	1	M8	SK0102	弥生土器壺	16.9	3.1		5.3	12.0	横ナデ・ナデ・擬縦線文(6)・ハケズリ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ	ナデ	10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・赤・黒色粒子をやや多く含む	良	外面スス付着
43図2	1	M8	SK0112上層	弥生土器壺	16.9			7.0		横ナデ・擬縦線文(6)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ハケ		2.5Y7/4 淡黄色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良	外面スス・内面コゲ付着
43図4	9	I2	SK0901下層	弥生土器深鉢						刻み・条痕	横ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1~2mmのチャート等を含む	良	
43図5	9	I2	SK0901	縄文または弥生土器						条痕(斜方向)	摩滅		2.5YR7/2 明赤灰色	5YR8/2 灰白色	2mm以下の白~褐色粒を中量含む	やや軟	
43図6	9	I3	SK0901	縄文または弥生土器						条痕(斜方向)	摩滅		2.5YR7/2 明赤灰色	5YR8/2 灰白色	2mm以下の白~褐色粒を中量含む	やや軟	
43図7	9	I2	SK0901	縄文または弥生土器						条痕(斜方向)	摩滅		2.5YR7/2 明赤灰色	5YR8/2 灰白色	2mm以下の白~褐色粒を中量含む	やや軟	
43図8	9	I2	SK0901下層	弥生土器体部						条痕か	横ナデ		2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	1~3mmの長石・石英・砂岩・チャートを含む	良	外面スス付着
43図9	9	I2	SK0901下層	弥生土器壺						刻み・羽状文	横ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1mm~3mmの長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩を含む	良	
43図10	9	I2	SK0901下層	弥生土器壺						横ナデ・擬縦線文(3)	横ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR6/6 褐色	1mm程度の白色粒子・チャートを含む	良	
43図11	9	I2	SK0901下層	弥生土器壺						横ナデ	ハケ・ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
43図12	9	I2	SK0901下層	弥生土器底部		6			9.0	ハケ	指頭圧痕		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1mm以下の長石・石英を含む	良	
43図14	9	K3-L2	SK0905・ 風割木	弥生土器体部						条痕	剥離		2.5Y6/2 灰黄色	10YR6/6 明黄褐色	1~3mmの石英・チャート・砂岩系粒子を含む	やや軟	
43図15	9	G-H3	SK0906下層	弥生土器壺	16.3			5.8		横ナデ・刻み・直線文	横ナデ・波状文		10YR7/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	0.5~3mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
43図16	9	H3	SK0906下層	弥生土器壺か						横ナデ・刻み	横ナデ・波状文		2.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	1~4mmの粘板岩等を含む	良	
43図17	9	H3	SK0906下層	弥生土器体部						ナデ・直線文・扇形文	ナデ		7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	1~2mmの砂岩・赤色粒子を含む	良	
43図18	9	K2	SK0909下層	弥生土器底部		5.8		12.0		横ナデ	指頭圧痕	ナデ	10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	良	
43図19	9	J3	SK0911	弥生土器体部						横ナデ・条痕	横ナデ		10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	1mm~2mmの石英・砂岩系粒子を含む	良	外面スス付着
43図20	9	H7-J3	SK0911・SD01	弥生土器壺	16.8			4.0		横ナデ・擬縦線文(7)・ハケ	横ナデ・ケズリ・指頭圧痕		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	良	外面スス付着
43図21	9	K2	SP0931	弥生土器底部		5.8		12.0		ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩・褐色粒子を含む	良	内面コゲ付着・黒斑
44図01	6 3	L16-M18	SK0305・表土	縄文土器深鉢	37.4			0.1		楕円押型文(縦回転)	ナデ		2.5YR7/2 明赤灰色	7.5YR7/2 明褐色	2mm以下の白~灰色粒を多量に含む	やや軟	
44図02	3	L16	SK0305	弥生土器体部						ハラ描文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	微細な黒・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
44図03	3	L16	SK0305	弥生土器壺	15.5			0.8		横ナデ	横ナデ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	1~3mmの長石・石英を多く含む	良	
44図04	3	L16	SK0305	弥生土器脚部		17.0		1.1		ハケ・ミガキ	ナデ・ハケ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR6/2 にぶい灰褐色	1~3mm程度の砂粒を少量、雲母を含む	良	
44図06	3	N18	SK0319	弥生土器壺						横ナデ・刻み	横ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm~4mmの粘板岩等を含む	良	
44図07	7	K20	SK07157	弥生土器壺	19			1.5		横ナデ・擬縦線文(7)	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	1~2mmの白色粒子・チャートを含む	良	
44図08	7	K20	SK07157上面	弥生土器器台	18.2			5.1		ハケ・横ナデ・ミガキ	横ナデ・ミガキ		7.5YR6/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい褐色	1~2mmの白色粒子・チャートを含む	良	
44図09	7	K20・L15	SD06中層・SK07157上面	弥生土器脚部						横ナデ・ミガキ	横ナデ・ケズリ		7.5YR7/3 にぶい褐色	7.5YR7/3 にぶい褐色	1~2mmの黒色粒子・チャートを含む	良	
46図1	1	M8	SP0136	弥生土器壺	15.2			2.3		横ナデ・擬縦線文(9)	横ナデ・ナデ・ケズリ		2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤・黒色粒子を含む	良	

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面		内面	底面	内面				外面
									横ナデ	直線文・ 波状文	横ナデ						
46図2	9	J2	SP0922	弥生土器 脚部		17.6		1.1	横ナデ・ミガキ	横ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/2 灰黄色	1mm程度のチャート等を含む	良	穿孔	
46図3	7	G18	SP07210	弥生土器 体部					横ナデ・直線文・ 波状文	横ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm~2mm程度の白・赤色 粒子を含む	良		
46図4	7	I19	SP071002	弥生土器 壺					横ナデ	横ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm程度の白・赤色粒子を含む	良		
46図5	7	I19	SP07304	須恵器 無台坏小	12.0		1.6		回転ナデ	回転ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	1mm程度の白色粒子と、 その他微細な黒色粒子を含む	良		
46図8	10	G18	SP10114	須恵器 蓋	13.7		2.0		回転ナデ・ヘラ 切りのちナデ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・チャート を少量含む	やや 軟		
46図9	12	K22	SP1220	弥生土器 甕	15.6		8.3		横ナデ・擬凹線 文(5)	横ナデ・ケ ズリ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤色粒子を含む	軟		
46図10	12	K22	SP1220	弥生土器 甕					摩滅	摩滅		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/6 赤褐色	2mm以下の長石・チャート ・赤色粒子を含む	軟		
50図1	9	I5	SD01	縄文土器 深鉢					楕円押型文(斜回 転)	摩滅		5YR5/1 褐灰色	10YR7/3 にぶい黄褐色	3mm以下の白・灰色粒を 多量に含む	軟		
50図2	9	I-J4	SD01上層	縄文土器 深鉢					横位波線文・刺 突(竹管外側)・刻 み・条痕(横方向・ 不明瞭)	ナデ		7.5YR6/3 にぶい褐色	5YR6/2 灰褐色	1mm以下の石英等の白色 粒を少量、鉄燐を含む	やや 軟	剥落面に不整 な横線(調整 痕?)	
50図3	1	M7	SD01	縄文土器 深鉢					捻糸文(1、縦回 転のち半隆起線 文(多岐竹管)	ナデ		2.5YR6/2 灰赤色	2.5YR6/2 灰赤色	1mm以下の石英等の白色 粒を少量含む	やや 軟		
50図4	9	I6	SD01上層	縄文土器 深鉢					波線文(丸棒)	摩滅		5YR6/2 明褐色	5YR7/1 明褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟		
50図5	9	L7	SD01上層	縄文土器 深鉢					横位突帯文・押 圧	摩滅		5YR7/2 明褐色	5YR7/2 明褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	軟		
50図6	9	I3	SD01上層	縄文土器					工字文(丸棒)	摩滅		5YR6/1 褐灰色	5YR7/1 明褐色	2mm以下の白~褐色粒を 中量含む	軟		
50図7	3	M15	SD01上層	土製品					摩滅			-	7.5YR8/4 浅黄褐色	1~2mmの白・黒色粒子を 含む	良	厚み1・幅2.5・ 長さ(2.8残) cm	
50図8	4	N20	SD01下層	弥生土器 甕					ナデ・刻み	ナデ		7.5YR7/4 にぶい褐色	7.5YR7/4 にぶい褐色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
50図9	9	K6	SD01上層	弥生土器 甕					横ナデ・刻み	横ナデ		7.5YR6/4 にぶい褐色	5YR6/6 褐色	1~2mm程度の白色粒子・ チャートを含む	良		
50図10	3	N17	SD01上層	弥生土器 壺					ナデ・刻み	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1~4mmの長石・石英・粘 岩・チャートを含む	良		
50図11	9	J5	SD01上層	弥生土器 体部					ナデ・直線文 (3・3)・波状文	ナデ		5Y7/1 灰白色	2.5Y7/3 浅黄褐色	1~2mmの長石・石英・砂 岩・チャートを含む	良		
50図12	9	J4	SD01下層	弥生土器 壺					縦線文	斜行短線文		2.5YR6/3 にぶい褐色	10YR4/2 灰黄色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
50図13	3	O17	SD01最下層	弥生土器 体部					直線文・刺突文	ナデ		10YR4/1 褐灰色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1~3mmの白色粒子・ チャートを含む	良		
50図14	3	M16	SD01上層	弥生土器 体部					刺突文	ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm程度のチャートを含 む	良		
50図15	9	I4	SD01下層	弥生土器 体部					直線文・波状文・ 刺突・指頭圧痕・ 条痕	ナデ		2.5Y4/1 黄灰色	2.5Y4/1 黄灰色	1~2mmの長石・石英・砂 岩・赤色粒子を含む	良		
50図16	9	H2	SD01下層	弥生土器 壺					ナデ・重方形式・ 条痕	ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
50図17	4	O20	SD01下層	弥生土器 体部					直線文・条痕	ナデ		2.5Y6/1 黄灰色	10YR8/3 浅黄褐色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	良		
50図18	9	L7	SD01下層	弥生土器 体部					直線文	ナデ		10YR6/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm程度の長石・石英・黒 色粒子を含む	良		
50図19	9	J4	SD01上面	弥生土器 体部					跳ね上げ文・条 痕	ナデ		10YR7/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
50図20	9	H3	SD01下層	弥生土器 体部					条痕・山形文	ナデ		2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y6/3 にぶい黄色	1~3mmの長石・石英・砂 岩・チャート・赤色粒子を 含む	良		
50図21	9	I3	SD01下層	弥生土器 甕	16.5		0.9		ナデ・擬凹線文 (3)	横ナデ・ケ ズリ		7.5YR7/6 褐色	7.5YR7/6 褐色	4mm程度の砂岩・それ以 下の長石・石英・チャート・ 赤色粒子を含む	良	外面スス付着	
50図22	9	I4	SD01下層	弥生土器 壺			2.2		横ナデ・波状文	摩滅		5Y7/2 灰黄色	5Y7/2 灰黄色	1~3mmの砂岩を含む	良		
50図23	9	H2	SD01上層	弥生土器 甕	17.8		3.2		横ナデ・擬凹線 文(5)	横ナデ・指 頭圧痕・ケ ズリ		2.5Y7/3 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤色粒子 を含む	良	外面スス付着	
50図24	9	H2	SD01上層・中層	弥生土器 甕	12.8	2.5	17.7	6.1	12.0	横ナデ・擬凹線 文(5)・ハケ	横ナデ・ケ ズリ	ナデ	7.5YR7/4 にぶい褐色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・雲母・赤色粒子 を多く含む	良	外面スス付着
50図25	9	L7	SD01	弥生土器 甕	19.7		2.1			横ナデ・ナデ・擬 凹線文(5)	横ナデ・指 頭圧痕・ケ ズリ		10YR6/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 にぶい黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	外面スス付着
50図26	7	I13	SD01中・下層	弥生土器 甕	15.1		2.3			横ナデ・擬凹線 文(4)	横ナデ・指 頭圧痕・ケ ズリ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・雲母・赤 色粒子を含む	良	外面スス付 着・内面コゲ 付着
50図27	9	K5-L7	SD01上層	弥生土器 甕	17.6		5.3			横ナデ・擬凹線 文(10)・ハケ	横ナデ・指 頭圧痕・ハ ケ・ケズリ		10YR7/4 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄褐色	2mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤・黒色粒子を含 む	良	外面スス付着
51図1	9	H2-I9	SD01上層・下層	弥生土器 甕	17.8		3.8			横ナデ・擬凹線 文(9)	横ナデ・ケ ズリ		10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	良	
51図2	3	N17	SD01上層	弥生土器 甕	29.8		1.0			横ナデ・擬凹線 文(6)	横ナデ・指 頭圧痕		7.5YR8/6 浅黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤・黒色 粒子を含む	良	
51図3	9	H3-I4	SD01上層・下層	弥生土器 甕	29.0		1.7			横ナデ・擬凹線 文(14)	横ナデ・指 頭圧痕		10YR7/4 にぶい黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤・黒色 粒子を含む	良	外面スス付着
51図4	1	M7-8	SD01下層	弥生土器 甕	14.4		3.2			横ナデ・ナデ・ハ ケ	横ナデ・ハ ケ・ナデ		5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	外面スス付着
51図5	9	J4-L6	SD01上層	弥生土器 甕	18.0		1.0			横ナデ・指頭圧 痕・ハケ	横ナデ・指 頭圧痕・ハ ケ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/3 浅黄褐色	0.5~4mmの長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を多く含む	良	外面スス付着
51図6	9	H2	SD01下層	弥生土器 甕						刺突	剥離		-	10YR5/2 灰黄褐色	1~2mmの長石・石英を含 む	良	外面スス付着
51図7	3	M12	SD01上層	弥生土器 甕						横ナデ・刺突	ナデ・ハケ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1~2mmのチャート・白色 粒子を含む	良	
51図8	9	I-J3	SD01	弥生土器 壺	16.4		8.5			横ナデ・ハケ・刻 み	横ナデ・ナ デ		2.5Y7/3 浅黄褐色	2.5YR7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・赤・黒色粒子 を含む	良	
51図9	9	J5	SD01	弥生土器 壺	14.0		1.9			ナデ	ナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄褐色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩・雲母・赤 色粒子を含む	良	
51図10	1-9	H3-M7	SD01	弥生土器 壺	15.4		4.0			横ナデ・ハケ	横ナデ		7.5Y7/4 にぶい褐色	7.5Y7/4 にぶい褐色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・赤色粒子を少 量含む	良	外面スス付着
51図11	9	H2-J4-L6	SD01上層・中層	弥生土器 壺	11.4		1.1			ナデ・擬凹線文 (4)	ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	7.5YR5/4 にぶい褐色	1~2mmの長石・石英・砂 岩・チャートを含む	良	

第4章 遺構と遺物

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面		内部	内部					外面
									外面	内部	内部	外面	外面				
51図12	9	I・J4	SD01上層・下層	弥生土器 壺	11.6			6.3	横ナデ	横ナデ・ナ デ・指頭圧 痕		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良		
51図13	9	H2	SD01上層	弥生土器 壺					摩滅	摩滅		10YR7/3 にふい黄橙色	7.5YR7/6 橙色	3mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤、黒色 粒子を含む	良		
51図14	9	I4・L6・7	SD01上層・下層	弥生土器 壺		3.9		12.0	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ	ナデ	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩を多く含 む	良		
51図15	9	L6	SD01	弥生土器 体部					ナデ・竹管文	ハケ		2.5Y5/1 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1mm以下の白・黒色粒子を 含む	良		
51図16	9	I2・3	SD01上層・ SK0901下層	弥生土器 高坏	31.2			10.8	横ナデ・ハケの ちミガキ	横ナデ・ミ ガキ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・赤色粒子を含 む	良		
51図17	9	L6	SD01	弥生土器 器台	22.0			1.2	ハケ・ナデ・擬凹 線文(9)	ナデ		2.5Y5/1 灰黄色	2.5Y8/4 淡黄色	1~3mmの長石・石英・砂岩 ・チャート・赤色粒子含む	やや 軟	外面スス付着	
51図18	9	K5	SD01下層	弥生土器 器台					横ナデ・擬凹線 文(6)・凹形浮文	横ナデ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	1mm程度の白、黒、赤色 粒子を含む	良		
51図19	9	J4	SD01	弥生土器 脚部					直線文・列点文・ ハケ	ハケ・ナデ		10YR6/3 にふい黄橙色	7.5YR7/2 明褐色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良	小孔(残存付) ・ハケ状工具 による直線文	
51図20	3	M11	SD01中層	弥生土器 高坏					ナデ・直線文	ナデ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	微細な白、黒、赤色粒子を 含む	良		
52図1	1	M8	SD01	弥生土器 高坏					ナデ・直線文	ハケ・ナデ		7.5YR7/4 にふい橙色	7.5YR7/4 にふい橙色	1~3mmの長石・石英・砂岩 ・チャートを含む	良		
52図2	1	M9	SD01	弥生土器 脚部		13.1		12.0	擬凹線文(5)・列 点文・ナデ・ミガ キ	横ナデ・し ぼり・ハケ のちナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	2mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤、黒色 粒子を含む	良	小孔4	
52図3	3	M11	SD01	弥生土器 鉢	20.0			1.5	ナデ	ナデ		7.5YR6/4 にふい橙色	7.5YR6/4 にふい橙色	1~2mmの長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子・ 微細な雲母を含む	良	黒斑	
52図4	3	M13	SD01上層	弥生土器 有孔鉢		2.5		12.0	ナデ・指頭圧痕	ナデ		7.5YR8/3 浅黄褐色	7.5YR8/3 浅黄褐色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・砂岩をやや多く 含む	良	孔径1.3cm	
52図5	9	J5	SD01	弥生土器 脚台		8.8		5.5	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/4 淡黄色	1mm程度の赤、黒色粒子 を含む	良		
52図6	9	L7	SD01上面	土師器 甕	15.0			4.3	横ナデ・ハケ	横ナデ・ケ ズリ		10YR8/3 浅黄褐色	2.5Y8/4 淡黄色	0.5~1mmの長石・石英・ 黒色粒子を含む	良	外面スス付着	
52図7	9	L8	SD01上層	弥生土器 高坏	16.4	9.75	12.0	1.5	3.1	ケズリ・ハケ・ナ デ	横ナデ・ハ ケ・ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良	内外面黒斑
52図8	3	M12	SD01上層	土師器 坏	14.0	9.1	3.0	2.0	2.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	7.5YR7/4 にふい橙色	7.5YR6/4 にふい橙色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	やや 軟	口縁端部内外 面に漆付着
52図9	9	K6	SD01上層	土師器 皿		14.0		3.0	ナデ	ナデ	ヘラ切りの ちナデ	2.5T5/6 明赤褐色	2.5T5/6 明赤褐色	1mm程度の長石・石英・ 赤色粒子・雲母を含む	良	内外面赤彩	
52図10	1	M10	SD01上層・表土	土師器 取鍋	12.8			4	ナデ	ナデ	ハクリ	10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・黒色粒 子を含む	良		
52図11	3	M14・N11・ 18	SD01中層	土師器 甕	25.5			1.1	回転ナデ・カキ 目	回転ナデ・ カキ目		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	外面墨書「X」	
52図12	3	N12	SD01上層	須恵器 無台坏	12.3	8.1	2.8	1.0	5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~5mmの長石・チャート ・黒色粒子を多く含む	良	
52図13	9	I4・J5	SD01上層	須恵器 無台坏	12.4	8.3	3.4	10.8	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャ ート・黒色粒子を少量含む	良	
52図14	7・3	J11・M16・ O17~19	SD01下層	須恵器 無台坏	13.0	8.5	3.55	2.8	10.5	回転ナデ・ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~3mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
52図15	3	M12	SD01上層	須恵器 有台坏	12.9	9.0	3.6	2.5	3.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	10Y6/1 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	
52図16	3	M12	SD01上層	須恵器 有台坏	13.1	8.8	3.6	1.1	4.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N7/0 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	
52図17	9	H3・L7	SD01・表土	須恵器 有台坏		9.4		5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	5Y6/1 灰色	5Y5/1 灰色	0.5~1mmの白色粒子・ チャートを少量含む	良	高台内墨書	
52図18	9	H10	SD01上層	須恵器 皿	15.4	13.5	2.75	5.9	9.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y7/2 灰白色	5Y7/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャ ート・黒色粒子をやや多 く含む	やや 軟	
52図19	9	G10	SD04下層	灰釉陶器 碗						回転ナデ	回転ナデ		5Y6/2 灰オリーブ色	7.5Y7/1 灰白色	0.5mmの白・黒色粒子を微 量含む	良	内外面に施釉
54図6	9	I2	SD02下層	弥生土器 壺						ナデ・刺突・指頭 圧痕	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1mm程度の長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良	
54図7	9	J3	SD02上層	弥生土器 体部						条痕・列点文	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~3mmのチャート・白色 粒子を含む	良	
54図8	9	H1・3・J3	SD02上層・ SK0906・SK0918	弥生土器 甕	22.3	6.0	32.5	9.7	12.0	横ナデ・ハケ・ナ デ	横ナデ・ハ ケ・ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	0.5~3mmの長石・チャ ート・赤、黒色粒子を多 く含む	やや 軟	内外面黒斑
54図9	9	I2・3・J3・ L7	SD02上層・ SD01・風倒木5	弥生土器 壺	16.6			5.8	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハ ケ・ナデ・指 頭圧痕		10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~3mmの長石・石英・ 赤色粒子を含む	良	外面スス付着	
55図1	9	G7・H8	SD03下層	弥生土器 甕か						ナデ・刻み	ナデ		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR6/3 にふい黄褐色	1mm程度のチャート・赤 色粒子を含む	良	
55図2	3	L13	SD03	弥生土器 甕	12.0			2.0	擬凹線文(7)	ナデ		10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
55図3	9	G7	SD03上層	弥生土器 甕	16.0					擬凹線文(6か)	ナデ		2.5Y8/3 浅黄色	2.5Y8/3 浅黄色	1mm程度の長石・石英・ チャートを含む	良	
55図4	7	K12	SD03下層	弥生土器 壺	14.3			0.5	ナデ・ハケ	ナデ		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	1mm~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良	外面スス付着	
55図5	7	K12	SD03	弥生土器 壺	16.0			1.0	ナデ	ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y8/3 浅黄色	1~2mmの長石・石英・ チャート・砂岩・黒色粒 子を含む	良		
55図6	9	G10	SD04下層	土師器 甕	20.8			2.5	横ナデ・カキ目・ 平行タタキ	横ナデ・ハ ケ・同心円 あて具痕		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR8/2 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	やや 軟		
55図7	7	J11・H12	SD04下層・上層	須恵器 蓋	17.6			0.8	回転ナデ・ヘラ 切り・回転ヘ ラケズリ・鈕貼 付のちナデ	回転ナデ		10Y7/1 灰白色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・白、黒 色粒子・チャートを含む	良		
55図8	7	J11・12	SD04上層	須恵器 有台坏	11.4	8.8	3.8	2.8	3.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り ・高台貼付 のちナデ	5Y7/1 灰白色	7.5Y5/1 灰色	0.5~1.0mmの長石・チャ ート・黒色粒子を少量含 む	良	
55図9	9	H10	SD04下層	須恵器 有台坏	12.0	7.9	4.25	5.3	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り ・高台貼付 のちナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャ ート・黒色粒子を多く含 む	良	

挿入番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12		調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考
								口縁部	底部	外面	内面	底部	内面	外面			
55図10	9	G9・H1・10	SD04底面・SK0901・表土	須恵器 有台環	12.6	9.5	4.15	7.9	1.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図11	9	G・H10	SD04底面・下層	須恵器 有台環	12.4	8.9	4.1	3.5	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	7.5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図12	9	G9	SD04下層	須恵器 有台環	12.3	9.0	4.2	4.3	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図13	9	G10	SD04下層	須恵器 皿	14.5	11.3	1.8	5.3	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図14	9	H10・K3	SD04下層	須恵器 皿	15.3	12.2	2.85	3.0	5.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図15	7	K12	SD04上層	須恵器 皿	16.0	13.0	2.2	1.2	10.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	10Y5/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図16	9	G8・9	SD04上層・下層	須恵器 皿	16.4	13.4	2.55	3.4	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	10Y6/1 灰色	N6/1 灰色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	底部内面に線刻「一」
55図17	5	E・F8	SD04下層・中層	須恵器 壺						回転ナデ・沈線(4)	回転ナデ		N5/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
55図18	5	-	SD04上層	須恵器 高環						回転ナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
56図1	3	N17	SD05下層	弥生土器 甕	15.0			1.9		ハケ・ナデ・擬凹線文(11カ)	横ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩・チャートを含む	良	
56図2	3	-	SD05上層	弥生土器 甕	23.0			2.8		ナデ・擬凹線文(10)	横ナデ・ケズリ		7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1~3mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
56図3	3	N19	SD05	弥生土器 壺	10.5			10.2		横ナデ	横ナデ・ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	0.5~2mmの長石・チャート・黒色粒子をやや多く含む	やや軟	
56図4	3	M16	SD05上層	弥生土器 壺	10.2	3.4	17.2	1.1	12.0	横ナデ・ケズリ	ナデ・ハケ・指頭圧痕	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	やや軟	体部中央に穿孔
56図5	3	L・M14・N17	SD05上層	弥生土器 壺						ナデ・ハケ	ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・赤色粒子を少量含む	軟	
56図6	3	M17	SD05上層	弥生土器 高環	30.4			2.0		摩滅	摩滅		7.5YR7/4 灰白色	7.5YR7/4 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・チャートを少量含む	良	
56図7	3	N17	SD05上層	弥生土器 器台	22.0			3.5		横ナデ	摩滅		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	微細な長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を少量含む	軟	
56図11	7	L16	SD07上層	弥生土器 甕	17.0			1.1		ナデ	ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩・黒色粒子を含む	良	
56図12	7	I14	SD07下層	弥生土器 甕	19.0			3.2		横ナデ・擬凹線文(7)・ハケ	横ナデ・ケズリ		7.5YR7/6 灰色	2.5Y7/2 灰黄色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良	外面黒斑
56図13	4	O21	SD07上層	弥生土器 鉢	10.2			2.6		摩滅	摩滅		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	やや軟	
56図14	7	H14	SD07	弥生土器 体部						波状文・竹管文	ナデ		5Y4/1 灰色	10YR6/4 にぶい黄橙色	微細な白色粒子を含む	良	
57図1	7	J14	SD06下層	縄文土器						沈線文・刺突(先端の突る丸棒)	ナデ		5YR7/2 明褐色	5YR8/2 灰白色	2mm以下の褐色粒を多量に、白色粒を少量含む	軟	
57図2	10	G12	SD06上層	弥生土器 甕						ナデ・刻み	ナデ		5YR6/6 橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャートを含む	良	
57図3	3	L16	SD06	弥生土器 甕						ナデ・棒状浮文・直線文	ナデ		7.5YR5/3 にぶい橙色	7.5YR5/4 にぶい橙色	1~2mmの長石・石英・石英・チャート・砂岩を含む	良	
57図4	7	I13	SD06上層	弥生土器 高環	20.5			3.0		ナデ	円形スタンプ文・沈線(2)		10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙	1mm程度の白・黒色粒子を含む	良	
57図5	7	I13	SD06上層	弥生土器 高環	24.4			2.0		ナデ・ハケのちミガキ・スタンプ文	横ナデ・ナデ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	微細な長石・石英・雲母・黒色粒子を含む	良	
57図6	5	D10	SD06	弥生土器 体部						刺突・斜格文	ナデ		7.5Y7/3 浅黄色	7.5Y7/3 浅黄色	1mm程度の白色粒子・砂岩を含む	良	
57図7	5	E10	SD06上層	弥生土器 体部						斜格文	摩滅		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	1mm程度の白色粒子・チャートを含む	良	
57図8	3	M17・L16	SD06	弥生土器 甕	18.9			3.3		横ナデ・擬凹線文(6)	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・黒色粒子を含む	良	
57図9	7	H14・I13	SD06上層・下層	弥生土器 甕	17.8			2.5		横ナデ・擬凹線文(2)	横ナデ・ケズリ		5YR8/4 淡褐色	5YR8/4 淡褐色	0.5~3mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
57図10	7	I13・14	SD06上層・SD39下層	弥生土器 甕	17.8			3.4		横ナデ・擬凹線文(3)・ハケ	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR7/6 橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
57図11	7	H12	SD06下層	弥生土器 甕	15.2			5.1		横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
57図12	10	G12	SD06下層	弥生土器 甕	18.0			1.1		ナデ・擬凹線文・ハケ	横ナデ・ケズリ		2.5Y8/3 浅黄色	2.5Y8/3 浅黄色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
57図13	7・4	I13・N20	SD06上層・最下層	弥生土器 甕	24.2			2.1		横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ケズリ		7.5YR6/8 褐色	5YR6/6 褐色	0.5~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟	
57図14	4	N20	SD06・表土	弥生土器 甕	36.6			1.0		横ナデ・擬凹線文(4)・ハケ	指頭圧痕のち横ナデ・ケズリ		7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を多量に含む	良	
57図15	7	H13	SD06上層	弥生土器 甕						ナデ・ハケ・刺突	ナデ		7.5Y7/3 浅黄色	7.5Y7/3 浅黄色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	
57図16	7	J14	SD06上層・中層	弥生土器 甕	15.3			3.3		横ナデ・ハケ	横ナデのちハケ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャートを少量含む	良	外面スス付着
57図17	7	H12	SD06下層	弥生土器 甕	15.6			1.3		擬凹線文(4)・横ナデ	横ナデ・ナデ		10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1mm以下の長石・チャート・雲母・砂岩・赤色粒子を含む	良	
58図1	7	I13	SD06上層	弥生土器 甕	9.4			4.5		ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ		10YR8/2 灰白色	2.5Y8/3 灰黄色	1mm以下の長石・チャート・雲母・赤・黒色粒子を含む	良	外面赤彩痕
58図2	7	J14	SD06	弥生土器 甕						ナデ	ハケのちナデ・指頭圧痕		10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/6 褐色	2mm以下の長石・チャート・赤色粒子を含む	やや軟	
58図3	10	G12	SD06下層	弥生土器 甕	12.0			3.0		横ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩・チャートを少量含む	良	
58図4	3	N18	SD06上層	弥生土器 甕						横ナデ・擬凹線文	横ナデ・ケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	0.5~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟	
58図5	7	H12	SD06上層	弥生土器 甕	13.0			2.1		摩滅	横ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	
58図6	3	-	SD06	弥生土器 甕						ナデ・円形浮文	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	
58図7	5	E10	SD06	弥生土器 甕(底部)	5.0				12.0	摩滅	ハケ・ナデ		7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	0.5~2mmの長石・チャート・雲母・赤・黒色粒子を含む	良	

第4章 遺構と遺物

挿入番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率/12	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									口縁部	底部	外面	内面	底部				内面
58図8	7	H12-L15	SD06上層・中層	弥生土器高環	30.5			3.2	摩滅	摩滅		10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・雲母・赤・黒色粒子を少量含む	良		
58図9	3	L16	SD06上層	弥生土器高環	30.3			0.8	摩滅	摩滅		10YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1mm以下の長石・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	やや軟		
58図10	7	G・H20	SD06下層・鹿谷川旧流路	弥生土器高環					ミガキ・ナデ	ナデ・しぼり		7.5YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい黄橙色	0.5~1.5mmの長石・チャート・赤・黒色粒子を含む	やや軟		
58図11	7	H13	SD06上層	弥生土器器台	21.5			1.8	横ナデ・擬凹線文(11)	摩滅		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm~2mmの長石・石英・黒色粒子・雲母を含む	良		
58図12	3	N19	SD06	弥生土器器台	19.0			7.2	擬凹線文(4)	摩滅		2.5Y8/3 浅黄色	2.5Y8/3 浅黄色	1~2mmの長石・チャート・赤・黒色粒子を含む	軟	小孔3	
58図13	7	H13	SD06	弥生土器器台	18			2.4	横ナデ・竹管文	摩滅		2.5Y5/1 黄灰色	10YR8/4 浅黄橙色	1mm~2mmの石英・砂岩系粒子を含む	良		
58図14	5	E10	SD06	弥生土器鉢	31.6			4.2	横ナデ	横ナデ・ハケ		10YR7/3 にぶい黄橙色	5YR6/6 橙色	0.5~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟		
58図15	7・10	J14	SD06上層	弥生土器有孔鉢		1.2		12.0	摩滅	摩滅		10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	2mm以下の長石・チャート・赤・黒色粒子を含む	良		
58図16	7	H12・13	SD06下層	弥生土器脚台		8.8		2.0	摩滅	摩滅		2.5Y8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・黒色粒子を含む	良		
58図17	7	J14	SD06上面	須恵器高環					回転ナデ	ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y5/1 灰色	0.5~9mmの長石・チャート・黒色粒子をやや多く含む	良		
58図18	7	I12・J13・L4	SD06上面	須恵器蓋	15.6	3.45	1.5		回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		7.5Y6/1 灰色	10Y5/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート・黒色粒子をやや多く含む	良		
58図19	7	I13	SD06上面	須恵器皿	16.4	14.0	1.8	0.8	1.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白・黒色粒子・チャートを含む	良	
60図1	3	L18	SD08下層	弥生土器壺						ハケ	ハケ・ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャートを含む	良	
60図2	10	G14	SD08下層	弥生土器体部						ナデ・列点文	ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャートを含む	良	
60図3	7	G14	SD08下層	弥生土器壺	19.0			1.2		ナデ	ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1~3mmの長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	
60図4	7	L17	SD08下層	弥生土器甕	15.0			2.0	ナデ・擬凹線文(5)	ナデ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	微細な黒色粒子・雲母を含む	良		
60図5	7	K16	SD08上層	弥生土器甕	18.0			1.5	ナデ・擬凹線文(7)	ナデ		7.5YR4/6 にぶい黄橙色	7.5YR4/6 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・雲母を含む	良		
60図6	13	O22	SD08下層	弥生土器甕	18.0			2.5	ナデ・擬凹線文	ナデ・ケズリ		10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	1mm程度の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良		
60図7	3	L18	SD08	弥生土器甕	17.0			1.5	ナデ・擬凹線文(8)	ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャート・砂岩を含む	良		
60図8	7	J15	SD08上層	弥生土器壺	16.7			1.9	擬凹線文(2)	摩滅		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm程度の白・黒・赤色粒子を含む	良		
60図9	10	G13	SD08下層	弥生土器壺	15.5			3.5	摩滅	摩滅		7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	やや軟		
60図10	3	L18・M19	SD08下層	弥生土器壺	19.0			0.7	ナデ・擬凹線文(6)	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良		
60図11	7	I15	SD08下層	弥生土器壺か	20.0			1.0	S字スタンプ文	剥離		10YR5/4 にぶい黄橙色	10YR5/4 にぶい黄橙色	1mm程度の白・黒・赤色粒子を含む	良		
60図12	13	O23	SD08下層	弥生土器壺					ナデ・直線文(11)・麻状文	ナデ・指頭圧痕		10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y8/2 灰白色	1~2mmの長石・石英・砂岩を含む	良	外面赤彩	
60図13	7	I14・15	SD08上層	弥生土器体部					波状文・列点文・直線文	ナデ・羽状刺突文		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャートを含む	良		
60図14	7	K16	SD08中層	弥生土器壺					ナデ・直線文・波状文	ナデ・ハケ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~2mmのチャート・砂岩・赤色粒子を含む	良		
60図15	13	O22・P23	SD08上層	弥生土器台付壺					ナデ	ナデ		5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	0.5~1.5mmの長石・チャート・砂岩をやや多く含む	良		
60図16	13	O22	SD08上層・下層	弥生土器高環	27.4			1.0	摩滅	摩滅		2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	微細な白・黒赤色粒子・5mm程度の小石を含む	良		
60図17	7	J15	SD08下層	弥生土器器台	20.0			1.0	横ナデ・刺突・ハケ	横ナデ		10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm程度の粘板岩・長石・石英を含む	良		
60図18	3	M19	SD08下層	弥生土器脚部					直線文・S字スタンプ文	摩滅		10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	小孔(残存1)	
60図19	10	G13・14	SD08下層	弥生土器脚部					磨滅	しぼり		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	1mm以下の長石・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良	小孔2(推定4ヶ所)	
60図20	13	O22	SD08上層	弥生土器鉢	13.0	2.7	8.35	4.2	5.0	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	0.5mmの長石・石英・チャートを含む	良	
60図21	7	J・K15	SD08上層・中層	弥生土器鉢	17.2			5.3		横ナデ・ナデ	横ナデ		10YR8/3 浅黄橙色	2.5Y8/3 淡黄色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
60図22	10	G13	SD08下層	弥生土器鉢	19.1			1.0	横ナデ・擬凹線文	横ナデ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	1mm程度の白・黒色粒子を含む	良	外面スス付着	
61図1	7	J14	SD10	弥生土器壺					ナデ・刻み	ナデ・羽状刺突文		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1~2mmの白・黒色粒子を含む	良		
61図2	1	M7	SD11下層	弥生土器甕	16.8			4.8	横ナデ・擬凹線文(2)	横ナデ・ナデ・ケズリ		10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・粘板岩・赤色粒子を含む	良	外面スス付着	
61図3	1	M7	SD11下層	弥生土器甕	15.4			8.0	横ナデ・擬凹線文(4)・ハケ	横ナデ・ケズリ		2.5YR7/3 浅黄色	2.5YR7/3 浅黄色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を多く含む	良	外面スス付着	
61図4	1	M7	SD11下層	弥生土器甕	15.0			10.2	横ナデ・擬凹線文(6)・ハケ	横ナデ・ケズリ		2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/4 淡黄色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を多く含む	良	外面スス付着	
61図5	1	M7	SD11下層	弥生土器甕	18.6			8.9	横ナデ・擬凹線文(7)・ハケ	横ナデ・ケズリ		10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャート・赤色粒子をやや多く含む	良	外面スス付着	
61図6	1	M7	SD11下層	弥生土器甕	20.0			8.1	横ナデ・ハケ・擬凹線文(5)	横ナデ・指頭圧痕・ハケ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	外面スス付着	
61図7	1	M7	SD11下層	弥生土器壺	7.4			9.2	横ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ・ハケ		2.5YR5/6 明赤褐色	7.5YR7/6 橙色	2mmの長石・石英・チャートを少量含む	良		
61図8	9	O21	SD15中層	縄文土器深鉢					横位沈線(丸棒)	摩滅		7.5YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR7/3 にぶい黄橙色	3mm以下の白~灰~褐色粒を多量に含む	軟		
61図9	9	F9	SD16下層	手づくね土器	5.0	3.0	3.9	12.0	12.0	ナデ・指頭圧痕	ナデ・指頭圧痕		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	2mm程度の石英・砂岩系粒子・微細な白・黒色粒子を含む	良	
61図10	7	H13	SD18上面	弥生土器壺	17.0			1.9	横ナデ・擬凹線文(5)	横ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1~2mmの長石・石英・砂岩・チャート・赤色粒子を含む	良		
61図11	10	G12	SD18上層	弥生土器壺	13.0			6.0	横ナデ・擬凹線文(2)・ハケ	ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩を含む	良		
61図12	7	G13	SD18上層	弥生土器壺	11.5			2.0	横ナデ	ハケ・ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良		

挿入番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考
									外面	内面	底部	内面	外面			
61図13	7	H13	SD18上面	弥生土器 壺					横ナデ	横ナデ		75YR7/4 にぶい橙色	75YR7/4 にぶい橙色	1mm程度の長石・石英・ チャートを含む	良	
61図14	7	H13	SD18上面・上層	弥生土器 壺	10.5			0.7	ナデ	ハケ・ナデ		75YR7/4 にぶい橙色	75YR7/4 にぶい橙色	1~3mm長石・石英・砂岩を 含む	良	
62図1	9	H10	SD13下層・SD02 下層	須恵器 有台坏	16.2	13.0	5.15	3.2 5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付けの ちナデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
62図3	10	G12	SD19上層	須恵器 壺		11.0		2.0	回転ナデ	回転ナデ	高台貼付 け・ナデ	N6/0 灰色	N4/0 灰色	微細な白・黒色粒子を含 む	良	
62図4	10	G20	SD20下層	須恵器 蓋	16.3			2.1	ヘラ切り・回転 ナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白・黒色 粒子・チャートを含む	良	
62図5	10	G19	SD20下層	須恵器 蓋	16.6			2.2	回転ナデ・ヘラ 切りのちナデ	回転ナデ		10YR6/1 褐色	10YR6/1 褐色	2.5mm以下の長石・白・黒 色粒子・チャートを含む	良	外面口縁部重 ね焼痕・自然 釉
62図6	10	G20	SD20最下層・ 鹿谷川旧流路	須恵器 有台坏		11.0		2.0	回転ナデ	回転ナデ	高台貼付 のちナデ	5B6/1 青灰色	5B6/1 青灰色	微細な白・黒色粒子を含 む	良	
62図7	10	G20	SD20最下層	須恵器 鉢	19.0			0.9	回転ナデ	回転ナデ		5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	1mm程度の黒色粒子を含 む	良	
62図9	15	T27	SD32	越前焼 片口鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		5YR6/4 にぶい橙色	5YR6/6 褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2~5mmの礫(白 ・赤・褐色)を微量含む	良	口縁端部に沈 線
64図1	12	K25~27	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢	25.6			3.7	沈線文のち刺突 (丸棒)・縄文(RL)	ナデ		75YR7/2 明褐色	75YR7/2 明褐色	2mm以下の白・灰色粒を 多量に含む	やや 軟	
64図2	12	J24	鹿谷川旧流路 上層	縄文土器 鉢					横位凹線文	ナデ	刷毛目状擦 痕	25YR7/2 明赤灰色	25YR7/2 明赤灰色	2mm以下の白~褐色粒を 中量含む	やや 軟	体部最大径 14.4
64図3	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢	37.8			2.4	押圧(指・爪)・縄 文(LR・横回転)	ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	75YR7/2 明褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
64図4	12	J26	鹿谷川旧流路 トレンチア下層	縄文土器 深鉢		9.4		7.7	縄文(RL・横回転)	ナデ	ナデ	75YR7/2 明褐色	75YR8/2 灰褐色	3mm以下の褐色粒を多量・ 石英等の白色粒を少量含む	やや 軟	
64図5	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢	48.8			0.3	条痕(斜方向)	条痕(横方 向)のちナ デ		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	1mm以下の白~褐色粒を 中量含む	良	
64図6	8	B17	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢	52.6			1.3	横ナデ	横ナデ		5YR8/2 灰白色	5YR8/1 灰白色	3mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図1	11	D25	鹿谷川旧流路 トレンチア上層	縄文土器 深鉢					羽状縄文(LR+ RL・横回転)の ちC字形爪形文 (多載竹管)	ナデ・指頭 圧痕		75Y4/2 灰オリーブ色	75Y4/1 灰色	1mm以下の雲母・石英・灰 ~褐色粒を中量含む	やや 軟	
65図2	12	J26	鹿谷川旧流路 トレンチア下層	縄文土器 深鉢					素文突帯・縄文 (LR・横回転)	ナデ		25YR6/4 にぶい橙色	25YR6/2 灰赤色	1mm以下の雲母・灰色粒を 中量含む	やや 軟	
65図3	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 浅鉢					沈線文(半載竹 管)・刻み(増減)	摩滅		25YR6/3 にぶい橙色	25YR6/3 にぶい橙色	1mm以下の白~褐色粒と 雲母を中量含む	軟	
65図4	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					横位隆線・沈線 文のち縦刻み	摩滅		75YR5/1 褐色	10YR7/2 にぶい黄褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
65図5	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					押圧・沈線文(丸 棒)のち縄文(R)	横ナデ		5YR7/2 明褐色	25Y6/2 灰黄色	1mm以下の灰~褐色粒・石 英粒を中量含む	やや 軟	
65図6	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					沈線文のち刺突 (丸棒)	ナデ		10YR8/1 灰白色	10YR8/2 灰白色	2mm以下の灰~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
65図7	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					沈線文(丸棒)	ミガキ		75YR4/1 灰色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の石英・白~褐色 粒を中量含む	やや 軟	
65図8	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 注口土器					隆帯・沈線文(円 柱)・押し引き(円形 竹管)・刺突(円 柱)・縄文(RL)	指頭圧痕・ 摩滅		10R6/1 赤灰色	5YR7/1 明褐色	4mm以下の白~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図9	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					浅い条痕(横方 向)のち凹線文 (丸棒)・押し(貝 殻)	浅い条痕 (横方向)		75YR4/1 褐色	5YR7/2 明褐色	2mm以下の石英・灰色粒を 中量含む	良	波状口縁
65図10	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					凹線文(丸棒)・押 圧(貝殻)	ナデ		5Y4/1 灰色	5Y4/1 灰色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図11	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 浅鉢					横位沈線文(丸 棒)・横ナデ	ナデ		75YR7/3 にぶい橙色	5YR7/1 明褐色	1mm以下の石英・灰~褐色 粒を中量含む	良	
65図12	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					沈線文・三文文 (丸棒)	摩滅		10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	軟	
65図13	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 鉢					沈線文(丸棒)・縄 文(LR・横回転) のち押圧(指頭)	ナデ		65YR6/2 灰褐色	75YR7/2 明褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
65図14	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 鉢					横位沈線文のち 刺突・連弧文(竹 管状工具)	摩滅		25Y4/2 灰黄色	75YR7/2 明褐色	2mm以下の石英・灰~褐色 粒を多量に含む	やや 軟	
65図15	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					押圧・ナデ(粘土 帯の継ぎ目が明 瞭)	摩滅		5YR6/1 褐色	5YR7/1 明褐色	3mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図16	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					素文突帯	摩滅		75YR4/1 褐色	25Y5/2 暗灰黄色	1mm以下の白~褐色粒・石 英?を多量に含む	軟	
65図17	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					沈線文(丸棒)	ナデ		5YR8/2 灰白色	5YR6/2 灰褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図18	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					沈線文(角棒)	摩滅		5YR4/3 にぶい橙色	5YR4/3 にぶい橙色	2mm以下の白~褐色粒を 多量に含む	軟	
65図19	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	縄文または 弥生土器					擦糸文(L・縦方 向)	ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	25Y7/2 灰黄色	3mm以下の灰~褐色粒・ 石英?を多量に含む	軟	
65図20	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					条線(縦方向)	ナデ		75Y4/1 灰色	10YR5/2 灰黄褐色	3mm以下の白~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図21	12	F13	鹿谷川旧流路	縄文土器 深鉢					刻み(丸棒)・ナデ ・横位沈線文・刺 突(円形竹管)	ナデ		5YR8/3 淡褐色	5YR8/3 淡褐色	3mm以下の白~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
65図22	12	J26	鹿谷川旧流路 トレンチア下層	縄文土器 深鉢					縄文(RL・横方向)	ナデ		10YR7/2 にぶい黄褐色	5YR7/2 にぶい橙色	2mm以下の白~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図23	12	J26	鹿谷川旧流路 下層	縄文土器 深鉢					縄文(RL・横回転)	ナデ		5YR7/2 明褐色	5YR7/1 明褐色	2mm以下の灰~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図24	12	J26	鹿谷川旧流路 トレンチア下層	縄文土器 深鉢					縄文(LR・横方向)	横ナデ(板)		25Y7/1 明赤灰色	25Y7/2 明赤灰色	3mm以下の白~褐色粒を 多量に含む	やや 軟	
65図25	12	K・L25	鹿谷川旧流路	縄文または 弥生土器					刻み・条痕(口縁 部横方向・体部 縦方向)	条痕(縦方 向)のち横 ナデ		5Y6/2 灰黄色	5Y6/2 灰黄色	3mm以下の灰~褐色粒・石 英?を多量に含む	良	
65図26	12	L26	鹿谷川旧流路 下層	縄文または 弥生土器					条痕(横方向・一 部縦方向)	条痕(横方 向)		10YR4/1 褐色	25Y7/1 明赤灰色	2mm以下の灰~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
65図27	8	B16	鹿谷川旧流路 下層	縄文または 弥生土器					条痕(縦方向)	ナデ		5YR7/3 にぶい橙色	5YR7/3 にぶい橙色	1mm以下の白~褐色粒を 中量含む	やや 軟	
66図1	12	K24	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 甕					ナデ・ハケ	ナデ		75YR7/2 明褐色	75YR7/2 明褐色	1~2mmの長石・石英・砂岩 ・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
66図2	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺					ナデ・直線文	ナデ・羽状 刺突文		75YR7/4 にぶい橙色	5YR7/6 褐色	5mmの小石・1mm以下の白・ 赤・黒色粒子を含む	良	
66図3	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 甕					ナデ・ハケ	ナデ		25Y5/2 暗灰黄色	25Y5/2 暗灰黄色	1~3mmの白色粒子・砂岩 を含む	良	外面スス付着

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考
									外面		内部	内部	外面			
									外面	内部	底部					
66図4	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.4			1.2	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		10YR7/4 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩・赤色粒子を含む	良	
66図5	12	L27	鹿谷川旧流路	弥生土器 甕					ナデ・刻み	ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm程度の白、黒色粒子を含む	良	
66図6	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕					ナデ・刻み	ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
66図7	8	A20	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕					横ナデ・ハケ	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm程度の長石・石英・黒色粒子を含む	良	外面スス付着
66図8	12	J24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 钵部					ハケ・籐状文	ハケ		10YR5/1 褐灰色	10YR8/3 浅黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
66図9	12	J25	鹿谷川旧流路	弥生土器 深鉢					指頭圧痕・条痕	横ナデ		10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	1~6mmのチャート・赤色粒子を含む	良	
66図10	6	C22	鹿谷川旧流路	弥生土器 深鉢					刻み・条痕	横ナデ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1~5mmの長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩を含む	良	
66図11	8	B15	鹿谷川旧流路	弥生土器 钵部					幾ね上げ文・直線文	ナデ		10YR6/4 にふい黄橙色	10YR6/4 にふい黄橙色	1~3mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
66図12	12	K24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕					ナデ	ナデ・ケズリ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
66図13	12	K24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺					ナデ・凹線文・波状文	ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・黒色粒子を含む	良	
66図14	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺					ナデ・凹線文	ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm程度の長石・石英・砂岩・赤色粒子を含む	良	
66図15	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 鉢か					ナデ・凹線文	ナデ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR8/2 灰白色	1~2mmの長石・石英・砂岩・(角四?)を含む	良	
66図16	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕					ハケ・ナデ・半弧文か	ハケ・ナデ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1~3mmのチャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
66図17	12	L26	鹿谷川旧流路	弥生土器 脚部	12.0			2.1	ナデ・凹線文	ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩・雲母を含む	良	円形透かし
66図18	12	L25	鹿谷川旧流路	弥生土器 脚部	11.8			1.5	ナデ・ミガキ・直線文	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/3 にふい黄橙色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
66図19	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	16.4			5.5	横ナデ・擬凹線文(3以上)・摩滅	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む	軟	
66図20	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.5			4.3	横ナデ・擬凹線文(9)・ケズリ	横ナデ・ケズリ		10YR7/2 にふい黄橙色	7.5Y8/6 浅黄褐色	2.5mm以下の長石・チャート・石英・雲母・砂岩・赤、黒色粒子を含む	良	
66図21	12	K・L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.6			4.0	横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ケズリ		10YR7/4 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2mm以下の長石・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	やや不良	
66図22	12	K25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 甕	16.8			2.1	横ナデ・擬凹線文(7)・籐状文	横ナデ・ケズリ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	3mm以下の長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	外面黒斑
66図23	12	J24・K24・25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 甕	17.3			6.8	横ナデ・擬凹線文(5)	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
66図24	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	20.8			1.7	横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ケズリ		10YR8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	やや軟	外面スス付着
66図25	12	K25・L26	鹿谷川旧流路トレンチ下層	弥生土器 鉢	15.2			3.5	横ナデ・擬凹線文(2)	横ナデ・ケズリ		2.5Y8/4 淡黄色	10YR6/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
66図26	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	14.4			4.3	横ナデ・擬凹線文(6)・ナデ	横ナデ・ケズリ		2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄色	3mm以下の長石・石英・チャート・雲母を含む	良	外面スス付着
66図27	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.0			3.3	ヨコナデ・擬凹線文(6)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
66図28	12	L26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	16.0			5.0	横ナデ・ハケ・擬凹線文(7)	横ナデ・ハケ・ケズリ		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR7/4 にふい黄褐色	0.5~2.5mmの長石・チャート・赤、黒色粒子を多く含む	やや軟	外面スス付着
66図29	12	I22・J24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	19.9			11.0	横ナデ・擬凹線文(4?)	横ナデ・ケズリ		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・赤、黒色粒子を含む	良	
67図1	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	14.5			2.4	横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ケズリ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y6/1 黄灰色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
67図2	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.9			3.3	横ナデ・擬凹線文(4)	横ナデ・ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	5YR7/6 橙色	3mm以下の長石・チャート・石英・砂岩・赤色粒子を含む	良	
67図3	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	16.3			2.0	横ナデ・擬凹線文(4)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
67図4	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.1			2.5	擬凹線文(4)・横ナデ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	軟	
67図5	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	16.7			2.7	横ナデ・擬凹線文(6)	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR8/4 浅黄褐色	2.5Y7/4 浅黄色	3.5mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
67図6	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	19.8			3.4	横ナデ・擬凹線文(8)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
67図7	12	K25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 壺	17.7			3.2	横ナデ・擬凹線文(5)	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/2 灰白色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・雲母・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
67図8	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.7			1.8	横ナデ・擬凹線文(6)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
67図9	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.7			3.7	横ナデ・擬凹線文(6)	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR8/4 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	
67図10	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	17.3			8.0	横ナデ・擬凹線文(5)・ハケのうちナデ	横ナデ・ハケ・指頭圧痕・ケズリ		2.5Y7/2 灰黄色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~1mmの長石・チャート・赤、黒色粒子をやや多く含む	良	外面スス付着
67図11	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.7			4.7	横ナデ・擬凹線文(5)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・雲母・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
67図12	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.8			2.0	横ナデ・擬凹線文(5)	横ナデ・ナデ		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	4mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	やや軟	
67図13	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	16.6			2.9	横ナデ・擬凹線文(5)	横ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	やや軟	
67図14	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	15.5			12.0	横ナデ・擬凹線文(8)・ハケ	横ナデ・ケズリ		7.5YR8/6 浅黄褐色	7.5YR8/6 浅黄褐色	0.5~1mmの長石・チャート・砂岩・赤色粒子をやや多く含む	良	外面スス付着
67図15	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.8			1.8	横ナデ・擬凹線文(9)・ハケ	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		7.5YR6/6 橙色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	やや軟	外面スス付着
67図16	11	D23	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	34.8			0.6	横ナデ・擬凹線文(10)	横ナデ・指頭圧痕・ケズリ		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・雲母・赤色粒子を含む	やや軟	

挿入番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考
									外面	内面	底部	内面	外面			
68図1	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	11.3			2.7	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の白、黒色粒子を含む	良	
68図2	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	13.3			3.0	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ		10YR6/3 におい黄褐色	10YR6/3 におい黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
68図3	12	L25・26	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	15.6			6.6	摩滅	摩滅		10YR7/4 におい黄褐色	5YR6/4 におい橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	軟	
68図4	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	13.8			2.3	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
68図5	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	17.2			3.0	横ナデ	横ナデ・ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟	
68図6	12	K25・26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	14.6			1.7	横ナデ・ナデ・ミガキ	横ナデ・ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	外面スス付着・外面黒斑
68図7	12	K25・L26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.1			7.8	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケのちなデ		10YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/4 におい橙色	0.5~2.5mmの長石・石英・チャート・砂岩をやや多く含む	良	外面スス付着
68図8	12	L27	鹿谷川旧流路	弥生土器 壺					ナデ・刺突	横ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/2 灰黄色	微細な白、黒色粒子・雲母を含む	良	
68図9	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	17.9			3.3	横ナデ・列点・ナデ	横ナデ・ナデ		10YR6/3 におい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
68図10	12	-	鹿谷川旧流路	弥生土器 甕	15.0			0.8	ナデ・刺突	ナデ・ケズリ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm程度の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
68図11	12	K24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕					ナデ・刺突	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1~3mmのチャート・白、赤色粒子を含む	良	
68図12	12	J24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 壺					ナデ・刺突	ナデ		2Y7/1 灰白色	2Y7/1 灰白色	1~2mmの砂岩・赤色粒子を含む	良	
68図13	12	L25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕					ナデ・刺突	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1mm程度のチャート・黒色粒子を含む	良	
68図14	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕					ナデ・刺突	ナデ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~2mmの砂岩・チャート・白、赤色粒子を含む	良	外面スス付着
68図15	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	17.2			3.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・指頭圧痕		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	やや軟	外面スス付着
68図16	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	19.3			1.3	横ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/2 灰黄色	1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・黒色粒子を含む	良	外面スス付着
68図17	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	18.1			0.9	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	2mm以下の白色粒子・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	外面スス付着
68図18	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	19.0			1.6	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ		10YR7/4 におい黄褐色	5YR7/6 橙色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	軟	
68図19	12	L26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕					横ナデ・ハケ・ナデ	横ナデ・ハケ		25Y8/3 淡黄色	25Y8/3 淡黄色	0.5~1mmの長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟	内面黒斑
68図20	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 体部					ハケ	ケズリ・ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/3 浅黄色	0.5~3mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を多く含む	良	外面スス付着
69図1	12	K25・24・L26・25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	16.3			6.5	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		7.5YR7/3 におい橙色	10YR8/4 浅黄褐色	0.5~2mmの長石・石英・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
69図2	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.8			1.6	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ・指頭圧痕		10YR7/3 におい黄褐色	10YR7/3 におい黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	外面スス付着・内面黒斑
69図3	12	L26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.9			1.7	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
69図4	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	15.6			2.2	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ケズリ		10YR6/4 におい黄褐色	10YR7/4 におい黄褐色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	やや軟	外面スス付着
69図5	12	K24	鹿谷川旧流路	弥生土器 甕	18.3			2.0	摩滅	摩滅		5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	3mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	軟	
69図6	12	K25・24・L25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 甕	13.8			9.5	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ		25Y7/2 灰黄色	10YR8/4 浅黄褐色	2mm以下のチャート・砂岩・赤、黒色粒子を含む	良	外面スス付着
69図7	12	K25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 甕	13.4			4.5	横ナデ・ハケ	指頭圧痕・横ナデ・ナデ		7.5YR6/4 におい橙色	7.5YR6/6 橙色	1mm以下の白、黒、赤色粒子を含む	良	
69図8	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	9.3			4.6	横ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		10YR7/3 におい黄褐色	7.5YR7/6 橙色	1mm以下の長石・チャート・黒、赤色粒子を含む	良	
69図9	12	K・L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	12.0			7.0	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		25Y7/3 灰黄色	25Y7/3 灰黄色	2mm以下の長石・チャート・砂岩・粘板岩・黒色粒子を含む	良	
69図10	12	K24・25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 壺	10.3			12.0	ナデ・ハケ	ハケ・ナデ		10YR7/3 におい黄褐色	10YR7/4 におい黄褐色	2mm以下の石英・チャート・長石・雲母・黒色粒子を含む	良	
69図11	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	11.0			6.2	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ・指頭圧痕・ハケ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤、黒色粒子を含む	やや軟	
69図12	12	L24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	10.5			2.2	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ・指頭圧痕		10YR7/ におい黄褐色	7.5YR7/6 橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	軟	
69図13	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 壺	12.2			2.8	ナデ	ナデ・ハケ・指頭圧痕		10YR7/3 におい黄褐色	10YR7/3 におい黄褐色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
69図14	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	10.7			4.8	横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	25Y6/2 灰黄色	4mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・粘板岩・白、黒色粒子を含む	良	
69図15	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺					摩滅	摩滅		10YR8/4 浅黄褐色	7.5YR7/4 におい橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
69図16	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 壺	7.8			3.3	横ナデ・ミガキ	ミガキ・ナデ		25Y7/2 灰黄色	25Y7/2 灰黄色	1mm以下のチャート・白、黒色粒子を含む	良	外面スス・内面コゲ付着
69図17	12	K24	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 壺					ミガキ	ナデ・ハケ		7.5YR6/4 におい橙色	7.5YR6/4 におい橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・角閃石を含む	良	外面黒斑
70図1	12	K・L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 甕	13.5			1.8	横ナデ・ナデ	横ナデ		10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	2mm以下の石英・チャート・赤色粒子を含む	良	
70図2	12	K24・L26	鹿谷川旧流路上層	弥生土器 甕	12.9			4.4	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ・ケズリ		10YR7/2 におい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤色粒子を含む	やや軟	
70図3	12	K24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	13.6			1.7	ナデ	ハケ・ナデ		7.5YR6/4 におい橙色	7.5Y6/4 におい橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤、黒色粒子を含む	良	
70図4	12	K24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	14.8			2.2	摩滅	横ナデ・ナデ		5YR6/6 橙色	5YR7/6 橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・黒色粒子を含む	軟	
70図5	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器 壺	14.3			1.7	横ナデ・ナデ・沈線(I)	摩滅		25Y7/2 灰黄色	10YR7/3 におい黄褐色	1.5mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・雲母・赤色粒子を含む	良	
70図6	12	K・L25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器 壺	18.8			7.2	横ナデ・ハケ	横ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	0.5~1mmの長石・チャート・赤、黒色粒子を多く含む	良	

第4章 遺構と遺物

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面		内面	底部	内面				外面
									外面	内面	内面						
70図7	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	17.2			3.5	擬凹線文(2) ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ扇状文		5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	1mm以下の長石・チャート ・赤、黒色粒子を含む	やや 軟		
70図8	12	L26	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 壺	15.8			3.0	横ナデ・擬凹線 文(6)	横ナデ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤色粒子を含む	やや 軟		
70図9	12	K26	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	27.5			2.1	擬凹線文(7)	摩滅		2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/2 灰白色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤、黒色 粒子を含む	軟		
70図10	12	K24	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	13.0			11.0	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハ ケのちナデ		2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	0.5~3mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含む	良	外面スス付着	
70図11	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	10.8			11.6	横ナデ・ハケ	横ナデ・ハ ケ		2.5Y7/2 灰黄色	10YR5/3 にふい黄橙色	0.5~3mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	外面スス付着	
70図12	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	14.6			4.5	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR7/4 にふい黄橙色	4.5mm以下の長石・石英・ チャートを含む	良	外面スス付着	
70図13	12	K24	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 壺	16.5			4.3	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・粘板岩・赤、黒 色粒子を含む	良		
70図14	12	K25	鹿谷川旧流路 中層	弥生土器 壺	15.2				横ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ		10YR7/2 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	2mm以下の長石・石英・ チャートを含む	良		
70図15	8	B15	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 壺	12.5			2.0	摩滅	摩滅		2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/4 淡黄色	2mm以下の長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子 を含む	良		
70図16	12	L27	鹿谷川旧流路	弥生土器 壺	13.0			4.2	横ナデ・ナデ	横ナデ		7.5YR7/4 にふい橙色	7.5YR7/4 にふい橙色	3mm以下の長石・石英・ チャート・赤色粒子を含 む	良		
70図17	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺	13.8			3.5	横ナデ・貼付け 突帯刺突文	横ナデ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤、黒色 粒子を含む	良		
70図18	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺					円形浮文・擬凹 線文(5)	摩滅		7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	3mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	やや 軟		
70図19	12	J24	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 壺	14.8			4.1	横ナデ・キザミ・ 直線文・列点文・ ナデ	横ナデ・ナ デ		7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	2mm以下の長石・砂岩・ チャートを含む	軟		
70図20	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺					摩滅	ナデ		7.5YR6/3 にふい褐色	5YR7/6 橙色	1mm以下のチャート・白、 赤、黒色粒子を含む	軟		
70図21	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺					ミガキ(ほとんど 磨滅)	ナデ		5Y7/1 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	3mm以下の長石・チャート ・赤、黒色粒子を含む	やや 軟	外面黒斑	
70図22	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 壺					ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	2mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤、褐色粒子を含 む	良	内面黒斑	
71図1	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 高環	17.6			1.0	ナデ	ナデ		5YR7/4 にふい橙色	10YR7/4 にふい黄橙色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	やや 軟		
71図2	12	K24・L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 高環	23.9			3.5	摩滅	ミガキ		7.5YR6/4 にふい橙色	7.5YR6/4 にふい橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子 を含む	やや 軟		
71図3	12	K・L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 高環	27.6			3.4	摩滅	摩滅		10YR8/4 浅黄橙色	7.5YR7/6 橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・雲母・赤、 黒色粒子を含む	やや 軟		
71図4	12	H22・K24・ L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 高環	29.5			4.1	ミガキ	ミガキ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤、黒色 粒子を含む	良		
71図5	12	J・K24・ L26	鹿谷川旧流路 上層・下層	弥生土器 高環					ナデ・ミガキ	ナデ・しほ り		10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子 を含む	良		
71図6	12	K・L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 高環		12.2		脚部1.3	ナデ・ミガキ	ナデ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	やや 軟	穿孔(残存1)	
71図7	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台	18.8			12.0	横ナデ・擬凹線 文(6)・ハケ	横ナデ・ナ デ		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を多く含む	良	外面スス付着	
71図8	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台	17.0			3.1	擬凹線文(6)・横 ナデ	横ナデ(磨 滅)		5YR7/6 橙色	5YR6/4 にふい橙色	1mm以下の長石・チャート ・赤、黒色粒子を含む	軟		
71図9	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台	22.3			1.6	横ナデ・擬凹線 文(4)	ケズリ		2.5Y8/3 灰白色	2.5Y8/3 灰白色	3mm以下の長石・石英・ チャート・赤色粒子を含 む	軟		
71図10	12	K24・L25	鹿谷川旧流路 トレンチア下層	弥生土器 器台	13.6			5.0	ナデ・擬凹線文 (6)	ナデ		10YR7/4 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・赤、黒、褐色 粒子を含む	良		
71図11	12	K24	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台	28.7			1.5	横ナデ・擬凹線 文(7)	横ナデ		2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	3mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	良		
71図12	12	K24	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台					直線文・S字スタ ンプ文	ナデ・ミガ キ		2.5Y7/2 浅黄色	2.5Y8/2 灰白色	1mm以下の白・黒色粒子・ 雲母を含む	やや 軟		
71図13	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 器台	21.5			2.0	摩滅	摩滅		7.5YR7/6 橙色	10YR7/4 にふい黄橙色	2mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤、黒色粒子を含 む	やや 軟		
71図14	12	H25・J24・ L26	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 器台	23.8			4.2	ミガキ・横ナデ	横ナデ・ミ ガキ		10YR7/4 にふい黄橙色	10YR7/2 にふい黄橙色	1mm以下のチャート・白、 黒、赤色粒子を含む	良	内外面黒斑	
71図15	12	K25	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 器台					横ナデ・ナデ・ミ ガキ	ナデ・横ナ デ・しほり		10YR7/3 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良	小孔4	
71図16	12	L25	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 器台					摩滅	摩滅		5YR7/6 橙色	5YR7/6 橙色	2mm以下の長石・石英・ チャート・赤色粒子を含 む	良		
71図17	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 脚部					ミガキ・直線文 (5)	しほり・ナ デ・ハケ		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1mm程度の白色粒子・ チャートを含む	良		
71図18	12	K24	鹿谷川旧流路	弥生土器 脚部		18.8		1.4	ミガキ	ナデ		2.5YR8/2 灰白色	2.5YR8/2 灰白色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・黒色粒子 を含む	やや 軟	長方形透かし (4)	
71図19	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 脚部		18.0		1.5	ナデ・ミガキ・直 線文・S字スタ ンプ文	ハケ・ナデ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	微細な白、黒色粒子を含 む	良		
72図1	12	K24・L25	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 脚部					ミガキ・ナデ	ナデ		10YR6/3 にふい黄橙色	10YR6/3 にふい黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子 を含む	良	小孔2(残存)	
72図2	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 脚部		13.9		5.5	摩滅	横ナデ・ナ デ		7.5YR7/4 にふい橙色	7.5YR7/4 にふい橙色	1mm以下の長石・チャート ・砂岩・赤色粒子を含む	やや 軟		
72図3	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 脚部					ミガキ	ミガキ・し ほり		10YR7/3 灰黄色	10YR7/3 灰黄色	1mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
72図4	12	L25・L26	鹿谷川旧流路 上層	弥生土器 脚部		13.1		2.3	摩滅	しほり		10YR7/4 にふい黄橙色	10YR7/3 にふい黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・赤、黒色粒子 を含む	良		
72図5	12	L25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 脚部		16.7		0.9	摩滅	しほり		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1mm以下のチャート・白、 黒色粒子を含む	軟	小孔(4)	
72図6	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	弥生土器 鉢					摩滅	ナデ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤、黒色 粒子を少量含む	良		

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面		内部	内部	外面				
									外面	内部	内部	内部	外面				
72図7	12	K・L25・N21	鹿谷川旧流路上層・SD08	弥生土器鉢	122	2.9	6.15	1.0	12.0	横ナデ・ナデ	ナデ	ナデ	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	0.5~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	やや軟	
72図8	12	L24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器鉢	164			1.3		横ナデ・ナデ	横ナデ・ナデ		2.5Y7/2 浅黄色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
72図9	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器鉢	19.1			2.8		横ナデ・ミガキ	横ナデ・ハケ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・雲母・赤色粒子を含む	良	
72図10	12	K24・25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器鉢	186			2.9		横ナデ・ハケのちミガキ	横ナデ・ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	良	外面スス付着・外面黒斑
72図11	12	K・L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器鉢	17.0			5.1		横ナデ・ハケ	横ナデ・ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/3 淡黄色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
72図12	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器鉢				1.9		ナデ・擬門線文(4)・直線文・列点文	ナデ		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	3mm程度の砂岩・3mm以下の白・黒・赤色粒子を含む	良	
72図13	8	A20	鹿谷川旧流路上層	弥生土器鉢	8.6	7.1	3.55	1.7	4.0	ナデ	横ナデ		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	2.5mm以下の長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	良	
72図14	12	K25	鹿谷川旧流路上層・下層	弥生土器台付鉢	15.5	7.0	8.6	11.4	9.2	横ナデ・ナデ・指頭圧痕	ハケ・ナデ		7.5YR6/4 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を含む	良	
72図15	12	K25	鹿谷川旧流路下層	手づくね土器	4.5	4.5	1.95	6.8	7.3	ナデ	ナデ		2.5Y6/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	微細な白色粒子を少量含む	良	
72図16	12	L25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器蓋	21.7		11.85	3.3	12.0	摩滅	摩滅		7.5YR7/3 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	0.5~4mmの長石・石英・砂岩・チャート・赤・黒色粒子を多く含む	やや軟	つまみ径100
72図17	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部			4.8		12.0	ナデ・指頭圧痕	ナデ	ナデ	10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・黒色粒子を含む	良	内面黒斑
72図18	12	K25・L25・26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部			3.1		12.0	ナデ	ケズリ	ナデ	5Y2/1 黒色	5YR6/4 にぶい橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・雲母を含む	良	
72図19	12	K24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部			4.6		12.0	ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	外面黒斑
72図20	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		1.9		9.0		ハケ・ナデ	ハケ	ナデ	7.5YR7/6 にぶい橙色	7.5YR7/6 にぶい橙色	2mm以下の長石・石英・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良	
72図21	12	K25	鹿谷川旧流路トレンチ7下層	弥生土器底部		5.4		12.0		ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm以下のチャート・白・赤・黒色粒子を含む	やや軟	
72図22	8	A16	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		4.4		12.0		ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/2 灰白色	7.5YR7/6 橙色	4mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・板状岩を含む	良	内面黒斑
72図23	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器底部		6.8		12.0		ナデ・横ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	5YR4/1 灰色	7.5YR8/6 浅黄橙色	2mm以下の長石・チャート・砂岩・黒・褐色粒子を含む	良	内外面黒斑
72図24	12	K25	鹿谷川旧流路上層	弥生土器底部		7.0		5.0		ナデ	ナデカ	ナデ	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	1mm以下の石英・チャート・砂岩・黒色粒子を含む	良	外面黒斑
72図25	12	K25・26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		8.0		12.0		ナデ・横ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/6 浅黄橙色	10YR8/6 浅黄橙色	2mm以下の長石・石英・チャート・黒・赤色粒子を含む	良	
72図26	12	K24	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		5.3		12.0		ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	ナデ	5YR7/6 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の長石・石英・黒・赤色粒子を含む	良	
72図27	12	K25	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		5.2		12.0		ハケ・ナデ	ナデ・ハケ	ナデ	2.5Y7/3 灰黄色	2.5Y7/3 灰黄色	2mm以下の長石・石英・チャートを含む	良	外面黒斑
72図28	12	L26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器底部		6.8		12.0		ハケ(ほとんど磨滅)・ナデ	ナデ	ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	2mm以下の長石・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	やや軟	内面コゲ付着
72図29	12	K26	鹿谷川旧流路下層	弥生土器脚台		14.1		3.1		摩滅	摩滅		10YR8/4 浅黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	2mm以下の長石・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	やや軟	
73図1	12	K25	鹿谷川旧流路上層	土師器甕	16.5			11.7		横ナデ・ナデ・ハケ	横ナデ・ハケ		10YR7/2 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	0.5~1mmの黒色粒子の長石・石英・チャートを含む	良	外面スス付着
73図2	12	K24	鹿谷川旧流路上層	土師器蓋	18.5			1.6		摩滅	摩滅		10YR7/2 にぶい黄橙色	2.5Y7/3 灰黄色	1mm以下のチャート・砂岩・白色粒子を含む	良	外面赤彩
73図3	12	K25・24・L24	鹿谷川旧流路トレンチ7下層	土師器無台環	13.0	7.4	3.3	2.8	6.0	横ナデのちミガキ・回転ヘラケズリのちミガキ	横ナデ・ナデ	ヘラ切りのちナデ	2.5Y7/3 浅黄色	10YR8/4 浅黄橙色	0.5~1mmの長石・チャート・石英を含む	良	内外面赤彩
73図4	12	J24	鹿谷川旧流路上層	土師器無台環	13.2	8.2	4.0	1.1	9.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	2.5Y7/4 浅黄色	2.5Y7/4 浅黄色	0.5~3mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
73図5	12	H21・22・L27	鹿谷川旧流路上層	土師器無台環	12.8	6.5	3.8	6.7	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ	10YR7/3 にぶい黄橙色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの長石・チャート・雲母・黒色粒子を少量含む	良	底部外面・墨書「大前」
73図6	12	J24	鹿谷川旧流路下層	土師器甕	16.9			1.7		回転ナデ・ハケ・ナデ	回転ナデ・ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤・黒色粒子を含む	良	
73図7	12	I23	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	土師器甕						回転ナデ・カキ目	回転ナデ・ケズリ		10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・黒色粒子を含む	良	
73図8	12	I24	鹿谷川旧流路下層	土師器甕	21.5			1.1		回転ナデ・カキ目	回転ナデ		10YR5/3 にぶい黄橙色	2.5Y3/3 暗オリーブ褐	1~2mmの長石・石英・砂岩を含む	良	外面スス付着
73図9	12	J24	鹿谷川旧流路下層	土師器甕	22.1			1.5		回転ナデ・カキ目	回転ナデ		7.5YR8/3 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	1~2mmの長石・石英・砂岩・赤色粒子を含む	良	
73図10	12	K24	鹿谷川旧流路上層	土師器甕	26.0			1.0		回転ナデ・カキ目	回転ナデ		7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1mm程度の白・赤色粒子・雲母を含む	良	内面スス付着
73図11	12	I23・24	鹿谷川旧流路トレンチ6上層	土師器甕	25.4			1.7		回転ナデ・回転ナデ	回転ナデ・カキ目		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	2mm以下の長石・雲母・砂岩・赤色粒子を含む	良	
73図12	12	I23	鹿谷川旧流路上層	土師器甕	27.0			1.5		回転ナデ・カキ目	回転ナデ・カキ目		7.5YR6/4 にぶい橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm程度の長石・石英・チャート・砂岩・微細な雲母を含む	良	
73図13	12	I23	鹿谷川旧流路上層	土師器甕	27.3			1.3		回転ナデ・カキ目	回転ナデ・カキ目		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	1~2mmの長石・石英・チャートを含む	良	
73図14	12	J24	鹿谷川旧流路上層	土師器鉢か						回転ナデ・カキ目	回転ナデ・カキ目		10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	1mm程度の砂岩・赤色粒子を含む	良	
73図15	10	G19・20・21	鹿谷川旧流路下層・SD20下層	土師器台付鉢	35.5	21.0	11.6	6.8	3.8	回転ナデ・ケズリ	回転ナデのちハケ		7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	0.5~4mmの長石・石英・チャート・赤・黒色粒子を含む	良	
73図16	6	E20	鹿谷川旧流路上層	土鉢						摩滅	-	-	-	10YR6/3 にぶい黄橙色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	幅29 長さ(3.4残) cm
73図17	12	K25	鹿谷川旧流路下層	土鉢						摩滅	-	-	-	10YR7/3 にぶい黄橙色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	幅1.6 長さ(3.0残) cm
74図1	11	G22	鹿谷川旧流路トレンチ5下層	須臾器蓋	11.9			1.2		回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鉗貼付のちナデ	回転ナデ		10Y7/1 灰白色	10Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白・黒色粒子・チャートを含む	良	
74図2	10	G23	鹿谷川旧流路上層	須臾器蓋	11.7			1.5		回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鉗貼付のちナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白・黒色粒子・チャートを含む	良	
74図3	12	I23	鹿谷川旧流路下層	須臾器蓋	11.9			0.7		回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1mmの白色粒子・チャートを少量含む	良	重ね焼痕・墨書

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率/12	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									口縁部	底部	外面	内面	底部				内面
74図4	8	A20	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	11.8			2.1	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図5	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	12.0			2.1	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図6	12	K24	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	12.3		3.1	1.8	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N4/0 灰色	N3/0 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良		
74図7	12	H21・22	鹿谷川旧流路	須恵器蓋	12.6			1.5	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図8	12	I・J24	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	12.7		2.6	6.2	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	7.5Y5/1 灰色	0.5~5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良		
74図9	10	G21	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	12.4		2.5	1.1	回転ナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図10	10	F20・G21	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	13.4		3.5	2.0	回転ナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰白色	5Y6/1 灰白色	0.5~8mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良		
74図11	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	13.7			4.0	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を多く含む	良		
74図12	10	G20	鹿谷川旧流路底面	須恵器蓋	13.7		3.45	0.7	回転ナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を微量含む	良		
74図13	12	I23	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	14.0			2.3	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図14	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	14.3			4.9	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を微量含む	良	天井部外面墨書「安」	
74図15	8	A15	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	13.9			0.7	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ・ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図16	8	A19	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	15.2			1.4	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・石英・黒色粒子・チャートを含む	良		
74図17	12	H25	鹿谷川旧流路	須恵器蓋	15.2			1.9	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	3mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図18	10・12	G20・H22	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	14.8			1.8	回転ナデ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良	外面口縁部付近に自然釉	
74図19	12	G・H25	鹿谷川旧流路トレンチ6上層	須恵器蓋	14.8		3.55	0.3	回転ナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	やや軟		
74図20	12	I22	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	14.8			2.5	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図21	11	F24	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	15.4			3.0	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ナデ	回転ナデ		N5/0 灰色	N5/0 灰色	3mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図22	6	F19	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	16.4			1.7	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ・ナデ		N6/0 灰色	5Y6/1 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図23	12	H21・22	鹿谷川旧流路	須恵器蓋	18.4			1.9	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1.5mm以下の白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図24	6	E20	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋					回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良		
74図25	12	H22	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	16.0		3.6	10.2	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・鈕貼付のちナデ	回転ナデのちナデ		10YR6/1 褐色	2.5Y6/1 黄灰色	0.5~3mmの長石・チャート・黒色粒子をやや多く含む	良	天井部内面墨書「真吉」	
74図26	8	A17	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	15.2			1.2	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図27	12	K24	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	16.4			1.6	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ・回転ヘラケズリ・鈕貼付のちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N7/0 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を多く含む	良		
74図28	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	16.4			2.5	回転ナデ・回転ヘラケズリ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャートを少量含む	良		
74図29	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器蓋	16.3			1.1	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図30	10	G20	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	16.5			1.3	回転ナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを少量含む	良		
74図31	12	K25	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	17.0			1.5	回転ナデ	回転ナデ		2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	1mm程度の白・黒色粒子を含む	良	自然釉	
74図32	10	G20	鹿谷川旧流路上層	須恵器蓋	16.8			1.3	回転ナデ	回転ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを少量含む	良		
74図33	10	G20	鹿谷川旧流路底面	須恵器蓋	16.8			0.8	回転ナデ・ヘラ切りのちナデ	回転ナデ		10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図34	12	I23	鹿谷川旧流路	須恵器蓋	21.0			1.7	回転ナデ・回転ヘラケズリか	回転ナデ		5Y6/1 灰色	N7/0 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを含む	良		
74図35	6	E20	鹿谷川旧流路上層	須恵器有台環	11.9	8.5	3.8	2.4	3.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	5Y7/1 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~1mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	外面自然釉
74図36	12	I24	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器有台環	11.8	8.3	4.05	2.2	1.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ・高台貼付のちナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを少量含む	良	
74図37	11	G23	鹿谷川旧流路上層	須恵器有台環		8.1			5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ高台貼付のちナデ	7.5Y8/6 浅黄橙色	10YR7/3 に近い黄橙色	0.5~1mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を微量含む	軟	
74図38	11	F23	鹿谷川旧流路トレンチ5上層	須恵器有台環		7.8			5.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ・高台貼付のちナデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	6mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを少量含む	良	
74図39	12	I24	鹿谷川旧流路上層	須恵器有台環	13.0	10.3	3.8	10.9	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	N6/0 灰色	N5/0 灰色	0.5~3mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
74図40	12	K・L24	鹿谷川旧流路トレンチ7上層	須恵器有台環	16.1	11.6	5.7	3.2	6.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・高台貼付のちナデ	7.5Y5/1 灰色	N5/0 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
74図41	12	H25	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器有台環		8.7			3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ・高台貼付のちナデ	10YR7/1 灰白色	5Y6/1 灰色	2mm以下の長石・白、黒色粒子・チャートを少量含む	良	

棟号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面	内面	底部	内面	外面				
									回転ナデ	回転ナデ・ ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色				3mm以下の白、黒色粒子・ チャートを含む
74図42	I2	I23-24	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 有台環		11.6		7.1	回転ナデ	回転ナデ・ ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	3mm以下の白、黒色粒子・ チャートを含む	良		
74図43	I2	H22	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環		11.6		5.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	10YR7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量 含む	良		
75図1	I2	I23	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 有台環	12.2	8.6	4.0	4.2	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~8mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良	底部外面墨書 「十」
75図2	I2	H22	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環	15.0	10.6	5.7	5.9	11.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	5Y6/1 灰色	5Y4/1 灰色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	底部外面墨書 「衣女」
75図3	I0	G20-21	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 有台環	15.8	10.2	5.1	1.0	2.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちナデ	N7/0 灰白色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量 含む	良	
75図4	I1	E24	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環	14.4	9.8	5.7	3.3	5.8	回転ナデ	回転ナデの ちナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちナデ	N7/0 灰白色	N5/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	やや 軟	
75図5	I2	I23	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環	14.4	9.3	5.6	7.2	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちナデ	5Y7/1 灰白色	5Y6/1 灰色	0.5~3mmの長石・チャート を少量含む	良	
75図6	I2	K26	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環	13.0	8.5	4.3	0.8	1.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	
75図7	I8	A16	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 有台環	17.1	12.5	6.1	4.1	3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちナデ	5Y6/1 灰色	5Y5/1 灰色	0.5~2mmの長石・チャート ・黒色粒子を多く含む	良	外面自然釉
75図8	I10	G20	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 有台環		9.3			3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	10Y7/1 灰白色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャート・赤色粒 子を含む	良	
75図9	I8	A16	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 有台環		9.8			3.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N7/0 灰白色	N6/0 灰色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量 含む	良	
75図10	I11	F24	鹿谷川旧流路 トレンチ5	須臾器 塊		7.2			6.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ・高 台貼付のち ナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
75図11	I8	A15	鹿谷川旧流路 トレンチ1	須臾器 塊	16.8	9.3	5.75	0.7	4.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちナデ	7.5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を多 く含む	良	
75図12	I10	G21	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	11.9	8.0	3.75	4.1	7.0	回転ナデ	回転ナデの ちナデ	ヘラ切りの ちナデ	10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y6/2 灰黄色	0.5~2.5mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く 含む	やや 軟	板起こし痕
75図13	I12	K24	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	11.6	8.0	3.6	2.9	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰色	10YR6/1 灰色	0.5~3mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
75図14	I12	K・L25	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	11.8	8.5	3.3	7.3	10.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
75図15	I12	H25	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 無台環	12.2	8.2	3.55	2.9	5.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良	
75図16	I12	H22	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	11.5	7.1	3.0	2.5	4.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N5/0 灰色	N5/0 灰白色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良	
75図17	I11	G22	鹿谷川旧流路 トレンチ5上層	須臾器 無台環	12.3	8.5	3.5	2.9	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y7/1 灰白色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
75図18	I6	E24	鹿谷川旧流路 トレンチ3下層	須臾器 無台環	12.6	8.6	2.7	2.9	1.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
75図19	I8	A15	鹿谷川旧流路 トレンチ1	須臾器 無台環	11.8	7.2	3.2	4.2	6.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~3mmの長石・チャート ・黒色粒子を多く含む	良	
75図20	I10	F19・20・ G20	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	12.2	9.0	3.4	4.1	7.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート を少量含む	良	
75図21	I12	K24・25	鹿谷川旧流路 トレンチ7下層	須臾器 無台環	12.4	8.4	3.25	3.1	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~3.5mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く 含む	良	
75図22	I12	H21・22	鹿谷川旧流路	須臾器 無台環	12.6	8.6	2.95	3.2	6.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~3.5mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く 含む	良	
75図23	I12	H・I24	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 無台環	12.8	9.3	3.3	6.3	12.0	回転ナデ	回転ナデの ちナデ	ヘラ切りの ちナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を多く含む	良	タール痕
75図24	I12	I23	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	12.7	8.8	2.85	1.1	2.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
75図25	I10	G21	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	12.5	8.4	2.85	3.9	4.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1mmの白色粒子・ チャートを少量含む	良	底部外面漆付 着、底部内面 墨付着
75図26	I12	J24	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	13.0	8.3	3.3	7.0	11.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10YR6/1 灰色	10YR6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート を少量含む	良	底部外面墨書 「井口」
75図27	I12	J24	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	13.4	8.9	3.5	3.7	9.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰白色	N6/0 灰白色	0.5~7mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く 含む	良	底部外面線刻
76図1	I6	D20・21	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	12.9	9.2	3.4	1.9	3.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y7/1 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良	外面墨跡
76図2	I12	H25	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 無台環	13.0	8.8	3.4	4.5	2.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~2mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く 含む	良	
76図3	I10	G20	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	12.9	9.8	3.25	1.3	1.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	4mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良	
76図4	I12	I24	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 無台環	12.7	8.5	3.3	1.9	2.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N8/0 灰白色	N8/0 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を多 く含む	良	
76図5	I12	G25	鹿谷川旧流路 トレンチ6上層	須臾器 無台環	13.0	8.4	3.6	0.8	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~2mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図6	I12	H21・22	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	12.9	9.1	3.25	3.4	9.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート を少量含む	良	
76図7	I12	H21	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	13.5	10.0	3.5	5.6	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y5/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図8	I12	H25	鹿谷川旧流路 下層	須臾器 無台環	13.4	8.9	3.3	0.8	2.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	やや 軟	
76図9	I12	I23	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	13.9	9.5	3.4	2.0	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	2.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図10	I10	F・G20	鹿谷川旧流路	須臾器 無台環		8.5			4.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~1mmの白色粒子・ チャートを少量含む	良	
76図11	I10	G20	鹿谷川旧流路 上層	須臾器 無台環	13.8	9.9	3.2	1.9	3.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を多 く含む	良	

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率/12	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									口縁部	底部	外面	内面	底部				内面
76図12	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器 無台环	13.6	8.0	3.35	0.7	6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	3mm以下の白、黒色粒子・ チャートを含む	やや軟	板起こし痕
76図13	8	A16	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	14.2	11.4	2.2	1.3	1.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量含 む	良	
76図14	7	K20	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	14.5	10.4	2.15	1.2	1.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10YR7/1 灰白色	10YR7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図15	8	C19	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	14.9	12.4	1.9	0.7	1.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図16	10	G20	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	14.8	13.4	2.25	2.4	2.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y6/1 灰色	10Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図17	11	G24	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	14.8	12.7	2.7	1.1	2.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・石英・ チャートを微量含む	良	内面に火禰
76図18	6	F20	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	15.2	13.0	2.3			回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図19	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.4	11.4	2.08	1.6	2.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5GY6/1 緑灰色	2.5Y6/1 オリーブ灰色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量含 む	良	
76図20	12	H25	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器 皿	14.9	13.0	2.45	1.9	4.6	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y5/1 灰色	N6/0 灰色	0.5~3mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図21	8	A16	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.8	13.2		1.7	1.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y6/1 灰色	10Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図22	8	A16	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.7	12.6	2.1	0.8	3.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N7/0 灰白色	10Y7/1 灰白色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図23	10	F20	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.4	12.8	2.55	2.0	2.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	
76図24	8	A16	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	15.9	12.2	1.78	0.1	10.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5GY6/1 灰色	N6/0 灰色	5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量含 む	良	板起こし痕
76図25	12	G25	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器 皿	15.6	13.0	2.05	3.5	3.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
76図26	12	H21	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.6	12.3	2.5	1.9	2.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図27	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.6	12.6	2.2	0.7	3.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	内面全体に自然釉
76図28	11	F23	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.1	13.6	2.15	0.1	1.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図29	10	G20	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	15.9	13.2	2.0	1.2	1.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図30	12	H21・22・ I23	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.1	13.2	2.35	6.4	12.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図31	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.1	13.0	2.7	6.0	12.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~4mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	
76図32	6	D20	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.0	13.2	2.25	1.3	2.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図33	10	G20	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.2	14.5	2.25	0.9	4.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	2mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図34	10	G19・20	鹿谷川旧流路下層・SD20	須恵器 皿	16.5	13.0	2.3	0.7	1.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図35	10	G21	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.7	12.8	2.8	2.9	3.2	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	
76図36	12	H21・22	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	16.3	13.5	2.4	1.7	5.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	板起こし痕・自然釉部に自然釉
76図37	12	H22・23	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	16.9	13.9	2.25	2.1	3.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	0.5~3mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
76図38	8	A16	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	16.7	13.1	2.4	2.1	2.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~4mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	
76図39	10	G21	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	17.4	14.0	2.9	2.7	5.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~2mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
76図40	12	H25	鹿谷川旧流路トレンチ6上層	須恵器 皿	17.1	14.7	2.0	1.8	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	2.5Y7/2 灰黄色	7.5Y7/1 灰白色	1.5mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	
76図41	8	A16	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	17.7	14.3	2.4	0.4	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	2.5Y7/1 灰白色	2.5GY7/1 明オリーブ灰 色	1.0~2mmの白色粒子・ チャートを少量含む	良	
76図42	11	G22	鹿谷川旧流路トレンチ5下層	須恵器 皿	17.6	14.6	3.05	5.0	5.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~2mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図43	10	G21	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	17.8	15.6	2.2	3.0	6.2	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	
76図44	12	H22	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	17.6	14.8	2.7	3.4	3.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	
76図45	12	H22	鹿谷川旧流路上層	須恵器 皿	18.3	13.6	2.45	1.0	2.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y8/1 灰白色	5Y8/1 灰白色	0.5~3mmの白色粒子・ チャートを含む	良	
77図1	12	H21・22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	17.5	15.0	2.8	7.6	12.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	0.5~7mmの長石・石英・黒 色粒子を含む	良	底部外面墨書「大井」、板起こし痕
77図2	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.9	11.6	2.4	4.8	2.4	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y5/1 灰色	N5/0 灰色	0.5~3mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	底部外面墨書「林女」
77図3	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	15.1	12.9	2.35	2.2	2.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良	底部墨書土器
77図4	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿		14.0			0.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	1~2mmの白色粒子を含む	良	板起こし痕・底部漆付着
77図5	12	H22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	17.4	13.0	3.35	7.3	12.0	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	0.5~4mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良	底部外面に漆による文字「十」
77図6	10・ 12	G21・H21・ 22	鹿谷川旧流路下層	須恵器 皿	17.6	13.2	2.9	3.4	7.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y6/1 灰色	5Y7/1 灰白色	0.5~2.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	底部外面に漆による文字「十」
77図7	12	H25	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器 甕	17.5			2.1		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良	口縁部内外面に自然釉
77図8	8	B16	鹿谷川旧流路下層	須恵器 壺	16.3			1.4		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	N3/1 暗灰色	0.5~1mmの長石・チャート を微量含む	良	
77図9	8	A16	鹿谷川旧流路トレンチ2	須恵器 壺	19.1			1.8		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N6/0 灰色	10Y4/1 灰色	0.5~4mmの長石・チャート ・黒色粒子をやや多く含 む	良	
77図10	12	H24	鹿谷川旧流路トレンチ6下層	須恵器 甕	42.3			1.7		回転ナデ・カキ目	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N5/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~3mmの長石・石英・黒 色粒子を含む	良	
78図1	8	A19	鹿谷川旧流路上層	須恵器 壺	12.0			1.5		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y5/1 灰色	5Y5/1 灰色	1~2mmの白色粒子を含む	良	

挿入番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存率/12	口縁部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考
										外面	内面	底部	内面	外面			
78図2	12	J24	鹿谷川旧流路上層	須恵器壺	21.8			3.5		回転ナデ	回転ナデ		N5/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~2mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
78図3	12	K24	鹿谷川旧流路上層	須恵器瓶	6.1	11.2	20.9	0.5	12.0	回転ナデ	回転ナデ	高台貼付のちナデ	10YR7/4 にふい黄褐色	2.5Y7/1 灰白色	0.5~5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	軟	
78図4	6	E20	鹿谷川旧流路上層	須恵器壺						ナデ・回転ナデ	回転ナデ		7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	5mm以下の白色粒子・チャートを少量含む	良	外面に自然釉
78図5	10	G20-21	鹿谷川旧流路上層	須恵器甕か						回転ナデ・タタキのちカキ目	回転ナデ・同心円あて具痕		7.5Y7/1 灰白色	7.5Y6/1 灰色	1mm以下チャート・石英を少量含む	良	
78図6	6	E20	鹿谷川旧流路上層	須恵器鉢	16.4			1.5		回転ナデ	回転ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	2mm以下の白色粒子・チャートを少量含む	良	
78図7	12	I23	鹿谷川旧流路上層	須恵器高坏						回転ナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	7.5Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
78図8	11	E23	鹿谷川旧流路上層	須恵器底		13.0			3.0	ナデ	ハケのちナデ	ナデ・指頭圧痕	N6/0 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
78図9	8	A16	鹿谷川旧流路上層	須恵器底						回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りのちナデ・高台貼付のちナデ	7.5Y7/1 灰白色	7.5Y6/1 灰色	4mm以下の長石・白・黒色粒子・チャートを少量含む	良	
78図10	11	E24	鹿谷川旧流路上層	須恵器風字瓶	幅12.5		4.7			ナデ・ケズリ	ナデ	脚部貼付	5Y5/1 灰色	5Y6/1 灰色	0.5~2mmの長石・チャート・黒色粒子を少量含む	良	
78図11	8	A15	鹿谷川旧流路上層	越前焼		11.0			4.0	ナデ・鉄軸	ナデ		2.5YR4/3 にふい赤褐色	10YR7/2 にふい黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	内面にスス付着
78図12	8	A18	鹿谷川旧流路上層	越前焼						ロクロナデ	ロクロナデ		2.5YR5/2 灰赤色	2.5YR5/3 にふい赤褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量・2~3mmの礫(白・褐色)を微量含む	良	口縁部外面に
78図13	8	A20	鹿谷川旧流路上層	越前焼						ロクロナデ	ロクロナデ		5YR5/4 にふい赤褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	描目9条
78図14	8	A17	鹿谷川旧流路上層	越前焼						ロクロナデ・細目	ロクロナデ		5YR6/6 褐色	5YR6/6 褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量・2~5mmの礫(白・褐色)を微量含む	良	描目10条
78図15	8	B18	鹿谷川旧流路上層	越前焼						ロクロナデ・細目	ロクロナデ		10YR7/4 にふい黄褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	描目8条
78図16	8	A17	鹿谷川旧流路上層	越前焼						ロクロナデ・細目	ロクロナデ		2.5YR6/6 褐色	2.5YR6/6 褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒子を少量・2~5mmの礫(白・黒・褐色)を微量含む	良	描目11条
78図17	8	A16	鹿谷川旧流路上層	青磁碗						柳描文	沈線(1)		7.5Y6/2 灰オリーブ色	7.5Y6/2 灰オリーブ色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	
78図18	6	F20	鹿谷川旧流路上層	青磁碗						蓮弁文			5GY6/1 オリーブ灰色	5GY6/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	
78図19	6	E20	鹿谷川旧流路上層	青磁碗	14.5			2.0					10Y 5/2 オリーブ灰色	5GY6/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒粒子を微量含む	良	
78図20	12	G21	鹿谷川旧流路上層	青磁碗	13.1			2.0		蓮弁文(線描き)			10GY6/1 緑灰色	10GY6/1 緑灰色	0.5mmの白・黒色粒子を少量含む	良	漆継ぎ痕
78図21	8	B18	鹿谷川旧流路上層	瀬戸						ロクロナデ・灰軸	ロクロナデ・灰軸		5Y6/3 オリーブ黄色	5Y6/3 オリーブ黄色	0.5~1mmの白・黒粒子を少量含む	良	
78図22	11	F25	鹿谷川旧流路上層	瀬戸						ロクロナデ・灰軸	ロクロナデ・灰軸		5Y5/4 オリーブ色	5Y5/4 オリーブ色	0.5mmの白・黒色粒子を少量含む	良	漆継ぎ痕
78図23	6	E20	鹿谷川旧流路上層	肥前陶器						ロクロナデ・白化粧	ロクロナデ・白化粧		2.5Y8/1 灰白色	10Y8/1 灰白色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	軟	
78図24	6	E20	鹿谷川旧流路上層	土師質	6.0			4.0		口縁部ナデ	ナデ		7.5YR6/3 にふい褐色	7.5YR6/4 にふい褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を少量含む	良	
89図1	1	M7	土器集中区	縄文土器						楕円型文(横回転、一部縦回転)	ナデ		10YR7/2 にふい黄褐色	7.5YR7/2 明褐色	2mm以下の白~灰色粒子を中量含む	軟	成形途中施文・復元最大径37.0
89図3	14	R20	遺構面直上	縄文土器						押型文(磨滅)	沈線文(丸棒)		5YR6/4 にふい褐色	5YR6/3 にふい褐色	2mm以下の白~灰色粒子を多量に含む	軟	
89図4	4	N20	表土	縄文土器						押しき(多載竹管)・縄文(RL、横回転)	ナデ		5YR6/4 にふい褐色	5YR7/2 明褐色	2mm以下の白~灰色粒子を中量含む	軟	
89図5	15	V29	包含層	縄文土器						糸線(縦方向のち押しき(半載竹管))	ナデ		5YR6/4 にふい褐色	5YR6/4 にふい褐色	1mm以下の白~褐色粒子を中量含む	軟	
89図6	15	U29	包含層	縄文土器						擬縄文(横・斜回転に帯状施文)	ナデ		5YR6/4 にふい褐色	5YR6/4 にふい褐色	2mm以下の白~褐色粒子を中量含む	軟	
89図7	1	M6	表土	縄文土器						ナデ・擦痕(斜方向)	ナデ		10YR4/1 褐色	10YR4/1 褐色	2mm以下の灰~褐色粒子を多量に含む	軟	
89図8	4	N20	表土	縄文または弥生土器						指頭押圧	条痕(横方向)		2.5Y6/4 にふい褐色	10YR6/4 にふい黄褐色	2mm以下の石英・雲母・白~褐色粒子を中量含む	軟	
89図9	9	J4・5	暗渠	縄文または弥生土器						沈線文(丸棒)	ナデ		5YR7/2 明褐色	5YR8/2 灰白色	2mm以下の灰~褐色粒子を中量含む	軟	
89図10	15	U29	包含層	縄文または弥生土器						沈線文(半載竹管)	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	2.5Y7/3 灰黄色	2mm以下の石英・白~褐色粒子を中量含む	軟	
89図11	9	L3	表土	縄文または弥生土器						刻み・条痕(斜方向)	摩滅		2.5YR6/2 灰赤色	10R5/2 灰赤色	2mm以下の灰~褐色粒子を多量に含む	軟	
89図12	9	K2	表土	縄文または弥生土器						条痕(頭部縦、肩部横方向)・段	ナデ		5YR7/2 明褐色	5YR7/3 にふい褐色	2mm以下の石英・灰~褐色粒子を中量含む	軟	
89図13	9	K3	表土	弥生土器						ナデ・刻み・ハケ	ナデ		10YR3/1 黒褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・泥岩・黒曜石(?)を含む	良	内面スス付着
89図14	9	K4	表土	弥生土器						刻み・条痕	横ナデ		10YR5/3 にふい黄褐色	10YR5/3 にふい黄褐色	1mm~4mmの砂岩・白色粒子を含む	良	
89図15	8	B16	表土	弥生土器	12.8			5.0		ナデ・条痕	ナデ		10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	2.5mm以下の長石・石英・チャート・砂岩・赤・褐色粒子を含む	良	
89図16	9	J2	表土	弥生土器						波状文・ハケ	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩・赤色粒子を含む	良	
89図17	9	K3	表土	弥生土器						直線文・波状文	ナデ		10YR7/2 にふい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	1~2mmの長石・石英・砂岩を含む	良	
89図18	9	K3	表土	弥生土器						直線文・斜格短線文	摩滅		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	1mm以下の白・黒色粒子を含む	良	
89図19	9	K3	表土	弥生土器						直線文・斜格短線文	摩滅		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	微細な白、赤、黒色粒子を含む	良	
89図20	1	N5	表土	弥生土器						直線文・重方形文・指頭圧痕・条痕	ナデ		10YR4/6 褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	1~2mmの長石・石英・チャート・粘板岩を含む	良	
89図21	9	L2	表土	弥生土器						ナデ・重方形文・指頭圧痕・条痕	ナデ		10YR7/2 にふい黄褐色	10YR7/2 にふい黄褐色	1~4mmの長石・石英・粘板岩・チャートを含む	良	
89図22	9	I・K3	表土	弥生土器						ナデ・刺突・直線文	ナデ		2.5Y4/3 オリーブ褐色	2.5Y7/3 浅黄色	1~2mmの長石・石英・黒色粒子を含む	良	
89図23	9	K5	表土	弥生土器						沈線	ナデ・条痕		2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
89図24	9	L2	表土	弥生土器						ナデ・刺突・棒状浮文	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~2mmの長石・石英・チャートを含む	良	
89図25	9	J3	表土	弥生土器						条痕・列点文	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~3mmの長石・石英・砂岩を含む	良	
89図26	9	K3	表土	弥生土器						波状文・跳ね上げ文・条痕	ナデ		10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	1~2mmの長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	
89図27	9	K3	表土	弥生土器						ナデ・条痕・跳ね上げ文	ナデ		10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にふい黄褐色	1mm程度の長石・石英・チャート・砂岩を含む	良	

第4章 遺構と遺物

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面		内面	底部	内面				外面
									外面	内面	内面						
89図28	9	K2	表土	弥生土器 体部					ナデ・振流水文	ナデ		10YR5/3 にふい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	4mm程度の砂岩・それ以下の 長石・石英・チャートを含 む	良	外面スス付着	
89図29	9	K2	表土	弥生土器 体部					ナデ・条痕・山形 文	ナデ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1~5mmの長石・石英・砂岩 を含む	良		
89図30	9	K2	表土	弥生土器 底部		7.6		12.0	条痕	ナデ・指頭 圧痕	ナデ	10YR4/1 褐色	10YR7/2 にふい黄褐色	1~4mmの長石・石英・砂岩 ・チャートを含む	良		
89図31	7	K19	表土	弥生土器 体部					直線文・列点文	ナデ		10YR7/4 にふい黄褐色	2.5YR7/3 浅黄色	1mm程度の白、黒色粒子 を含む	良		
89図32	3	N18	表土	弥生土器 体部					直線文・列点文	ナデ		2.5Y5/1 黄灰色	7.5YR7/3 にふい橙褐色	1~2mmの長石・石英・黒色 粒子を含む	良		
90図1	15	Q-R24	表土	弥生土器 高坏か	13.1			4.5	横ナデ	横ナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR7/4 にふい黄褐色	0.5~1.5mmの長石・チャ ート・黒色粒子を多く含む	良		
90図2	1	M8	表土	弥生土器 甕	17.5			1.9	横ナデ・振凹線 文(3)	横ナデ・ケ ズリ		10YR7/2 にふい黄褐色	10YR7/4 にふい黄褐色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を多く 含む	良	外面スス付着	
90図3	15	O22	表土	弥生土器 甕					ナデ	ナデ		10YR7/2 にふい黄褐色	10YR7/2 にふい黄褐色	微細な白、黒、赤色粒子 を含む	良		
90図4	-	-	表土	弥生土器 壺					ナデ・刺突	ハケ・ナデ		2.5Y6/3 にふい黄色	2.5Y6/3 にふい黄色	1mm以下の長石・石英・ チャートを含む	良		
90図5	15	U29	表土	弥生土器 壺					摩滅・直線文・円 形浮文	摩滅		10YR6/4 にふい黄褐色	10YR6/4 にふい黄褐色	1mm以下の白、黒、赤色 粒子を含む	良		
90図6	1	M7-8	表土	弥生土器 壺	16.1			10.7	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ		10YR7/3 にふい黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	3mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良		
90図7	6	-	表土	弥生土器 壺	11.3			2.8	横ナデ・ナデ	横ナデ・ナ デ		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	やや 軟		
90図8	7	H17	表土	弥生土器 壺	11.0			3.1	ナデ	ナデ・指頭 圧痕		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR7/3 にふい黄褐色	微細な黒、白色粒子・雲母 を含む	良		
90図9	15	S25	表土	弥生土器 壺か					振凹線文(2)	摩滅		5YR7/8 橙褐色	5YR7/8 橙褐色	微細な白・黒・赤色粒子を 含む	良		
90図10	15	Q22	包含層	弥生土器 高坏	24.7			1.4	摩滅	しほり		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の長石・石英・ チャート・雲母・赤、黒色 粒子を少量含む	やや 軟		
90図11	9	L10	表土	弥生土器 器台					ナデ・ケズリ	横ナデ・ナ デ		5YR7/6 橙褐色	2.5Y7/3 浅黄色	2mm以下の長石・石英・ チャート・砂岩・黒色粒子 を含む	やや 軟	小孔(4)	
90図12	12	H22	表土	弥生土器 器台	14.8			2.0	振凹線文(4)・摩 滅	摩滅		2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	1mm程度の長石・石英・ チャート・赤色粒子を含 む	やや 軟		
90図13	3	M17	表土	弥生土器 脚部					摩滅	しほり		10YR8/3 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	1mm以下のチャート・砂岩 ・白、赤、黒色粒子を含 む	良		
90図14	3	M17	表土	弥生土器 鉢	14.6			2.5	摩滅	摩滅		10YR6/3 にふい黄褐色	10YR6/3 にふい黄褐色	微細な白、赤、黒色粒子 を少量含む	やや 軟		
90図15	15	Q22	包含層	弥生土器 鉢	16.6			2.3	横ナデ・ハケ・ナ デ	横ナデ・ナ デ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	0.5~2mmの長石・チャ ート を少量含む	良		
90図16	9	K2	表土	弥生土器 底部		3.5		12.0	ナデ	ナデ	ナデ	10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	1mm以下の白色粒子を含 む	良		
90図17	4	N20-21	表土	須恵器 提瓶	5.7			1.4	回転ナデ	回転ナデ		10Y6/1 灰色	2.5Y7/1 灰白色	1mm以下の長石・赤、白、 黒色粒子・チャートを含 む	良		
90図18	7	I12	表土	須恵器 提瓶					カキ目	ナデ		2.5Y5/1 灰褐色	7.5Y5/1 灰色	1mm以下の白色粒子・ チャートを少量含む	良		
90図19	15	S25	表土・包含層	土師器 蓋	18.4			1.6	回転ナデ・ケズ リ	回転ナデ		7.5YR7/6 橙褐色	7.5YR7/6 橙褐色	0.5~1mmの長石・チャ ート ・黒色粒子を少量含む	良	内外面赤彩	
90図20	15	S25	包含層	土師器 無台坏	10.3	7.5	3.35	3.8	1.2	回転ナデ	回転ナデ	回転ヘラ切 りのちナデ	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良	内外面に漆付 着
90図21	6	F13	表土	土師器 甕					ナデ	ナデ		10YR7/4 にふい黄褐色	10YR7/4 にふい黄褐色	1~2mmのチャート・砂岩 を含む	良		
90図22	12	H22	表土	土師器 長胴甕					ナデ・カキ目	ナデ		7.5YR8/3 浅黄色	7.5YR8/3 浅黄色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩・赤色粒子 を含む	良		
90図23	12	J25	表土	土師器 甕か					ナデ	ナデ		7.5YR7/3 にふい橙褐色	7.5YR7/4 にふい橙褐色	1~3mmの長石・石英・ チャート・砂岩を含む	良		
90図24	15	R24	包含層	須恵器 蓋	11.1		2.55	12.0	回転ナデ・回転 ヘラケズリ・鈕 貼付のちナデ	回転ナデの ちナデ		10YR5/3 にふい黄褐色	2.5Y5/2 暗灰黄色	0.5~4mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良		
90図25	6	D12	表土	須恵器 蓋	13.9			1.2	回転ナデ・ヘラ 切りのち回転ヘ ラケズリ・鈕貼 付のちナデ	回転ナデ		7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~2.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良		
90図26	7	H13	用水4	須恵器 蓋	13.0			2.1	回転ナデ・ヘラ 切りのちナデ	回転ナデ		5Y6/1 灰色	5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを少量含 む	良	重ね焼痕・外 面口縁部自然 釉	
90図27	15	R24	包含層	須恵器 蓋	13.9			4.9	回転ナデ・回転 ヘラケズリ・鈕 貼付のちナデ	回転ナデ		2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良	口縁部外面に 自然釉・重ね 焼痕	
90図28	7	I14・J15	用水4・表土	須恵器 蓋	16.0			3.2	回転ナデ・ヘラ 切りのちナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
90図29	3	M16	表土	須恵器 蓋	13.5		2.55	6.8	回転ナデ・ヘラ 切りのちヘラケ ズリ・鈕貼付の ちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	0.5~2mmの長石・チャ ート をやや多く含む	良	口縁部外面に 自然釉	
90図30	6	E20	表土	須恵器 蓋	15.1			1.4	回転ナデ・ヘラ 切りのちナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
90図31	3	M12	表土	須恵器 蓋	17.6		3.7	3.0	回転ナデ・ヘラ 切り・回転ヘラ ケズリ・鈕貼付 のちナデ	回転ナデ		N7/0 灰白色	10Y6/1 灰色	1mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良		
90図32	9	I3・K5	表土	須恵器 蓋	21.7			2.5	回転ナデ・ヘラ 切りのちヘラケ ズリ	回転ナデの ちナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	0.5mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良		
90図33	7	H13	用水4	須恵器 無台坏	12.1	8.4	3.4	1.0	3.4	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/3 浅黄色	0.5~1mmの長石・チャ ート ・黒色粒子を少量含む	良	
90図34	3	M15	表土	須恵器 無台坏	12.2	7.1	3.1	1.8	4.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N6/0 灰色	2.5Y3/1 黒褐色	0.5~2mmの長石・チャ ート ・黒色粒子を多く含む	良	
91図1	12	G・J25	表土	須恵器 無台坏	12.0	8.7	3.4	3.9	5.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	0.5~2.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子をや や多く含む	良	
91図2	3	-	用水5	須恵器 無台坏	12.9	7.8	3.5	10.0	12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャ ート ・黒色粒子を少量含む	良	
91図3	7	G11	表土	須恵器 無台坏	12.8	8.0	2.5	1.1	3.9	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	2.5Y7/2 灰黄色	5Y7/1 灰白色	0.5~1mmの長石・チャ ート を少量含む	良	
91図4	9	G10	表土	須恵器 無台坏	13.6	8.2	3.3	4.0		回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	2.5Y8/2 灰白色	2.5Y8/2 灰白色	0.5~1mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	軟	
91図5	3	M15	表土	須恵器 無台坏	13.7	8.5	3.1	5.2	8.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちナデ	5Y5/1 灰色	10YR6/2 灰黄褐色	0.5~3mmの長石・チャ ート ・黒色粒子を多く含む	良	

挿入 番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12		調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
								口縁部	底部	外面		内面		内面				外面
										外面	内面	外面	内面					
91図6	4	N20	表土	須恵器 壺	16.0	9.0	4.7	2.6	7.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 回転ヘラケ ズリ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良		
91図7	15	-	表土	須恵器 有台環	13.1	9.4	4.15	1.5	3.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちなデ	N6/0 灰色	25Y5/1 黄灰色	0.5~1.5mmの長石・石英・ チャート・黒色粒子を少 量含む	良		
91図8	12	G・H25	表土	須恵器 有台環	12.9	8.9	4.05	0.3	7.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	N7/0 灰白色	N6/0 灰色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャート少量含む	良		
91図9	9	H8	表土	須恵器 有台環		9.0			6.3	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	10Y7/0 灰白色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・チャート を含む	良		
91図10	9	I3	表土	須恵器 有台環	13.1	10.0	4.05	0.6	2.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	5Y7/1 灰白色	7.5Y6/1 灰色	1mm以下の長石・チャート を含む	良		
91図11	13	P24	表土	須恵器 有台環		10.8			2.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	2mm以下の長石・チャート を含む	良		
91図12	3	-	表土	須恵器 有台環		9.0			3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	7.5Y6/1 灰色	N6/0 灰色	0.5mm以下の長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	底部外面に線 刻	
91図13	12	G25	表土	須恵器 有台環		7.1			12.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	10Y7/1 灰白色	10Y6/1 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
91図14	12	H24	表土	須恵器 有台環		7.9			3.0	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	N7/0 灰白色	N7/0 灰白色	1mm以下の白、黒色粒子 を少量含む	やや 軟		
91図15	3	N16	表土	須恵器 有台環		8.2			7.5	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ・高 台貼付のち なデ	N6/0 灰色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含む	良	坯底部から高 台に自然軸	
91図16	9	-	表土	須恵器 壺		7.0			9.0	回転ナデ	回転ナデ	糸切・高台 貼付のちな デ	10Y6/0 灰白色	N6/0 灰色	1mm以下の長石・チャート を含む	良		
91図17	7	H13	用水4	須恵器 皿	14.9	11.6	2.0	1.6	2.1	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	N7/0 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	2.5mm以下の長石・白、黒 色粒子・チャートを少量 含む	良		
91図18	15	Q・R24	擾乱	須恵器 皿	15.3	10.7	2.5	0.7	5.6	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	板起こし痕	
91図19	15	Q24	包含層	須恵器 皿	15.7	12.8	2.45	3.1	4.7	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良		
91図20	10	G13	表土	須恵器 皿	16.3	14.5	2.2	1.2	1.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y6/1 灰色	N5/0 灰色	1mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
91図21	7	I14	用水4	須恵器 皿	15.3	11.5	2.1	2.7	1.5	回転ナデ	回転ナデの ちなデ	ヘラ切りの ちなデ	7.5Y6/1 灰色	7.5Y6/1 灰色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
91図22	8	C15	表土	須恵器 皿	17.8	15.6	2.15	0.3	1.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	10Y7/1 灰白色	10Y7/1 灰白色	3mm以下の長石・白、黒色 粒子・チャートを含む	良		
91図23	10	G13	擾乱	須恵器 皿		14.3			2.2	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切りの ちなデ	5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	微細な長石・チャート・黒 色粒子を少量含む	良		
91図24	3	M15	表土	須恵器 皿	17.2	14.2	2.95	0.6	2.8	回転ナデ	回転ナデ	ヘラ切り	10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	0.5mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を微 量含む	良		
91図25	9	G10	表土	須恵器 瓶	8.5				12.0	回転ナデ	回転ナデ・ ナデ		7.5Y6/1 灰色	N5/0 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良		
91図26	3-4	N20・21	表土	須恵器 瓶						回転ナデ	回転ナデ		10Y6/1 灰色	10Y6/1 灰色	5.0mm以下の長石・白、黒 色粒子・チャートを含む	良		
91図27	3	M16	表土	須恵器 壺						回転ナデ	回転ナデ		7.5Y7/1 灰白色	7.5Y7/1 灰白色	微細な白、黒色粒子を含 む	良	内面自然軸	
91図28	7	I14	表土	須恵器 鉢	19.0				0.9	回転ナデ	回転ナデ・ カキ目		5Y7/1 灰白色	2.5Y5/1 黄灰色	1mm以下の白色粒子・ チャートを少量含む	良		
91図29	3	-	表土	須恵器 鉢	24.5				0.8	回転ナデ・回転 ヘラケズリ・カ キ目	回転ナデ・ カキ目		10Y7/1 灰白色	5Y7/2 灰白色	1mm以下の長石・石英・ チャート・黒色粒子を含 む	良		
91図30	8	C18	擾乱	須恵器 甕						回転ナデ	回転ナデ		2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	微細な白、黒色粒子を含 む	良	外面自然軸	
91図31	7	H11	表土	須恵器 体部						回転ナデ・タタ キ・ハケ	回転ナデ・ ハケ		7.5Y6/2 灰黄色	7.5Y6/2 灰黄色	微細な白、黒色粒子を含 む	良	外面自然軸	
92図1	11	D23	表土	須恵器 甕						回転ナデ・カキ 目・回転ナデ	回転ナデ		N6/0 灰色	N6/0 灰色	3mm以下の白色粒子・ チャートを少量含む	良		
92図2	3	N18	表土	須恵器 高坏	17.0				1.4	回転ナデ	回転ナデ・ 鑷目		7.5Y7/1 灰白色	5Y6/1 灰色	0.5~1mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良	内外面に自然 軸	
92図3	7	H13	用水4	須恵器 脚部		9.4			1.2	回転ナデ	回転ナデ・ ナデ		N5/0 灰色	10Y5/1 灰色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を微量含む	良		
92図4	3	M15・O19	表土	須恵器 脚台		17.3			5.9	回転ナデ・ナデ・ ケズリ	回転ナデ・ ナデ	ヘラ切り・ 高台貼付の ちなデ	10Y7/1 灰白色	N7/0 灰白色	0.5mm以下の長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良		
92図5	15	S24	包含層	灰軸陶器 碗	8.05				1.2	回転ナデ	回転ナデ	高台貼付の ちなデ	5Y7/1 灰白色	5Y7/1 灰白色	0.5~1.5mmの長石・チャート ・黒色粒子を少量含む	良		
92図6	15	S26	包含層	越前焼 甕						ナデ	ナデ		2.5YR4/4 にぶい赤褐色	5YR4/4 にぶい赤褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	口縁部内面に 樋状凹線	
92図7	10	G12	表土	越前焼 甕						ナデ	ナデ		2.5Y6/1 黄灰色	7.5Y6/1 灰色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良		
92図8	1	O8	盛土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR6/4 にぶい橙色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	口縁端部に沈 線	
92図9	1	M10	盛土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		5Y7/1 灰白色	2.5Y5/1 黄灰色	0.5mmの白・褐色粒子を微 量含む	良	小型品・口縁 端部に沈線	
92図10	7	I12	表土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		2.5Y5/1 黄灰色	2.5Y5/1 黄灰色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、5mmの礫(白色) 含む	良	口縁端部に沈 線	
92図11	1	M6	盛土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		2.5Y7/2 灰黄色	10YR7/4 にぶい黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2~5mmの礫(白 ・褐色)を微量含む	良	口縁端部に沈 線	
92図12	9	H2	表土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		10YR5/1 褐色	7.5YR4/3 褐色	0.5mmの白・黒・赤・褐色粒 子を少量、1~2mmの礫(白 ・褐色)を微量含む	良	口縁端部に沈 線	
92図13	1	M2	盛土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	口縁端部に沈 線	
92図14	9	K8	表土	越前焼 片口鉢						ロクロナデ	ロクロナデ		5YR6/3 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、5mmの礫(白色) 含む	良	片口残存・口 縁端部に沈線	

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種・器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率/12 口縁部 底部	調整・施文・施釉			色調		胎土	焼成	備考	
									外面	内面	底部	内面	外面				
92図15	9	H1	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		10YR6/2 灰黄褐色	25Y7/2 灰黄色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	やや 軟		
92図16	7	K13	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		5Y4/1 灰色	10Y5/1 灰色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	良	挿目10条・片 口残存	
92図17	1	M8	用水2	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		10YR6/3 にぶい黄褐色	75Y5/2 灰褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	良	片口残存・口 縁部下に段	
92図18	9	H4	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/3 浅黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	やや 軟	挿目11条	
92図19	1	M2	盛土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		25Y6/2 灰黄色	25Y5/1 黄灰色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	口縁部下に段	
92図20	7	-	排土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		75YR6/2 灰褐色	10YR5/2 灰黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	良	口縁部下に段	
92図21	9	L10	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		75YR6/4 にぶい橙色	5YR6/4 にぶい橙色	0.5mmの白・黒・赤・褐色粒 子を少量含む	良	口縁部下に沈 線・漆継ぎ痕	
92図22	14	P19	攪乱	越前焼 播鉢	24.6			1.0	ロクロナデ	ロクロナデ		25Y5/1 黄灰色	25Y5/1 黄灰色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	内面に窯印	
92図23	7	L15	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		75YR5/3 にぶい褐色	5YR7/4 にぶい褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	口縁部直下に 沈線	
92図24	9	H5・J4・5	表土	越前焼 播鉢	32.0			3.0	ロクロナデ	ロクロナデ		10YR6/6 明黄褐色	75YR5/4 にぶい褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	良	挿目10条・片 口残存・口縁 部下に沈線	
93図1	1	M6	盛土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		75YR4/2 灰褐色	5YR2/2 黒褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良		
93図2	14	P17	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		5YR6/6 橙色	10YR8/2 灰白色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図3	3	L17	表土	越前焼 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		5Y6/1 灰色	25Y6/2 灰黄色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、5mmの礫(白・褐 色)を微量含む	良	挿目7条(太く 粗い)	
93図4	9	K1	表土	越前焼 片口鉢					ロクロナデ・回 転ヘラクスリ	ロクロナデ	高台貼付の ちなデ	10YR7/2 にぶい黄褐色	10YR7/1 灰白色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・黒 ・褐色)を微量含む	良		
93図5	15	U27	谷埋土	越前焼 播鉢		13.6		2.0	ロクロナデ・縄 目	ロクロナデ		25Y5/2 暗灰黄色	25Y5/2 暗灰黄色	0.5mmの白・黒・赤・褐色粒 子を少量、1~3mmの礫(白 ・褐色)を微量含む	良	挿目12条	
93図6	3	L15	表土	越前焼 播鉢		15.6		2.3	ロクロナデ・縄 目	ロクロナデ		25Y7/3 浅黄色	10YR5/2 灰黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2~5mmの礫(白 ・褐色)を微量含む	良	挿目9条	
93図7	1	M8-9	用水2	産地不明 播鉢					ロクロナデ	ロクロナデ		10YR8/4 浅黄褐色	10YR8/4 浅黄褐色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量、2mmの礫(白・褐 色)を微量含む	やや 軟	挿目1条	
93図8	9	I7	表土	青磁 碗	15.7			2.0				10Y6/1 灰色	25GY6/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図9	8	K17	表土	青磁 碗	14.8			2.0				5GY5/1 オリーブ灰色	5GY5/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図10	9	K8	表土	青磁 碗	14.8			1.0	回転クスリ			5GY7/1 明オリーブ灰 色	5GY7/1 明オリーブ灰 色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量、2mmの礫(白)含む	良	漆継ぎ痕	
93図11	9	H5	表土	青磁 碗	14.0			2.0				10GY6/1 緑灰色	10GY6/1 緑灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図12	9	H5	表土	青磁 碗	13.6			1.0				25GY6/1 オリーブ灰色	75Y6/2 灰オリーブ色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図13	9	H1	表土	青磁 碗					蓮弁文			25GY6/1 オリーブ灰 色	25GY6/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図14	13	R27	攪乱	青磁 碗					蓮弁文(片切彫)			10Y6/2 オリーブ 灰色	10Y6/2 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図15	7	I12	表土	青磁 碗	5.7			7.0		印花文	削出し高 台・高台内 面まで施釉	N6/0 灰色	10Y5/2 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図16	15	Q19	表土	青磁 碗	5.0			6.0			削出し高 台・高台部 畳とその 内部露胎	5GY6/1 オリーブ灰色	5GY6/1 オリーブ灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図17	9	J3	表土	白磁 皿	3.8			12			削出し高台 (割高台)・ 底部露胎	25Y8/1 灰白色	25Y8/2 灰白色	0.5~1mmの白・黒・褐色粒 子を少量含む	良	見込み目跡 (4)	
93図18	12	-	表土	白磁 皿	3.6			6.0			削出し高台 (割高台)・ 底部露胎	10YR8/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良	見込み目跡 (4)・高台内 墨書	
93図19	9	H5	表土	白磁 皿	9.4	2.8	2.2	3.0	6.0		削出し高 台・底部露 胎	10YR8/1 灰白色	25YR8/1 灰白色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図20	9	H5・I4	表土	瀬戸 山茶碗	6.8	4.4	2.1	1.0	8.0	ロクロナデ	ロクロナデ	切り離し のち丁寧な ナデ	25Y7/2 灰黄色	10YR8/1 灰白色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	やや 軟	無釉
93図21	9	H9	表土	瀬戸 天目茶碗	10.9			3.0	鉄釉	鉄釉		10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図22	9	K7	表土	瀬戸 天目茶碗	12.5			3.0	鉄釉	鉄釉		10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図23	11	B23	表土	瀬戸 天目茶碗	11.0			2.0	鉄釉	鉄釉		10YR2/1 黒色	10YR2/3 黒褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図24	1	M5	谷埋土	瀬戸 天目茶碗					鉄釉	鉄釉		10YR2/1 黒色	75YR2/1 黒色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図25	12	K26	表面清掃	瀬戸 平碗					灰釉	灰釉		5Y7/2 灰白色	5Y7/2 灰白色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図26	9	K6	表土	瀬戸 皿	10.8			2.0	鉄釉	鉄釉		10YR2/1 黒色	10YR2/1 黒色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 微量含む	良		
93図27	7	I13	表土	瀬戸 卸皿	4.3			6.0		卸目	回転系切り	25Y7/1 灰白色	10YR7/2 にぶい黄褐色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図28	12	K25	表面清掃	瀬戸 花瓶					沈線(2)・灰釉	ロクロナデ		5Y7/1 灰白色	5Y7/3 浅黄色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図29	9	K10	表土	瀬戸 仏花瓶	4.4			9.0	灰釉	灰釉	回転系切り	25Y8/1 灰白色	5Y6/2 灰オリーブ色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を 少量含む	良		
93図30	9	L2	表土	瓦質土器	31.2			2.0	ナデ	ナデ		N3/0 暗灰色	N3/0 暗灰色	0.5mmの白・黒・褐色粒子を中量 含む	やや 軟		

第3表 石器観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
23図8	7	H14	SB11 SP0705	削器		An	77	143.2	22	192.4	105図15
28図3	14	Q18	SP14309	凹石	3類。やや厚手。下端にも敲打痕。	An	127.6	78	59	871.3	
37図3	12	L25	SK1205上層	打製石斧	3-①類。大形。基部欠。	An	144	105	25	452	
37図4	12	L25	SK1205	打製石斧	1類。刃部欠。	An	67	60	26	153	
43図3	1	M7	SK0114	磨製石斧		An	143.7	48	37	334.6	110図64
43図13	9	I2	SK0901	打製石斧	3-③類。左側辺中程に潰れ。	An	121	169	32	598	109図62
44図5	3	L16	SK0305	打製石斧	1-③類。中形。	An	127	58	17	152	
46図6	7	G18	SP07209	敲石	1類。上端にも敲打痕。左右側端にも敲打痕。	Sa	103.3	55	34	286.7	
53図1	3	N16	SD01	石匙		An	49	59	11	23	105図8
53図2	9	I3	SD01	石匙		An	64	46	9	25	105図9
53図3	9	I2	SD01	石錘		An	66	31	10	17	105図16
53図4	9	L8	SD01	打製石斧	1-②類。左側辺に素材面を残す。	An	116	55	22	132	
53図5	9	I3	SD01	打製石斧	1-③類。中形。やや幅広で左側辺上半が湾曲。磨減が著しい。	An	120	70	26	214	
53図6	3	N17	SD01	打製石斧	2-①類。中形。基部に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。やや幅広で平らな刃部。	An	114	93	16	253	
53図7	3	M14	SD01	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部境が屈曲。右側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	193	96	35	867	
53図8	9	H2	SD01	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。	An	197	99	45	915	107図44
53図9	9	L6	SD01	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。	An	215	89	41	696	
53図10	13	Q26	SD01	打製石斧	2-②類。大形。基部に素材面を残す。右側辺上位に潰れ。	An	113	80	25	251	
53図11	1	M7	SD01	打製石斧	3-①類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。右側辺上位に潰れ。	An	147	98	27	328	
54図1	3	M14	SD01	打製石斧	3-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部境が屈曲し、刃部が偏る。刃部磨減。	An	199	105	38	689	
54図2	13	Q26	SD01	打製石斧	3-①類。大形。右端に素材面を残す。左側辺の刃部境が屈曲し、刃部が偏る。左側辺中程に潰れ。基部欠。	An	156	112	35	715	
54図3	3		SD01	打製石斧	3-②類。中形。両側辺中程に潰れ。	An	110	92	29	242	109図57
54図4	9	K6	SD01	打製石斧	3-②類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	152	107	32	508	109図60
54図5	9	I2	SD01	敲石	1類。上端は剥離面。	An	110.8	50	32	232.1	
54図10	9	I2	SD02	打製石斧	3-①類。中形。基部に素材面。側辺下半が湾曲し丸い刃部。	An	112	63	26	171	
54図11	9	I2	SD02	打製石斧	3-③類。両側辺上位に潰れ。	An	87	115	22	238	109図61
54図12	9	I2	SD02	石錘	切目石錘。小形で扁平。	An	73	48	26	121.5	110図65
55図19	7	I11	SD04 下層	石錘		Ch	33	18	4	2	105図3
55図20	7	I11	SD04	打製石斧	1-④類。小形。両側辺中程が緩く内湾。両側辺中程に潰れ。	An	113	50	22	139	
56図8	3	L・M14	SD05	削器		Sh	67	22	11	12	105図11
56図9	3	M16	SD05	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。	An	142	61	21	218	107図41
56図10	7	J13	SD05	打製石斧	3-③類。表面側へ僅かに抉入が作出。	An	117	156	35	577	
56図15	7	I14	SD07	打製石斧	2-①類。小形。	An	91	61	27	136	107図37
56図16	7	J15	SD07	打製石斧	2-②類。両側辺が直線的に開く。	An	112	79	22	213	
56図17	7	K15	SD07	打製石斧	3-①類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。両側辺中程に潰れ。	An	151	92	32	463	
56図18	7	J15	SD07	打製石斧	3-②類。大形。裏面中央まで平坦に調整。幅広で丸い刃部。	An	171	120	35	672	
59図1	3	L17	SD06	打製石斧	1-②類。基部左半に素材面を残す。	An	102	50	16	87	
59図2	5	E10	SD06	打製石斧	1-③類。中形。	An	123	67	27	291	106図25
59図3	3	N19	SD06	打製石斧	2-①類。中形。	An	111	78	15	158	107図38
59図4	7	J14	SD06	打製石斧	2-①類。中形。磨減が著しい。	An	119	70	22	196	107図39
59図5	3	N19	SD06	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。基部から器体中程まで直線的にのびる。両側辺の刃部境が屈曲。刃部磨減。	An	171	104	29	443	
59図6	7	L15	SD06	打製石斧	3-①類。中形。磨減が著しい。基部欠。	An	107	64	21	145	108図50
59図7	4	N20	SD06	打製石斧	3-①類。大形。左側辺上位と右側辺中程に潰れ。	An	161	103	28	496	108図53
59図8	3	N19	SD06	打製石斧	3-①類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。両側辺上位に潰れ。	An	170	113	31	577	
59図9	7	J14	SD06	打製石斧	3-②類。大形。左側辺中程に潰れ。	An	152	117	26	457	109図59
59図10	7	J14	SD06	打製石斧	3-③類。右側辺の刃部境が屈曲。右側辺中程に潰れ。	An	107	122	35	372	
59図11	7	I13	SD06	打製石斧	3-③類。大形で幅広の基部をもつ。両側辺中程に潰れ。	An	161	184	31	966	
59図12	3	N18	SD06	石錘	打欠石錘。やや厚手の楕円礫が素材。表裏の上下端に数回調整。	Sa	82	63	42	320.3	
59図13	7	H14	SD06	凹石	1類。	Sa	106	94	49	668.6	110図73
59図14	7	K15	SD06	凹石	1類。やや厚手。右上端にも敲打痕。	An	92	86	59	636.2	
60図23	3	—	SD08	打製石斧	1-②類。左側辺上半に素材面を残す。	An	118	57	21	136	
60図24	3	—	SD08	打製石斧	1-③類。小形。	An	109	57	19	119	106図24
60図25	7	J15	SD08	敲石	2類。やや厚手の楕円礫が素材。上端にも敲打痕。	An	142.3	76	57	930.6	
61図15	7	J13	SD18	石核		An	99	113.4	55	677.1	105図17
62図2	9	G9	SD13	勾玉		翡翠	38	21	12	14	105図5
62図8	10	G20	SD20	敲石	1類。上端にも敲打痕。表面にも敲打痕。	Sa	133.4	58	45	444	
62図10	15	T28	SD32	打製石斧	2-②類。両側辺が直線的に開く。右側辺中程に潰れ。	An	155	109	36	589	
79図1	8	C21	鹿谷川旧流路 上層	削器		Sh	40	19	8	6	105図12
79図2	8	A5	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-①類。左側辺中程と右側辺上位に潰れ。	An	147	52	31	259	106図19
79図3	12	L25	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-①類。	An	155	47	24	184	
79図4	12	L25	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-①類。両側辺上位が僅かに内湾。両側辺は潰れが多くみられ、丸みをもつ。	An	146	44	23	187	
79図5	12	K24	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-①類。左側辺上位と右側辺下半に潰れ。	An	139	53	23	191	
79図6	8	B15	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-②類。左側辺下半に潰れ。	An	143	54	20	155	
79図7	8	A19	鹿谷川旧流路 上層	打製石斧	1-③類。小形。基部に素材面を残す。	An	93	50	14	74	
79図8	12	K25	鹿谷川旧流路 T7	打製石斧	1-③類。小形。細身の形状。基部に素材面を残す。左側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	109	43	18	102	

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
79図9	12	L25	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。小形。基端に素材面を残す。器体下半が薄手。	An	102	51	20	88	
79図10	12	L26	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。小形。基端に素材面を残す。両側辺中程に潰れ。	An	107	64	19	148	
79図11	8	A16	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。中形。磨減が著しい。	An	132	55	21	159	
79図12	12	K24	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。中形。両側辺下位が僅かに内湾。	An	136	59	28	279	
79図13	12	L25	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。中形。左側辺中程と右側辺上位が僅かに内湾。	An	122	61	28	253	
79図14	12	K26	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。中形。両側辺の上下位が僅かに内湾。	An	136	67	29	323	
79図15	12	L26	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。中形。両側辺中程に潰れ。	An	124	59	28	245	106図26
79図16	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。やや大形。基部が丸く作出。	An	136	61	22	227	
79図17	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。やや大形。基部がややすぼまる。	An	150	66	29	304	
79図18	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。やや大形。両側辺に潰れ。	An	154	73	35	454	106図30
80図1	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。やや大形。両面まで平坦に調整。磨減が著しい。	An	175	66	35	443	
80図2	12	L25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	1-③類。やや大形。両側辺中程に潰れ。	An	178	77	31	527	
80図3	12	J25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。やや大形。両側辺上位に潰れ。磨減が著しい。	An	173	70	29	320	106図31
80図4	12	K24	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-③類。やや大形。表面は平坦調整。左側辺上半に素材面。	An	152	58	22	190	
80図5	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-③類。やや大形。刃部左半磨減。	An	153	64	29	349	
80図6	12	K26	鹿谷川旧流路	打製石斧	1-③類。やや大形。基端に素材面を残す。	An	146	69	24	242	
80図7	12	K25	鹿谷川旧流路	打製石斧	1-④類。小形。左側辺が湾曲し、右側辺中程が緩く内湾。左側辺中程と右側辺下半に潰れ。	An	112	46	23	128	
80図8	12	L25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	1-④類。中形。右側辺に潰れ。	An	135	77	27	362	
80図9	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-④類。中形。	An	143	63	28	259	106図34
80図10	12	K25	鹿谷川旧流路T7下層	打製石斧	1-④類。中形。	An	139	80	21	257	
80図11	12	K26	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-④類。中形。両側辺上位に潰れ。刃部磨減。	An	112	77	25	255	
80図12	12	G22	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-④類。中形。磨減が著しい。	An	162	69	28	387	107図35
81図1	12	—	鹿谷川旧流路	打製石斧	1-④類。中形。基端に素材面を残す。両側辺に潰れ。	An	157	84	30	495	
81図2	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-④類。中形。基端に素材面を残す。右側辺に潰れ。	An	148	73	29	384	
81図3	7	—	鹿谷川旧流路	打製石斧	1-④類。大形。両側辺で挟入部位が異なり、刃部は再加工。	An	176	80	23	380	
81図4	12	K26	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-④類。大形。左側辺中程と右側辺上位に潰れ。	An	205	81	32	781	107図36
81図5	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	1-④類。大形。両側辺に潰れ。	An	177	76	29	443	
81図6	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	1-④類。大形。丸い刃部をもつ。両側辺上位に潰れ。	An	178	83	40	533	
81図7	8	B16	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	2-①類。中形。左側辺が直線的に開く。丸い刃部。左側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	142	77	29	371	
81図8	12	K24	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	2-①類。中形。両側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	145	78	23	271	
81図9	12	K24	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	2-①類。中形。右側辺中程に潰れ。	An	134	68	25	214	
81図10	6	F20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。	An	145	60	23	198	107図42
81図11	6	E20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。右端に素材面。左側辺が直線的に開き丸い刃部。右側辺の刃部境が屈曲。	An	131	59	19	156	
81図12	8	B20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。両側辺中程が僅かに内湾。磨減が著しい。	An	149	71	25	265	
82図1	12	K25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。右側辺中程に潰れ。磨減が著しい。	An	160	84	33	467	
82図2	12	K24	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺中程に潰れ。	An	161	84	33	530	
82図3	12	J24	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。基端中程も内湾。左側辺上位と右側辺中程に潰れ。	An	185	93	50	823	
82図4	8	A20	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。左側辺が直線的に開き、右側辺上半が内湾。左側辺中程に潰れ。	An	219	118	41	1081	
82図5	12	L25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	2-②類。	An	122	76	28	216	107図45
82図6	12	K25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	2-②類。右端に素材面を残す。やや細身で基部がすぼまる。	An	119	71	31	233	
82図7	6	E20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-②類。右側辺が直線的に開く。磨減が著しい。	An	121	80	27	211	
82図8	12	K25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	2-②類。両側辺中程に潰れ。磨減が著しい。	An	161	99	30	505	
82図9	12	H22	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	2-③類。中形。裏面中央まで平坦に調整。右側辺上位に潰れ。	An	134	97	26	368	
82図10	12	G25	鹿谷川旧流路T6	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。両側辺上位が内湾し、基部がすぼまる。左側辺上位と右側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	211	110	47	1032	
83図1	12	L27	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。小形。基端に素材面を残す。	An	85	61	15	114	
83図2	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。中形。基端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。	An	116	85	18	204	
83図3	11	C23	鹿谷川旧流路T6	打製石斧	3-①類。中形。左側辺の刃部境が屈曲。磨減が著しい。	An	129	73	23	225	
83図4	12	K26	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。中形。右側辺下半に素材面を残す。左側辺上位に潰れ。刃部磨減。	An	120	82	29	342	
83図5	11	C23	鹿谷川旧流路T6	打製石斧	3-①類。大形。左側辺上位に潰れ。磨減が著しい。	An	160	105	31	554	
83図6	12	L25	鹿谷川旧流路底面	打製石斧	3-①類。大形。左端上半に素材面を残す。左側辺上位に潰れ。	An	155	91	24	367	
83図7	12	L25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-①類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	161	88	41	481	108図52
83図8	12	I24	鹿谷川旧流路T6	打製石斧	3-①類。大形。磨減が著しい。	An	168	101	20	349	108図54
83図9	12	K25	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-①類。大形。右側辺の刃部境が屈曲。右側辺中程に潰れ。	An	171	97	28	502	
83図10	12	K25	鹿谷川旧流路T7下層	打製石斧	3-①類。大形。右側辺上位に潰れ。刃部磨減。	An	195	105	36	790	109図55
84図1	12	K26	鹿谷川旧流路	打製石斧	3-①類。大形。左端上半に素材面。調整が粗く刃部が未作出。	An	173	65	37	511	
84図2	12	K25	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。大形。右側辺の刃部境が屈曲。刃部磨減。	An	151	102	27	369	
84図3	12	L26	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-①類。大形。右端に素材面を残す。挟入部は作出されているが素材の縁辺が多く残る。	An	154	82	22	278	
84図4	10	G20	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。大形。左側辺中程に潰れ。	An	175	106	32	544	109図56
84図5	8	A15	鹿谷川旧流路上層	打製石斧	3-①類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。右側辺中程に潰れ。	An	165	90	34	534	
84図6	12	K25	鹿谷川旧流路T7下層	打製石斧	3-②類。大形。左側辺の刃部境が屈曲。両側辺中程に潰れ。	An	154	111	23	459	
84図7	8	A18	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-①類。大形。右側辺の刃部境が屈曲し、刃部が偏る。	An	156	98	22	392	
84図8	12	K24	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-②類。大形。両側辺の刃部境が屈曲。両側辺中程に潰れ。	An	148	112	34	576	
84図9	10	G20	鹿谷川旧流路下層	打製石斧	3-②類。中形。基端も緩く内湾。両側辺上位に潰れ。	An	113	90	21	198	
85図1	12	L25	鹿谷川旧流路下層	磨製石斧	表面下半に斜行する擦痕。刃部欠。	An	123	60	32	323.5	110図63

挿図 番号	区	グリッド	造構・層位	器種	形態	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
85図2	6	E19	鹿谷川旧流路 上層	磨製石斧	側面に不明瞭な稜が作出され、断面が丸みをもつ。刃部が潰れてやや偏る。上半欠。	An	82	67	42	380	
85図3	10	G20	鹿谷川旧流路 下層	敲石	1類。上端欠。	An	113.6	38	29	188	
85図4	12	I24	鹿谷川旧流路 下層	敲石	1類。	An	118	47	30	192.1	110図67
85図5	10	G20	鹿谷川旧流路 上層	敲石	1類。表面と右端にも敲打痕。	An	122.9	52	42	383.9	110図68
85図6	12	L25	鹿谷川旧流路 上層	敲石	1類。上端にも敲打痕。	An	141.2	53	39	473.2	
85図7	12	K24	鹿谷川旧流路 上層	敲石	1類。やや大形。右端にも敲打痕。上端欠。	An	224.8	66	50	1129.2	
85図8	10	G20	鹿谷川旧流路 上層	敲石	1類。やや大形。左端にも敲打痕。	Sa	180.3	83	58	1277.6	110図70
85図9	12	J24	鹿谷川旧流路	敲石	1類。やや大形。	An	155.3	71	58	862.8	
85図10	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	凹石	1類。表裏の磨面が平坦。	An	90	94	40	493.6	
85図11	12	K25	鹿谷川旧流路 下層	凹石	1類。裏面にも敲打痕。周辺にも敲打痕。表裏の磨面が平坦。	An	95	81	28	301.1	
85図12	12	K25	鹿谷川旧流路 底面	凹石	1類。やや大形。裏面にも敲打痕。	Sa	118.2	109.7	61	1100.5	
85図13	11	C23	鹿谷川旧流路 T6	凹石	2類。	Sa	134.8	55	40	337.4	
85図14	12	H22	鹿谷川旧流路 上層	凹石	3類。上下端にも敲打痕。	Sa	128.7	80	44	685.7	
85図15	12	K24	鹿谷川旧流路 下層	凹石	3類。大形。	Sa	174.6	107.8	44	1330	110図74
86図1	12	J25	鹿谷川旧流路 下層	台石		An	339.9	134.5	124.5	8400	110図76
86図2	11	F23	鹿谷川旧流路 T4	石皿	2類。	Sa	228.2	325.9	119.9	7800	110図77
86図3	12	K25	鹿谷川旧流路	石皿	2類。表面中央が凹み、周辺には僅かに縁をもたせる。	An	248	291.5	135.6	9800	
94図1	7	I14	表土	異形		Ch	18	13	5	1	105図1
94図2	-	-	表土	石鎌		Ch	19	17	5	1	105図2
94図3	6	F12	表土	球状耳飾		滑石	30	18	7	5	105図4
94図4	7	K12	表土	磨製石剣		Sh	79	28	7	25	105図6
94図5	7	I14	表土	石匙		Ch	28	38	6	5	105図7
94図6	8	-	表土	削器		An	67	26	9	12	105図10
94図7	9	I4	表土	削器		An	69	56	18	72	105図13
94図8	9	K5	表土	削器		An	82	75	20	92	105図14
94図9	7	H15	表土	石核		Ch	59	59	32	118	105図18
94図10	7	J15	表土	打製石斧	1-②類。磨滅が著しい。	An	109	50	25	153	106図20
94図11	14	-	表採	打製石斧	1-②類。両面とも器体中央まで平坦調整。左側辺中程に潰れ。	An	102	48	14	76	
94図12	15	U28	包含層	打製石斧	1-②類。両側辺上位に素材面を残す。	An	111	50	26	117	
94図13	12	-	表土	打製石斧	1-②類。刃部磨滅。	An	122	54	25	157	106図21
94図14	3	L12	表土	打製石斧	1-③類。小形。	An	110	51	15	92	106図22
94図15	3	M18	表土	打製石斧	1-③類。小形。左側辺中程に潰れ	An	103	51	21	146	106図23
94図16	15	T27	表土	打製石斧	1-③類。小形。両側辺上位に潰れ。刃部左半磨滅	An	112	59	21	168	
94図17	15	T28	表土	打製石斧	1-③類。小形。やや厚手。両側辺に潰れ。	An	90	53	23	137	
94図18	15	S25	包含層	打製石斧	1-③類。小形。両面とも器体中央まで調整される。	An	113	58	26	150	
94図19	5	-	表土	打製石斧	1-③類。小形。基端に素材面を残す。磨滅が著しい。	An	112	62	16	120	
95図1	1	M1	遺構面直上	打製石斧	1-③類。中形。基端に素材面を残す。刃部が偏る。両側辺中程に潰れ。刃部磨滅。	An	125	66	23	233	
95図2	7	I12	表土	打製石斧	1-③類。中形。基端に素材面を残す。磨滅が著しい。	An	123	61	22	191	
95図3	14	-	表土	打製石斧	1-③類。中形。右側辺下半に潰れ。	An	125	62	33	318	106図27
95図4	15	U28	包含層	打製石斧	1-③類。中形。	An	124	28	27	194	
95図5	15	T27	表土	打製石斧	1-③類。中形。右側辺上位に潰れ。刃部磨滅。	An	141	79	21	324	106図28
95図6	15	S26	包含層	打製石斧	1-③類。中形。両側辺中程に潰れ。刃部左半磨滅。	An	126	75	27	237	
95図7	15	U28	表土	打製石斧	1-③類。中形。基端に素材面を残す。	An	126	66	24	231	
95図8	9	J3	表土	打製石斧	1-③類。中形。刃部磨滅。	An	126	62	27	245	
95図9	15	U28	表土	打製石斧	1-③類。中形。基端に素材面を残す。刃部磨滅。	An	131	60	30	275	
95図10	15	U28	表土	打製石斧	1-③類。中形。左端に素材面を残す。刃部左半磨滅。	An	125	64	30	226	
95図11	8	-	表土	打製石斧	1-③類。やや大形。	An	175	66	21	264	106図29
95図12	1	M6	用水2	打製石斧	1-③類。やや大形。両側辺中程に潰れ。	An	146	70	29	393	
95図13	12	L22	表土	打製石斧	1-③類。やや大形。表面まで平坦に調整。やや細身の形状。右側辺中程に潰れ。	An	170	57	30	349	
95図14	7	I21	表土	打製石斧	1-③類。やや大形。裏面中央まで平坦に調整。刃部磨滅。	An	161	62	26	287	
95図15	9	L4	表土	打製石斧	1-③類。やや大形。	An	153	66	18	192	
96図1	7	I13	表土	打製石斧	1-④類。小形。	An	110	51	18	131	
96図2	15	U27	表土	打製石斧	1-④類。小形。刃部右半磨滅。	An	125	52	22	158	106図32
96図3	15	-	表土	打製石斧	1-④類。中形。左側辺上位と右側辺に潰れ。	An	132	55	28	230	106図33
96図4	6	D19	表土	打製石斧	1-④類。中形。	An	129	70	26	273	
96図5	9	H2	表土	打製石斧	1-④類。中形。基端に素材面を残す。刃部磨滅。	An	141	88	32	496	
96図6	15	-	用水東側溝	打製石斧	1-④類。中形。左側辺中程と右側辺下半に潰れ。刃部磨滅。	An	160	82	30	440	
96図7	7	J14	表土	打製石斧	1-④類。中形。磨滅が著しい。	An	164	81	28	430	
96図8	3	N17	表土	打製石斧	1-④類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	170	78	30	550	
96図9	7	I14	表土	打製石斧	1-④類。大形。刃部磨滅。	An	178	85	33	585	
96図10	3	-	表土	打製石斧	2-①類。中形。やや厚手の板状剥片が素材。基端に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。丸い刃部。左側辺中程に潰れ。	An	111	74	29	271	
96図11	15	U28	表土	打製石斧	2-①類。小形。基端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。	An	88	64	24	129	
96図12	5	-	表土	打製石斧	2-①類。中形。磨滅が著しい。	An	133	73	24	269	
96図13	9	K9	表土	打製石斧	2-①類。中形。基端に素材面を残す。左側辺が直線的に開く。右側辺上位に潰れ。	An	127	80	26	276	
96図14	10	G20	盛土	打製石斧	2-①類。中形。両側辺中程に潰れ。磨滅が著しい。	An	129	72	26	284	
96図15	14	-	東壁面	打製石斧	2-①類。中形。基端に素材面を残す。両側辺が直線的に開く。左側辺上半に潰れ。刃部右半磨滅。	An	117	79	17	206	
96図16	14	P18	攪乱	打製石斧	2-①類。中形。左側辺中程に潰れ。磨滅が著しい。	An	136	70	24	206	
97図1	1	N10	盛土	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。	An	150	78	26	386	

第4章 遺構と遺物

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
97図2	5	F10	攪乱	打製石斧	2-①類。中形だが、やや細身で基部がすぼまる。右側辺中程が僅かに内湾。両側辺に潰れ。刃部左半欠。	An	161	78	30	352	
97図3	15	T27	表土	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。右側辺中程に潰れ。磨減が著しい。	An	137	63	27	247	
97図4	7	K15	表土	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。両側辺の刃部境が屈曲。両側辺中程に潰れ。	An	171	86	42	641	
97図5	5	—	表土	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。	An	178	97	32	566	107図43
97図6	9	J5	表土	打製石斧	2-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。両側辺に潰れ。	An	185	95	35	698	
97図7	7	J14	表土	打製石斧	2-②類。右側辺が直線的に開く。磨減が著しい。	An	92	66	21	117	
97図8	15	S26	包含層	打製石斧	2-②類。右側辺上位に潰れ。	An	109	84	25	252	
97図9	4	O20	表土	打製石斧	2-③類。中形。両側辺に潰れ。	An	121	91	30	332	108図46
97図10	14	—	表土	打製石斧	2-②類。基部に素材面を残す。基部も緩く内湾。左側辺上位と右側辺に潰れ。	An	133	85	22	293	
97図11	12	G25	表土	打製石斧	2-②類。	An	143	84	21	264	
98図1	6	—	表土	打製石斧	2-③類。中形。やや厚手の板状剥片が素材。両側辺の刃部境が屈曲。基部欠。	An	105	94	36	383	
98図2	1	M10	盛土	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。右側辺の刃部境が屈曲。左側辺中程に潰れ。	An	160	115	31	590	
98図3	1	M7	用水2	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。左側辺の刃部境が屈曲。両側辺中程に潰れ。	An	193	117	36	942	108図47
98図4	3	L13	用水1	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。両側辺上位が内湾し、基部がすぼまる。両側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	194	106	33	657	
98図5	3	O18	表土	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。刃部磨減。	An	185	105	37	767	108図49
98図6	6	E18	表土	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。裏面中央まで平坦に調整。右側辺の刃部境が屈曲。左側辺中程に潰れ。	An	166	105	39	651	
98図7	9	K2	表土	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。両側辺上位に潰れ。	An	210	131	56	1320	108図48
98図8	7	H13	用水4	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。裏面中央まで平坦に調整され、基部右半に素材面を残す。	An	170	115	34	650	
99図1	15	Q22	包含層	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。右側辺中程に潰れ。	An	143	107	31	471	
99図2	15	U27	表土	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。両側辺の刃部境が屈曲。左側辺中程と右側辺上位に潰れ。	An	186	123	41	842	
99図3	15	U27	包含層	打製石斧	2-③類。大形。厚手の板状剥片が素材。両側辺の刃部境が屈曲。左側辺中程に段をもつ。両側辺に潰れ。	An	187	136	57	1200	
99図4	7	K16	用水4	打製石斧	3-①類。中形。	An	112	67	20	152	
99図5	1	M2	盛土	打製石斧	3-①類。中形。刃部磨減。基部欠。	An	111	82	28	259	
99図6	9	L5	用水2	打製石斧	3-①類。中形。両側辺中程に潰れ。	An	119	71	27	248	
99図7	13	O12	表土	打製石斧	3-①類。中形。側辺下半が湾曲して丸い刃部をもつ。	An	128	75	24	253	
99図8	15	T27	表土	打製石斧	3-①類。中形。刃部磨減。	An	123	78	35	334	108図51
99図9	15	O22	用水側溝	打製石斧	3-①類。中形。右側辺の刃部境が屈曲。左側辺上位に潰れ。	An	139	73	25	275	
99図10	12	J26	表土	打製石斧	3-①類。大形。右側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	158	84	26	373	
100図1	12	—	排土	打製石斧	3-①類。大形。右側辺の刃部境が屈曲。左側辺に潰れ。	An	155	89	34	453	
100図2	12	L24	表土	打製石斧	3-①類。大形。やや厚手の板状剥片が素材。両側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	144	87	37	477	
100図3	1	M10	用水1	打製石斧	3-①類。大形。側辺下半が湾曲し丸い刃部。両側辺中程に潰れ。	An	145	975	25	350	
100図4	6	F17	表土	打製石斧	3-①類。大形。	An	169	102	28	448	
100図5	6	—	表土	打製石斧	3-①類。大形。裏面中央まで平坦に調整。両側辺中程に潰れ。	An	165	91	38	653	
100図6	5	E10	表土	打製石斧	3-②類。中形。基部に素材面を残す。右側辺中程に潰れ。	An	112	93	31	330	
100図7	9	K4	用水1	打製石斧	3-②類。大形。基部が厚い。両側辺の刃部境が屈曲。	An	140	116	47	554	
100図8	15	—	表土	打製石斧	3-②類。中形。左側辺の抉入部が急斜に調整。右側辺の刃部境が屈曲。右側辺中程に潰れ。刃部磨減。	An	125	100	25	316	
100図9	1	N8	表土	打製石斧	3-②類。大形。刃部が大きく偏る。磨減が著しい。	An	137	120	34	573	
101図1	9	K2	表土	打製石斧	3-②類。大形。両側辺中程に潰れ。	An	143	119	41	628	109図58
101図2	3	N12	用水3	打製石斧	3-②類。大形。幅広で丸い刃部をもつ。両側辺中程に潰れ。	An	177	137	31	681	
101図3	15	S26	出土地不明	打製石斧	2-①類。中形。刃部磨減。	An	110	81	24	263	107図40
101図4	1	M2	盛土	打製石斧	3-②類。大形。幅広で丸い刃部をもつ。刃部欠。	An	219	128	24	623	
101図5	9	K2	表土	打製石斧	3-②類。大形。両側辺下半に素材の縁辺を残す。	An	175	130	28	609	
101図6	9	H1	表土	打製石斧	3-③類。両側辺上位に潰れ。	An	110	109	30	334	
101図7	1	M8	用水1	打製石斧	3-③類。側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。	An	120	151	37	562	
102図1	1	M10	盛土	磨製石斧	乳棒状を呈し、基部に平らな面をもつ。下半欠。	An	115.4	63	51	462.4	
102図2	14	Q20	表土	石錘	打欠石錘。小形で扁平。表裏の上下端に数回調整。	An	66	40	20	62	
102図3	14	Q20	表土	石錘	打欠石錘。小形で扁平。	An	62	54	26	101.3	110図66
102図4	9	J3	表土	敲石	1類。上端にも敲打痕。	Sa	98	46	32	158.8	
102図5	15	T27	表土	敲石	1類。上端にも敲打痕。	Sa	123.7	42	28	222.3	
102図6	14	Q19	表土	敲石	1類。上端にも敲打痕。表面にも敲打痕。	Sa	118.4	49	34	261.2	
102図7	10	G20	表土	敲石	1類。上端にも敲打痕。	An	143.8	54	38	409.5	
102図8	7	I14	表土	敲石	1類。裏面にも敲打痕。	Sa	135	60	37	444.5	110図69
102図9	3	M17	表土	敲石	1類。やや大形。上端にも敲打痕。	Sa	162.6	72	59	1123.1	
102図10	14	D18	攪乱	敲石	2類。やや厚手の楕円礫が素材。	An	127.9	80	52	700.9	
102図11	12	—	表土	敲石	2類。やや厚手の楕円礫が素材。	An	116.7	80	66	895.4	110図71
102図12	12	—	表土	敲石	2類。やや厚手の楕円礫が素材。	An	126.1	82	54	838.6	
102図13	15	V27	表土	凹石	1類。	Sa	97	89	46	566.6	110図72
102図14	9	K2	表土	凹石	1類。裏面にも敲打痕。表裏に敲打痕が多くみられる。	An	86	83	40	321.8	
102図15	9	G8	表土	凹石	1類。裏面にも敲打痕。	Sa	109.2	97	50	743.1	
102図16	9	I2	表土	凹石	3類。	An	115.7	71	35	462.9	
102図17	14	Q18	攪乱	磨石		Sa	175.6	78	55	1113.1	110図75
102図18	14	P18	攪乱	石皿	1類。扁平な円礫が素材。表裏に磨面、中央は僅かに凹む。	An	234.4	206.7	75	5121.4	

第4表 石製品観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	形態	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	
28図2	14	Q12	SB25 竪穴状遺構	砥石		凝灰岩	121.8		71	33	307.3	111図6
33図3	14	Q19	SE07	バンドコ		笏谷石	111.3	176.3	139.9	1577.5		111図12
86図4	8	A18	鹿谷川旧流路 上層	硯	海部にも斜行する擦痕。	粘板岩	91	48	14	88		111図2
86図5	8	C20	鹿谷川旧流路 T1下層	砥石	表裏に不定方向の擦痕。	凝灰岩	65	40	17	74		111図5
86図6	6	D20	鹿谷川旧流路 上層	砥石		砂岩	83	37	29	116.8		111図9
103図1	9	I8	表土	硯		粘板岩	88	42	11	69		111図1
103図2	1	M8	盛土	砥石	表面に不定方向の擦痕。	粘板岩	93	50	10	64		111図3
103図3	10	G20	表土	砥石	表面と両側面に斜行、裏面に不定方向の擦痕。	頁岩	46	40	16	37		111図4
103図4	15	T27	包含層	砥石	表面に不定方向、裏面に斜行する擦痕。	凝灰岩	113	69	28	321		111図7
103図5	3	L4	表土	砥石	表面に不定方向、右側面に斜行する擦痕。	頁岩	103.3	61	50	407.3		111図8
103図6	1	M8	表土	砥石	表面に短軸方向、右側面に斜行する擦痕。	頁岩	82	40	28	135.5		111図10
103図7	6	D19	表土	砥石	表面に筋状、左側面に長軸方向の擦痕。	砂岩	191.2	74	69	1097.8		111図11

第5表 木製品観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	木取り	形態	加工	法量	樹種	備考
31図3	3	O18	SE03	曲物	板目板材を横に用いる。	板目板を彎曲させる。	内面に縦方向の刻みが施されている。焦げが見られるが加工が不明。	残存長9.0~29.6cm 残存幅5.2~12.1cm 器厚4.0~8.0mm		貫通孔あり
37図2	12	L25	SK1205上層	組み合わせ式布巻具	板目板材	身は断面三角形を呈する薄い板状で、短辺に稜線が突出する。左端に把手の根元が確認できる。中央に斜位の貫通孔を有する。	表面は平滑で加工痕は見られない。片面両端に長方形の線刻を多重に施す。身はほぼ全面にベンガラが塗布される。	残存長38.1cm 幅5.8cm 厚1.7cm	クロウメ ドキ科 ケンボナシ	
46図7	7	I14	SP07632	柱	樹幹を縦に用いる。	円柱状を呈する。内面は遺存しない。	特に認められない。全体に焦げる。	残存長17.8cm 直径16.1cm		
52図20	9	L7	SD01	皿	横木取り	平底の浅い皿状を呈する。口縁欠損。	内面から破断面にかけて著しく焦げた部分がある。塗布物は認められない。	残存最大径12.0cm 底径9.0cm 残存器高1.4cm 器厚4.5mm		
52図21	9	J5	SD01上面	曲物底板か	柾目板材	円形の板状を呈する。	側面に加工痕が若干見られるが、よく平滑に整えられる。	直径17.25cm 器厚10.0mm		
87図1	12	L25	鹿谷川旧流路 上層	桶	年輪に沿って彎曲した板を縦に取る。	桶を構成する彎曲した板。底部が肥厚する。	底板を当てる部分を中心に内面にわずかに削り痕が見られる。ほぼ全面が焦げる。	残存長22.8cm 残存幅10.8cm 体部径8.0cm 器厚2.5cm	広葉樹か	底部の突出はかみ合わせ部分の可能性あり
87図2	6	E20	鹿谷川旧流路 上層	椀	横木取り	底部付近のみ残存。底部周縁に低い高台を有するが、底面よりも高い位置にあり、十分接地しない。	高台は削り出される。外底面には削り面が多数重複する。内・外面全体に黒色漆が塗られる。	残存最大径11.4cm 底径8.4cm 台径7.5cm 残存器高1.7cm 器厚8.0mm(底部)		
103図8	5	F10	攪乱	連歯下駄	板目板材を横に用いる。	台は小判形で、長方形の歯を2本有する。前方に1、後方に2ヶ所貫通孔がある。	歯は台から削り出される。	長15.1cm 幅7.2cm 台幅7.2cm 全高1.8cm 台高1.2cm		

第6表 金属製品観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	備考
53図12	3	N11	SD01	不明	(7.3)	1.1	0.15	
87図3	8	A19	鹿谷川旧流路 下層	鎌	(11.4)	2.8	0.2	
87図4	8	-	鹿谷川旧流路 上層	釘	8.9	1.1(頭幅)	5.5	
87図5	8	A17	鹿谷川旧流路 上層	釘	(6.5)	0.5	0.5	
103図9	1	H4	表土	小柄	(9.1)	1.4	0.8	青銅製
103図10	9	J7	遺構面直上	刀子	(24.2)	1.8	0.5	

第4章 遺構と遺物

第7表 銅銭観察表

挿図番号	区	グリッド	遺構・層位	種類	銭径 (cm)	内径 (cm)	銭厚 (cm)	量目 (g)	国名	初鋳	背	備考
87図6	8	C21	鹿谷川旧流路 上層	熙寧元寶	2.4	1.95	0.12	3.08	北宋	1068	無	篆書
87図7	6	E24	鹿谷川旧流路 上層	元豐通寶	2.4	1.9	0.13	2.17	北宋	1078	無	篆書
87図8	12	G22	鹿谷川旧流路 上層	元祐通寶	2.05	1.85	0.11	1.45	北宋	1086	無	行書
87図9	8	A18	鹿谷川旧流路 下層	元祐通寶	2.5	2.05	0.14	3.33	北宋	1086	無	篆書
87図10	8	A15	鹿谷川旧流路 上層	景定元寶	2.35	2.0	0.1	2.51	南宋	1260	無	
87図11	12	K25	鹿谷川旧流路 上層	洪武通寶	2.1	1.8	0.12	1.77	明	1368	無	単点通
87図12	8	C20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.4	2.05	0.11	2.47	日本	1636	無	古寛永(1期)
87図13	8	C19	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.45	2.0	0.09	2.48	日本	1636	無	古寛永(1期)
87図14	7	H20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.45	2.0	0.09	1.28	日本	1636	無	古寛永(1期)
87図15	7	K20	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.48	2.05	0.14	3.38	日本	1668	文	新寛永(2期)
87図16	8	A18	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.25	1.85	0.1	2.18	日本	1697	無	新寛永(3期)
87図17	8	A17	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.2	1.9	0.1	0.85	日本	1697	無	新寛永(3期)
87図18	8	A17	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.47	2.05	0.14	2.56	日本	1697	無	新寛永(3期)
87図19	10	G21	鹿谷川旧流路 上層	寛永通寶	2.4	1.95	0.1	1.25	日本	1697	無	新寛永(3期)
87図20	8	B18	鹿谷川旧流路 下層	文久元寶	2.58	2.1	0.07	1.76	日本	1863	波形	楷書(松平慶永筆)
104図1	9	I4	用水1	乾元重寶	2.45	2.2	0.1	2.39	唐	758	無	
104図2	4	N21	表土	開元通寶	2.45	1.95	0.11	2.71	唐	960	無	
104図3	11	B23	表土	太平通寶	2.4	1.9	0.12	3.1	北宋	976	無	
104図4	7	J15	用水3 上面	太平通寶	2.42	1.9	0.13	2.73	北宋	976	無	
104図5	7	K14	表土	淳化元寶	2.48	1.82	0.08	3.77	北宋	990	無	真書
104図6	7	H13	用水3 上面	淳化元寶	2.45	1.95	0.1	1.23	北宋	990	無	草書
104図7	5	F10	表土	天聖元寶	2.5	2.1	0.1	3.65	北宋	1023	無	篆書
104図8	1	L6	盛土	皇宋通寶	2.45	1.95	0.15	3.16	北宋	1038	無	真書
104図9	1	M2	盛土	熙寧元寶	2.25	1.9	0.1	2.16	北宋	1068	無	篆書
104図10	-	-	出土地不明	熙寧元寶	2.4	2.0	0.1	1.6	北宋	1068	無	真書
104図11	5	F9	表土	元豐通寶	2.48	1.95	0.11	2.91	北宋	1078	無	行書
104図12	13	O27	表土	元豐通寶	2.45	1.93	0.1	2.69	北宋	1078	無	行書
104図13	12	K26	攪乱	元豐通寶	2.4	1.95	0.12	2.21	北宋	1078	無	行書
104図14	5	F9	表土	元祐通寶	2.3	1.9	0.08	1.89	北宋	1086	無	行書
104図15	7	L16	用水3	元祐通寶	2.45	2.0	0.12	2.59	北宋	1086	無	行書
104図16	12	K26	表土	洪武通寶か	2.4	2.05	0.1	1.32	明	1368	無	
104図17	-	-	出土地不明	永樂通寶か	2.4	2.05	0.08	2.27	明	1408	無	被災
104図18	10	G17	遺構面直上	寛永通寶	2.5	2.0	0.12	2.71	日本	1636	無	古寛永(1期)
104図19	7	K11	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.13	3.37	日本	1636	無	古寛永(1期)
104図20	7	K12	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.11	3.22	日本	1636	無	古寛永(1期)
104図21	7	H15	表土	寛永通寶	2.45	2.0	0.12	2.8	日本	1636	無	古寛永(1期)
104図22	6	D13	表土	寛永通寶	2.5	2.0	0.13	3.06	日本	1668	文	新寛永(2期)
104図23	9	G9	攪乱	寛永通寶	2.3	1.9	0.09	1.83	日本	1697	小	新寛永(3期)
104図24	5	F9	表土	寛永通寶	2.45	1.95	0.11	2.66	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図25	11	A22	表土	寛永通寶	2.3	1.9	0.1	2.13	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図26	12	I23	表土	寛永通寶	2.28	1.92	0.09	1.65	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図27	13	P25	表土	寛永通寶	2.18	1.7	0.1	1.87	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図28	13	M27	表土	寛永通寶	2.4	1.9	0.09	2.24	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図29	7	I13	表土	寛永通寶	2.4	1.9	0.12	2.95	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図30	7	K12	表土	寛永通寶	2.43	1.95	0.13	2.89	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図31	5	F9	表土	寛永通寶	2.3	1.9	0.11	2.35	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図32	8	-	表土	寛永通寶	2.37	1.95	0.1	1.88	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図33	1	M8	盛土	寛永通寶	2.45	2.0	0.1	2.68	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図34	6	E19	表土	寛永通寶	2.25	1.9	0.09	1.51	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図35	9	J4	表土	寛永通寶	2.28	1.9	0.12	2.82	日本	1697	無	新寛永(3期)/被災
104図36	7	K19	表土	寛永通寶	2.22	1.85	0.12	2.16	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図37	7	H17	攪乱	寛永通寶	2.25	1.95	0.1	1.8	日本	1697	無	新寛永(3期)
104図38	12	K25	盛土	-	2.28	1.95	0.08	1.61	-	-	-	判読不能

第5章 まとめ

第1節 縄文時代の土器

志田神田遺跡の調査で出土した81点の縄文土器を検討した。これらは調査区全体に散漫に分布し、旧流路や表土などから縄文時代より新しい時代の遺物と混在して出土している。同一個体破片が集中出土した地点は若干見られるものの、確実に縄文時代の遺構として認定できたものはない。ほとんどは破片で、摩滅したものも多い。時期は早期から晩期にわたり、地点や層位による偏りは特に認められず、一括性に乏しい。そのためここでは図示した56点を中心として各時期の特徴を説明する。

早期の土器は押型文土器と胎土に繊維を含む条痕文土器が出土している。

押型文土器は比較的まとまって出土しているため、若干検討を加える。器形は口縁部が外反し、体部が軽く膨らむ深鉢形である。口縁端部は薄くなり、丸みを帯びる。押型文はすべてポジティブな楕円文で、楕円の長径は6～9mm、粒のよく揃ったものや不揃いなもの、円形に近いものなどの変異がある。単位幅は1.5～3cm程度、原体は径1.5cmに復元できたものがある(第44図1)。回転方向は縦(第44図1)、横(第89図1)、斜め(第50図1)がある。内面に太い沈線が施されるものがある(第89図3)。第89図2は第89図1と同一個体の破片で、成形の途中に押型文を施したことが剥落面の押型文から確認できる。成形手法、形態、文様において勝山市破入遺跡の土器群(仁科章他1977)に共通点が多いが、楕円文が小ぶりで、菱形の押型文がなく、繊維の混和が確認できない点は異なる。近畿地方の高山寺式(矢野健一2008)に関連づけられるが、口縁部の外反が相対的に弱く、楕円文が小さい傾向が指摘でき、若干異なるものを含む可能性もある。

胎土に繊維を含む条痕文土器(第50図2)は、段に上下を区切られた外反する器形を持ち、竹管状工具の沈線と刺突文が施される。早期後葉に位置づけられる。

前期の土器は、C字形爪形文が施される第65図1が北白川下層Ⅱb式、細い粘土紐貼付文が口縁部にめぐり、端部から斜位の貼付文が連結される第65図2が北白川下層Ⅱc式、半截竹管沈線文の第65図3が北白川下層Ⅱb～Ⅱc式の浅鉢と見られる。口縁部が強く内彎し、端面に多截竹管を押し引きする第89図4は前期後葉の可能性が高い。

中期の土器は、半隆起線の手法を用いる第50図3、第65図4が出土し、中期初頭～前葉の北陸系の土器と考えられる。

後期の土器は比較的多い。口縁部が断面三角形を呈し、沈線文が施される第50図4、第61図8、幅広い口縁端面に沈線と刺突を施し、縄文を充填する第64図1、多重沈線の第65図7、隆線に沈線・押し引き文が沿い、縄文が充填される第65図8などは、おおむね後期前葉～中葉と考えられ、磨消縄文の第65図5はこれらより若干異なる可能性がある。凹線文や貝殻の圧痕が施される第64図2、第65図9・10は後期後葉(井口式)、横位沈線間に直線的な三叉状文が配される第65図12は後期末(八日市新保式)に位置づけられる。また浅鉢が出土しており、口縁部が内屈し、横位沈線文が施される第65図11は後期後葉、口縁端部が立ち上がる第89図7は後期とみられる。

晩期の土器としては、横位沈線間の縄文帯に押圧を加え、別の沈線間に短弧線を入り組ませる第65図13が晩期前葉～中葉、横位沈線間に刺突が施され、その下に連弧文が展開する第65図14が晩期中葉に位置づけられる。工字文に類似する沈線文が施される第50図6と、丸い部分のある工具を用い、幅2～5mm程度の条が密に重複して単位を認定しがたい条痕の深鉢第64図5は晩期後半とみられる。

これら以外の有文土器、無文や縄文のみの土器は、細かな時期比定が困難であり、弥生土器の可能性もあるものも含まれる。この中で擬縄文が帯状に施される第89図6は注意される。また、条痕の土器が比較的多く出土しており、条痕の溝幅や間隔、断面形状、単位のあり方など多様なものがみられる。しかし小破片が多く、一括性にも乏しいこの資料でその特徴を整理することは難しいため、ここでは一部を図示するに留めた。各時期に見られる条痕の特徴とその変遷過程の検討は今後の課題としたい。

第2節 弥生時代の土器

I 中期中葉

ほとんどが破片資料であるが、櫛描文系土器、条痕文系土器、近江系土器がある。SK0906、SD01、鹿谷川旧流路で少量出土したほか、SK0901、SK0903、SK0905、SK0911、SK0305、SK0319、SP07126、SD03、SD06、SD10などでわずかに出土している。出土地区別に見ると、9区が多数を占めており、次いで12区となっている。このことは、9区が同時期の遺物が出土している発坂山ノ端遺跡に近接する地区であることと関係があると考えられる。

櫛描文系土器には甕（第66図4ほか）と壺（第43図15ほか）がある。器種を判別しかねるような破片も多く、全容をうかがえるような資料はほとんどない。口縁端部は、丸くおさめるもの（第66図1・同図3ほか）もあるが、ハケ状工具による刻みを巡らすもの（第66図5ほか）が多い。外面に施す文様には直線文（第89図17ほか）、波状文（第89図16ほか）、簾状文（第66図8）、扇形文（第43図17）、斜行短線文（第89図18・19）、列点文（第50図14ほか）などがみられる。また、内面に施す文様には波状文（第43図15）、羽状刺突文（第66図2ほか）、斜行短線文（第50図12）があるが、第50図12の斜行短線文は羽状を意識しているようにみえる。斜行短線文は、石川県では類例が多いが、福井県ではあまり普及していない文様であり、注目される。

条痕文系土器には甕、壺、深鉢があるが、調整には貝殻ではなく、太い櫛状工具などが用いられている。甕は短い口縁部が外反する器形を呈する。口縁端部は丸くおさめるもの（第89図15）と、ヘラ状工具による刻みを施すもの（第89図13・14）がある。壺では、口縁部が受口状をなす広口壺5点を図示できた。第50図15・第54図6は口縁部下端に指頭による押圧列点が巡るが、第89図20・21は棒状工具による押圧列点が巡る。また、第50図15は口縁端部に櫛状工具による連続刺突を施すが、第50図16・第89図20は口縁端部をナデ調整により平滑に仕上げる。口縁部は重方形文（第50図16・第89図20・21）または波状文（第50図15）で飾る。このほかに、口縁部が外反する壺もある（第43図9ほか）。第43図9は、口縁端部にヘラ状工具による刻みを巡らし、外面は条痕を羽状に施す。深鉢は、口縁端部に指頭押圧により口縁部が小波状となるもの（第66図9）と、平縁にヘラ状工具による刻みを施すもの（第66図10）がある。文様は、撥ね上げ文（第89図26・27ほか）・山形文（第89図29ほか）・擬流水文（第89図28）などがみられる。

近江系土器として抽出できるのは、受口状口縁を呈する壺（第60図1・第61図13）である。口縁端部を押さえて、水平な面を形成する。第60図1は内外面をハケ調整で仕上げる。

II 中期後葉

中期後葉に属すると考えられる土器は、鹿谷川旧流路、SK1205、SD01、SD06、SD08でわずかに出土している。器種は甕、壺、鉢などがある。

甕は、くの字状口縁を呈し、口縁端部は肥厚して内傾する面を形成する（第56図11・第60図3・第66図12）。壺には、広口壺、無頸壺、直口壺がある。第50図22・第70図6は口縁部が大きくひらく広口壺で、

口縁端部は面をもつ。第50図22は、口縁端部の面に波状文を施す。第66図13は、複合口縁を呈する無頸壺である。わずかに肥厚させた口縁端部に凹線文を施し、その下には波状文を加える。第37図1は直口壺で、口縁部外面に凹線文を施す。第66図14・15も第37図1によく似るが、このうち第66図15はその器壁の厚さから鉢である可能性が高いと考えられる。このほかに、鉢と考えられるものには、台付鉢につく脚台がある。第66図17は円形の透かし穴を6ヶ所開けていたと推定される。また、壺または鉢につくと考えられる脚部がある。第66図18は、柱部に凹線文を巡らし、器壁は厚い。脚端部は上方に拡張して、面を形成する。高坏は、水平口縁をもち、欠損しているが垂下帯を付加していたと考えられる。垂下帯の上部が辛うじて残る第57図5は、垂下帯を竹管文で飾り、第57図4は水平口縁を凹線文と竹管文で裝飾する。

第54図8・第68図15～18・第69図1～5は、くの字状口縁を呈する甕で、口縁端部は外傾する狭小な面を形成する。外面にハケ、内面にハケまたはケズリを施す。このような器形の甕は、中期後葉から後期後葉まで存在しており、単体で時期を決めることは困難と考えている。

Ⅲ 後期前葉

後期前葉に比定される土器は、SD01、鹿谷川旧流路を中心に微量出土している。甕、壺、高坏、器台などがある。

甕は、外傾する短い口縁部に擬凹線文を施す（第50図21）。壺には、広口壺と受口状口縁の壺がある。第70図5は在地系の広口壺で、第51図8・第70図19は近江系の受口状口縁の壺である。第70図19は、頸部から肩部にかけて直線文と列点文で飾る。高坏（第71図1）は、ほぼ直立する短い口縁部をもち、器台（第90図12）は内傾する口縁部外面に擬凹線文を施す。高坏または器台につくと考えられる脚部は、脚柱部が棒状を呈する。第51図19は、脚柱部外面に擬凹線文を意識したハケと、列点文を交互に施す。第71図18は、脚裾部が大きく広がり、端部は狭小な面をもつ。脚柱部に方形透かしを4ヶ所穿っている。

Ⅳ 後期後葉～末

後期後葉～末に属する土器は多量であり、細分も可能であろうが、時期の特定が困難な資料も含まれていることから、敢えて行わなかった。今後の課題としたい。

当該期の土器は、掘立柱建物の柱穴、土坑、溝・自然流路（SD01～08・SD11・SD18ほか）、鹿谷川旧流路など数多くの遺構から出土している。甕、壺、高坏、器台、鉢、蓋などがある。

甕は有段口縁を呈するものが主であり、ほかに、くの字状口縁を呈するものと、受口状口縁を呈するものがある。有段口縁の甕では、口縁部外面に擬凹線文を施すものが大半を占めるが、口縁部外面に斜行連続刺突を施すもの（第68図10～14）、横ナデ調整のみで仕上げた擬凹線文を有しないもの（第68図1・2・4～6ほか）がある。器形は、第43図1のように体部上位に最大径をもつ卵形の体部に小さな底部をもつものが一般的で、体部外面はハケ、内面はケズリを施す。口縁部内面は、指頭圧痕がみられるものと、指頭圧痕が確認できないものがある。また、1点しか確認していないが、肩部外面にハケ状工具による刺突を巡らすものもある（第66図22）。口縁端部は、やや厚みをもって丸く仕上げるものと、やや薄くまたは尖り気味に仕上げるものがあり、後者の方が前者に比べると口縁部が伸張している。口縁端部を丸く仕上げるものには、口縁部が内傾するもの（第66図20～24ほか）、ほぼ直立するもの（第66図27ほか）、外傾するもの（第66図28・29ほか）がある。口縁端部を尖り気味に仕上げるものには、口縁部が内傾するもの（第43図2ほか）、ほぼ直立するもの（第61図4・6ほか）、外傾するもの（第50図26ほか）、外反するもの（第51図1・第50図27ほか）がある。これらの有段口縁甕は、口径の大きさから、

口径13.0~23.0cm前後の中形と、口径23.0cm以上の大形にわけることができる。大形の甕は、すべて口縁部外面に擬凹線文を有する。第56図2と第57図13は口径23.0~24.2cmをはかり、口縁部がほぼ直立するもので、口縁端部は丸く仕上げる。第51図2・3、第57図14、第67図16は口径29.0~36.6cmをはかり、口縁部が外反して立ち上がり、口縁端部は尖り気味に仕上げる。中型は、15.0~19.0cm前後のものが最も多い。

くの字状口縁を呈する甕として、第51図5があげられる。口縁端部を丸く仕上げている、体部が球形に近づいていると認められることから、当該期に属すると考えた。内外面はハケ調整で仕上げられており、指頭圧痕が残る。

受口状口縁を呈する甕は、6点図示した。第68図7は湖西に系譜が求められるもので、内外面をハケ調整で仕上げられており、口縁部外面の立ち上がりに刺突はみられない。第68図9は、口縁部外面に刺突列点文を施す。第51図6・7、第68図8、第90図4は口縁部が立ち上がる部分にハケまたはヘラ状工具による斜行連続刺突を施すもので、第51図7は肩部にも斜行連続刺突を巡らす。

また、受口状口縁甕と同様に、有段口縁甕の口縁部外面に斜行連続刺突を施す例もある。第68図10~14は、やや発達した口縁部外面に、ハケ状工具によって刺突を施す。口縁部中央に施されるものが多く、ほぼ口縁部と同じ長さである。第68図12は受口状口縁甕と同じく口縁部外面の立ち上がりに刺突を施している。大野市下黒谷遺跡でも同様の甕（A'類と分類）が出土しており、肩部上半にも斜行連続刺突を施す例などが報告されている。

壺は、全形をうかがえるものは皆無である。頸部から口縁部にかけての器形によって分けて記述するが、多様性があり、また全体の器形から分類を判断すべき事例もあるため、妥当性を欠いているかもしれない。

口縁部がひらく器形で頸部が短い広口短頸壺には、有段口縁を呈するものと、くの字状口縁を呈するものがある。有段口縁を呈するものには、口縁部が内傾するもの（第61図12・第70図16ほか）と口縁部が直立するもの（第70図18・第90図7ほか）がある。第70図18は、口縁部外面を擬凹線文と3個1対の円形浮文で飾る。くの字状口縁を呈するものには、口頸部が短いもの（第69図14）がある。また、両者の中間的な器形のものとして、第51図9があげられる。第51図9は、口縁端部外面にやや強い横ナデを施して狭小な面を形成する。

口縁部がひらく器形で頸部が長い広口壺は、有段または有段状の口縁を呈するものと、口縁端部に面を形成するものに分けられる。有段口縁を呈するものには、口縁部が外傾してひらくもので口縁部外面に擬凹線文を施すもの（第60図10・第70図9）、短い口縁部が外反するもの（第70図12・13ほか）がある。有段状の口縁を呈するものは、口縁部外面に擬凹線文を施す。第57図17・第70図7は、ほぼ直立する頸部中位から大きくひらいて口縁部にいたる器形で、口縁部は短く、口縁部下端を垂下させる。第70図7は口縁部内面を、扇形文で飾る。第70図8は口縁部下端を垂下させるもので、有段部分の内面の屈曲はほとんど認められない。口縁端部が面をもつものは2点みられる。第60図11は口縁部下端を垂下させて面を形成し、この面にS字スタンプ文、また口縁部内面にもスタンプ文を施す。第70図17は口縁端部を肥厚させて面を形成しており、頸部には突帯を貼り付けて刺突を巡らす。

口頸部が長い器形のもの、その体部の形態により3種類に分けられる。まず、中期以来続く肩部が張らない胴長の器形となるものには、緩やかに外反してのびる口頸部がつき、そのまま口縁端部にいたるもの（第69図8~11）、口縁端部付近で内彎するもの（第56図4）、強い横ナデにより口縁部下端に稜

を形成するもの（第70図1・2）、口縁端部外面にやや強い横ナデを施して狭小な面を形成するもの（第58図5）がある。また、第69図15は口縁端部付近で外反して大きくひらく器形を呈しており、欠損のため不明であるが、口縁端部に狭小な面を形成していた可能性が高い。次に、体部が扁球形となるものには、口頸部がほぼ直立するもの（第61図7ほか）と緩やかに外反するもの（第58図1ほか）がある。体部のみしかなく、第70図21は同様の器形を呈する大形品と考えられる。最後に、体部が球形となると考えられるものに、第51図11と第69図7がある。第51図11は有段口縁を呈し、口縁部外面に擬凹線文を施す。第69図7は直口壺に近い器形で、口頸部は外反して大きくひらく。

このほかに、直口壺（第69図12・13）、無頸壺（第90図8）、短頸壺（第61図14）などがある。直口壺は口縁部が逆ハの字状にひらく器形を呈する。また、受口状口縁の壺には、第60図9と第54図9があり、第70図11は小形品と考えられる。いずれも内外面はハケ調整で仕上げる。このような受口状口縁壺と第70図12・13のような有段口縁の広口壺の中間的な器形を呈するのが、第56図3と第70図10である。第70図14も同様の器形と考えられるが、頸部の屈曲が非常に弱い。

高坏は、器形の全容をうかがえるような資料がない。坏部は、内彎気味に立ち上がる底部から強く屈曲して、口縁部が外反してのびる器形を呈する。口縁端部は、肥厚して外傾する狭小な面を形成するもの（第60図16ほか）と、段をなして面をもつもの（第51図16ほか）がある。前者の口径は23.9～27.4cm、後者の口径は27.6～31.2cmであり、後者の器形の方が大形である。内外面はミガキ調整で仕上げる。脚部は、上半部が柱状で下半過ぎからハの字状に開くもの（第71図5・6ほか）がみられる。

器台も完形となる資料がない。受部は有段または有段状を呈し、口縁部下端を垂下させる。口縁部の長短により分類することができる。口縁部が短めのもの、口縁部がほぼ直立する器形のもの（第71図7ほか）が多く、口縁部の形態でさらに細分できる。ひとつは、第58図12のように、受部が脚部との接合部分から大きく逆ハの字状にひらくもので、有段部分の内面の屈曲が緩やかなものである。口縁部は、擬凹線文を施すもの（第71図7ほか）、擬凹線文と円形浮文で飾るもの（第51図18）などがある。もうひとつは、第71図9～11などのように、脚部との接合部分から受部が垂直に近い角度でひらき、有段部分の内面の屈曲が明確なものである。口縁部は、擬凹線文を施すもの（第51図17ほか）と口縁部下端に刺突を巡らすもの（第60図17）がある。また、口縁部が長いもの（第71図13・14ほか）は、口縁部が外反して大きくひらく器形を呈する。口縁部は、S字スタンプ文と擬凹線文で飾るもの（第71図12）、擬凹線文を施すもの（第58図11）、ミガキ調整のみで仕上げるもの（第71図13・14）がある。脚部は、有段となるもの（第71図15ほか）、または脚柱部の中ほどからハの字にひらく形態のもの（第90図11ほか）を伴う。鉢は様々な形態のものがあるが、有段の口縁部が外反または外傾する器形のもの（第72図8～10）が最も多くみられる。体部は、肩が張る器形のもの（第60図21・22ほか）と半球形を呈するもの（第52図3ほか）がある。口縁部はナデ調整で仕上げるもの（第72図8～10ほか）が多いが、擬凹線文を施すもの（第60図22）もある。同じく有段口縁で、口縁部がほぼ直立する大形品もある（第58図14）。このほかに、中位にある稜から口縁部が外反してひらく器形のもの（第72図7・第90図15）、平底から内彎気味にひらく器形のもの（第60図20）、碗形で脚台がつくもの（第72図14）、内彎気味に立ち上がる底部から強く屈曲して直立したのち口縁部が緩やかに外反する器形のもの（第56図13）がある。有孔鉢は、丸底で内彎気味に立ち上がるもの（第58図15）と、底部が小さくて砲弾形の器形を呈するもの（第52図4）がある。また、受口状口縁を呈する近江系の鉢も出土している（第72図11・12）。第72図12には、肩部を直線文と刺突列点文で飾るといった近江系の特徴と、口縁部に擬凹線文を施すという北陸系の特徴がみられる。

蓋で図示できたものはわずか1点である。第72図16は大形品で、中央がくぼみ、外側に向かって張り出す形態の鈕がつく。鈕の端部は面をもつ。笠部はハの字状に開いて、口縁端部付近で屈曲し、狭小な面を形成する。

今回図示できた当該期の土器のなかには、赤彩されたものは2点しか見当たらない（第58図1・第60図12）。隣接する発坂山ノ端遺跡でも数点しか図示できていないことから、当地域の地域性の一端を示すものと考えられる。

第3節 古墳時代の土器

I 前期

前期の土器として確認できるものは、SD01から出土した土師器の甕と高坏各1点である。第52図6は、口縁部が内彎して立ち上がる甕で、口縁端部は肥厚して、内へ傾斜する。体部は球胴形ではなく、体部上位に最大径をもつ卵形を呈する。第52図7は、完形に復元できた高坏である。口縁部はやや外反しながら立ち上がり、坏底部との境に不明瞭な稜を形成する。脚部はハの字状に開き、裾部付近で緩やかに屈曲して広がる。

II 後期

後期の土器と認められるものは、鹿谷川旧流路からの出土した土師器の甕1点である。第73図1は、くの字状口縁を呈し、肩部はやや張る。内外面ともハケ調整で仕上げる。

III 7世紀初頭

7世紀初頭の土器と考えられるものには、須恵器の提瓶である。破片が2点あるが、観察の結果から同一個体である可能性は低いと思われる。第90図17は、口縁部から肩部の破片で、口縁部がハの字状に開く。第90図18は体部の破片である。外面にカキ目を施し、内面は閉塞円盤が明瞭にみられることから、腹部の中央部分にあたると考えられる。

第4節 平安時代の土器

平安時代の土器は、掘立柱建物の柱穴、SD01、SD04、SD06、SD13、SD19、SD20、鹿谷川旧流路などから出土している。鹿谷川旧流路内では、G20～I23グリッドにかけて特に集中が認められ、集落からの廃棄をうかがわせる。弥生時代後期と並んで、出土資料が多い。主体となる時期は、9世紀前半と考えられ、田嶋編年の古代IV₂～V₁期に該当すると考えられる。

土師器には、蓋、坏、皿、長胴甕、台付鉢、甑、取鍋がある。

蓋は口縁部が折り返しになっており、口径は18.5cm前後をはかる。内外面に赤彩を施す。第90図19は口縁端部の断面が三角形を呈し、山笠状に開く器形を呈する。第73図2は、口縁端部がのびて明確な屈曲を示し、器形はやや扁平である。

坏は、図示できたものはすべて無台坏である。口径が、10.0cm前後のもの、13.0～14.0cm前後のもの2種類がある。口縁部は内彎気味に立ち上がるものと外反するものがあり、底部はほとんどが平底である。第52図8・第90図20は口縁部付近に漆が付着しており、第73図5は底部外面に墨書がみられる。また、第73図3は丁寧なミガキ調整で仕上げ、内外面に赤彩を施す。

皿で図示できたものは1点のみである。第52図9は内面に赤彩が残る。

長胴甕はロクロ成形の、いわゆる北陸型煮沸具で占められている。くの字状に屈曲する頸部からのび

る口縁部は有段口縁を呈し、端部を内傾気味につまみ上げて面取りするものが主体である。体部は、タキ調整後、上半部をカキ目で仕上げるものが多いが、第73図7は内面にケズリを施す。口径からみると、17.0cm前後、20.0～22.0cm前後、25.0～27.0cm前後の3種類の大きさに分けられる。

第73図15は、浅めの坏部をもつ台付鉢で、脚部は内彎気味に立ち上がる。口縁部外面に1段の稜を形成し、口縁端部は外に突出して、外傾する面を有する。

第90図23は甌と考えられる。ほぼ直立する口縁部付近に、突帯を施す。第52図10は碗形を呈する取鍋と考えられる。粗い粘土で作り、器壁は厚手である。

須恵器には、蓋、坏、碗、皿、高坏、壺、瓶、甕、鉢、硯がある。

蓋は器高2.5～4.0cm前後が一般的な法量である。口径は、11.1～12.5cm前後、13.0～15.5cm前後、16.0～18.5cm前後、21.5cm前後の4種類がある。口縁部は短い折り返しになっており、天井部は回転ヘラ切り後ナデ調整または回転ヘラケズリ調整を施す。内面に仕上げナデを施すものは概して少ない。つまみは径が2.5～3.0cmで、高めの宝珠形を呈するものが主体であるが、乳頭状突起をわずかにもった扁平な宝珠形を呈するものもわずかにある。器形は平笠状に開くものが多いが、天井部に平坦面をもってやや扁平となるものもある。

有台坏はその法量分布から、口径11.4～13.0cm、器高3.6～4.25cm、径高指数32前後のもの、口径14.4～17.1cm、器高3.35～6.1cm、径高指数35前後のものに分けられる。底部回転ヘラ切り後に高台を貼り付けており、その際にナデ調整を行う。高台径は7.1～10.3cmの間に分布しており、内側が接地するものが主体であるが、両側が接地するものもみられる。

無台坏は、その法量分布が口径11.5～14.0cm、器高2.7～3.5cm、底径7.1～10cmにおさまる。径高指数は27前後である。ロクロ成形し、底部をヘラで切り離すが、回転ヘラ切りの痕跡をナデ消すものが多い。器形は口縁部が外反し、底部が平底となるものが主体であるが、口縁部が内彎気味に立ち上がるものもある。

碗は無台のもの（第91図6）と有台のもの（第75図10・11・第91図16）がある。第91図6は口縁部が内彎気味に立ち上がり、第75図11は口縁端部付近で外反する。高台は、端部の内側が接地するものが主体である。底部は回転ヘラ切りにより切り離すものが多いが、第91図16は回転糸切りにより切り離している。

皿は、口径14.2～17.1cm、器高1.8～2.85cmのもの、口径17.2～18.3cm、器高2.2～3.4cmのものにわけられる。器形は口縁部が外傾または外反するものと、内彎気味に立ち上がるものがある。

高坏は、完形となるものがない。第92図2は唯一図示できた坏部で、蓋を逆位にした器形を呈する。内外面に自然釉がかかり、底部内面にはヘラによる線刻がある。脚部は、全容がわかる資料がないが、基部径が3.0cm前後でやや細めのもの（第55図18・第58図17・第92図3）と、基部径が5.0cm前後でやや太めのもの（第78図7）がある。

壺は短頸壺と広口壺に分けられる。短頸壺は口縁部（第78図1）と底部（第92図4）がある。第78図1は口縁部が短く直立し、肩が張った器形を呈する。第92図4は、高めの高台がつくもので、脚端部は外側が接地する。広口壺は、外反する口縁部をもつ。確認できたものは、口縁部破片のみである。口縁端部をつまみ出して外傾する面を形成しており、この面の中央部が膨らみをもつもの（第77図9）と、少しくぼむもの（第77図8・第78図2）がある。

瓶は広口瓶と長頸瓶がある。第91図26は広口瓶で、肩部で強く屈曲し、やや長めの口縁部が外反しな

が立ち上がる。長頸瓶は2点確認できたが、その器形は異なっている。第91図25は、口縁部が頸部から大きく外反し、口縁端部をつまみ出して面を形成する。その中央部を少し、くぼませる。これに対して第78図3は、口縁部がほぼ直立し、口縁端部付近でわずかに外反する。口縁端部は丸く仕上げる。

甕は、口縁部が大きく外反する器形である。第92図1・第77図10は、口縁上端部をわずかにつまみあげ、口縁下端部を斜め下方にのぼして、口縁端部に外傾する面を形成する。口頸部外面にはカキ目を施す。また、第77図7は口縁部をつまみあげて内傾する面を形成する。

広口鉢は、くの字状を呈する口縁部をもつ。口縁端部は、丸く仕上げるもの（第91図29）と、中央部をくぼませた狭小な面を形成するもの（第62図7・第78図6・第91図28）がある。体部上位に最大径をもつ。

硯は1点確認している。第78図10は平面形が風冠を呈する風字硯である。磨面の端側に脚をつけ、墨池に向かって傾斜させる。脚は、貼り付け後に面取りを行う。ほぼ半分に分かれており、磨面部分しか残っていない。残存している磨面の最も墨池側に使用の痕跡が認められる。

灰釉陶器は2点図示できた。第52図19・第92図5はいずれも碗である。第92図5は底部内面が平滑に摩滅しており、墨汁痕跡は認められないが、転用硯として利用された可能性がある。

ヘラ記号が確認できたものは3点ある。須恵器の有台坏（第91図12）の高台内に「十か」、無台坏（第75図27）の底部外面に「ㄗ」、皿（第55図11）の底部内面に「-」である。

当該期の土師器・須恵器には、墨書土器と漆書土器計15点が含まれている。その出土遺構をみるとSD01からが2点、鹿谷川旧流路からが13点となっている。

墨書された土器は、土師器が2点、須恵器が11点を数える。その内訳は、土師器が無台坏と長胴甕各1点、須恵器が蓋3点、無台坏2点、台付坏3点、皿3点である。食膳具が大半を占めるが、煮沸具も1点存在する。また、漆で文字が書かれた例は須恵器の皿2点である。このほか漆が付着する例として、須恵器の無台坏（第75図25）と皿（第77図4）、土師器の無台坏（第52図8・第90図20）がある。須恵器では底部外面に、土師器では口縁部に漆が付着している。

墨書部位は、無台坏と皿は底部外面、台付坏は高台内に限られる。蓋は内面と外面があり、長胴甕は外面の肩部である。漆書部位も、皿は底部外面に限られる。

判読できる墨書文字は、「真吉」・「衣女」・「林女」・「大井」・「大前」・「井口」・「□安」・「十」・「×」があり、漆書文字は「十」である。このうち、人名と考えられるのは、「衣女」・「林女」・「真吉」である。ただし「真吉」は、吉祥句の可能性も捨てきれない。数字とみられるのは「十」のみで、漆書文字も含めれば、最も数が多い。記号は「×」が1点ある。地名の可能性のあるのは、「大井」・「大前」・「井口」である。「□安」は上部を欠損しているため、内容を言及できない。

転用硯として利用されていたことが明らかなのは、蓋（第74図25）・無台坏（第75図25）・皿（第77図1）である。第75図25は底部内面に微かな墨汁痕跡が認められる。第77図1は底部外面に墨汁痕跡と墨書文字が、第74図25は天井部内面に墨汁痕跡と墨書文字が認められる。第74図25は蓋のつまみが遺存していることから、蓋を逆転させて坏身の上に乗せ、その内面を硯面として使用していたと考えられる。どちらも、墨書文字は転用硯として使用していた時に書かれた可能性が高い。このほか、前述の灰釉陶器（第92図4）や須恵器の有台坏（第74図43）は底部内面が非常に平滑であり、墨汁痕跡は認められないが、転用硯として利用された可能性が指摘できる。

第5節 中近世の土器・陶磁器

中近世の遺物の大部分は表土・包含層および鹿谷川旧流路からの出土であり、明確な遺構から出土したものは概して少ない。また遺物は各地区から出土しているが、調査地が以前の圃場整備により削平されているため移動が甚だしく、まとまりのある資料は抽出できない。そのためここでは、図示した遺物を産地ごとに略述していく。なお、当調査地からは近世～近代までの磁器片が多量に出土しているが、それらは割愛し、中世に属する遺物を中心に図示した。以下、越前焼・中国製磁器・瀬戸焼・土師質皿および瓦質土器の順に記す。

越前焼は鉢類の出土が多いのに対して甕類は少ない。中世の甕には小野分類Ⅰ群の第92図6と、小野分類Ⅲ群の第92図7がある⁽¹⁾。鉢類は時間的な空白期間をおかずに出土している。第92図8～14・第93図4は播目を施さない片口鉢で、12世紀末葉～14世紀初頭に収まる。播鉢は第92図15～17・第93図3が小野分類Ⅰ群、第92図18～22・24と第93図5・6が小野分類Ⅲ群、第92図23が小野分類Ⅳ群に相当する。このうち第93図3は播目が太い特異な資料である。第93図1・2・第78図12は近世の播鉢で、それぞれ17世紀、18世紀、19世紀の年代を与えられる。また第93図7は播目が1条で、乳白色の胎土を有する産地不明の播鉢であり注意される。なお14区SB25の別棟の掘り込みから片口鉢（第28図1）が、14区SE07から小野分類Ⅰ群に相当する播鉢（第33図1・2）が出土しているが、前者が13世紀末葉～14世紀初頭、後者が14世紀前半頃に収まる。

中国製磁器は青磁・白磁とも一定量出土しているのに対して、染付は少ない。図化した青磁は全て碗類であるが、体部外面に櫛描文が施される第78図17は同安窯系Ⅰ-1・b類、口縁部直下の内面に沈線がめぐり、体部内面に劃花文を描出する第93図8は龍泉窯系青磁碗Ⅰ-2類に相当する⁽²⁾。また内外面無文の端反り碗である第78図19・第93図9～12は青磁碗D類、明瞭な蓮弁文を有する第78図18・第93図13は青磁碗B-Ⅰ類、片切彫の大きく粗略な蓮弁文を有する第93図14は青磁碗B-Ⅱ類、細い線描き蓮弁文を描出する第78図20は青磁碗B-Ⅳ類に相当する。白磁は全て皿類で第93図17～19はD群であるが、18の底部外面には墨書が認められる。

瀬戸焼は古瀬戸様式～大窯期のものを図示したが、古瀬戸様式には第93図28・29の小型瓶のように仏器関係の器種もみられる。第93図20は無釉の小皿で、山茶碗と考えられる。第93図21～24は天目茶碗で、21・22は古瀬戸後期様式Ⅳ期、23は大窯期前半、24は大窯期後半に相当する⁽³⁾。第93図25は古瀬戸後期様式Ⅰ期の平碗、第93図27は卸皿、第78図21・22は古瀬戸後期様式Ⅳ期の折縁深皿である。

土師質皿の出土数は少なく、細片がほとんどである。図化したものの大半は遺構内出土品であるが、復元口径は不明確である。形態的に、3区SE03出土品（第31図1）と14区SD27出土品（第25図4）は、腰部がやや外反することから富山E類に、14区SD27出土品（第25図1～3）と14区SB25・SE08出土品（第28図4）は富山D類に相当すると思われる⁽⁴⁾。なお、富山D・E類には13世紀～14世紀前葉の年代が与えられている。

最後に瓦質土器であるが、出土品の多くは近世以降の型造りであるため割愛した。唯一、第93図30は中世の浅鉢で、口縁端部に浅い沈線がめぐり、

以上、中近世出土遺物について述べてきたが、出土遺物の年代は時期不明品が一定量認められるものの、12世紀中頃～近世までの遺物が空白期をおかずに出土している。12世紀中頃は「新開型村落」が成立する時期であり、志田神田遺跡においても同時期に中世村落が形成されたことがうかがえる⁽⁵⁾。また近隣の発坂山ノ端遺跡からは13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられる中世墓（SX01）が検出されて

おり、本調査地でも13世紀～14世紀前半頃に収まる遺構が検出されていることから、両遺跡の空間的な繋がりが想定できる。

第6節 石器

I 構成と分布

石器の構成を第8表に示す。狩猟具・漁撈具・工具・土掘具・調理具、さらに装身具や祭祀具もあり、豊富で多様な道具類からなる。特に、打製石斧が多量に出土しており特徴的である。敲石・凹石や石皿等も多く、土掘や調理を中心とした作業が行われたと考えられる。

石質の構成は、安山岩が9割弱でチャートや砂岩もある。他、頁岩や翡翠等も僅かにある。器種別では、石鏃や石匙・削器等の剥片石器は緻密な安山岩もあるが、チャートも多く用いられる。打製石斧と磨製石斧は安山岩、敲石や凹石等は安山岩の他に砂岩が用いられる。

第8表 石器組成表1

石質	異形	石鏃	球状耳飾	勾玉	磨製石剣	石匙	削器	石鏃	石核	剥片	碎片	打斧	打斧調	磨斧	石鏃	敲石	凹石	磨石	台石	石皿	計
An						2	5	1	1	145	3	394	31	4	3	16	5	52	1	7	670
Ch	1	2				2	2		1	28	2										38
Sh					1					3											4
Sa														1	18	6	18			1	44
翡翠				1																	1
滑石			1																		1
計	1	2	1	1	1	4	7	1	2	176	5	394	31	4	4	34	11	70	1	8	758

第9表 石器組成表2

区	石質	異形	石鏃	球状耳飾	勾玉	磨製石剣	石匙	削器	石鏃	石核	剥片	碎片	打斧	打斧調	磨斧	石鏃	敲石	凹石	磨石	台石	石皿	計
1	An										3		22		2							27
	Sa																1		1			2
2	An												2									2
	Ch						1				12		31	1					7			52
3	Ch							1			2											3
	Sa														1	1			1			3
4	An										1		8						1			10
5	An										1		12	1								14
	An										7		11		1				2			21
6	Ch										1											1
	滑石			1																		1
7	An							2		1	17		47	9			3	1	10		1	91
	Ch	1	1				2			1	8	1										14
	Sh					1					2											3
	Sa																3	1	3			7
8	An							1			7	1	18	5								32
	Ch							1			4											5
	Sh										1											1
	Sa																1					1
9	An						1	2	1		59	2	39	3		1	2	2	6			118
	Ch										9											9
	Sa																2	1	3			6
	翡翠				1																	1
10	An										10		22	2			3		8			45
	Ch										2											2
	Sa																5		1			6
11	An												3									3
	Ch									1												1
	Sa																1				1	2
12	An										7		116	8	1		7	1	11	1	2	154
	Ch											1										1
	Sa																1	3				4
13	An										9		13									22
	An										9		10			2	1	1	5		4	32
	Ch										1											1
14	An																2		7			9
	An																2					9
	Sa																		2			4
15	An										3		42						2			47
	Sa																1	1	2			4
表採	Ch		1																			1

石器の分布を第9表で示す。7・9・12区でまとまり、3・10・14・15区でもやや多く出土した。他区は散在する。器種別では、石鏃等の剥片石器や剥片は7・9区でまとまるが、打製石斧は12区でも密に分布する。敲石や磨石等は全体と同様な状況である。大半は鹿谷川旧流路から出土した。

Ⅱ 石器の形態（第105～110図）

異形部分磨製石器（1） 所謂トロトロ石器で、チャート製の剥片が素材。両面に調整されるが、裏面に素材面を残す。両側縁は基部上位で少しくびれ、基端は外方へ突出する。また、器体上半は表裏とも研磨され、先端は丸く仕上げられる。

石鏃（2・3） 2と3は凹基無茎鏃で、両面に調整される。2は、側縁が緩く内湾し、基部が鋏形に作出される。3は、基端から抉入が作出されている。

球状耳飾（4） 中央に円孔、下端に先細りの切目が作出されている。平面は円形だが、長軸を横位にもつ。また、裏面は平坦で、孔の断面は扁平となる。

勾玉（5） 丸みのある頭部と湾曲した尾部をもち、平面が逆しの字形を呈す。表面から穿孔される。

磨製石剣（6） 鉄剣形の茎部。両側縁上部に刃部が残り、裏面中央には鎬がみられる。また、左側縁下部で屈曲し、茎部下端にも面が作出されている。

石匙（7～9） 7と8は横形のもので、7は上方、8は右上方につまみ状の基部が作出される。7は、赤色のチャート製で、薄手の剥片が素材。裏面中央に素材面を残すが、他は平坦に調整される。8は、基部が表裏、刃部は表面下端に粗く調整される。9は縦形で、上方につまみ状で幅広の基部が作出される。表裏の周縁に調整されるが、基端に礫面を残す。

削器（10～15） 10は、横長剥片が素材。表裏の周縁に調整されるが、下端に素材の縁辺が残る。先端は尖鋭に作出され、尖頭器状となる。11と12は、縦長剥片が素材。11は、表面の右側縁と表裏下端に調整される。12は、右側縁に急斜な調整が施され、左側縁の表面と裏面一部に調整される。13と14は、寸詰まりな剥片が素材。13は、左側縁と下端左半に調整される。14は、裏面下端に調整される。15は、大形の横長剥片が素材で、表面下端に調整される。

石錐（16） 横長剥片が素材で、両側縁に調整される。側縁中程で屈曲し、下端に刃部が作出される。

石核（17・18） 17は、厚手の剥片の裏面を打面に設定する。周辺から表面中央、左端から裏面へ向け剥片剥離される。18は、上端の礫面を打面とし、表面を作業面として剥片剥離されている。

打製石斧（19～62） 多くは板状剥片が素材で、周辺中心に調整される。また、風化や磨滅が著しい。器体中央まで平坦に調整されるものもある。全体形や基部・側辺等の形状から類別した。

1類（19～36） 基部から刃部がほぼ同じ幅で、短冊形を呈す。さらに以下のように細別した。

1-①類（19） 両側辺が直線的にのび、細身の形状を呈す。裏面上半が器体中央まで調整される。

1-②類（20・21） 両側辺は直線的にのびるが、基部がすぼまる。20は、裏面が器体中央まで平坦に調整される。21は、表面の刃部左半に長軸方向の擦痕がみられる。

1-③類（22～31） 基部から刃部まではほぼ同じ幅で、両側辺が直線的にのびる。22～24は小形の一群。23は、両面とも器体中央まで調整される。24は、基端に素材面を残し、左側辺上位と右側辺中程が僅かに内湾する。25～28は中形の一群。25は、両面とも器体中央まで平坦に調整される。27は、裏面中央まで調整されるが厚手である。28は、基端に素材面を残し、両側辺上位が僅かに内湾する。26は刃部が偏る。29～31は、やや大形の一群。30は、両側辺が僅かに内湾し刃部が偏る。31は、両側辺上位が僅かに内湾し、右側辺下半が湾曲する。

1-④類 (32~36) 基部から刃部まではほぼ同じ幅だが、側辺が緩く内湾して上位に緩やかな挟入をもつ。32は、小形で右側辺上半が湾曲し、上位に僅かな挟入をもつ。33~35は中形の一類。35は、両面とも器体中央まで平坦に調整される。また、33は基端左半、34は右端に素材面を残す。33と34は、右側辺が直線的にのび、33はやや細身の形状を呈す。36は大形。

2類 (37~49) 基部から刃部へ側辺が開き、撥形を呈す。さらに以下のように細別した。

2-①類 (37~44) 側辺が内湾し緩く開く。37は小形で、基端右半と左端に素材面を残す。38~42は中形の一類。40はやや厚手の板状剥片が素材。38と40は基端に素材面を残す。38と39は、両側辺が直線的に開き、丸い刃部をもつ。41と42は中形だが、やや細身で基部がすぼまる。41は基端と右端に素材面を残す。41は両側辺、42は左側辺が直線的に開き、丸い刃部をもつ。43と44は大形の一類。いずれもやや厚手の板状剥片が素材。43は、左端上半と右端に素材面を残し、右側辺が直線的に開く。調整が粗く器体の作出が不十分なため、未製品とも考えられる。44は右側辺の刃部境が屈曲する。

2-②類 (45) 側辺が内湾して大きく開く。基端に素材面を残し、やや細身で基部がすぼまる。

2-③類 (46~49) 側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。46は中形で、両側辺の刃部境が屈曲する。47~49は大形の一類。いずれも厚手の板状剥片が素材。47は、裏面中央まで平坦に調整され、基部から器体中央まで直線的にのびる。49は、両側辺上位が内湾し、基部がすぼまる。

3類 (50~62) 側辺中程のやや上位に挟入をもち、分銅形を呈す。多くは左右の側辺で湾曲の程度が異なり、挟入部位が若干ずれる。着柄方法等に起因すると考えられる。

3-①類 (50~56) 基部から刃部へ側辺が緩く開く。50と51は中形の一類。51は、裏面中央まで調整されるがやや厚手で、左側辺の刃部境が屈曲する。52~56は大形の一類。52は左側辺、56は両側辺の刃部境が屈曲する。54と55は、側辺下半が湾曲して丸い刃部をもつ。

3-②類 (57~60) 側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。57は中形で、基部から器体中程まで直線的にのびる。58~60は大形の一類。58は基端に素材面を残し、表面まで平坦に調整される。また58は基部が厚く、59は幅広で平らな基部をもつ。60は右側辺の刃部境が屈曲する。

3-③類 (61・62) 幅広の器体をもつ。いずれも丸みのある礫面をもつ剥片が素材。61は左側辺の刃部境が屈曲する。62は、側辺下半が大きく湾曲して開き、幅広の刃部をもつ。

磨製石斧 (63・64) 63は、側辺や基端に面が作出され、断面が扁平な方形を呈す。裏面と両側面に長軸方向、側面の稜側には整形段階に施された斜行する擦痕がみられる。64は、側辺に不明瞭な稜が作出され、断面が丸みをもつ。乳棒状を呈し、細くすぼまる基部をもつ。

石錘 (65・66) 65と66は小形で扁平。65は切目石錘で、上下端に切目が作出される。66は打欠石錘で、表裏の上下端に数回調整される。

敲石 (67~71) いずれも端部に敲打痕をもつ。素材の形状から以下のように類別した。

1類 (67~70) 扁平な棒状礫が素材で、70はやや大形。68~70は、上端にも敲打痕をもつ。

2類 (71) やや厚手の楕円礫が素材。上端にも敲打痕をもつ。

凹石 (72~74) 表裏に磨面をもち、器体中央に敲打痕があって凹む。素材の形状から類別した。

1類 (72・73) 扁平な円礫が素材。72は周辺、73は下端にも敲打痕がみられる。また73は、敲打により右側に平坦な面が作出される。

2類 扁平な板状礫が素材。裏面にも敲打痕がみられる。

3類 (74) 扁平な楕円礫が素材で、大形である。上下端と両側辺中程にも敲打痕をもつ。

磨石（75） やや厚手の楕円礫が素材。右側に内湾する磨面、上端に敲打痕をもつ。

台石（76） 断面三角形で大形の棒状礫が素材。表面稜と両側端は、敲打により平坦面が作出される。また、裏面に礫面が残る。

石皿（77） 形状から以下のように類別した。

1類 扁平な円礫が素材。表裏に磨面をもち、中央は僅かに凹む。

2類（77） 大形で扁平な楕円礫が素材。表面に平坦な磨面、周辺に明瞭な縁をもつ。

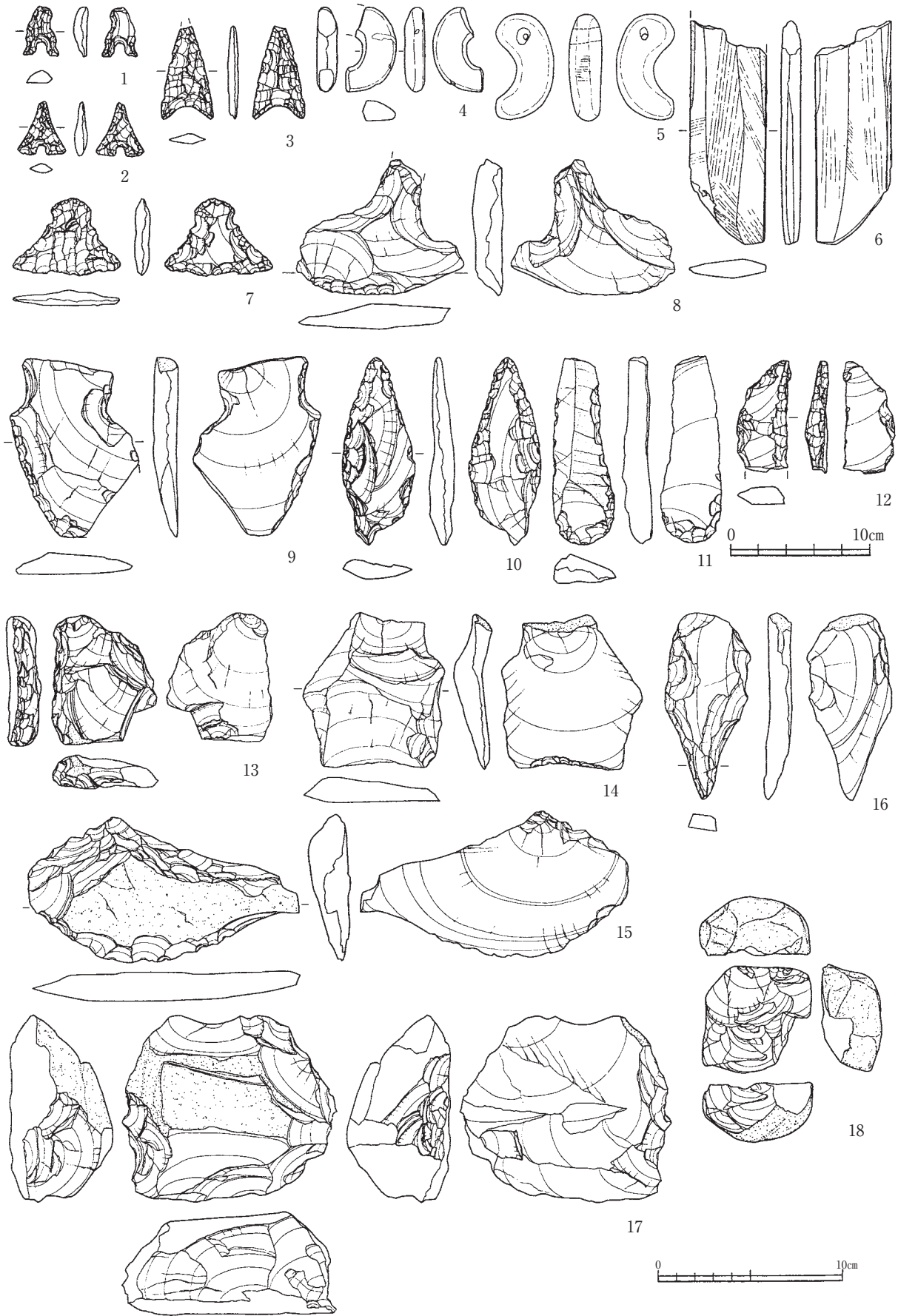
Ⅲ 小結

志田神田遺跡の石器群は、数時期の資料が混在している。土器との共伴や出土状況に恵まれないため、特徴的な形態のもの以外は時期の帰属が不明確である。限られた状況だが、時期別に石器の形態的な特徴や組成からみた遺跡の性格等について若干まとめる。

縄文時代早期から前期前半では、異形部分磨製石器（第105図1）と凹基無茎鏃で基部が鋏形に作出された所謂鋏形鏃（第105図2）、横型石匙（第105図7）と玦状耳飾（第105図4）が該当する。また、横型石匙の赤色チャートと同一個体とみられる剥片が少量ある。異形部分磨製石器と鋏形鏃は、早期の押型文土器と共伴する事例がみられ、本遺跡でも鹿谷川旧流路から押型文土器が出土した。異形部分磨製石器は、前平遺跡（高山市）など飛騨・美濃地域に多く分布する。第105図1は形態が小形であり、県内では他に猪谷田畑遺跡（永平寺町）で典型例が1点出土している。共に青白色のチャートが用いられており、飛騨・美濃地域と石材でも共通している。地域間の交流を示すと推察される。また、横型石匙は整った三角形を呈し、玦状耳飾は平面円形で下端に先細りの切目をもつ。県内では、横型石匙は鳥浜貝塚（若狭町）、玦状耳飾は桑野遺跡（あわら市）に多くの類例があり、共に早期末から前期前半と考えられる。

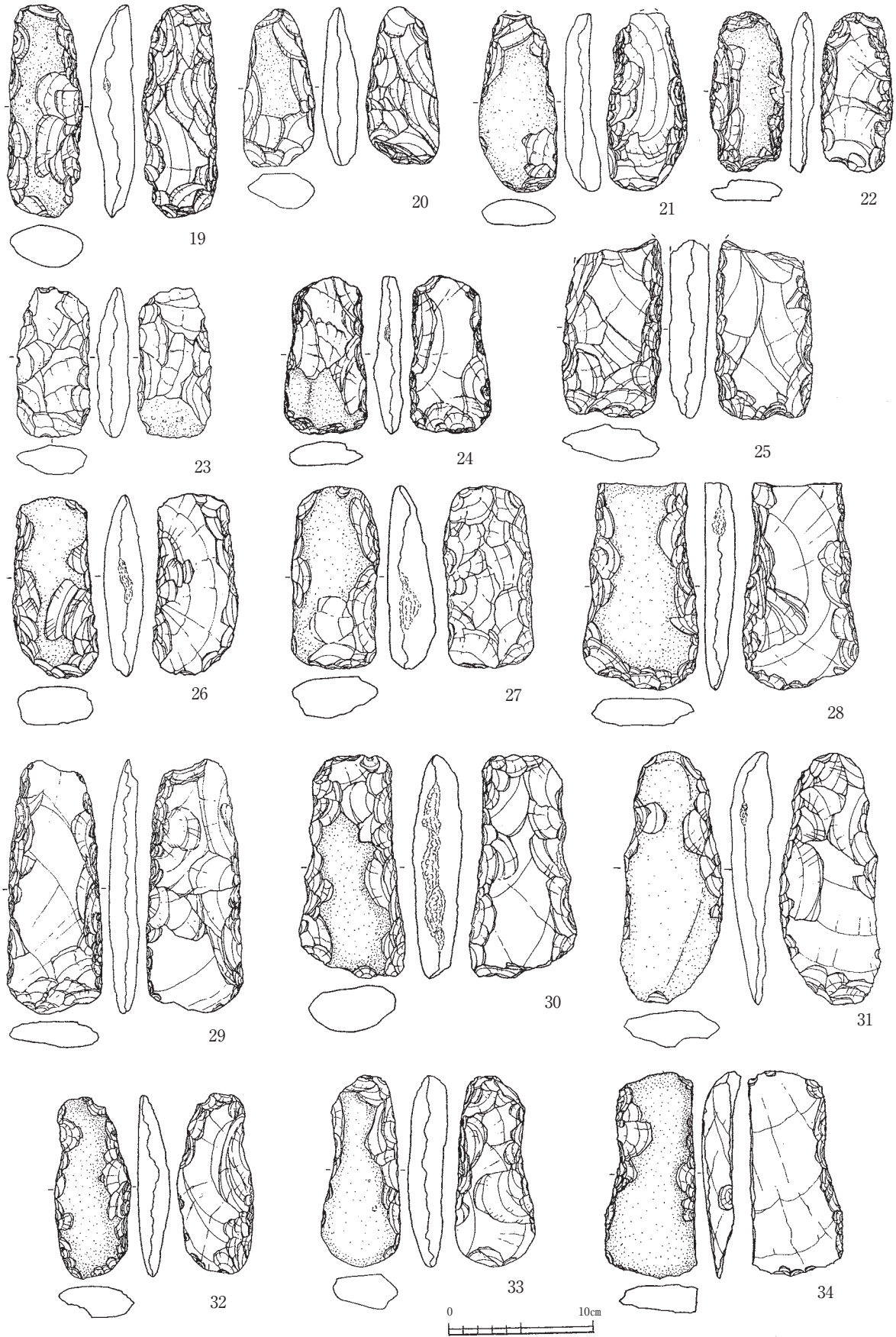
縄文時代中期後半から後期では、磨製石斧（第110図63）・石錘（第110図65）・石皿（第110図77）が該当する。第110図63は定角式磨製石斧で、側辺や基端に面が作出され、断面が扁平な方形を呈す。第110図65は切目石錘で、第110図77は周辺に明瞭な縁をもつ。また、他に該期に属すと考えられる器種もあるが不明確である。特に多量に出土した打製石斧や敲石・凹石等は、弥生時代中期から後期にも存続する。隣在する発坂山ノ端遺跡（勝山市）では、弥生時代後期後半の包含層から打製石斧が多量に出土している。本遺跡では、大半が良好な出土状況でないため、時期の特定が困難である。時期が混在した組成と考えられるが、土掘や調理等の作業が盛んに行われたと推察される。

弥生時代中期後半から後期では、鉄剣形の磨製石剣（第105図6）がある。越前では瓜生助遺跡（越前市）など類例が少なく、奥越では初例となった。武器とも考えられるが祭祀具であり、近畿からの影響が推察される。



第105図 石器1 (1~12: 縮尺1/2 13~17: 縮尺1/3)

第6節 石器



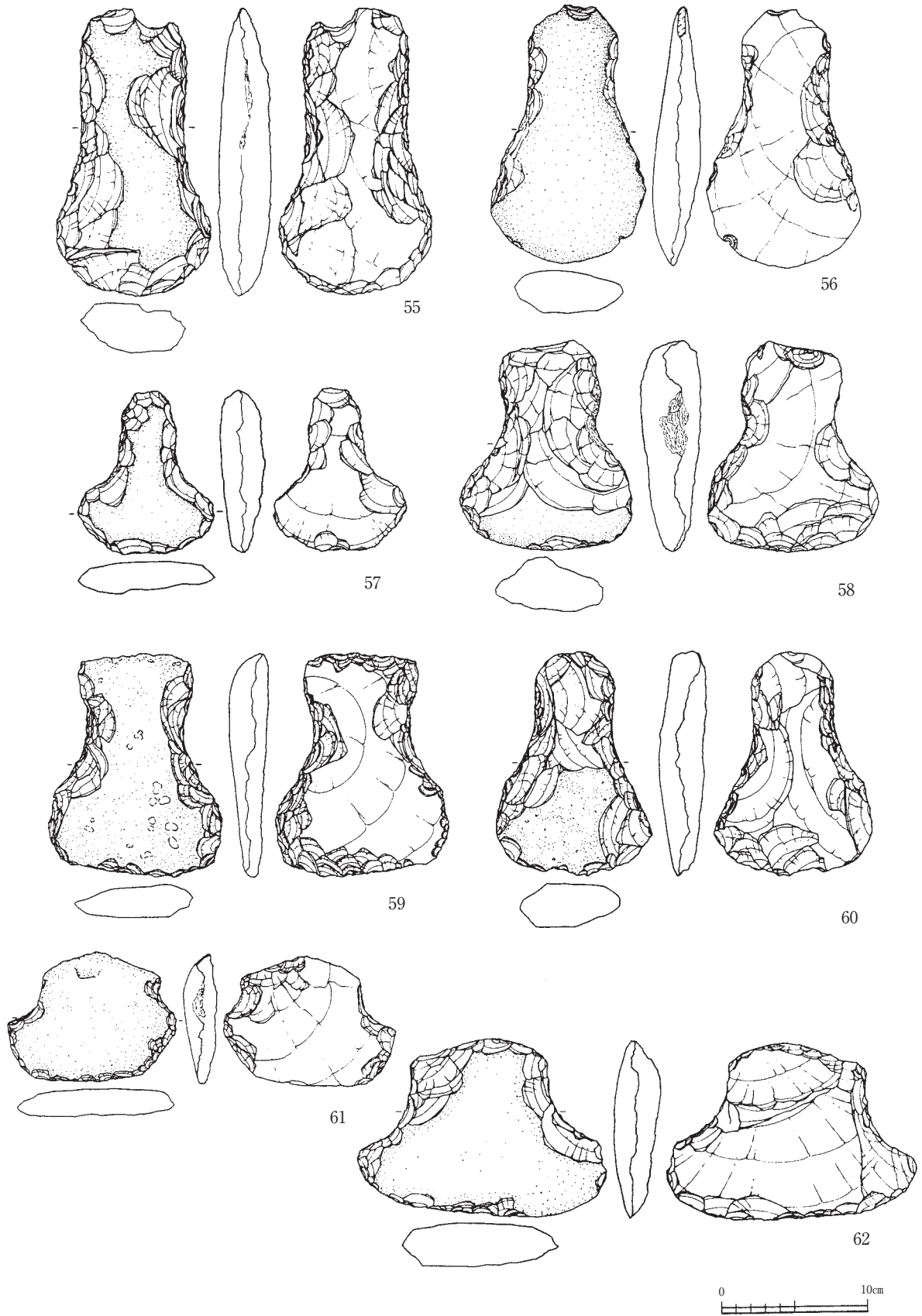
第106図 石器2 (縮尺1/4)



第107図 石器3 (縮尺1/4)

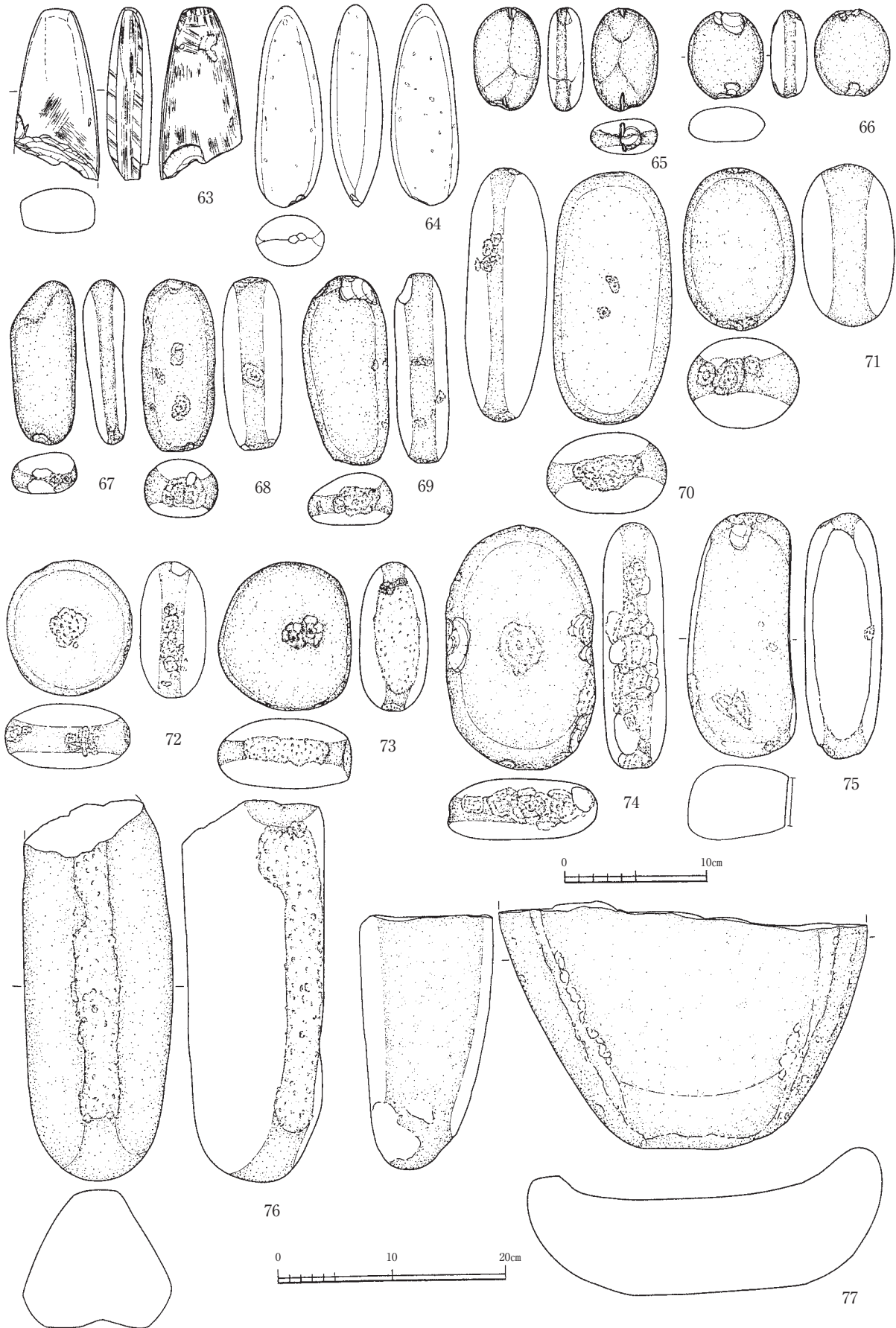


第108圖 石器4 (縮尺1/4)



第109図 石器5 (縮尺1/4)

第6節 石器



第110図 石器6 (63~75: 縮尺1/4 76~77: 縮尺1/5)

第7節 石製品

I 構成と分布、時期

第10表 石製品組成表

石質	硯	砥石	バンドコ	計
頁岩		15		15
粘板岩	2	5		7
砂岩		2		2
凝灰岩		4		4
笏谷石			1	1
計	2	26	1	29

石製品の構成を第10表に示す。文房具に硯、研磨用工具に砥石、暖房具にバンドコがある。砥石が主体で他は少量であり、道具の種類も少ない。砥石は中砥が大半で、浄慶寺産を含むと考えられる。石質は頁岩や粘板岩が中心で、凝灰岩や笏谷石はわずかである。分布はまとまらず散在する。

硯やバンドコの形態から、時期は15世紀から16世紀前半中心と考えられる。砥石は、他時期のものが少量混在するとも考えられる。

II 石製品の形態 (第111図)

硯 (1、2) 共に長方硯。側面は垂直に立ち上がり、細い縁帯をもつ。裏面は平坦に作出される。1は、側面に長軸方向、上端面に短軸方向、下端面に表裏方向の成形痕がみられ、裏面周辺と硯頭・硯尻は縁取りされている。また、1は陸部から海部、2は陸部中央が使用により凹状となり、筋状の擦痕が長軸方向にのびる。1は、裏面に「志田／松□／七月□日」と刻書されている。2は、陸部と海部の



第111図 中世の石製品 (1~11: 縮尺1/4, 12: 縮尺1/6)

境が切り込まれており、再加工か転用と考えられる。

砥石（3～11） 石質から、3と4は仕上砥、5～11は中砥と考えられる。3と4は、板状の長方形を呈し、上下端以外が砥面。5は、扁平な長方形を呈し、上下端以外が砥面。6は、扁平な板状を呈し、側辺が湾曲して反る。表面と左右側面が砥面。7と8は角形を呈し、7は表裏、8は表面と右側面が砥面。9～11は角柱形を呈し、11は大形である。9は表面と左側面、10は表裏と右側面、11は表面と左右側面が砥面。また、9は表面、11は左側面が緩く凹む。

バンドコ（12） 前面に上向きの横口が開き、内部は四角く削り抜かれる。内面は平ノミで口から奥壁へ向け、奥壁は丸ノミで横方向に整形される。

第8節 木製品

志田神田遺跡で出土した8点の木製品を検討した。容器、履物、紡織具、建築部材があり、弥生時代から近世にわたる。出土状況から時期を限定することが難しいものが多く、特に記さない限り、木製品の特徴から時期を判断している。

容器は椀、皿、桶、曲物が出土している。椀（第87図2）は黒色漆塗りで低い台を有し、平安時代と考えられる。皿（第52図20）は漆等の塗布物は確認されない。平安時代以降と見られる。桶（第87図1）は底部が肥厚して底板を当てる作りとなっている。弥生時代と考えられる。曲物（第31図3）は、中世の井戸SE03から井戸枠として検出されたもので、内面に縦方向の刻みが施されている。また第52図21は曲物底板と考えられるが、時期は判断できない。

履物は連歯下駄（第103図8）で、近世と見られる。

紡織具として組み合わせ式布巻具（第37図2）がSK1205から出土した。これは織機を構成する部材で、黒須垂希子によって検討されている（黒須2007）。今回出土したものは組み合わせられる2部の部材のうち、組み合わせ部分の突出する側のみである。両端に装飾的な線刻を有し、組み合わせ部分以外全面にベンガラが塗布される。中央に穿たれた斜位の貫通孔が注意される。樹種はクロウメモドキ科ケンボナシである。SK1205からは弥生時代中期後葉の土器が出土しており、同時期の組み合わせ式布巻具は岡山県南方遺跡に類例がある。

建築部材は柱根が1点検出された（第46図7）。この柱根が確認されたSP07632は組み合わせとなる柱穴が特定できず、時期も不明である。

第9節 金属製品・銅銭

金属製品は、表土・包含層および鹿谷川旧流路から主に出土している。

第53図12は器種不明品だが、先端に向けて先細る形態を呈する。第87図3は片刃の鉄鎌である。同図4・5は鉄釘で、いずれも頭端部が延圧され横に、突出する。第103図9は無紋の青銅製小柄で、中央が若干凹む。第103図10は刀子である。刃先が欠けているが、刃部は残長15.6cm、茎部は8.6cmをはかる。

銅銭は、判読不能品1枚を含む53点を図示した（第87・104図）。このうち渡来銭は23枚で、唐銭は乾元重寶1枚・開元通寶1枚、北宋銭は太平通寶2枚・淳化元寶2枚・天聖元寶1枚・皇宋通寶1枚・熙寧元寶3枚・元豊通寶4枚・元祐通寶4枚、南宋銭は景定元寶1枚、明銭は洪武通寶2枚・永樂通寶1枚である。全体として北宋銭が多く、日本各地の出土銭の一般的な傾向と合致している。次に日本銭だが、寛永通寶28枚・文久永寶1枚と前者が大半を占める。寛永通寶は古寛永7枚と新寛永21枚に分けら

れるが、新寛永でも背面に「文」の字のある文銭が少ないことから、1697年から鑄造される3期以降のものが多いことがうかがえる⁽⁶⁾。

第10節 各期の遺構と遺物

志田神田遺跡は縄文時代～近世までの複合遺跡であり、断続的に集落が営まれてきたと考えられる。最後に、一部周辺の遺跡の状況も含めて志田神田遺跡の遺構と遺物について概観したい(第112図参照)。

I 縄文時代

早期～晩期までの遺物が出土しているが、縄文時代の遺構として特定できるものはない。早期の押型文土器は、弥生時代以降の遺構面である粘土層と、さらに下位の砂礫層からも出土する。この土層は、鹿谷川をはじめ、その支流による水成堆積によって形成されたものと考えられることから、押型文土器は上流からの流れ込みである可能性が高いと判断される。よって、早期には志田神田遺跡一帯は河川の流路にあたり、鹿谷川の上流域に概期の集落が存在していたと考えられる。また、前期以降の土器も破片が主体でしかも摩滅したものが多いことから、これらの土器も鹿谷川やその支流によって周辺の遺跡から運ばれてきたものである可能性が高いと考えられる。

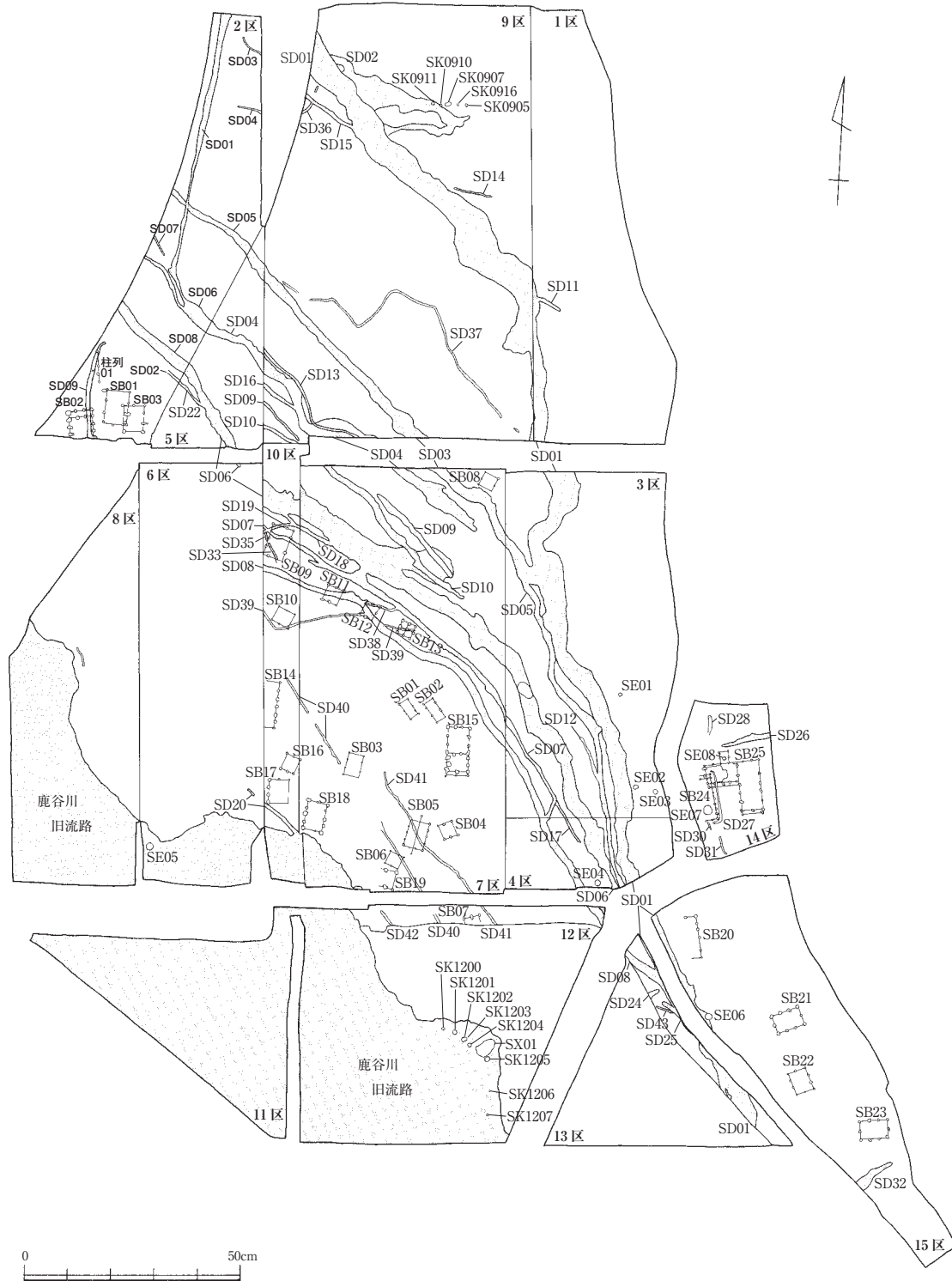
II 弥生時代

中期中葉～後期末までの遺物が出土している。

中期中葉に属する土器は、9区で出土したものが大半を占め、次いで12区(鹿谷川旧流路)となっている。削平される以前は、9区に発坂山ノ端遺跡が立地する丘陵の裾部が広がっていたとみられ、これまでの調査の結果から、発坂山ノ端遺跡が丘陵裾を巡る自然流路(SD01に相当すると考えられる)まで展開していたことがわかっている。このことから、少なくとも9区のSD01より北側は発坂山ノ端遺跡の領域と重なり合っていたと考えられる。このような場所で、SK0905・SK0916・SK0909～SK0911が東西方向に横一列に並んで存在している。これらの土坑は、径0.70～1.10m、深さ0.20～0.40mをはかるもので、各土坑はそれぞれ0.40～1.30m離れている。SK0911では、クルミ果実が約160個体分出土しており、そのほかの土坑でもSK0916を除いて各土坑で1～5個体が出土している。クルミ果実出土の1点をもって、これら土坑の性格を断じることは早計であるが、湿潤な地に一列に並ぶことを重視すれば、低湿地型貯蔵穴である可能性が指摘できる。SK0905・SK0909・SK0911では中期中葉に属すると考えられる土器がわずかに出土している。SK0911では、後期末の土器も出土しているが、これはSD02と重複しているためと考えられる。

中期後葉の土器は、鹿谷川旧流路、SK1205などでわずかに出土している。当該期の遺物が出土した遺構の中で、特に注目されるのは、12区の鹿谷川旧流路肩部付近の底面で検出したSK1205である。SK1205は、水場遺構と考えられるSX01の傍らにあって、堅果類(トチ)が集中的に出土している。12区の鹿谷川旧流路肩部付近の底面には、SK1205と同様に堅果類が出土する土坑が、鹿谷川旧流路のつくる曲線に沿って弧状を描いて存在している(SK1200～SK1207)。これらの土坑は、重複関係のあるSK1202・SK1203を除いて、単独で存在しており、SX01の北西側に0.9～2.1m間隔で5基、SX01の南側に5.1～6.7m間隔に3基ある。7基は主としてトチが出土する土坑であるが、最も南方にあるSK1207は主としてクリが出土する土坑である。土坑は、径0.50m前後のものと同径1.00m前後のもの2種類があり、径が小さいものの方が相対的に浅い。SK1203・SK1205では、上層で板状の自然木などが土坑に掛け渡されたかのような形で出土している。トチは最も出土量が多いSK1205で約2000個体を数え、SK1203とSK1204で

第10節 各期の遺構と遺物



第112図 遺構概略図 (縮尺1/1500)

2区の遺構番号は、福井県埋蔵文化財調査報告 第66集「志田神田遺跡」に対応する

300~400個体程度、そのほかは50個体にも満たない。また、クリは約10個体である。

土坑を検出した場所は、鹿谷川旧流路の肩部であり、中央部よりも一段(約0.70~1.00m)高くなっている。流路が膨らんだ箇所であり、普段でも流れが比較的緩やかであったと考えられる。おそらく、流水が少なくなる季節には水が恒常的に流れない期間があり、その際に掘削されたのではないかと想像される。SX01の北西側にある土坑群は、南側にある土坑群と比較すると近接して存在している。また、

SX01の底部は湧水層まで達しており、水が湧いていたと考えられることから、この水が各土坑に流れるようになっていたのではないかと推測される。水に浮く堅果類は虫に食われているものであり、それが流されるのは好都合である。

トチ・クリ・クルミといった堅果類を長期間保存するためには、迅速な処理が必要である。何の処理も施さなければ、8割が虫害を受けるという実験結果も報告されている⁽⁷⁾。地域差があるものの、採集してきたトチは、まず水に浸して虫出しをし、その後天日でよく干して保存するという方法が現在も広く行われている。また、水に浸すことは、虫を殺すだけでなく、表皮が剥きやすくなるという効果も得られるため、皮を剥く準備として行われる場合もある。クリでは、一晩程度水につけて皮を剥いて調理する方法が一般的である。こうした民俗例を念頭におけば、SK1200～SK1207は流水を利用するため河川内を敢えて選地して掘削したものと想定でき、出土した堅果類は虫出し段階または皮を剥く準備段階の一方または両方の可能性があると考えられる。

SK1200～1207では、堅果類以外の遺物の出土は非常に限られている。これは、堅果類を水にさらすという土坑の性格からすれば無理からぬことであろう。このため時期が判断できる出土遺物は、SK1205で出土した弥生中期後葉に属する壺の破片のみであるが、土坑より0.10～0.30m上層で弥生時代後期後葉から末の遺物が集中的に出土する状況から考えれば、SK1200～1207は弥生時代後期後葉よりも古い時期の遺構と考えることができる。

後期前葉の土器は限定的な出土であり、遺構も確認していない。

後期後葉～末にかけての遺物は、柱穴、土坑、自然流路など多数の遺構で出土している。このうち、掘立柱建物SB03～06に関しては、柱穴内出土遺物から後期後葉に属すると考えられる。後期後葉とみられる掘立柱建物の柱穴は、平安時代に属すると考えられる掘立柱建物のものと比べると、円形で小形のものが多い。こうした傾向から考えると、同じ形態の柱穴をもつSB01・02・07も同時期である可能性があるかと推測される。これらの掘立柱建物群は、弥生時代には調査区の中央を縦断する自然流路の多くが機能していたためか、縦断する自然流路群の最南端にあたるSD08以南にまとまって存在している。

志田神田遺跡の北方には発坂山ノ端遺跡があり、後期後葉～末にかけての堅穴住居4棟と掘立柱建物などを確認している。この発坂山ノ端遺跡の居住域と志田神田遺跡で検出した同時期の掘立柱建物群は直線距離にして150m足らずしか離れていない。両者の間は自然流路（SD01など）で隔てられているとはいえ、互いに有機的に関係していたことは疑いようがない。また、志田神田遺跡の西方、鹿谷川を挟んで対峙する丘陵上には、同時期の墳丘墓3基を確認した城山古墳群がある。この城山古墳群を造墓した集団の集落域と考えられるのが、前述の発坂山ノ端遺跡と本郷北遺跡であり、志田神田遺跡で検出された掘立柱建物群に居住していた人々も、城山古墳群造営の一端を担っていたものと推定される。

Ⅲ 古墳時代

古墳時代の土器は、前期と後期のものがわずかに確認できるだけである。自然流路や表土からの出土であり、周辺からの流れ込みである可能性が高い。

Ⅳ 平安時代

当該期の遺物は9世紀前半のものが中心であり、掘立柱建物の柱穴、SD04、鹿谷川旧流路などから出土している。鹿谷川旧流路内では、掘立柱建物群に近いG20～I23グリッドにかけて特に集中が認められることから、集落から廃棄されたものと想像される。

SB09～15・17・18・21・23は、柱穴内出土遺物から当該期の掘立柱建物と判断できる。これらの掘立

柱建物の柱穴は、弥生時代後期後葉～末に属すると考えられる掘立柱建物のものと比べると、大形で方形を呈するものが多い。こうした傾向から考えると、同じ形態の柱穴をもつSB16・19・20・22も同時期の掘立柱建物の可能性があるとして推測される。また、当該期にはSD01・04を除いて、弥生時代に機能していた多くの自然流路が埋没していたと考えられ、SB09・11～13はSD07・08上に構築されている。

SB11～13は、4.8～3.7m離れてほぼ等間隔に並び、主軸方向もほぼ同じである。また、規模も長軸3.74～3.32m、短軸3.74～3.12mでよく似ている。SB11・SB12には、検出できなかった柱穴もあるが、SB13と同様に総柱建物の可能性が高いと考えられる。また、居住域の北端に近い場所に並ぶことから、倉庫群をなしていたと推測される。このほか、ほぼ同規模のSB16も総柱建物と考えられ、同様に倉庫であったとみられる。

2区で検出された掘立柱建物群も含め、当該期の居住域は自然流路SD01以東の丘陵裾部と、自然流路SD04と鹿谷川旧流路に挟まれた範囲に展開している。

志田神田遺跡に用いられている字名「神田」は、田の神をまつる意味があつて、川上水口などに設定されることが一般的であるとされる。そして「じん」で読む場合には湿田を意味すると言われている⁽⁸⁾。それを裏付けるように、2区では、今回の調査区で検出した自然流路SD04から水を引いていたとみられる溝から、農耕儀礼に伴うものと指摘されている陽物形木製品と偶蹄類の下顎骨が出土している。字名が平安時代まで遡るかに関しては疑問が残るが、農耕儀礼に伴うと考えられる遺物の存在から、居住域の北方には、湿田が広がっていたと推測される。

V 中近世

12世紀～近世までの遺物を確認しており、遺構に伴って出土したものには13世紀～14世紀前半のもの、14世紀後半～15世紀前半のものがある。前者が出土している遺構は、掘立柱建物SB24・25とSE01～03があり、SD01以東に集中する。後者が出土している遺構には、井戸SE07がある。

掘立柱建物SB24は、丘陵裾部の緩斜面上に構築された桁行4間(9.74m)、梁行1間(2.52m)以上の側柱建物である。北面に庇がつくと考えられ、山(東)側に雨落溝SD27を設けている。この溝から13世紀～14世紀前半と考えられる土師質皿が出土しており、これがSB24の時期を示すものと考えている。

この掘立柱建物SB24の雨落溝を削平して堅穴状の掘り込みを設けているのが、掘立柱建物SB25である。主棟に対して直角に別棟を突出させており、平面形はL字形を呈する。主棟が桁行6間(11.56m)、梁行2間(4.88～5.20m)、別棟が桁行4間(7.00m)、梁行2間(4.40m)で、両者とも南面に庇がつく。また、別棟の北側には桁行2間(2.68～2.80m)、梁行1間(2.00～2.28m)の上屋をもつ井戸SE08(第29図)が付属する。総面積は約95㎡をはかる。別棟の内部は、中央より西側が堅穴状の掘り込みにより一段低くなっている。東側の高い部分は土間と考えられ、西側の低い部分の東面には石積がある。このような掘り込み部分は、近世の民家の事例では厩などに利用されている。

遺跡がある勝山市は県内有数の豪雪地帯であり、SB25にも雪に対する備えと考えられる工夫がみられる。出入り口は別棟の南面にあった可能性が高いと考えられ、その部分に庇を設けることによって軒先まで雪が積もる時に家へ容易に入れるようにしたと推測される。また、別棟の土間部分から井戸への行き来が可能であることは、日常生活をできるだけ1棟のなかで行う工夫と考えられる。雪の多い冬には離れている建物間の移動は容易ではないためである。

前述のように、SB25は別棟の掘り込みを構築した際にSB24の雨落溝を削平していることから、SB24よりも新しい時期の建物であることは明白である。SB25に伴う遺物には、別棟の掘り込みで出土した13

世紀末葉～14世紀初頭に位置付けられる片口鉢（第28図1）と、井戸SE08で出土した13世紀～14世紀前葉に属すると考えられる土師質皿（第28図2）がある。また、図示できなかったが、石積の裏込の土から18世紀後半～19世紀前半の所産と考えられる伊万里焼の小片が出土している。建物の規模からみると遺物は非常に少なく、しかも破片が主体であることから、引越しの際にきれいに片付けられたと考えられる。加えて、SB25が存在する14区全体を見ても遺物は少なく、図示できる遺物は限られている。14区で図示できたものは、越前焼の播鉢2点（第92図22・第93図2）のみで、それぞれ15世紀、18世紀に属すると考えられる。図示できなかった陶磁器で時期のわかるものは、14世紀後半～15世紀前半の青磁碗1点、15世紀後半の越前焼の播鉢1点、18世紀の伊万里焼1点、18世紀後半の肥前陶器碗1点、19世紀の九谷焼2点、19世紀の瀬戸焼1点である。18～19世紀代の遺物が数的にはやや多いようにみえるが、数cm角の小片ばかりで占められている。

SB25が、L字状の平面形を呈する掘立柱建物であるということは、建築時期を示唆するものと考えられる。SB25は、その平面形も、また別棟に堅穴状の掘り込みを備えてその壁面に石積を設けるなどの内部構造も、近世の民家の一形態である角屋造りによく似ている。角屋造りは越前において平面拡張の方法として広く用いられた近世民家の一形態であるが、現存する同形態の民家は18世紀～19世紀に建てられたものが多く、その全てが礎石建である。越前に現存する最も古い礎石建の民家である坪川家住宅は17世紀中頃に建てられたとされており、以降、民家建築に礎石建が導入されていったと理解される。仮にSB25を、18世紀後半～19世紀前半に建てられた角屋造りの民家とする。角屋造りは上層農民の間に広がっていたとされる形態で、集落のなかでは比較的規模の大きい建物と考えられるため、集落内においては早い段階で礎石建が導入された可能性が高い。勝山市域に現存する礎石建の民家で、最も古い例は1724年築造の比良野家座敷である。礎石建物の普及に地域差があることは自明の理であるが、比良野家座敷が当遺跡から数kmしか離れていない野向町竜谷にあることを考えれば、時期が下ると仮定したSB25に礎石建が導入されていないことが怪訝なことのようと思われる。当初は、SB25が角屋造りの民家であると考えていたが、断定することは難しいと思える。

SB24とSB25の位置する丘陵裾部は、現在は削平されているが自然流路SD01までのびていたと考えられる。この丘陵裾の末端部で確認したものが、SE01～03である。曲物埋設遺構の可能性を指摘できるもので、SB24の西方にまとまって存在する。曲物埋設遺構は、液体（水など）の貯蔵施設とされている⁹⁾。SE01とSE02は、掘形が楕円形を呈し、長軸0.78～1.17m、短軸0.62～1.07m、深さ0.42～0.50mをはかる。ほぼ中央に径0.40～0.50m、高さ0.22～0.33mの曲物を1～2段据えている。SE03は、掘形が隅丸方形を呈し、長軸1.11m、短軸0.92m、深さ0.32mをはかる。わずかに東方に寄せて曲物を据えており、3段分が残る。曲物は、径0.22～0.50m程度で、残存する高さは0.09～0.14mである。いずれも、底部は湧水層に達しておらず、海拔高は109.670～109.850mである。SE03では、下段の曲物に挟まった状態で、土師質皿（第31図1・2）が出土しており、これらは廃棄する際に紛れ込んだものと考えられる。

ところで、SB24と同じ丘陵上に立地する発坂山ノ端遺跡では、SB24やSE01～03とほぼ同時期、13世紀後半～14世紀初頭に位置付けられる中世墓が検出されている。方形石組をもつもので、SB24から北に約230m離れた地点である。発坂山ノ端遺跡では、このほかにも、時期を特定できないものの炭化物と焼骨を伴う土坑が検出されている。方形石組などの施設を伴った墓は限られた範囲の人々であるとされているが、SB24と前述の中世墓との関係をうかがい知ることは難しい。

前述のように、14世紀後半～15世紀前半の遺物が出土したものに井戸SE07がある。石組方形井戸で、

掘り方は楕円形を呈し、長軸2.13m、短軸1.98m、深さ1.70mをはかる。石組は南に寄せて構築されており、長軸0.68m、短軸0.60mの長方形を呈する。積み方は乱雑に見え、北面しか底部まで石積がなく、西面・南面は素掘りという形態である。井戸を埋め立てた土の中から、14世紀後半～15世紀前半と考えられるバンドコ（第33図3）が出土したほか、14世紀前半頃と考えられる越前焼の播鉢（第33図1・2）も出土している。

また、表土や鹿谷川旧流路を中心に、15世紀～16世紀前半を中心とすると考えられる硯などの石製品が出土している。第103図1は裏面に「志田／松□／七月□日」と刻書されている硯で、「志田」の地名を見ることができる興味深い資料である。

註

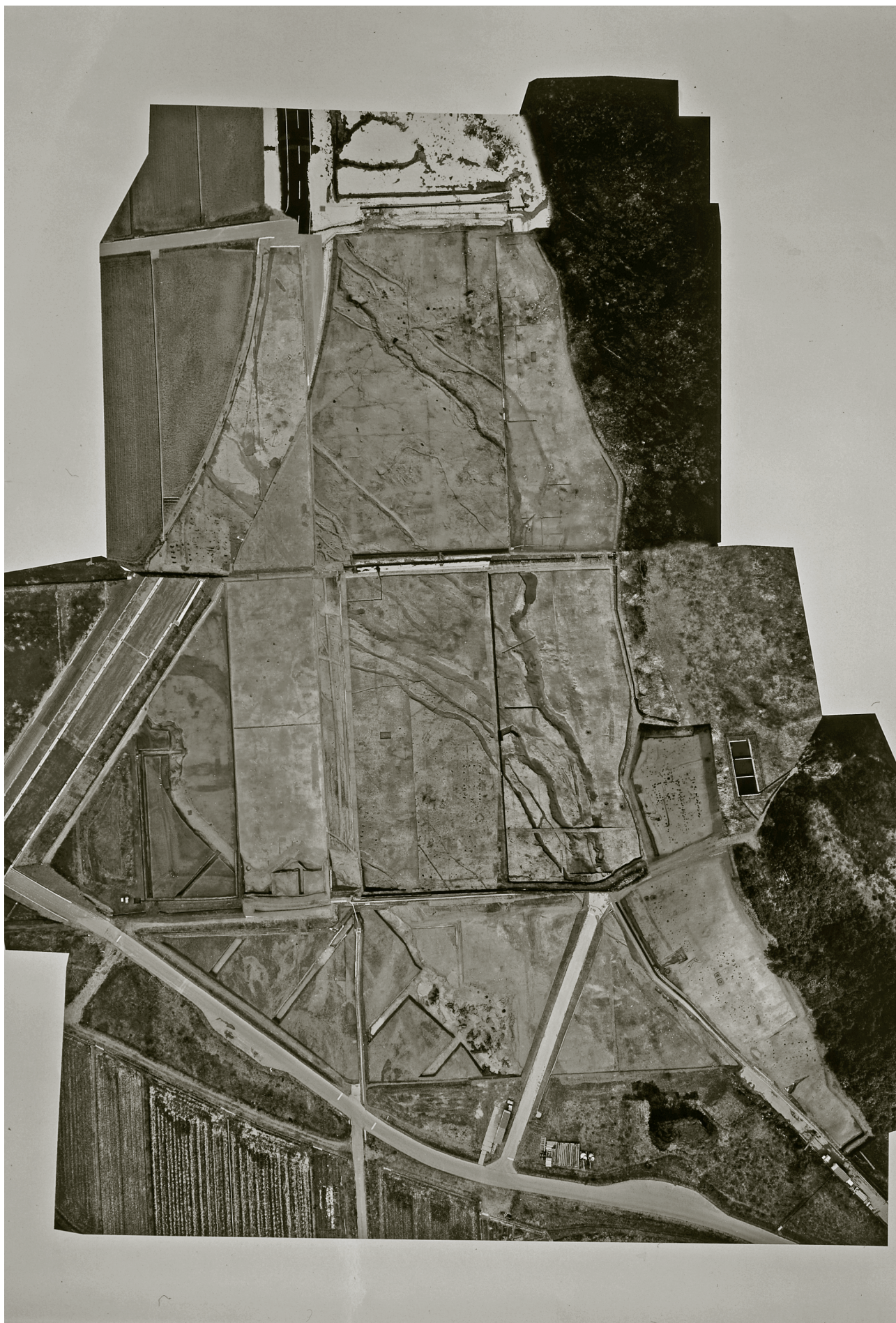
- 1 越前焼の分類は、藤原武二ほか『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告書』1983 福井県教育委員会・福井県立朝倉氏遺跡資料館に依っている。
- 2 白磁・青磁の分類は、下記の文献の分類に依っている。
 - a 横田賢次郎・森田勉 1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について -型式分類と編年を中心として-」『九州歴史資料館研究論集』4 九州歴史資料館
 - b 上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
 - c 森田勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 3 瀬戸焼の年代観は、下記の文献に依っている。
 - a 藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - b 藤澤良祐 2002「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯 瀬戸市埋蔵文化財センター
- 4 土師質皿の分類と年代観は、富山正明「第1章第3節 越前国における13～16世紀の土師器編年」『中・近世の北陸』1997 北陸中世土器研究会に依っている。
- 5 吉岡康暢 1994「第四章第三節 中世陶磁器流通の諸段階」『中世須恵器の研究』吉川弘文館
- 6 寛永通宝の分類は、永井久美男 1996『日本出土銭総覧』兵庫埋蔵銭調査会に依っている。
- 7 荒川隆史・吉川正伸・吉川純子・門口実代 2008「縄文時代のクリ利用に関する調査と実験」『考古学ジャーナル』No.574 ニューサイエンス社
- 8 勝山市 1974『勝山市史』第1巻 風土と歴史
- 9 岩本正二 1996「第2章 9曲物理設遺構」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告書V』草戸千軒町遺跡発掘調査研究所

引用・参考文献

- 青木隆佳編 1998『下黒谷遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告 第40集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 浅野良治 2006「猪谷田畑遺跡」『第21回 福井県発掘調査報告会資料』福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 勝山市 1997『図説 勝山市史』
- 兼安保明 1990「近江地域」『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅱ』木耳社
- 加納俊介・石黒立人編 2002『弥生土器の様式と編年 東海編』木耳社
- 河合忍 1996「北陸弥生土器様式の変革過程 - 器種・用途別の計量分析を中心として -」『石川県考古学研究会々誌』第39号 石川県考古学研究会
- 川越光洋編 2003『志田神田遺跡』福井県埋蔵文化財調査報告 第66集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

- 河原純之ほか編 2000 『福井県地名大辞典』 角川書店
- 岐阜県博物館 1992 『特別展 飛騨のあけぼの』
- 楠正勝 1996 「弥生中期後葉から古墳時代前期前半の土器」 『西念・南新保遺跡Ⅳ』 金沢市・金沢市教育委員会
- 黒須亜希子 2007 「木製紡織具の導入とその変遷」 『シンポジウム 木器研究最前線！ 出土木器が語る考古学
発表資料集』 財団法人大阪府文化財センター
- 小西昌志編 1993 『上荒屋遺跡Ⅱ』 金沢市文化財紀要106 金沢市教育委員会
- 齋藤秀一 2003 「瓜生助遺跡」 『第18回 福井県発掘調査報告会資料』 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 清水孝之編 2002 『城山古墳群』 福井県埋蔵文化財調査報告 第60集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 清水孝之編 2003 『本郷北遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第65集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 社団法人 石川県埋蔵文化財保存協会 1998 『古代北陸と出土文字資料』
- 田嶋明人 1988 「古代土器編年軸の設定」 『シンポジウム 北陸古代土器研究の現状と課題 報告編』 石川県考
古学研究会・北陸古代土器研究会
- 坪田聡子編 2004 『発坂山ノ端遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第77集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 寺沢薫・森岡秀人編 1989 『弥生土器の様式と編年 近畿編Ⅰ』 木耳社
- 仁科章他 1977 『勝山市文化財調査報告 第Ⅱ集 破入遺跡 福井県勝山市滝波 破入遺跡発掘調査報告書』 勝
山市教育委員会
- 平井勝 1991 『考古学ライブラリー 64 弥生時代の石器』 ニュー・サイエンス社
- 福井県 1989 『福井県史』 資料編14 建築・絵画・彫刻等
- 福田アジオほか編 2000 『日本民俗大辞典』 吉川弘文館
- 福海貴子 2003 「八日市地方遺跡出土土器の検討」 『八日市地方遺跡Ⅰ』 小松市教育委員会
- 藤田富士夫 1988 『考古学ライブラリー 52 玉』 ニュー・サイエンス社
- 北陸古代土器研究会 1997 『北陸古代土器研究』 第6号
- 北陸古代土器研究会 1999 『北陸古代土器研究』 第8号
- 北陸中世考古学研究会編 1997 『中・近世の北陸』 桂書房
- 北陸中世考古学研究会 1999 『中世北陸の石文化Ⅰ』
- 北陸中世考古学研究会 2001 『中世北陸の井戸』
- 北陸中世考古学研究会 2004 『掘立柱建物から礎石建物へ』
- 堀大介 2006 「古墳成立期の土器編年に関する基礎的研究」 『越前町文化財調査報告書Ⅰ』 越前町教育委員会
- 増山仁 1987 「矢木ジワリ遺跡出土土器の編年的位置付け」 『金沢市矢木ジワリ遺跡 金沢市矢木ヒガシウラ遺
跡』 金沢市教育委員会
- 増山仁 1988 「磯部運動公園遺跡出土土器の編年的位置付けについて－弥生時代中期、第Ⅲ様式～第Ⅳ様式の土
器－」 『金沢市磯部運動公園遺跡』 金沢市教育委員会
- 増山仁 1992 「第4章 まとめ」 『金沢市専光寺養魚場遺跡』 金沢市教育委員会
- 望月精司編 2002 『ニツ梨一貫山窯跡』 小松市教育委員会
- 矢野健一 2008 「押型文土器（高山寺式・穂谷式土器）」 『総覧縄文土器』 アム・プロモーション
- 山本孝一編 2003 『四方谷岩伏遺跡』 福井県埋蔵文化財調査報告 第71集 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター
- 湯尻修平編 1975 『金沢市戸水B遺跡調査報告』 石川県教育委員会

写 真 图 版



全調査区全景（合成）



(1) 調査区遠景 (南方より)



(2) 1区全景 (南方より)



(1) 3・4区全景（南方より）



(2) 5区全景（南方より）

図版第四
遺構



(1) 6区全景 (南方より)



(2) 7区全景 (西方より)



(1) 8区全景 (東方より)



(2) 9区全景 (西方より)

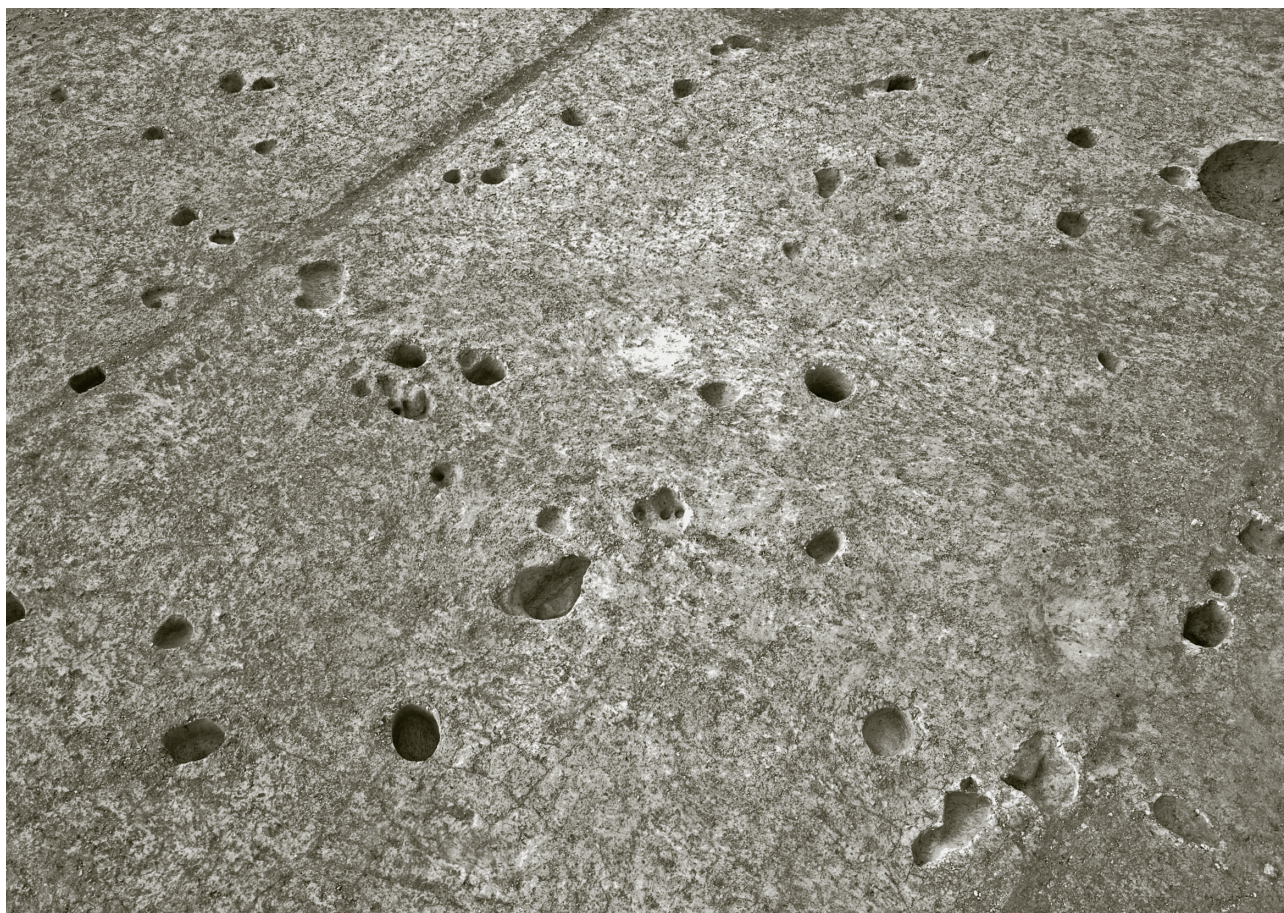
図版第六
遺構



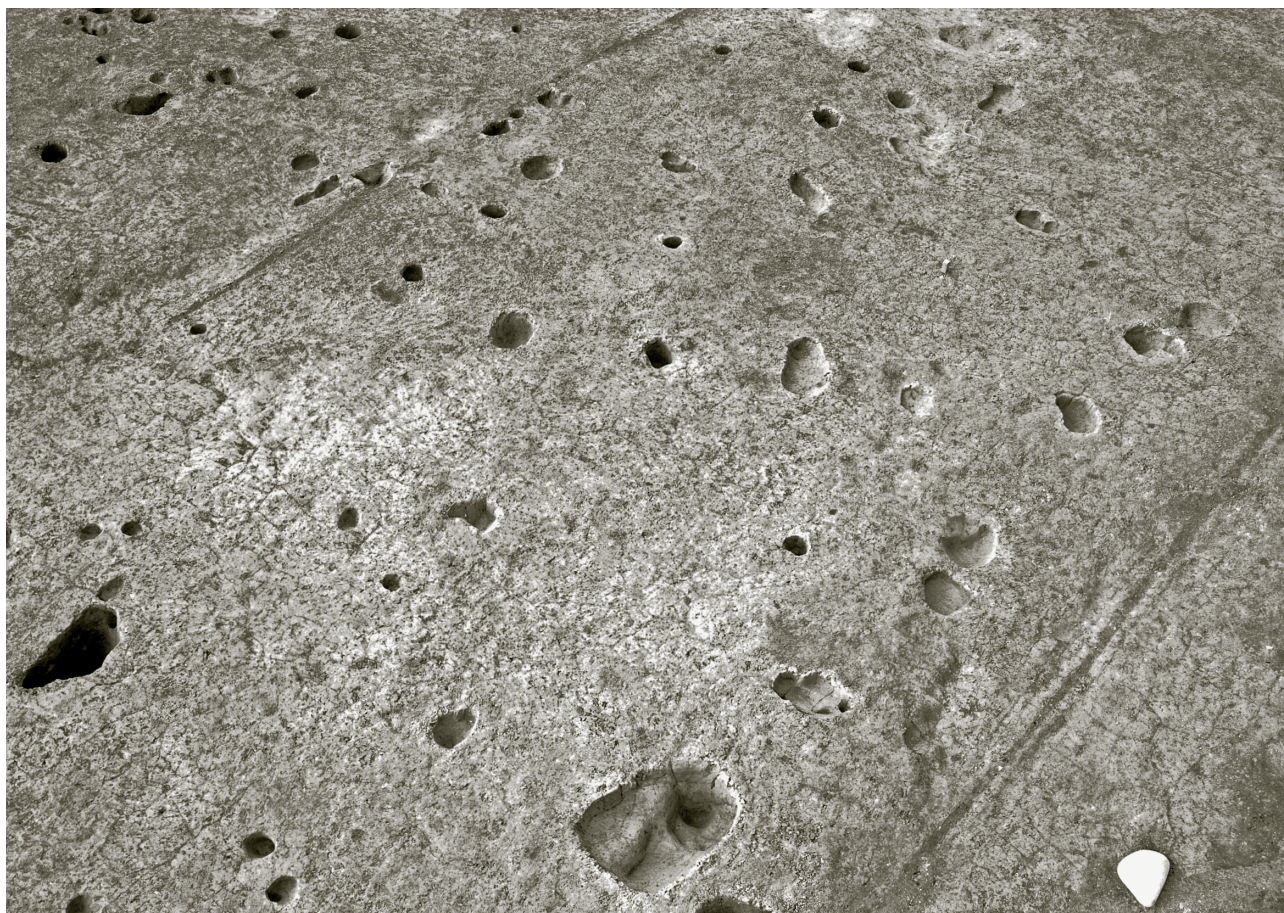
(1) 10~13区全景 (南方より)



(2) 14・15区全景 (西方より)



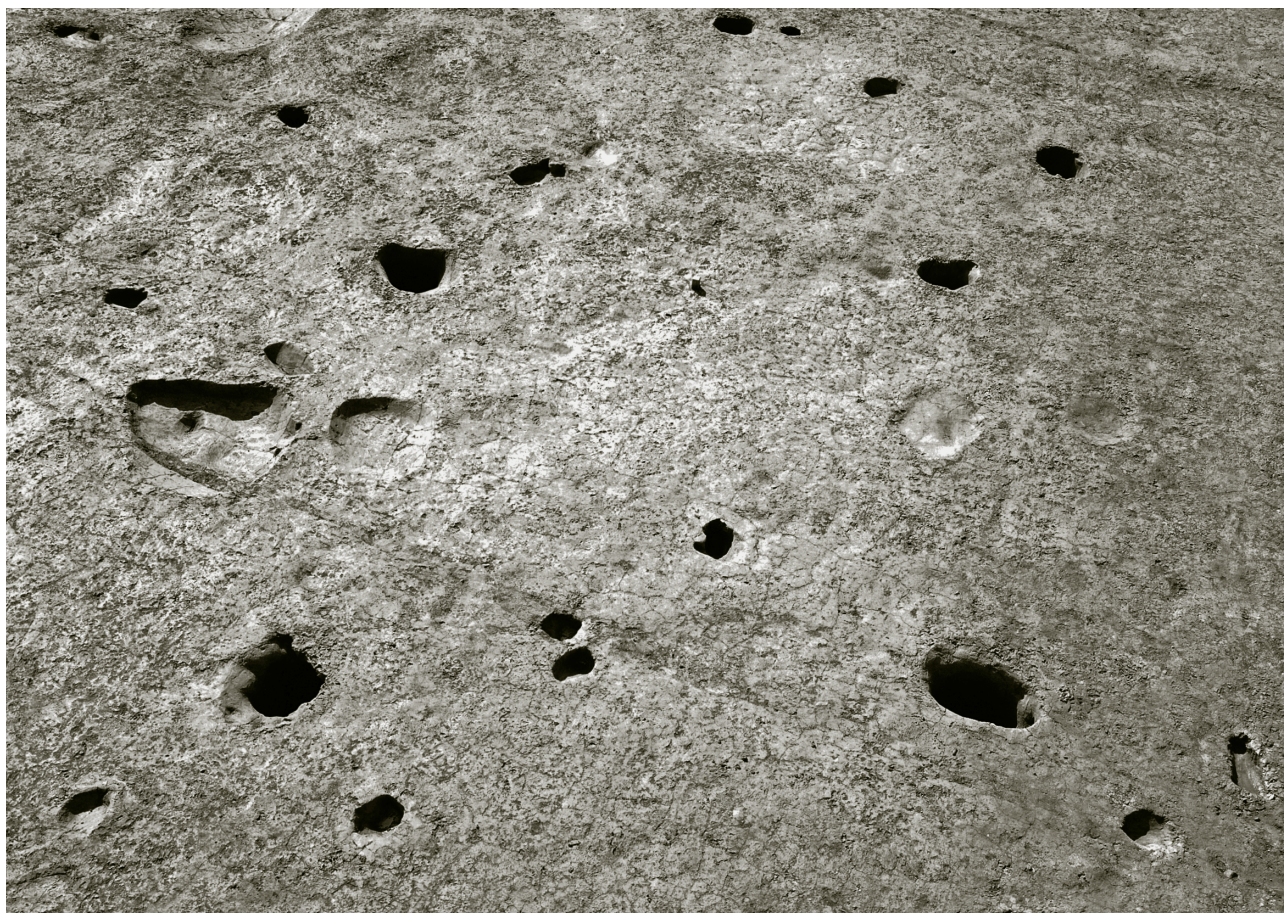
(1) 掘立柱建物SB01完掘状況（南東方より）



(2) 掘立柱建物SB02完掘状況（北方より）



(1) 掘立柱建物SB03完掘状況（南方より）



(2) 掘立柱建物SB04完掘状況（東方より）